

豊頃小学校改修工事（建築主体工事）

●意匠図					●構造図		
図面番号	図面名	図面番号	図面名	図面番号	図面名	図面番号	図面名
A-000	表紙・図面リスト	A-046	展開図(18)(改修後)1F廊下	A-092	屋根棟矩計図(6)(改修後)	S-001	躯体補強工事特記(1)
A-001	特記仕様書(1)	A-047	平面詳細図(9)(改修前)1階・2階 ホール	A-093	1階・2階天井伏図(改修前)	S-002	躯体補強工事特記(2)
A-002	特記仕様書(2)	A-048	展開図(19)(改修前)1階・2階ホール	A-094	1階・2階天井伏図(改修後)	S-003	躯体改修図
A-003	特記仕様書(3)	A-049	平面詳細図(10)(改修後)1階・2階 ホール	A-095	建具キープラン1階 (改修前・改修後)		
A-004	特記仕様書(4)	A-050	平面詳細図(11)階段室周り	A-096	建具キープラン2階 (改修前・改修後)		
A-005	特記仕様書(5)	A-051	展開図(20)(改修後)1階・2階ホール	A-097	校舎棟・建具表(1)(改修前)		
A-006	特記仕様書(6)	A-052	平面詳細図(12)展開図(21)(改修前)2F普通教室	A-098	校舎棟・建具表(2)(改修後)		
A-007	特記仕様書(7)	A-053	平面詳細図(13)展開図(22)(改修後)2F普通教室	A-099	校舎棟・建具表(3)(改修前)		
A-008	付近見取図・配置図	A-054	平面詳細図(14)展開図(23)(改修前)2F図工教室・大人数教室・理科教室	A-100	校舎棟・建具表(4)(改修後)		
A-009	敷地求積図	A-055	展開図(24)(改修前)2F図工室・理科室・準備室	A-101	校舎棟・建具表(5)(改修前)		
A-010	面積表(建築基準法)	A-056	平面詳細図(15)展開図(25)(改修後)2F特別支援教室・体調管理室・教材庫	A-102	校舎棟・建具表(6)(改修後)		
A-011	各室面積表	A-057	展開図(26)(改修後)2F特別支援教室	A-103	校舎棟・建具表(7)(改修前)		
A-012	仕上表(1)	A-058	平面詳細図(16)(改修前)2F図画・美術教室 音楽教室	A-104	校舎棟・建具表(8)(改修後)		
A-013	仕上表(2)	A-059	展開図(27)(改修前)2F音楽教室、はるにれ教室、家庭科室、あそび教室	A-105	屋根棟・建具表(9)(改修前)		
A-014	仕上表(3)	A-060	平面詳細図(17)(改修後)2F図画・美術教室 音楽教室	A-106	屋根棟・建具表(10)(改修後)		
A-015	改修概要(1)	A-061	展開図(28)(改修後)2F音楽室、音楽準備室、図画・美術教室、図画・美術準備室	A-107	既存家具図(1)		
A-016	改修概要(2)	A-062	平面詳細図(18)展開図(29)(改修前)2F児童用トイレ・教材室	A-108	既存家具図(2)		
A-017	ピット平面図(改修前・改修後)	A-063	展開図(30)(改修前)2F教材庫・ホール	A-109	既存家具図(3)		
A-018	1階平面図(改修前)	A-064	平面詳細図(19)展開図(31)(改修後)2F児童用トイレ・教材室	A-110	新設家具キープラン		
A-019	1階平面図(改修後)	A-065	展開図(32)(改修後)2F教材庫・ホール	A-111	新設家具図(1)		
A-020	2階平面図(改修前)	A-066	展開図(33)(改修後)2F廊下	A-112	新設家具図(2)		
A-021	2階平面図(改修後)	A-067	平面詳細図(20)(改修前)1F屋内運動場	A-113	新設家具図(3)		
A-022	R階平面図(改修前・改修後)	A-068	展開図(34)(改修前)WC・更衣室	A-114	新設家具図(4)		
A-023	立面図(改修前)	A-069	平面詳細図(21)(改修後)1F屋内運動場	A-115	部分詳細図(1)		
A-024	立面図(改修後)	A-070	展開図(35)(改修後)WC・更衣室	A-116	部分詳細図(2)		
A-025	断面図(改修前)	A-071	平面詳細図(22)(改修前)2F屋内運動場	A-117	部分詳細図(3)		
A-026	断面図(改修後)	A-072	展開図(36)(改修前)アリーナ・ステージ	A-118	サインキープラン		
A-027	平面詳細図(1)展開図(1)(改修前)1階普通教室	A-073	平面詳細図(23)(改修後)2F屋内運動場	A-119	サイン図		
A-028	展開図(2)(改修前)1・2階多目的ホール	A-074	展開図(37)(改修後)アリーナ・ステージ	A-120	外部周改修(1)平面詳細図(昇降口・ポーチ)		
A-029	平面詳細図(2)展開図(3)(改修後)1階普通教室	A-075	校舎棟矩計図(1)(改修前)	A-121	外部周改修(2)平面詳細図(1F屋内運動場)		
A-030	展開図(4)(改修後)1・2階多目的ホール	A-076	校舎棟矩計図(2)(改修後)	A-122	建物周り外構工事		
A-031	平面詳細図(3)展開図(5)(改修前)1F特別支援教室・保健室	A-077	校舎棟矩計図(3)(改修前)	A-123	附属建屋詳細図 自転車置き場		
A-032	展開図(6)(改修前)1Fコンピュータ室・特別支援教室	A-078	校舎棟矩計図(4)(改修後)	A-124	中学校改修工事		
A-033	平面詳細図(4)展開図(7)(改修後)1F特別支援教室・保健室	A-079	校舎棟矩計図(5)(改修前)	A-125	中学校改修工事 展開図13		
A-034	展開図(8)(改修後)1F特別支援教室・保健室	A-080	校舎棟矩計図(6)(改修後)	A-126	仮設計画図		
A-035	平面詳細図(5)(改修前)1F管理部門	A-081	校舎棟矩計図(7)(改修前)				
A-036	展開図(9)(改修前)1F保健室・ミーティング室・職員更衣室	A-082	校舎棟矩計図(8)(改修後)				
A-037	展開図(10)(改修前)1F職員室・給湯室・印刷室・校長室	A-083	校舎棟矩計図(9)(改修前)				
A-038	展開図(11)(改修前)職員室WC・機械室・休憩室	A-084	校舎棟矩計図(10)(改修後)				
A-039	平面詳細図(6)(改修後)1F管理部門	A-085	校舎棟矩計図(11)(改修前)				
A-040	展開図(12)(改修後)1Fミーティング室・校長室・職員更衣室(女・男)	A-086	校舎棟矩計図(12)(改修後)				
A-041	展開図(13)(改修後)1F職員更衣所(男・女)、洗濯室・物品庫	A-087	屋根棟矩計図(1)(改修前)				
A-042	平面詳細図(7)展開図(14)(改修前)1F児童用トイレ・教材室	A-088	屋根棟矩計図(2)(改修後)				
A-043	展開図(15)(改修前)1F教材庫・配膳室・風除室	A-089	屋根棟矩計図(3)(改修前)				
A-044	平面詳細図(8)展開図(16)(改修後)1F児童用トイレ・教材室	A-090	屋根棟矩計図(4)(改修後)				
A-045	展開図(17)(改修後)1F教材庫・ホール・風除室	A-091	屋根棟矩計図(5)(改修前)				

- (2) 保険金 原則として請負代金額とする。
- (3) 保険の期間 保険の加入期間は原則として工事着手日から完成引渡しまでの間とする。
- 工事着手日 ～ 実際の工事のための準備工事（現場事務所等の建設又は測量を開始すること）の初日とする。
- 完成引渡し ～ 工事に14日追加した日とする。
- (4) 対象外工事 次に掲げる工事は、対象外工事として保険を付さない事ができる。
 - ① 解体、撤去、分解又は片づけ工事
 - ② 外構工事
- (5) 保険契約の変更 保険契約締結後に請負代金額の変更又は工期延長等があった場合は、相応の保険契約を変更しなければならない。
- (6) 保険証券等の提出 保険契約を締結（変更も含む）した場合は、当該保険証券等の写しを提出しなければならない。
- (7) 協議 この取扱いにより難い事項については、必要に応じて受注者は、発注者と協議するものとする。

▶ 20. 法定外の労災保険の付保

本工事の受注者は、下記に従い、法定外の労災保険に付さなければならない。

(1) この特記仕様書における「法定外の労災保険」とは、従業員等が業務上の災害によって身体の障害（後遺障害、死亡を含む）を被った場合に、法定労災保険の給付に上乗せして雇用者が従業員等又はその遺族に支払う金額に対し、保険会社が雇用者に保険金を支払うことを定めた契約を指す。

(2) 受注者は、本請負工事の契約工期を包含する保険期間による「法定外の労災保険」（以下、「法定外労災保険」）を締結しなければならない。本請負工事に係る契約締結において「法定外労災保険」の契約を締結していない場合は、工事着手前に「法定外労災保険」の契約を締結すること。

(3) 受注者は「法定外労災保険」の保険証券の写し又は加入証明書原本を、工事着手の前に、工事監督員を経由して支出負担行為担当者へ提出しなければならない。

(4) 契約書第23条に基づき本請負工事の工期を変更したことに伴い、工期が「法定外労災保険」の保険適用期外に及んだ場合は、受注者は速やかに変更後の工期による保険期間の変更又は保険の追加契約を行い、変更又は追加契約した「法定外労災保険」の保険証券の写し又は加入証明書原本を、工事監督員を経由して支出負担行為担当者へ提出しなければならない。

(5) 本請負工事で求める「法定外労災保険」については、保険契約に定める保険金額の多寡や特約の有無等の契約内容は問わず、保険契約の事実のみを求めるものとする。

- ▶ 21. 墜落制止用具類（フルハーネス型）の使用 労働安全衛生法令で定める、墜落制止用具類（フルハーネス型）の使用が原則とされる作業については、墜落制止用具類（フルハーネス型）を使用すること。
- ▶ 22. 現場環境改善 魅力ある建設工事を推進するため、工事現場の環境改善に努める。
- ▶ 23. 快適トイレの設置

本工事は、「快適トイレ設置工事」の対象工事である。

(1) 受注者が当該工事の現場に仮設トイレを設置する場合は、建設現場を男女ともに清潔で明るい職場環境へと改善することを目的に、快適トイレの設置を検討すること。

(2) 快適トイレとは、次の①及び②の各項目を全て満たすものとする。1については、必須ではないが、設備していればより快適になると思われる項目なので、設置を検討すること。

7. 快適トイレに求める標準仕様

- ① 洋式便座
- ② 水洗機能（簡易水洗、屎尿処理装置付き含む）
- ③ 防臭・逆流防止機能（フラッシュ機能：必要に応じて消臭剤等専用しすい取り装置）
- ④ 容易に開かない施設機能（二重ロック等：二重ロックの備えがなくとも容易に開かないことを製造者が説明出来るもの）
- ⑤ 照明設備（電源がなくても良いもの）
- ⑥ 衣類掛け等のフック付、又は、荷物置き場設備機能（耐荷重5kg以上）

4. 快適トイレとして活用するために備える付属品

- ① 現場に男女がいる場合に男女別の明確な表示
- ② 入口の目隠し設備（男女別トイレ間も含め入口が直接見えなような目隠し設備）
- ③ サニタリーボックス（女性専用トイレに限る）
- ④ 鏡付きの洗面台
- ⑤ 便座除菌シート等の衛生用品

9. 推奨する仕様、付属品

- ① 室内寸法900×900mm以上（半畳程度以上）
- ② 鏡設置
- ③ 消毒器
- ④ フラッシュ機能の多機能化
- ⑤ 窓・室内温度の調整が可能な設備
- ⑥ 小物置き場等（トレットペーパー予備置き場）

(3) 従来品相当額（10,000円/基）を差引いた設置費用（実費用）が51,000円/基・月（基準額）未満の場合は、その額で設計変更を行う。

ただし、地域事情など特別な理由があり、実費用が基準額を超える場合は、受発注者協議のうえ、その理由が妥当と判断できる場合に限り、基準額に協議した金額を加算して設計変更を行う。

なお、ハウス型等と男女別トイレが一体となった快適トイレ（一体型）である場合に限り、基準額の金額を10,000円/基・月と、従来品相当額の金額を20,000円/基・月と読み替える。

(4) 快適トイレの設置にあたっては、以下に留意すること。

7. 男女別で各1基ずつ設置することを原則とする。ただし、女性が現場にいない場合はこの限りではない。

なお、設計変更数量の上限は、男女別で各1ずつ2基/現場まで、一棟限定1基/現場までとする。

8. 具体的な内容や取付時期については、施工計画書提出時に、②の項目を満たすことを確認できる資料を監督員に提出し、規格・設置基準等の詳細について、協議のうえ決定すること。

9. 手配が困難な場合は、監督員と協議のうえ設置しないことができれば、

▶ 24. 建設業退職金共済制度 工事現場には「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場」の標識を掲示する。

▶ 25. 工事標識

工事現場には「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場」の標識を掲示する。

受注者は、着工後速やかに公衆の見やすい場所に工事標識を掲示する。

工事標識	
工事名	(注1)
発注者	令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日
受注者	北海道建設部建築局建築整備課 ○○○○設計事務所(注2)
設計者	北海道建設部建築局建築整備課 ○○○○設計事務所(注2)
工事現場	○○○○現場事務所
連絡所	(電話) ××局××××

注1 北海道、北海道教育委員会又は北海道警察本部と記載する。
注2 設計又は工事監理を設計事務所に委託した場合は、事務所名も併せて記載する。

- ▶ 25-1. 工事用看板 (1) 設計監理者用：0.6m×0.9m（指定色） (2) 外部足場用：発注者名、設計監理者名、請負者名を表示する。表示板の大きさ ○ 0.9m×0.9m ○ 0.3m×1.8m
- ▶ 25-2. 工事用製本 (1) 着工に先立ち、工事用製本用紙をA3版2つ折り（表紙にタイトル紙込み）にて4部提出すること。 ○青焼き ○セロックス普通紙
- ▶ 25-3. プレゼンボード ●主要箇所の仕上材等を記載したプレゼンボードA1版2枚を製作すること。
- ▶ 25-4. 竣工アルバムを作成 工事完了時、建築写真撮影による竣工アルバムを作成し提出すること。提出部数は発注者（1部）、設計事務所（1部） 撮影箇所：外部は5カット、内部は全室を2カット程度とする。竣工が冬期の場合、外周りは雪解け後、再度撮影した後変更する。
- ▶ 26. 公共工事労務費調査に対する協力 (1) 本工事が北海道の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合、受注者は、調査票等に必要事項を正確に記入し北海道に提出する等、必要な協力を行わなければならない。また、本工事の工期経過後においても、同様とする。 (2) 調査票等を提出した事業所に北海道に訪問して行う調査・指導の対象に受注者がなった場合、受注者は、その実施に協力しなければならない。また、本工事の工期経過後においても、同様とする。 (3) 公共事業労務費調査の対象工事となった場合に正確な調査票等の提出が行えよう。受注者は、労働基準法等に従って就業規則を作成すると共に賃金台帳を編製・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行っておかなければならない。 (4) 受注者が本工事の一部について下請契約を締結する場合、受注者は、当該下請工事の受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。）が前3項目と同様の義務を負う旨を定めなければならない。

▶ 27. 工事実績情報の登録

受注者は、受注時、変更時及び完了時に（10日以内）工事実績情報システム（CORIS）に基づき、「工事カルタ」を作成し、工事監督員の確認を受けた後に、(財)日本建設情報総合センターに登録申請しなければならない。

また、同センター発行の「工事カルタ受領書」の写しを工事監督員に提出しなければならない。

(対象工事：請負代金500万円以上の全工事)

建設業法に基づき施工体制台帳を作成し、施工管理体制に関する事項を工事監督員に提出しなければならない。（「特定工事、工事1件の請負代金額が200万円以上の工事」ただし、200万円未満の工事であっても下請契約を締結する場合は、提出すること。また、公衆の見やすい場所に施工体系図を掲示する。）

▶ 28. 施工体制台帳の整備

▶ 29. 中間検査の実施

(1) 中間検査の実施 実施工程において、次の段階で中間検査を実施する。

実施対象建物名称	実施部位	実施時期
○	○ 基礎工事	○ 記筋完了時
○	○	○ 躯体完了時
○	○	○ 鉄骨建方完了時
○	○	○ 完了時
○	○	○ 完了時

(2) 上記のほか、発注者が中間検査の実施を必要と認めた場合は、別途文書により通知する。

(3) 受注者は、中間検査実施可能日について、その14日前までに工事監督員に報告し、検査に際して「建設工事中間検査実施基準」（北海道建設部建築局）に掲げる関係書類を準備する。

▶ 30. 抜き打ち検査の実施

本工事において、次の段階で抜き打ち検査を実施する。

実施対象建物名称	実施部位	実施時期
○	○ 杭工事	○ 杭工事施工中
○	○	○

- ▶ 31. 暴力団員等による不当介入を受けた場合の対応 (1) 受注者は、暴力団員等による不当介入又は工事（業務）妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、断固としてこれを拒否しなければならない。また、不当介入があった時点で速やかに警察に通報するとともに、復讐上必要な協力を行わなければならない。 (2) 受注者は、前記により警察・通報を行った際には、速やかにその内容を工事監督員に報告しなければならない。 (3) 受注者は、暴力団員等による不当介入を受けたことにより、工程に遅れが生じる等の被害が発生した場合は、工事監督員と協議するものとする。
- ▶ 32. 重点的な監督業務の実施 公共工事の品質確保のために、重点的な監督業務の対象工事に指定された場合は、「建設部建築局建築工事重点監督実施要領」を適用する。なお、対象工事に指定された場合は、別途文書により通知する。
- ▶ 33. 特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律への対応 受注者は、「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律」に基づき、保険への加入又は保証金の供託を行うこと。
- ▶ 34. 電子納品 北海道建設部建築局制定の「建設工事電子納品運用ガイドライン」（以下、「ガイドライン」という。）に基づき、工事書類を電子成果品として納品する。 (1) 電子納品の対象書類 電子納品の対象書類は、工事写真及び完成図面を基本とするが、詳細については「ガイドライン」を参考にし、工事監督員と協議の上、決定するものとする。 (2) 情報共有 情報共有の対象書類は「ガイドライン」に示すとおりとするが、詳細については工事監督員と協議の上、決定する。なお、受注者側の通信環境などから、施工・管理上による効率化が期待できない場合は、工事監督員との協議によりデータ変換の方法やデータ種類を決定する。 (3) 要件 電子納品は、「ガイドライン」に基づき実施するほか、特に記載のない限り国土交通省で定めている「建設工事電子納品要領」及び「官庁庁種事業に係る電子納品運用ガイドライン」（官庁庁種事業編）を準用する。 (4) 電子納品・情報共有実施に伴う環境整備 7. 受注者は、電子納品及び情報共有を行うにあたり、必要なハード環境及びソフト環境を予め保有している、又は手配可能であること。 8. 本工事の契約締結後、受注者は「ガイドライン」に基づき、着手時アンケート等によりインターネット環境や利用ソフト、情報共有対象書類、電子納品対象書類等について工事監督員と協議すること。

▶ 35. 「密着工事における地域外（遠隔地）からの建設資材調達費用の積算方法等」の執行について

(1) 建設資材の調達先が遠隔地にあり、かつ地域外（遠隔地）から調達せざるを得ない場合は、事前に工事監督員と協議すること。その場合、購入費用及び輸送費等に要した費用について、証明書類（実額の取引伝票等）を工事監督員に提出し、設計変更の内容について協議するものとする。

- ▶ 36. 「密着工事における地域外（遠隔地）からの労働者確保に要する費用の積算方法等」の執行について (1) 本工事は、今後、不足する技術者や技能者を広域的に確保せざるを得ない場合も考えられることから、契約締結後、労働者確保の方策について変更が生じ、適正な工事の実施が困難となる場合に、必要となる費用について支出実績を踏まえ、設計変更により対応する密着工事である。 なお、当該密着工事による変更項目は、次のとおりとする。 (実積変更対象項目) 共通仮設費：共通仮設費率に含まれない項目の使用 現場管理費：労働管理費（募集及び解雇に要する費用、賃金以外の食費、通勤費等に要する費用） ※労働者確保が出来ず、安易に地域外から確保しても、工事施工地の地域において労働のひっ迫状況が確認されなければ、労働者確保に要する費用の設計変更はできませぬ。 (2) 受注者から協議を受け、設計変更が必要と認められる場合は、次のとおりとする。 7. 発注者は、実積変更対象項目について特記仕様書により、積算方法を明確にすることとする。 8. 受注者は、労働者確保に要する方策に変更が生じ、北海道建設部密着工事共通費積算基準等の金額相当では適正な工事の実施が困難になった場合は、実積変更対象費の実支出実績を踏まえて最終受取時点まで設計変更することとする。受注者は、労働者確保に要する費用の設計変更を希望する場合は、工事着手日までに「労働者確保に係る実施計画書」（様式1-2）及び「労働者確保に係る実施計画書」（詳細内訳）（様式1-3）を工事監督員に提出し、労働者確保に要する費用の内訳がわかる（見積書等）を整理し提出すること。ただし、労働者確保に要する方策に変更が生じても、設計変更を希望しない場合は、上記様式の提出は不要とし、工事打合せ記録簿で確認を行う。 9. 工事着手日までに「労働者確保に係る実施計画書」等を工事監督員に提出出来ない場合は、原則、労働者確保に要する費用の設計変更は行わない。 1. 工事着手日までに「労働者確保に係る実施計画書」等を工事監督員に提出した受注者は、労働者確保に要する方策に変更が生じた場合、速やかに、適正な工事の実施が困難になった理由を工事打合せ記録簿に記載し、工事監督員に提出し協議を行う。 2. 受注者は、工事監督員と協議を行い、労働者確保に要する費用の設計変更が必要と認められた場合、最終受取時点において、実積変更対象費の実支出実績を踏まえて設計変更を行う際は、実積変更対象費に係る費用の内訳を記載した「労働者確保に係る実績報告書」（様式2-1）、「労働者確保に係る実績報告書（詳細内訳）」（様式2-2）及び実積変更対象費について実際に支払った全ての証明書類（領収書、領収書の出ないものは金額の適切性を証明する金額計算書など。）を、工期末の30日以前まで工事監督員に提出し、設計変更の内容について協議するものとする。 3. 受注者の責めによる工事工程の遅れ等受注者の責めに帰すべき事由による増加費用については、設計変更の対象としない。 4. 受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法的措置及び指名停止等の措置を行う場合がある。

費目	実績変更対象項目	当初積算方法
共通仮設費	仮設用資材（評価費） (地域外労働者確保に要する現場事務所（地域外）、試験室、労働者宿舎、倉庫、材料保管場所等の敷地及び地上に於いて地代及び建物を建築する代わりに賃借し、マンション、民家等を長期借上げた場合に要した費用)	○当初積算では計上していない。
労働管理費	募集費及び解雇に要する費用（労働管理費） (地域外労働者確保に要する労働者の赴任手当、労働者の帰省旅費・手当)	○当初積算では計上していない。 (地域外労働者以外にかかる募集及び解雇に要する費用については現場管理費率に含む)
賃金以外の食費、通勤等に要する費用（労働管理費）	(地域外労働者確保に要する労働者の食費補助、交通費の支給)	○当初積算では計上していない。 (地域外労働者以外にかかる賃金以外の食費、通勤等に要する費用については現場管理費率に含む)

- ▶ 37. 週休2日モデル工事 (1) 建築、電気及び管工事のうち、受注者が希望する工事を「週休2日モデル工事」の対象とする。 (2) 受注者は、週休2日より多くの施工を希望する場合、契約後、監督員に申し出のうえ「週休2日モデル工事」として施工する。 (3) 週休2日とは、対象期間において、土日・祝日に限らず、4週8休以上の現場場所を行ったと認められる状態をいう。 (4) 対象期間とは、工期内において、現場における準備作業（現場事務所や仮設資材の搬入・設置等）に着手した日及び後片付け作業（現場事務所や仮設資材の撤去・撤去等）を終えた日までの期間をいう。なお、年末年始6日間（12月29日～1月3日）及び夏季休暇3日間（8月13日～15日）、工場製作の実施を行う期間、工事全体を一時中止している期間のほか、発注者があらかじめ対象外としている内容に該当する期間（受注者の責に帰する現場作業を余儀なくされる期間など）は含まない。 (5) 4週8休以上とは、対象期間における現場閉所日数の割合（以下、「現場閉所率」という。）が、28.5%（8日/28日）以上の水準に達する状態をいう。なお、降雨、降雪等による予定外の閉所日についても、現場閉所日数に含めるものとする。 (現場閉所率の算定方法) K(%) = A/B ※K：現場閉所率(%) ※A：対象期間における現場閉所日数 ※B：対象期間の日数 (6) 現場閉所とは、現場作業を行っていない日とするため、巡回パトロールや保守点検等の現場管理上必要な作業や現場事務所での書類整理等の事務的内業を除き、1日を通して現場が開所された状態をいう。 (7) 週休2日の確保の取組は、将来の担い手確保、入職しやすいつくまづくりを目指すものであることから、週休2日による施工を実施する受注者は、その趣旨に沿った休日の取得に努めるものとする。 (8) 発注者は、以下の①～③までの現場閉所の状況に応じた補正係数により労務費（予定価格のもととなる工事費の積算に用いる積合単価、市場単価）及び物価資料の掲載価格（材工単価）の労務費を補正し、請負代金額を変更する。なお、4週6休に満たない場合は、変更の対象としない。
- ▶ 38. 「密着工事における地域外（遠隔地）からの労働者確保に要する費用の積算方法等」の執行について (1) 建築、電気及び管工事のうち、受注者が希望する工事を「密着2日モデル工事」の対象とする。 (2) 受注者は、密着2日より多くの施工を希望する場合、契約後、監督員に申し出のうえ「密着2日モデル工事」として施工する。 (3) 密着2日とは、対象期間において、土日・祝日に限らず、2週2休以上の現場場所を行ったと認められる状態をいう。 (4) 対象期間とは、工期内において、現場における準備作業（現場事務所や仮設資材の搬入・設置等）に着手した日及び後片付け作業（現場事務所や仮設資材の撤去・撤去等）を終えた日までの期間をいう。なお、年末年始6日間（12月29日～1月3日）及び夏季休暇3日間（8月13日～15日）、工場製作の実施を行う期間、工事全体を一時中止している期間のほか、発注者があらかじめ対象外としている内容に該当する期間（受注者の責に帰する現場作業を余儀なくされる期間など）は含まない。 (5) 2週2休以上とは、対象期間における現場閉所日数の割合（以下、「現場閉所率」という。）が、25%（2日/8日）以上の水準に達する状態をいう。なお、降雨、降雪等による予定外の閉所日についても、現場閉所日数に含めるものとする。 (現場閉所率の算定方法) K(%) = A/B ※K：現場閉所率(%) ※A：対象期間における現場閉所日数 ※B：対象期間の日数 (6) 現場閉所とは、現場作業を行っていない日とするため、巡回パトロールや保守点検等の現場管理上必要な作業や現場事務所での書類整理等の事務的内業を除き、1日を通して現場が開所された状態をいう。 (7) 密着2日の確保の取組は、将来の担い手確保、入職しやすいつくまづくりを目指すものであることから、密着2日による施工を実施する受注者は、その趣旨に沿った休日の取得に努めるものとする。 (8) 発注者は、以下の①～③までの現場閉所の状況に応じた補正係数により労務費（予定価格のもととなる工事費の積算に用いる積合単価、市場単価）及び物価資料の掲載価格（材工単価）の労務費を補正し、請負代金額を変更する。なお、2週2休に満たない場合は、変更の対象としない。
- ▶ 39. 防犯養生 防犯養生は、次の範囲とする。 (1) 養生期間 1. 2月16日から3月15日を原則とする。ただし、2月16日以前と3月15日以後において品質確保の観点から防犯養生の実施が必要となる期間については設計変更でできるものとする。 なお、寒中コンクリートの養生期間については、第6章コンクリート工事の期間 (2) 養生方法 7. 仮囲 ○上家仮囲 (○ 単置足場+カマ+斜土程度) ○ 簡 仮 囲 (○ + ビニシート ○カマ) 4. 仮囲 ○外部仮囲 ○内部仮囲
- ▶ 40. 夏期の熱中症対策 次に示した項目は、必要に応じて設計変更できるものとする。 (1) 夏期閉所 (6月1日～8月31日) (2) 対象項目 ・遮光ネット ・ドライミスト ・曇り指数（WBGT値）の計測機の設置 ※いずれの項目もリース代を対象とする
- ▶ 41. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を実施する場合、追加費用を要する際には、実施内容についてあらかじめ発注者と協議を行い、必要と認められる対策については、施工計画書に反映させること。なお、必要と認められる対策については設計変更できるものとする。
- ▶ 42. その他 (1) ゴム製品等の品質確認について 1. ゴム製品等の品質確認 受注者は、東洋ゴム工業（株）、ニッタ化学工業（株）で製造された製品や材料（以下、ゴム製品等とする。）を用いる場合には、同社が製造するゴム製品等に対して受注者が指定した第三者（東洋ゴム工業（株）、ニッタ化学工業（株）と資本関係、人事面で関係のない）によって作成された品質を証明する書類を提出し、工事監督員の確認を得るものとする。 なお品質証明において、以下の試験及び検査を行う際、製品に必要となる規格（計測項目）について取得するものとする。 通常状態での試験（常温試験）→硬さ、比重、引張強度、伸び熱化試験→熱老化前後での変化率（硬さ、比重、引張強度、伸び）圧縮永久ひずみ試験→圧縮による残留変形 製品検査→外観、寸法、性能 2. ゴム製品等の品質確認をした場合における瑕疵担保の取扱い 第三者による品質証明書類を提出し工事監督員の確認を得た場合であっても、後に製品不良等が判明した場合に受注者の瑕疵担保責任が負責されるものではない。

● 第2章 仮設工事	
項目	特記事項
▶ 1. 騒音・粉じん等の対策	(1) 防音パネル (設置範囲: 図示) * 取けない (2.1.3) (2) 防音シート (設置範囲: 図示) * 取けない
▶ 2. 足場等	(1) 内部足場 * 脚立足場 ○ 枠組足場 (2.2.1) (2) 外部足場 * 設置する 足場を設ける場合には、「手すり先行工法に関するガイドライン」において「厚生労働省平成21年4月策定」の「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づき、足場の組立、解体、変更の作業時及び使用時には、常に、全ての作業床について手すり、中柱及び幅木の機能を有するものを設置しなければならない。(2.2.1) (3) 災害防止 ● ネット状養生シート (● 防災Ⅰ類 ○ 防災Ⅱ類) ○ 養生防護網 ○ 金網 ○ 金網式養生枠 ● 養生シート (● 防災Ⅰ類 ○ 防災Ⅱ類) (表2.2.1)
▶ 3. 養生	(1) 既存部分・既存家具・既存設備等の養生 (2.3.1) * 行わない 養生方法 * ビニルシート ○ (2) 既存ラインド、カーテン等の養生及び保管 * 行わない 養生の方法 * ビニルシート ○ 保管場所 小学校校内外体育館 (3) 固定された備品、机、ロッカー等の移動 * 行わない 移動場所 小学校校内外体育館
▶ 4. 仮設間仕切り等	(1) 仮設間仕切りの種類 (2.3.2 表2.3.1) 種類 下地 材質 充填材 塗装 ● A種 ○ 木下地 * セッコウボード (49.5 ○) 厚さ mm ○ 片面 ○ B種 * 軽質鉄板 ○ 合板 (49.0 ○) ○ * 無し ○ C種 ○ 単管下地 ○ 防火シート ○ * 無し 仮設扉 * 木製扉 * 合板張り程度 ○ * 無し * 鋼製扉 * 片面フラッシュ程度 ○ * 有り
▶ 5. 監督業務所及び備品等	(1) 監督業務所 (2.4.1) ○ 設ける * 取けない (* 10㎡ ○ 20㎡ ○ 35㎡ ○ 65㎡ ○ 100㎡) 程度 (2) 設備、備品等は次に掲げるものの中から監督業務員との協議による机、椅子、書棚、黒板、複写機、ゴム長尺、雨合羽、保護服、懐中電灯、安全帯、受注者加入電話の子機、衣類ロッカー、暖房機器、消火器、湯沸器、掃除機等
▶ 6. 工事用便所	* 設ける
▶ 7. 工事用水	構内既存の施設 ○ 利用できる (* 有償 ○ 無償) * 利用できない
▶ 8. 工事用電力	構内既存の施設 ○ 利用できる (* 有償 ○ 無償) * 利用できない
▶ 9. 指定仮設	* 仮設計画図による。
▶ 10. 交通誘導員	建設機械及び車両等の出入りの際には、出入口に交通誘導員を配置し、一般通行者及び一般車両の安全を図ること。 なお、交通誘導員の区分及び配置位置は、次による。 区分: ○ 交通誘導員A ○ 交通誘導員B 位置: 図面による。 警備員箇所: (○ 設ける ○ 設けない) 表 工事現場の位置と交通誘導員区分の考え方
▶ 11. 清掃員	建設機械及び車両等の出入りの際には、運送作業員を配置し、敷地外の道路等を泥等で汚した場合には、速やかに清掃を行うこと。

● 第3章 防水改修工事																	
項目	特記事項																
▶ 1. 降雨等に対する養生方法	改修工事標準仕様書3.1.3(5)①~④による (3.1.3)																
▶ 2. ルーフドレン回りの処理	改修用ドレン (POAS、POAS1、POD、POD1、POS、POS1、POX工法の場合) ○ 設ける ○ 設けない (3.2.5)																
▶ 3. 既存下地の処理	(1) 補修箇所の形状、長さ、数量等 * 図示 (3.2.6) (2) POS工法及びPOS1工法 (機械的固定工法) の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処理 * 改修標準仕様書 3.2.5(4)①②③による ○ (3.2.6) (3) 梁回り等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理 ○ 図示 (3.2.6)																
▶ 4. 既存防水層表面の仕上げ塗装	* 除去する ○ 除去しない (3.2.6) M4AS、M4AS1、M4C、M4D1、L4X工法の場合)																
▶ 5. 断熱材	各断熱工法で使用する断熱材は、ノンフロント仕様とする。																
▶ 6. アスファルト防水	(1) 改修アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ * 改修標準仕様書 表3.3.3から表3.3.9による ○ 図示 (3.3.2) (2) 部分粘着層付改修アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ * 改修標準仕様書 表3.3.3から表3.3.9による ○ 図示 (3.3.2) (3) 押入金物の材質及び形状寸法 * アルミニウム ○ (3.3.2) 形状: * L-30×15×2.0 ○ (4) 屋根保護防水熱工法の断熱材の材質及び厚さ: (3.3.2)																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>新 断 熱 材</th> <th>厚 さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>* 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種 b A (※層付き) (JIS A 9521)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>(5) 屋根露出防水熱工法の断熱材の材質及び厚さ: (3.3.2)</td> <td></td> </tr> <tr> <th>新 断 熱 材</th> <th>厚 さ</th> </tr> <tr> <td>JIS A 9521 (建築用断熱材) に基づく次の発泡プラスチック断熱材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>* ピーズ法ポリスチレンフォーム (JIS記号: * スキン層等の区分:)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>* 押出法ポリスチレンフォーム (JIS記号: * スキン層等の区分:)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>硬質ウレタンフォーム断熱材 2種1号又は2号で透湿係数を除く規格に適合するもの (JIS A 9521)</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>		新 断 熱 材	厚 さ	* 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種 b A (※層付き) (JIS A 9521)	○	(5) 屋根露出防水熱工法の断熱材の材質及び厚さ: (3.3.2)		新 断 熱 材	厚 さ	JIS A 9521 (建築用断熱材) に基づく次の発泡プラスチック断熱材		* ピーズ法ポリスチレンフォーム (JIS記号: * スキン層等の区分:)	○	* 押出法ポリスチレンフォーム (JIS記号: * スキン層等の区分:)	○	硬質ウレタンフォーム断熱材 2種1号又は2号で透湿係数を除く規格に適合するもの (JIS A 9521)	○
新 断 熱 材	厚 さ																
* 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種 b A (※層付き) (JIS A 9521)	○																
(5) 屋根露出防水熱工法の断熱材の材質及び厚さ: (3.3.2)																	
新 断 熱 材	厚 さ																
JIS A 9521 (建築用断熱材) に基づく次の発泡プラスチック断熱材																	
* ピーズ法ポリスチレンフォーム (JIS記号: * スキン層等の区分:)	○																
* 押出法ポリスチレンフォーム (JIS記号: * スキン層等の区分:)	○																
硬質ウレタンフォーム断熱材 2種1号又は2号で透湿係数を除く規格に適合するもの (JIS A 9521)	○																

● 第4章 外壁改修工事																																					
項目	特記事項																																				
▶ 1. ひび割れ部改修	(1) コンクリート打放し仕上げ (4.1.4.4.2.2.4.3.5.4.4.6.4.5.2.4.5.5~6)																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>ひび割れの幅</th> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>注 入 量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.2~1.0mm未満</td> <td>* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>エポキシ樹脂: * 200~300 ○ 低粘度形 ○ 中粘度形</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>1.0mm以上</td> <td>* U/Uo樹脂材充填工法</td> <td>○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シーリング材の種類 * 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>		ひび割れの幅	工 法	材 料	注 入 量	0.2~1.0mm未満	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	エポキシ樹脂: * 200~300 ○ 低粘度形 ○ 中粘度形	○	1.0mm以上	* U/Uo樹脂材充填工法	○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シーリング材の種類 * 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない	○																								
ひび割れの幅	工 法	材 料	注 入 量																																		
0.2~1.0mm未満	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	エポキシ樹脂: * 200~300 ○ 低粘度形 ○ 中粘度形	○																																		
1.0mm以上	* U/Uo樹脂材充填工法	○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シーリング材の種類 * 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない	○																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>ひび割れの幅</th> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>注 入 量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.2~1.0mm未満</td> <td>* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>エポキシ樹脂: * 200~300 ○ 低粘度形 ○ 中粘度形</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>1.0mm以上</td> <td>* U/Uo樹脂材充填工法</td> <td>○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シーリング材の種類 * 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>		ひび割れの幅	工 法	材 料	注 入 量	0.2~1.0mm未満	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	エポキシ樹脂: * 200~300 ○ 低粘度形 ○ 中粘度形	○	1.0mm以上	* U/Uo樹脂材充填工法	○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シーリング材の種類 * 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない	○																								
ひび割れの幅	工 法	材 料	注 入 量																																		
0.2~1.0mm未満	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	エポキシ樹脂: * 200~300 ○ 低粘度形 ○ 中粘度形	○																																		
1.0mm以上	* U/Uo樹脂材充填工法	○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シーリング材の種類 * 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない	○																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>ひび割れの幅</th> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>注 入 量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.2~1.0mm未満</td> <td>* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>エポキシ樹脂: * 200~300 ○ 低粘度形 ○ 中粘度形</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>1.0mm以上</td> <td>* U/Uo樹脂材充填工法</td> <td>○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シーリング材の種類 * 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>		ひび割れの幅	工 法	材 料	注 入 量	0.2~1.0mm未満	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	エポキシ樹脂: * 200~300 ○ 低粘度形 ○ 中粘度形	○	1.0mm以上	* U/Uo樹脂材充填工法	○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シーリング材の種類 * 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない	○																								
ひび割れの幅	工 法	材 料	注 入 量																																		
0.2~1.0mm未満	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	エポキシ樹脂: * 200~300 ○ 低粘度形 ○ 中粘度形	○																																		
1.0mm以上	* U/Uo樹脂材充填工法	○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シーリング材の種類 * 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない	○																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>ひび割れの幅</th> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>注 入 量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.2~1.0mm未満</td> <td>* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>エポキシ樹脂: * 200~300 ○ 低粘度形 ○ 中粘度形</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>1.0mm以上</td> <td>* U/Uo樹脂材充填工法</td> <td>○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シーリング材の種類 * 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>		ひび割れの幅	工 法	材 料	注 入 量	0.2~1.0mm未満	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	エポキシ樹脂: * 200~300 ○ 低粘度形 ○ 中粘度形	○	1.0mm以上	* U/Uo樹脂材充填工法	○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シーリング材の種類 * 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない	○																								
ひび割れの幅	工 法	材 料	注 入 量																																		
0.2~1.0mm未満	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	エポキシ樹脂: * 200~300 ○ 低粘度形 ○ 中粘度形	○																																		
1.0mm以上	* U/Uo樹脂材充填工法	○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シーリング材の種類 * 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない	○																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>ひび割れの幅</th> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>注 入 量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.2~1.0mm未満</td> <td>* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>エポキシ樹脂: * 200~300 ○ 低粘度形 ○ 中粘度形</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>1.0mm以上</td> <td>* U/Uo樹脂材充填工法</td> <td>○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シーリング材の種類 * 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>		ひび割れの幅	工 法	材 料	注 入 量	0.2~1.0mm未満	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	エポキシ樹脂: * 200~300 ○ 低粘度形 ○ 中粘度形	○	1.0mm以上	* U/Uo樹脂材充填工法	○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シーリング材の種類 * 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない	○																								
ひび割れの幅	工 法	材 料	注 入 量																																		
0.2~1.0mm未満	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	エポキシ樹脂: * 200~300 ○ 低粘度形 ○ 中粘度形	○																																		
1.0mm以上	* U/Uo樹脂材充填工法	○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シーリング材の種類 * 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない	○																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>* 充填工法</td> <td>* ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル</td> </tr> <tr> <td>○ 充填工法</td> <td>* ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル</td> </tr> <tr> <td>○ モルタル塗替え工法</td> <td>* 既着合材料 * 現場着合材料 (改修工事標準仕様書 4.2.2(7)①②による)</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	材 料	* 充填工法	* ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル	○ 充填工法	* ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル	○ モルタル塗替え工法	* 既着合材料 * 現場着合材料 (改修工事標準仕様書 4.2.2(7)①②による)																												
工 法	材 料																																				
* 充填工法	* ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル																																				
○ 充填工法	* ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル																																				
○ モルタル塗替え工法	* 既着合材料 * 現場着合材料 (改修工事標準仕様書 4.2.2(7)①②による)																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>改修工法の種類</th> <th>アンカーピンの本数 (本/㎡)</th> <th>注入口の箇所数 (箇所/㎡)</th> <th>注入量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 16 * 25 ○</td> <td>—</td> <td>* 25 ○</td> </tr> <tr> <td>○ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 13 * 20 ○</td> <td>* 12 * 20 ○</td> <td>* 25 ○</td> </tr> <tr> <td>○ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスター注入工法</td> <td>* 13 * 20 ○</td> <td>* 12 * 20 ○</td> <td>* 50 ○</td> </tr> <tr> <td>○ 注入口アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 9 * 16 ○</td> <td>—</td> <td>* 25 ○</td> </tr> <tr> <td>○ 注入口アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 9 * 16 ○</td> <td>* 9 * 16 ○</td> <td>* 25 ○</td> </tr> <tr> <td>○ 注入口アンカーピンニング全面ポリマーセメントスター注入工法</td> <td>* 9 * 16 ○</td> <td>* 9 * 16 ○</td> <td>* 50 ○</td> </tr> <tr> <td>○ 充填工法</td> <td>* ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ モルタル塗替え工法</td> <td>改修標準仕様書 4.4.9 表4.4.1による</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		改修工法の種類	アンカーピンの本数 (本/㎡)	注入口の箇所数 (箇所/㎡)	注入量	○ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 16 * 25 ○	—	* 25 ○	○ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 13 * 20 ○	* 12 * 20 ○	* 25 ○	○ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスター注入工法	* 13 * 20 ○	* 12 * 20 ○	* 50 ○	○ 注入口アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 9 * 16 ○	—	* 25 ○	○ 注入口アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 9 * 16 ○	* 9 * 16 ○	* 25 ○	○ 注入口アンカーピンニング全面ポリマーセメントスター注入工法	* 9 * 16 ○	* 9 * 16 ○	* 50 ○	○ 充填工法	* ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル			○ モルタル塗替え工法	改修標準仕様書 4.4.9 表4.4.1による		
改修工法の種類	アンカーピンの本数 (本/㎡)	注入口の箇所数 (箇所/㎡)	注入量																																		
○ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 16 * 25 ○	—	* 25 ○																																		
○ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 13 * 20 ○	* 12 * 20 ○	* 25 ○																																		
○ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスター注入工法	* 13 * 20 ○	* 12 * 20 ○	* 50 ○																																		
○ 注入口アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 9 * 16 ○	—	* 25 ○																																		
○ 注入口アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 9 * 16 ○	* 9 * 16 ○	* 25 ○																																		
○ 注入口アンカーピンニング全面ポリマーセメントスター注入工法	* 9 * 16 ○	* 9 * 16 ○	* 50 ○																																		
○ 充填工法	* ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル																																				
○ モルタル塗替え工法	改修標準仕様書 4.4.9 表4.4.1による																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>改修工法の種類</th> <th>アンカーピンの本数 (本/㎡)</th> <th>注入口の箇所数 (箇所/㎡)</th> <th>注入量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 16 * 25 ○</td> <td>—</td> <td>* 25 ○</td> </tr> <tr> <td>○ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 13 * 20 ○</td> <td>* 12 * 20 ○</td> <td>* 25 ○</td> </tr> <tr> <td>○ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスター注入工法</td> <td>* 13 * 20 ○</td> <td>* 12 * 20 ○</td> <td>* 50 ○</td> </tr> <tr> <td>○ 注入口アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 9 * 16 ○</td> <td>—</td> <td>* 25 ○</td> </tr> <tr> <td>○ 注入口アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 9 * 16 ○</td> <td>* 9 * 16 ○</td> <td>* 25 ○</td> </tr> <tr> <td>○ 注入口アンカーピンニング全面ポリマーセメントスター注入工法</td> <td>* 9 * 16 ○</td> <td>* 9 * 16 ○</td> <td>* 50 ○</td> </tr> <tr> <td>○ 充填工法</td> <td>* ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ モルタル塗替え工法</td> <td>改修標準仕様書 4.4.9 表4.4.1による</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		改修工法の種類	アンカーピンの本数 (本/㎡)	注入口の箇所数 (箇所/㎡)	注入量	○ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 16 * 25 ○	—	* 25 ○	○ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 13 * 20 ○	* 12 * 20 ○	* 25 ○	○ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスター注入工法	* 13 * 20 ○	* 12 * 20 ○	* 50 ○	○ 注入口アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 9 * 16 ○	—	* 25 ○	○ 注入口アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 9 * 16 ○	* 9 * 16 ○	* 25 ○	○ 注入口アンカーピンニング全面ポリマーセメントスター注入工法	* 9 * 16 ○	* 9 * 16 ○	* 50 ○	○ 充填工法	* ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル			○ モルタル塗替え工法	改修標準仕様書 4.4.9 表4.4.1による		
改修工法の種類	アンカーピンの本数 (本/㎡)	注入口の箇所数 (箇所/㎡)	注入量																																		
○ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 16 * 25 ○	—	* 25 ○																																		
○ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 13 * 20 ○	* 12 * 20 ○	* 25 ○																																		
○ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスター注入工法	* 13 * 20 ○	* 12 * 20 ○	* 50 ○																																		
○ 注入口アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 9 * 16 ○	—	* 25 ○																																		
○ 注入口アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 9 * 16 ○	* 9 * 16 ○	* 25 ○																																		
○ 注入口アンカーピンニング全面ポリマーセメントスター注入工法	* 9 * 16 ○	* 9 * 16 ○	* 50 ○																																		
○ 充填工法	* ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル																																				
○ モルタル塗替え工法	改修標準仕様書 4.4.9 表4.4.1による																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル</td> </tr> </tbody> </table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル	○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																														
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法	○ ポリマーセメントモルタル																																				
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化型変成シリコン樹脂系 ○ 既着合モルタル																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>接 着 剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ タイル部分替換工法</td></tr></tbody></table>		工 法	接 着 剤	○ タイル部分替換工法																																	
工 法	接 着 剤																																				
○ タイル部分替換工法																																					

I. 「集材材の日本農林規格」以外の造作用集材材等

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	見付け材の品質	含水率
			# 1等 ○ 2等 # 15%以下 ○	
			# 1等 ○ 2等 # 15%以下 ○	
			# 1等 ○ 2等 # 15%以下 ○	

II. 「集材材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集材材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	厚さ (mm)	見付け材の品質	含水率
化粧薄板:				# 1等 ○ 2等 # 15%以下 ○	
芯材:				# 1等 ○ 2等 # 15%以下 ○	
化粧薄板:				# 1等 ○ 2等 # 15%以下 ○	
芯材:				# 1等 ○ 2等 # 15%以下 ○	

III. 「集材材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集材材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	厚さ (mm)	見付け材の品質	含水率
化粧薄板:				# 1等 ○ 2等 # 15%以下 ○	
芯材:				# 1等 ○ 2等 # 15%以下 ○	
化粧薄板:				# 1等 ○ 2等 # 15%以下 ○	
芯材:				# 1等 ○ 2等 # 15%以下 ○	

IV. 造作用単板積層材

7. 「単板積層材の日本農林規格」の造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法 (mm)	表面の品質 (化粧加工)	防虫処理
			○ 有り (加工: ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工 ○ 無し (等級:))	○ 有り ○ 適用する ○ 適用しない
			○ 有り (加工: ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工 ○ 無し (等級:))	○ 有り ○ 適用する ○ 適用しない
			○ 有り (加工: ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工 ○ 無し (等級:))	○ 有り ○ 適用する ○ 適用しない

8. 「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	寸法 (mm)	表面の品質 (化粧加工)	含水率	防虫処理
		○ 有り (加工: ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工 ○ 無し (等級:))	# 14%以下 ○	○ 適用する ○ 適用しない
		○ 有り (加工: ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工 ○ 無し (等級:))	# 14%以下 ○	○ 適用する ○ 適用しない
		○ 有り (加工: ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工 ○ 無し (等級:))	# 14%以下 ○	○ 適用する ○ 適用しない

9. 「直交集成材の日本農林規格」による直交集成材

施工箇所	品名	樹種	寸法 (mm)	強度等級	種別	接着性能
	○ 真等級構成 ○ 同一等級構成				○ A種 ○ B種	○ B ○ C
	○ 真等級構成 ○ 同一等級構成				○ A種 ○ B種	○ B ○ C

10. 合板等

7. 下地用合板

7. 「合板の日本農林規格」による普通合板

施工箇所	品名	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	表面の品質	防虫処理
		# 5.5		# 1等 ○ 2等	広葉樹 # 2等 ○ 1等 針葉樹 # C-D ○	○ 適用する ○ 適用しない
		# 5.5		# 1等 ○ 2等	広葉樹 # 2等 ○ 1等 針葉樹 # C-D ○	○ 適用する ○ 適用しない

8. 「合板の日本農林規格」による構造用合板

施工箇所	品名	厚さ (mm)	単板の樹種名	保存処理	等級	接着の程度	防虫処理	強度等級
		# 12.0		○	# C-D	# 2級 # 1級	○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する ○ 適用しない
		# 12.0		○	# C-D	# 2級 # 1級	○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する ○ 適用しない

9. 「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	品名	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理
				○ 1等 ○ 2等	○ 適用する ○ 適用しない
				○ 1等 ○ 2等	○ 適用する ○ 適用しない

10. 「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	化粧加工の方法	接着の程度	防虫処理
			○ オール・イ ○ アリト ○ 塗装 ○	○ 1等 ○ 2等	○ 適用する ○ 適用しない
			○ オール・イ ○ アリト ○ 塗装 ○	○ 1等 ○ 2等	○ 適用する ○ 適用しない

11. JIS A 5908によるパーティクルボード

施工箇所	表面の状況による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	耐熱性による区分	厚さ (mm)
	# 13タイプ ○	○	○	○	# 15
	# 13タイプ ○	○	○	○	# 15

12. 構造用パネルの日本農林規格による構造用パネル

施工箇所	品名	厚さ (mm)

13. JIS A 5905によるメディアムデンシティファイバーボード(MDF)

施工箇所	表面の状況による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	耐熱性による区分	厚さ (mm)
	○	○	○	○	
	○	○	○	○	

(3) 接合部等

7. 釘等

4. 釘等

4. 釘等

4. 釘等

(10) 木ねんがの接着工法に使用する接着剤

(11) 防菌・防蟻・防虫処理

7. 表面処理用防菌剤は工事監督員の承認するものとする。

4. 防菌・防蟻処理が必要な樹種による製材及び集材材

9. 薬剤の加圧注入による防菌・防蟻処理

適用部位	保存処理性能区分
○ K2 ○ K3 ○ K4	

1. 薬剤の塗布等による防菌・防蟻処理

適用部位	処理の方法
# 改修標準仕様書 6.5.5 (a) (iii) ②アエによる	
# 改修標準仕様書 6.5.5 (a) (iii) ③アエによる	

4. 薬剤の接着剤への混入による防菌・防蟻処理

1. 合板等の加圧注入による防菌・防蟻処理

適用部位	保存処理性能区分
○ K3	

4. 防虫処理

適用部位	処理の方法
○ K1	

(12) 鉄筋コンクリート造等の内部間仕切輪軸及び保線

間仕切輪軸に用いる木材

○ 杉 ○ 松

※土間スラブ等の場合の土台、転ばし引き等は「ひのき」又は改修標準仕様書 6.5.6 による保存処理材とする。

(13) 窓、出入口その他

窓、出入口その他に用いる木材

適用部位 ○ 床元枠、水掛りの下枠及び敷居 ○ ひのき ○ その他

適用部位 ○ 杉 ○ 松

(14) 床板張り

線アプ及び上りがまに用いる木材

○ ひのき

(15) 壁及び天井下地

壁及び天井下地に用いる木材

○ 杉 ○ 松

1) 材料

7. 野縁等の種類

施工部位	野縁等の種類
屋外	# 1 9形 ○ 2 5形 ○ 1 9形 ○ 2 5形

(2) 形状及び寸法

7. 野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔

屋外	間隔
○	# 900mm程度 周辺部の端から150mm以内

4. 野縁の間隔

屋外	間隔
○	# 表 6.6.2 による

(3) 工法

7. 既存埋込みインサートを使用する場合

吊りボルトの確認試験

箇所数	確認程度
# 3箇所 (当箇所)	# 4.0.0 N程度

4. あと施工アンカーの確認試験

*改修標準仕様書 6.4 (4) による

(4) 吊りボルトの間隔が900mmを超える場合

補強方法 ○ 示す

(5) 天井ふところ高が1.5m以上の場合

7. 補強方法 *改修標準仕様書 6.4 (4) による ○ 示す

(6) 天井ふところ高が1.5m以下の場合

補強方法 *改修標準仕様書 6.4 (4) (7) (4) による ○ 示す

(7) 天井下地における耐震性を考慮した補強

補強箇所 ○ 示す

補強方法 ○ 示す

7. 重量鉄骨天井下地

1) スタッド、ランナーの種類

施工部位	スタッドの高さ	スタッド、ランナーの種類
図示による	スタッド下まで (3.5m以下)	● 5.0形 ○ 6.5形 ○ 9.0形 ○ 1.0.0形
		○ 5.0形 ○ 6.5形 ○ 9.0形 ○ 1.0.0形

(2) スタッドの高さが5mを超える場合: * 示す (6.7.3 表 6.7.1)

(3) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 (6.7.4)

*改修標準仕様書 6.7.4 (5) (7) ~ (9) による ○ 示す (6.8.2, 6.8.3)

1) 材料

7. ビニル床シート (JIS A 5705)

施工箇所	種類の記号	色柄	厚さ (mm)	工法
図示による	# FS	○ マフ # ● 図示による	# 2.0 # 2.0	● 突付け ○ 熱溶接
	# FS	○ マフ # ○ アレン	# 2.0 # 2.5	○ 突付け ○ 熱溶接
	# FS	○ マフ # ○ アレン	# 2.0 # 2.5	○ 突付け ○ 熱溶接

4. ビニル床シート (JIS A 5705)

施工箇所	種類の記号	寸法	厚さ (mm)
# KT	○ マフ # ○ アレン	○ 300×300 ○ 450×450	○ 2.5 # 2.0
# KT	○ マフ # ○ アレン	○ 300×300 ○ 450×450	○ 2.5 # 2.0
# KT	○ マフ # ○ アレン	○ 300×300 ○ 450×450	○ 2.5 # 2.0

9. 特殊機能床材

(7) 帯電防止床シート、床タイル

施工箇所	種類	性能	寸法	厚さ (mm)
	帯電防止床シート	体積抵抗値 () Ω以下		○
	帯電防止床タイル			○

(4) 誘導用、注意喚起用床材 (JIS T 9251)

区分	施工箇所	種類	寸法 (mm)
屋外		○ 塩化ビニル系 ○ レジコンクリート系 ○ 磁気誘導タイル	○ 300×300
屋内		○ 塩化ビニル系 ○ 磁気誘導タイル	○ 300×300

*色は周囲の床材と識別しやすいものとする。

(5) 防汚性床シート、床タイル

施工箇所	種類	寸法	厚さ (mm)
	防汚性床シート		○
	防汚性床タイル		○

(1) その他

施工箇所	種類	厚さ (mm)	備考

1. ビニル床材

材質の種類

厚さ (mm) # 1.5以上 ○

高さ (mm) # 60 ○

2. ゴム床タイル

種類 ○ 色柄 ○

厚さ (mm) # 寸法 (mm) ○

3. 接着剤

(7) ホルムアルデヒド放散量 *F☆☆☆☆ (6.8.2)

(4) 施工箇所の下地がセメント系及び木質系以外の場合 (表 6.8.1) の接着剤の種類と施工箇所

種別

施工箇所 ○

(9) 施工箇所の下地 (表 6.8.1)

モルタル塗り下地、セルフレベリング材塗り下地及び木下地

施工箇所 ○ 示す ○ 工法 ○

9. カーペット敷き

(1) 織りゅうたん (6.9.2, 6.9.3)

該当	種別	織り方	パイルの形状	色	柄	帯電性
○	A種 ○ B種 # C種	○	○ ループ ○ カット	○	○ 無地	○ 適用する ○ 性能 ○ 人体帯電圧 3kV以下 ○ 適用しない

接合方法 * ヒートボンド工法 ○

(2) タフテッドカーペット (6.9.2, 6.9.3)

該当	パイルの形状	パイル長	帯電性	工法
○	○ ループ ○ カット		○ 適用する ○ 性能 ○ 人体帯電圧 3kV以下 ○ 適用しない	○ グリッパー # 全面接着

(3) ニードルパンチカーペット (6.9.2)

7. 厚さ (mm) ○ (mm)

4. 帯電性 ○ 適用する ○ 性能 ○ 人体帯電圧 3kV以下 ○ 適用しない

(4) タイルカーペット (6.9.2)

該当	種類	パイルの形状	寸法	総厚さ
●	# 第一種 ○ ループ ○ 第二種 ○ カット		# 500mm角 # 6.5mm	# 6.5mm

(5) 下敷せ材 * 第二種 2号 ○

* 呼び厚さ 3mm ○

(6) 見切、押さえ金物の材質、種類、形状 * 示す (6.9.2)

(7) 接着剤

ホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○

(8) タイルカーペット全面接着工法の敷き方

平場 * 市松敷き ○ 模様流し ○

階段部分 * 模様流し ○ 市松敷き ○

10. 合成樹脂塗料

(1) 弾性ウレタン樹脂系塗料 (6.10.3)

施工部位	区分	仕上りの種類	厚さ
	# 水系 ○ 無溶剤系 ○ 溶剤系	# 平滑 ○ 防汚 ○ コヤ消	
	# 水系 ○ 無溶剤系 ○ 溶剤系	# 平滑 ○ 防汚 ○ コヤ消	

(2) エポキシ樹脂系塗料 (6.10.3)

施工部位	区分	工法	仕上りの種類	厚さ
	# 水系 ○ 無溶剤系 ○ 溶剤系	○ 薄膜流しのべ ○ 厚膜流しのべ ○ 樹脂砂	# 平滑 ○ 防汚	
	# 水系 ○ 無溶剤系 ○ 溶剤系	○ 薄膜流しのべ ○ 厚膜流しのべ ○ 樹脂砂	# 平滑 ○ 防汚	

(3) 塗料のホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○

11. フローリング張り

(1) 単層フローリング (6.11.2~8)

品名	樹種	工法	厚さ (mm)	仕上げ塗装
○ フローリングボード1等	○ なら	○ 釘留め (根太張り) ○ 釘留め (直張り)	○ 示す	○ 塗装品 ○ 無塗装品
○ フローリングプロック1等	○ なら	○ 接着	○ 示す	○ 塗装品 ○ 無塗装品

(2) 複合フローリング (6.11.2~8)

材種	種別	工法	厚さ (mm)	仕上げ塗装
# なら ○ さくら ○ ひのき、まつ	○ A種 ○ B種 # C種	○ 釘留め (根太張り) ○ 釘留め (直張り) ● 接着	○ () (mm) ● 示す	● 塗装品 ○ 無塗装品

(3) 防汚処理の適用

○ 適用する ○ 適用しない ○ 示す

適用する施工箇所 * 改修標準仕様書 6.11.4 (2) (b) による ○

(4) 特殊フローリング (6.11.2~8)

品名	表面材の種類	仕上げ塗装
○ 屋内体育館アリーナ床 (JIS A 6519)	# なら	# 塗装品
○ 柔剣道場の床 (JIS A 6519)	# なら	# 塗装品

* 塗装の凡例

業地: 業地のまま W: 生地のまま、ワックス塗り

OSW: オイルステンレスワックス塗り (4時間/2回、ワックス1回)

UCB: ウレタン樹脂ワニス塗りB種 (2回塗り)

WUC: 水性反応硬化ウレタン (クリア)

WUP: 水性反応硬化ウレタン4回塗り

12. 畳敷き

13. せつこうボード、その他ボード及び合板張り

該当	規格番号	規格名称
○	JIS A 5404	木質系セメント板
○	JIS A 5430	繊維強化セメント板
○	JIS A 5905	繊維板
○	JIS A 5908	パーティクルボード
●	JIS A 6301	畳巻材料
●	JIS A 6301	せつこうボード製品 (9-9, 9B-S)

*各ボード類の種類、厚さ及び下地の種類は、図示

(2) 合板類、M.O.F.、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆

(3) 普通合板の種類等 (6.13.2)

表板の樹種名	板面の品質 (mm)	接着の程度	防虫処理
生地、透明塗料塗り	○	# 1等 ○	○ 適用する ○ 適用しない
不透明塗料塗り	○	# 1等 ○	○ 適用する ○ 適用しない

(4) 天然木化粧合板の企画 (6.13.2)

化粧板の樹種名	接着の程度	厚さ (mm)	防虫処理
○	○ 1等 ○ 2等	○	# 適用する ○ 適用しない

(5) 特殊加工化粧合板の企画 (6.13.2)

化粧加工の方法	表面性能	接着の程度 (mm)	防虫処理
○ オーバーレイ ○ プリント ○ 塗装	○	○	# 適用する ○ 適用しない

(6) 遮音シール材 (6.13.2)

* 適用する

○ シーリング材 ○ ジョイントコンパウンド

○ 適用しない

(7) 下地の種類 * 示す (6.13.3)

(8) 合板類の張付けの種類 ○ A種 # B種 (6.13.3)

(9) せつこうボードの目地工法の種類 (6.13.3)

* 突付け工法 ○ 目地処理工法 ○ 目通し工法

14. 畳紙張り

(1) 畳紙の品質等 (6.14.2)

施工部位	防火種別	種類
図示による	# 1 - 1	○ 紙・布 ● ビニルクロス
	# 1 - 1	○ 紙・布 ○ ビニルクロス

個別認定の一例

防火種別	不燃下地	不燃石膏ボード	準不燃下地	金匱下地
1-1	不燃	不燃	準不燃	準不燃
1-2	不燃	準不燃	準不燃	難燃
1-3	不燃	準不燃	準不燃	難燃
2-1	準不燃	準不燃	準不燃	準不燃
2-2	準不燃	準不燃	準不燃	難燃
2-3	準不燃	準不燃	準不燃	難燃

防火種別 左の数字は、旧通則規定における検定値に基づく区分

(2) ホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○

(3) 下地調整の種類

モルタル・プラスター面 # B種 ○

コンクリート・ALC面 # B種 ○

せつこうボード面 # B種 ○

15. モルタル塗り

(1) 材料 (6.15.3)

○ 現場調合材料 ○ 既調合材料

(2) 既製目地材 (6.15.3)

○ 既ける

施工箇所 () 形状 (# 示す ○)

○ 既ける

(3) 下地処理

既面の場合、仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の処理

○ 処理方法

(4) 床目地 (6.15.6)

○ 既ける (種類 # 押し目地 #)

* 目地割り # 程度、最大目地間隔 3mm程度

○ 既ける

16. タイル張り

(1) 伸縮継目地の位置 (6.16.2)

床タイル # 継・横とも4m以内ごと ○ 示す

床タイル以外 * 示す ○

(2) セメントモルタルによるタイル張り (6.16.3)

再生材利用タイルの使用 * 使用する ○ 使用しない

施工箇所	用途による区分	形状寸法	きじ	うわぐすり	役物	色	耐凍害性	耐汚性

試験項目 ○ 行う ○ 行わない

見本張り ○ 行う ○ 行わない

既調合モルタル * モルタルの製造所の仕様による

下地モルタル塗りを行うコンクリート素地の処理:

* 目貫し工法 (改修標準仕様書 6.15.5 (3) による) ○

(3) 有機系接着剤によるタイル張り (6.16.4)

再生材利用タイルの使用 * 使用する ○ 使用しない

施工箇所	用途による区分	形状寸法	きじ	うわぐすり	役物	色	耐凍害性	耐汚性

試験項目 ○ 行う ○ 行わない

見本張り ○ 行う ○ 行わない

接着剤のホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○

▶ 17. セルフレベリング材塗り			[6. 17. 2・6. 17. 3]
施工部位	材 料	塗 厚	
図示による	○ 石こう系 ● セメント系 ○ 石こう系 ○ セメント系	○ 10 mm ○ 10 mm ○ 10 mm	

● 第7章 塗装改修工事

項 目	特 記 事 項
▶ 1. 材料	(1) 屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 (7. 1. 3) *F☆☆☆☆
▶ 2. 下地調整	(1) R・B種の場合の既存塗膜の除去範囲 (7. 2. 2) (表7. 2. 1~7) *塗替え面積の30% (7. 2. 2) (表7. 2. 1~7)

該当	塗料の種類	塗り種別 (塗り回数)	下地調整
○	合成樹脂 顔料ベイント塗り (ISOPI)	新規 (屋外) ○ A種 ○ B種 新規 (屋内) ○ A種 ○ B種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	不透明塗料塗り ○ RA種 ○ RB種 透明塗料塗り ○ RA種 ○ RB種
○	フタル酸樹脂 エナメル塗り (FE)	新規 ○ A種 ○ B種 ○ C種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○	ウレタン樹脂 ワニス塗り (UC)	新規 ○ A種 ○ B種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種
○	クリヤーラッカー塗り (LC)	新規 ○ A種 ○ B種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種
○	オイルステイン 塗り (OS)	新規 ○ A種 ○ B種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○	つや有り合成樹脂 (EP-G) 塗り	新規 ○ A種 ○ B種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○	水性反応硬化形 クレタン塗り (WP)	新規 ○ A種 ○ B種 ○ C種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○	水性反応硬化形 クレタンクリアー 塗り (WUC)	新規 ○ A種 ○ B種 ○ C種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○	木材保護塗料塗り (WP) 屋外	新規 ○ A種 ○ B種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種

*オイルステイン塗りの塗料

▶ 4. 鉄部塗装 (7章各節)

該当	塗料の種類	塗り種別	錆止塗り種別	錆止塗料種別	下地調整
○	合成樹脂 顔料ベイント 塗り (ISOPI)	新規 ○ A種 ○ B種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	見え掛り ○ A種 ○ B種 ○ C種 見え隠れ ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○	フタル酸樹脂 エナメル塗り (FE)	新規 ○ A種 ○ B種 ○ C種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	見え掛り ○ A種 ○ B種 ○ C種 見え隠れ ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○	つや有り合成樹脂 (EP-G) 屋外	新規 ○ A種 ○ B種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	見え掛り ○ A種 ○ B種 ○ C種 見え隠れ ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○	耐熱性塗料塗り (DP) 屋外	新規 ○ A種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種

(2) 亜鉛めっき鋼面 (7章各節)

該当	塗料の種類	塗り種別	錆止塗り種別	錆止塗料種別	下地調整
○	合成樹脂 顔料ベイント 塗り (ISOPI)	新規 ○ A種 ○ B種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	見え掛り ○ A種 ○ B種 ○ C種 見え隠れ ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○	フタル酸樹脂 エナメル塗り (FE)	新規 ○ A種 ○ B種 ○ C種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	見え掛り ○ A種 ○ B種 ○ C種 見え隠れ ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○	つや有り合成樹脂 (EP-G) 屋外	新規 ○ A種 ○ B種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	見え掛り ○ A種 ○ B種 ○ C種 見え隠れ ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○	耐熱性塗料塗り (DP) 屋外	新規 ○ A種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種

(3) 鋼製構面

該当	塗料の種類	塗り種別	錆止塗り種別	錆止塗料種別	下地調整
○	合成樹脂 顔料ベイント 塗り (ISOPI)	新規 ○ A種 ○ B種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	見え掛り ○ A種 ○ B種 ○ C種 見え隠れ ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○	フタル酸樹脂 エナメル塗り (FE) 屋内	新規 ○ A種 ○ B種 ○ C種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	見え掛り ○ A種 ○ B種 ○ C種 見え隠れ ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種

耐熱性塗料塗り 屋外	新規 ○ A種	塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
上塗り塗料等級	● 1級 ○ 2級 ○ 3級	○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種

▶ 5. モルタル面及び プラスター面の塗装 (7章各節)

該当	塗料の種類	塗り種別 (塗り回数)	下地調整
○	アクリル樹脂系 非水分散型塗料 塗り (NAD)	新規 ○ A種 ○ B種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	* 乾燥、汚れ、付着物の除去 ○ モルタル面 ○ RC種
○	つや有り合成樹脂 (EP-G) 塗り	新規 ○ A種 ○ B種 ○ C種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○	合成樹脂エマルジョンペイント 塗り (EP)	新規 ○ A種 ○ B種 ○ C種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○	合成樹脂エマルジョン模様塗料 塗り (EP-T)	新規 ○ A種 ○ B種 ○ C種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種

(1) 塗替えの場合のしみ止め (EP-G・EP) (7. 9. 2) *改修標準仕様書表7. 9. 1の工程1の下塗りしみ止めシーラーとする。

▶ 6. コンクリート面、AL パネル面及び押出成形セメント板面の塗装 (7章各節)

該当	塗料の種類	塗り種別 (塗り回数)	下地調整
○	アクリル樹脂系 非水分散型塗料 塗り (NAD)	新規 ○ A種 ○ B種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	乾燥、汚れ、付着物の除去 コンクリート面 : ○ RB種 押出成形材/板 : ○ RB種
○	つや有り合成樹脂 (EP-G) 塗り	新規 ○ A種 ○ B種 ○ C種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○	合成樹脂エマルジョンペイント 塗り (EP)	新規 ○ A種 ○ B種 ○ C種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○	合成樹脂エマルジョン模様塗料 塗り (EP-T)	新規 ○ A種 ○ B種 ○ C種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○	耐熱性塗料塗り (DP)	新規 ○ A-1種 ○ B-1種 ○ C-1種 ○ A-2種 ○ B-2種 ○ C-2種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種 ○ RA種 ○ RB種 ○ RC種

(1) 塗替えの場合のしみ止め (EP-G・EP) (7. 9. 2) *改修標準仕様書表7. 9. 1の工程1の下塗りしみ止めシーラーとする。

▶ 7. 石こうボード面及び その他のボード面の 塗装 (7章各節)

該当	塗料の種類	塗り種別 (塗り回数)	下地調整
○	つや有り合成樹脂 (EP-G) 塗り	新規 ○ A種 ○ B種 ○ C種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○	合成樹脂エマルジョンペイント 塗り (EP)	新規 ○ A種 ○ B種 ○ C種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種
○	合成樹脂エマルジョン模様塗料 塗り (EP-T)	新規 ○ A種 ○ B種 ○ C種 塗替 ○ A種 ○ B種 ○ C種	○ RA種 ○ RB種 ○ RC種

(1) 塗替えの場合のしみ止め (EP-G・EP) (7. 9. 2) *改修標準仕様書表7. 9. 1の工程1の下塗りしみ止めシーラーとする。

○ 第8章 耐震改修工事

▶ 1. 鉄筋の種類 (8. 2. 1)

該当	鉄筋の種類	適用径 (mm)	種 類 の 記 号
○	異形鉄筋	D 16以下	* SD295A ○ SD345
○	異形鉄筋	D 19以上	* SD295A ○ SD345
○	小形丸鋼		* SR235

鉄線形状及び網目寸法 100×100mm 鉄線の径 6mm (8. 2. 2)

▶ 2. 溶接金網 (8. 3. 4)

(1) 鉄筋の継手	適用径 (mm)	接 合 方 法
○	D 16以下	* 重ね継手 ○ ガス圧接継手 ○ 機械式継手
○	D 19以上	* 重ね継手 * ガス圧接継手 ○ 機械式継手

(2) 鉄筋の継手の位置 *図示 (8. 3. 4)
(3) 柱及び梁の主筋並びに縦力筋の鉄筋の重ね継手の長さ (8. 3. 4) *図示
(4) 先組工法等で、柱及び梁の主筋のうち、隣り合う接手を (8. 3. 4) 同一層に設ける場合の継手の位置 *図示
(5) 鉄筋の定着長さ (8. 3. 4) *図示
(6) 仕口面に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さ及び、表8. 3. 4のフックありの定着長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法 *図示 *改修標準仕様書表8. 3. 4 (5) (イ) による
(7) 帯筋立の形、継手及び定着 *図示

▶ 4. 鉄筋のかぶり厚さ及び 間隔 (8. 3. 5)

(1) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ *改修標準仕様書 表8. 3. 6による *図示
(2) 軽量コンクリートで土に接する部分 *図示
○有り 適用箇所
最小かぶり厚さに加える厚さ _____mm
(3) 耐久性上不利な部分 (地害等を受けるおそれのある部分等) *図示
○有り 適用箇所 (8. 3. 5)
最小かぶり厚さに加える厚さ _____mm

▶ 5. 壁の配筋及び補強 (8. 3. 7)

(1) 配筋の種類
定着長さ ○ L1 * L2 _____ *図示 (8. 3. 7)
(2) 壁の配筋及び壁開口部の補強 *図示 (8. 3. 7)

▶ 6. 圧接完了後の試験 (8. 3. 8)

超音波探傷試験 *行う ○ (8. 3. 8)

▶ 7. 機械式継手 (8. 4. 2)

(1) 適用箇所 *図示 ○ (8. 4. 2)
(2) 性能 *図示 ○ (8. 4. 2)
(3) 種類 *図示 ○ (8. 4. 2)
(4) 鉄筋相互のあき *図示 ○ (8. 4. 2)
(5) 施工完了後の継手部の試験 *図示 ○ (8. 4. 2)
(6) 不合格となった場合の継手部への措置 *図示 ○ (8. 4. 2)

▶ 8. 溶接継手 (8. 4. 2)

(1) 適用箇所 *図示 ○ (8. 4. 2)
(2) 性能 *図示 ○ (8. 4. 2)
(3) 種類 *図示 ○ (8. 4. 2)
(4) 鉄筋相互のあき *図示による ○ (8. 4. 2)
(5) 溶接完了後の継手部の試験 *図示 ○ (8. 4. 2)
(6) 不合格となった場合の継手部への措置 *図示 ○ (8. 4. 2)

▶ 9. コンクリートの種類 (8. 1. 3 表8. 1. 1)

(1) コンクリートの種類 (8. 1. 3 表8. 1. 1)
* I類 ○ II類
* JIS認定表示工場で、かつ、(社)コンクリート工学協会から認定されたコンクリート主任技士又はコンクリート技士あるいはこれらと同以上の技術者が常駐しており、配合設計及び品質管理等を適切に実施できる工場 (全国品質管理協会認定の認定工場) から認定することとし、これにより製法は工事監督員と協議すること。
(2) 建築基準法第1条第2号の規定に基づき国土交通大臣の (8. 1. 3) 認定を受けたコンクリート
○適用する 適用箇所 *図示 ○
○適用しない

▶ 10. コンクリートの材料及び 混合 (8. 2. 5)

(1) セメントの種類 *普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 *セメント名 (8. 2. 5)
(2) 高炉セメントB種の使用部位 ○ (8. 2. 5)
(3) フライアッシュセメントB種の使用部位 ○

▶ 11. 骨材 (8. 2. 5)

(1) 砂利及び砂のアルカリシリカ反応性区分 *A ○ B
(2) 砕石及び砕砂のアルカリシリカ反応性区分 *A ○ B
* 試験期間が公的機関又はこれに準ずる機関 (大学、都道府県の試験機関、公益法人である民間試験機関、中小企業近代化促進法又は中小企業近代化資金助成法に基づく構造改修計画等によって設立された共同試験場、その他信頼に値する機関) であること。
(3) 骨材の最大寸法 *25mm ○20mm *図示 (8. 2. 5)

▶ 12. 混和材料 (8. 2. 5)

(1) 適用 ○適用しない (8. 2. 5)
(2) 種類 *改修標準仕様書表8. 2. 5 (a・b) による ○

▶ 13. コンクリートの割合 (8. 2. 5)

(1) 構造体強度補正値 (S) *3N ○6N 適用箇所 *図示 (8. 2. 5)
(2) 鉄筋の使用 *図示 (8. 2. 5)
(3) 改修標準仕様書表8. 2. 5 (b) (a)~(g)以外の混和材料 *図示
使用箇所 *図示
使用方法使用量 *関係資料を提出し、監督員の承認を受ける ○
○使用しない

▶ 14. 構造用モルタル (8. 2. 6)

(1) モルタルの圧縮強度 ○ (8. 2. 6)
(2) モルタルのフロー値 ○

▶ 15. 型枠の材料 (8. 2. 7) (表8. 2. 7)

(1) せき板の材料 *合板 ○ (8. 2. 7)
(2) 合板の厚さ *12mm ○ (8. 2. 7)
(3) スリッパに用いる材料 *図示 ○ (8. 2. 7)
(4) 外部に面するコンクリート打ち放し仕上げの打増し厚さ *図示 ○ (8. 2. 7)
(5) シアコネクタをセパレーターとして使用する場合 *図示 ○ (8. 2. 7)

▶ 16. 普通コンクリート (8. 1. 4)

(1) 設計基準強度 f_c (N/mm²) の値は次のとおりとする。 (8. 1. 4)
○ 18 N/mm² 施工部位 : _____
○ 21 N/mm² 施工部位 : _____
○ N/mm² 施工部位 : _____
(2) 所要スランプ 7. 基礎、基礎梁、土間スラブ *18 cm ○ 15 cm
4. 柱、はり梁、床スラブ、壁 *18 cm
(3) 気乾単位容積質量 (8. 1. 3. 8. 2. 7)
○適用する ○適用しない

▶ 17. 軽量コンクリート (8. 1. 4)

(1) 設計基準強度 f_c (N/mm²) の値は次のとおりとする。 (8. 1. 4)
○ 18 N/mm² 施工部位 : _____
○ 21 N/mm² 施工部位 : _____
○ N/mm² 施工部位 : _____
(2) スランプ *2 cm ○ (8. 1. 4)
(3) 適用箇所 *図示 ○ (8. 1. 4)
*常時又は水に直接接する部分 *図示 ○

▶ 18. 着中コンクリート (8. 10. 2)

構造体強度補正値 (S) *6N/m² ○ (8. 10. 2)

▶ 19. 無筋コンクリート (8. 11. 1)

(1) コンクリートの種類 *普通コンクリート ○ (8. 11. 1)
(2) 設計基準強度 f_c (N/mm²) の値は次のとおりとする。 (8. 11. 1)
○ 18 N/mm² 施工箇所 : _____
○ N/mm² 施工箇所 : _____
(3) スランプ ○15cm ○18cm ○ (8. 11. 1)
(4) 改修標準仕様書 表8. 1. 1以外のコンクリートの適用 *図示 ○ (8. 11. 1)

▶ 20. コンクリート表面の 仕上げ状態 (8. 1. 4)

(1) 合板せき板を用いる場合のコンクリートの打ち放し仕上げ 種類 ○ A種 * B種 ○ C種 適用箇所 *図示 (8. 1. 4)
(2) コンクリートの仕上げと平坦さ ○ A種 ○ B種 ○ C種 適用箇所 *図示 (8. 1. 4)

▶ 21. あと施工アンカー (8. 2. 4)

(1) 材料 *金属系アンカー
アンカー本体の径及び埋込み長さ *図示
埋込み部の種類、径及び長さ *図示
セッティング方法 *本体打込み式改良型
*接着系アンカー
アンカーの径及び埋込み長さ
アンカーの種類 *カプセル方式の回転・打撃式 ○注入形
接着剤の品質 *有機系 - ○無機系
アンカーの埋込み長さ *図示
アンカーの新設型内への定着長さ *図示
(2) あと施工アンカーの耐力 引張耐力 _____kN
せん断耐力 _____kN (8. 2. 4)

(3) 埋込み部等の検査範囲と検査方法 (8. 12. 4)

7. 検査範囲 : *穿孔範囲全て *図示
4. 検査方法 : *検査器により調査し、墨出しを行う ○はつり出しによる
(4) 性能確認試験 *行う *行わない (8. 2. 4)
(5) 施工確認試験 *行う (確認強度 _____kN) (8. 12. 7)
*行う
*図示 ○
*1ロット及び試験の箇所数は改修工事標準仕様書8. 12. 7 (7) (イ) による

▶ 22. 鉄骨製作工場 (8. 1. 5)

(1) 鉄骨加工業者の資格 (8. 1. 5)
建築基準法第77条の5に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた (株) 日本鉄骨評価センター又は (株) 全国鉄骨評価機構 (旧 (株) 全国鋼構工業会) の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める下記のグレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場
○ S ○ H ○ M ○ R ○ J 以上とする (8. 1. 5)
(2) 施工管理技術者の配置 *適用する ○適用しない

▶ 23. 鋼材 (8. 2. 8)

該当	JIS規格番号	規格名称等	種類の記号	形状	寸法
○					*図示 *図示
○					*図示 *図示
○					*図示 *図示

(2) 板厚方向に引張力を受ける鋼板の試験 行わない ○行う (8. 2. 14)

▶ 24. 鉄骨の工作 (8. 2. 9)

(1) 高力ボルト (8. 2. 9)
*トルクシア高力ボルト *建築基準法に基づき認定を受けたもの
○ JIS形高力ボルト *セットの種類は2種 (F10T) ○溶融亜鉛めっき高力ボルト *セットの種類は1種 (F8T相当)
4. 高力ボルトの呼び *図示 (8. 2. 9)
5. ボルトの締結距離、ボルト間隔、ゲージ等 *図示 ○ (8. 13. 2)
1. すべり係数試験 *行わない (8. 14. 2)
○行う
試験方法等 *図示 ○

(2) 普通ボルト (8. 13. 2)

7. ボルトの締結距離、ボルト間隔、ゲージ等 *図示 ○ (8. 13. 2)
(3) アンカーボルト (8. 13. 2)
7. ボルトの締結距離、ボルト間隔、ゲージ等 *図示 ○ (8. 13. 2)
*行わない ○行う (8. 13. 10)

▶ 25. 仮組 (8. 13. 10)

(1) 溶接棒等及びガス以外の溶接材料 (8. 2. 10)
(2) スタッド (JIS B 1198 (環付きスタッド)) の種類 *図示 (8. 2. 10)
(3) 溶接部の外観試験 *図示 ○ (8. 15. 11)
試験方法等 ○

(4) 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 (8. 15. 11)

*行う *行わない
(5) 開先及びスカーラップの形状 *図示 (8. 15. 4. 8. 15. 7)
(6) 溶接作業者の技量付加試験 (8. 15. 3)
○行う
試験要領 *図示 ○

(7) エンドタブを切断する場合の適用箇所 (8. 15. 7)

*有り 切断箇所及び切断箇所 *図示 ○ (8. 15. 7)
(8) 切断面の仕上げ *図示 ○ (8. 15. 7)
*グラインダーにより、粗さ100µm程度以下及びノッチ深さ1mm程度以下

▶ 27. 柱底均しモルタル (8. 2. 12)

モルタルの種類 *無収縮モルタル ○ (8. 2. 12)

▶ 28. 鉄骨の錆止め塗料 (8. 17. 2. 8. 17. 4)

(1) 塗装の範囲及び種別 (8. 17. 2. 8. 17. 4)
7. 耐火被覆材の接着する面の塗装 *適用する ○適用しない
適用する場合の塗装の範囲及び種別 *図示 ○
塗装種別 ○
4. 耐火被覆材の接着する面以外の塗装 *適用する ○適用しない
適用する場合の塗装の範囲及び種別 *図示 ○
塗装種別 ○ *改修標準仕様書 表7. 3. 1のA種 ○

▶ 29. 耐火被覆の種類等 (8. 18. 2)

(1) 種類 *耐火材吹付け ○耐火板張り (8. 18. 2)
○耐火材巻付け ○ラス張りモルタル塗り
(2) 材料及び工法等 *図示 ○
(3) 耐火性能 ○30分耐火 ○1時間耐火 ○2時間耐火

▶ 30. 溶融亜鉛めっき高力ボルト 溶融亜鉛めっき高力ボルトを使用する場合の摩擦面の処理 (8. 20. 5) *改修標準仕様書8. 20. 5 (1) (7) 及び (イ) による

▶ 31. 既存部分の撤去等 (8. 21. 2. 8. 22. 2. 8. 23. 2)

(1) 既存仕上げ等の撤去範囲 *図示 (8. 21. 2. 8. 22. 2. 8. 23. 2)
○最小限の範囲 ○図示
(2) 設備器具、配管等の撤去、移設 *図示
(3) 既存構造体の撤去範囲、鉄筋及び鉄骨の処理 *図示

▶ 32. 既存部分の処理 (8. 21. 3. 8. 22. 3. 8. 23. 3)

(1) 打増きとなる範囲の目尻らしの程度 (8. 21. 3. 8. 22. 3. 8. 23. 3)
○平均深さ5mm ○平均深さ10mm *図示
(2) 目尻らしの範囲 柱、梁 ○打増き面の30% ○打増き面の75% *図示
壁面 ○打増き面の15% ○打増き面の30% *図示

▶ 33. 既存部との取合い部分 (8. 21. 6. 8. 22. 7)

*割設補強筋 ○はしご筋 (8. 21. 6. 8. 22. 7)
施工箇所 *

▷ 37. 連続繊維補強工法	(1) 材料 ○炭素繊維 ○アラミド繊維 (8. 2. 13) ○ガラス繊維 ○ (2) 材質 (含浸効果後) 引張強度 <u> </u> N/mm ² (8. 2. 12) ヤング係数 <u> </u> N/mm ² (3) 工法 ○シート工法 ○テープ工法 (8. 2. 12) ○ストランド工法 ○ (4) ひび割れ部の改修 ○行う ○行わない (8. 24. 6) (5) 柱及び梁の隅角部の面取りの大きさ ○図示 (8. 24. 6) (6) 連続繊維補強材の強度試験 ○行う (試験数量) ○行わない (8. 24. 6)
▷ 38. 耐震スリット新設工法	(1) 施工 (8. 25. 2) 7. スリットの幅及び高さ ○図示 ○ 8. 剛性材の使用箇所及び仕様 ○図示 ○ 9. 室材の使用箇所及び仕様 ○図示 ○ 1. 既存部分の撤去部の補修 ○図示 ○ ○ ○
▷ 39. 免震改修・制振改修・基礎工等工事及び地業工事	2. 6節 (免震改修工事)・2. 7節 (制振改修工事)・2. 8節 (土工等工事)及び地業工事)・2. 9節 (基礎工事) (8. 2. 15)に係る特記事項は、全て図示とする。

● 第9章 環境配慮改修工事

項目	特記事項
▷ 1. 石綿含有建材の除去工事	<p>施工調査 (9. 1. 1)</p> <p>建材の石綿含有調査は、次による 施工調査の結果を報告書により監督員へ報告する 施工調査の結果、設計図書等と異なる場合は、監督員と協議する</p> <p>(1) 調査範囲 ○分析調査 <u> </u>ヶ所 調査部位 <u> </u> ○分析調査済：含有建材等は、図面による 分析結果 ○石綿含有 ○石綿非含有 分析方法は、JIS A1481「建材製品中のアスベスト含有率測定法」とする。 ○既存の石綿含有建材の調査報告書の写し ○写し ○無</p> <p>(2) 分析方法 (9. 1. 1) *JIS A 1481-2 (建材製品中の含有率測定方法-第2部：試験採取及び石綿含有の有無を判定するための定性分析方法)とする。 ○</p> <p>(3) 石綿含有建材除去後の仕上げ ○図示 (9. 1. 1) (4) 石綿粉じん濃度測定 ○図示 ○行わない (9. 1. 1) 測定方法 ○図示 ○ 測定時期 ○図示 ○ 測定場所 ○図示 ○ 測定箇所数 ○図示 ○</p> <p>(5) 石綿作業主任者 (9. 1. 1) 石綿含有建材の除去は、石綿作業主任者技能講習修了者又は、平成19年3月以前の特定化学物質作業主任者の資格者のうちから、石綿作業主任者を選任し、必要な管理を行わせる。(9. 1. 1) (6) 除去作業者 (9. 1. 1) 石綿含有建材の除去に従事する作業者(以下「除去作業者」という)は、石綿障害予防規則に基づく特別の教育を受けた者とする。 なお、除去作業者は、一般健康診断、石綿健康診断及びじん肺健康診断を受診したもので、肺機能に異常がない者とする。(9. 1. 1) (7) 特別管理産業廃棄物管理責任者 (9. 1. 1) 石綿含有建材を搬出するときは、配置する。(9. 1. 1) (8) 表示及び標示 (9. 1. 1) 7. 喫煙及び飲食の禁止並びに関係者立入禁止 ※表示箇所：作業場の見やすい箇所 8. 大気汚染防止法に基づく事前調査結果の概要 ※表示箇所：公衆が見やすい場所(石綿がない場合も) 9. 石綿作業主任者の氏名及び職務内容 ※表示箇所：作業場の見やすい箇所 1. 石綿含有建材の有無の事前調査結果の概要、石綿を取り扱う作業場であること、石綿の人体に及ぼす作用、石綿取扱い上の注意事項及び使用するべき保護具 ※表示箇所：作業場の見やすい箇所(石綿がない場合も) 2. 「建築物等の解体等の作業を行うにあたっての石綿ばく露防止対策等の実施内容の表示について(平成17年8月2日 基安発第0802001号)に基づく「建築物等の解体等の作業に関するお知らせ」 ※表示箇所：作業場の見やすい箇所労働者及び周辺住民の見やすい場所 3. 特定粉じん排出等作業を行う場合の届け出の内容 ※表示方法：届出の内容を③に追加 4. 石綿であること及び取り扱う際の注意事項 ※表示箇所：運搬又は保管する場合の容器等</p> <p>(9) 保護具等 (9. 1. 1) 作業者は、作業内容に応じ、作業に適合した呼吸用保護具を使用する。作業者は、半円形の呼吸用保護具を使用する場合は、必要に応じて、保護メガネ又はフードを併用する。(9. 1. 1) (10) 保護衣、作業衣 (9. 1. 1) 作業者は、隔離空間内で作業する場合は、保護衣を使用し、それ以外は作業衣を使用する。 作業衣は石綿が付着しにくく、付着した石綿が容易に除去できるものとする。(9. 1. 1) (11) 除去した石綿等の保管及び運搬 除去した石綿含有建材を搬出するまでの間、現場に保管する場合は、一定の保管場所を定め、他の建設副産物等と分別して保管するものとし、シートで覆う等、飛散防止措置を講ずる。 また、保管場所には石綿等の保管場所であることを表示を行う。(9. 1. 1) (12) 確認及び検片付け 除去作業が終了後、高性能真空掃除機で、床等を清掃する。また、工事監督員の立会の上で、除去が十分行われていることを目視確認を受ける。(9. 1. 1) (13) 処理を行う吹付け材の種類及び処理方法 種類 <u> </u> 処理方法 *除去 ○封じ込め ○囲い込み (処理を行う範囲は図示)</p> <p>(14) 処理を行う保温材等の種類及び処理方法 種類 <u> </u> 処理方法 *除去 ○封じ込め ○囲い込み (処理を行う範囲は図示)</p>
▷ 2. 除去工事共通事項	<p>(1) 石綿作業主任者 (9. 1. 1) 石綿含有建材の除去は、石綿作業主任者技能講習修了者又は、平成19年3月以前の特定化学物質作業主任者の資格者のうちから、石綿作業主任者を選任し、必要な管理を行わせる。(9. 1. 1) (2) 除去作業者 (9. 1. 1) 石綿含有建材の除去に従事する作業者(以下「除去作業者」という)は、石綿障害予防規則に基づく特別の教育を受けた者とする。 なお、除去作業者は、一般健康診断、石綿健康診断及びじん肺健康診断を受診したもので、肺機能に異常がない者とする。(9. 1. 1) (3) 特別管理産業廃棄物管理責任者 (9. 1. 1) 石綿含有建材を搬出するときは、配置する。(9. 1. 1) (4) 表示及び標示 (9. 1. 1) 7. 喫煙及び飲食の禁止並びに関係者立入禁止 ※表示箇所：作業場の見やすい箇所 8. 大気汚染防止法に基づく事前調査結果の概要 ※表示箇所：公衆が見やすい場所(石綿がない場合も) 9. 石綿作業主任者の氏名及び職務内容 ※表示箇所：作業場の見やすい箇所 1. 石綿含有建材の有無の事前調査結果の概要、石綿を取り扱う作業場であること、石綿の人体に及ぼす作用、石綿取扱い上の注意事項及び使用するべき保護具 ※表示箇所：作業場の見やすい箇所(石綿がない場合も) 2. 「建築物等の解体等の作業を行うにあたっての石綿ばく露防止対策等の実施内容の表示について(平成17年8月2日 基安発第0802001号)に基づく「建築物等の解体等の作業に関するお知らせ」 ※表示箇所：作業場の見やすい箇所労働者及び周辺住民の見やすい場所 3. 特定粉じん排出等作業を行う場合の届け出の内容 ※表示方法：届出の内容を③に追加 4. 石綿であること及び取り扱う際の注意事項 ※表示箇所：運搬又は保管する場合の容器等</p> <p>(5) 保護具等 (9. 1. 1) 作業者は、作業内容に応じ、作業に適合した呼吸用保護具を使用する。作業者は、半円形の呼吸用保護具を使用する場合は、必要に応じて、保護メガネ又はフードを併用する。(9. 1. 1) (6) 保護衣、作業衣 (9. 1. 1) 作業者は、隔離空間内で作業する場合は、保護衣を使用し、それ以外は作業衣を使用する。 作業衣は石綿が付着しにくく、付着した石綿が容易に除去できるものとする。(9. 1. 1) (7) 除去した石綿等の保管及び運搬 除去した石綿含有建材を搬出するまでの間、現場に保管する場合は、一定の保管場所を定め、他の建設副産物等と分別して保管するものとし、シートで覆う等、飛散防止措置を講ずる。 また、保管場所には石綿等の保管場所であることを表示を行う。(9. 1. 1) (8) 確認及び検片付け 除去作業が終了後、高性能真空掃除機で、床等を清掃する。また、工事監督員の立会の上で、除去が十分行われていることを目視確認を受ける。(9. 1. 1) (9) 処理を行う吹付け材の種類及び処理方法 種類 <u> </u> 処理方法 *除去 ○封じ込め ○囲い込み (処理を行う範囲は図示)</p> <p>(10) 処理を行う保温材等の種類及び処理方法 種類 <u> </u> 処理方法 *除去 ○封じ込め ○囲い込み (処理を行う範囲は図示)</p>
▷ 3. 石綿含有吹付け材の除去等	<p>(1) 石綿含有吹付け材の除去方法 (9. 1. 3) *改修標準仕様書9. 1. 3 (7) による ○</p> <p>(2) 除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止及び梱包 (9. 1. 1 9. 1. 3) ①飛散防止 *遮断化 ○固化 ②梱包 *密封処理 (二重袋梱包) ○ ○</p> <p>(3) 除去した石綿含有吹付け材等の処分方法 (9. 1. 3) ○埋立て処分 *管理型最終処分場 場所: <u> </u> ○ ○中間処理 場所: <u> </u> *無害化処理施設 場所: <u> </u> ○ 場所: <u> </u></p>
▷ 4. 石綿含有保温材等の除去	<p>(1) 石綿含有保温材等の除去方法 (9. 1. 4) 除去方法 ○破砕 ○手ばらし ○ ○</p> <p>(2) 作業場の隔離 (9. 1. 4) 除去方法 ○破砕 ○手ばらし ○行わない ○行わない</p>

▷ 5. 石綿含有成形板の除去	<p>(1) 石綿含有成形板の種類 (9. 1. 5) 種類 <u> </u> 種類 <u> </u> 種類 <u> </u></p> <p>(2) 石綿含有せっこうボードを敷く石綿含有吹付け材等の処分 (9. 1. 3) ○埋立て処分 *管理型最終処分場 場所: <u> </u> ○ ○中間処理 場所: <u> </u> *無害化処理施設 場所: <u> </u> ○ 場所: <u> </u></p>
▷ 6. 断熱アスファルト防水改修工事	<p>(1) 工法の種類 (9. 2. 3) ○P1B1 ○P2A1 ○P0D1 ○T1B1 ○M3D1 ○M4D1</p> <p>(1) 共通事項：断熱材はノンフロン仕様とする。 (2) 断熱材 (現場完治) を除く (9. 3. 2 9. 5. 2 9. 5. 4)</p>
▷ 7. 外断熱改修工事及び断熱・防露改修工事	<p>適用 保温材の種類 材料の種類及び品名 厚さ(mm)</p> <p>● ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材 ● 特号 ○1号 ○2号 ○3号 ○4号 100</p> <p>● 押出法ポリスチレンフォーム保温材(スチレンなし) ○1種b ○A ○B ○C 100 ○2種b ○A ○B ○C ○3種a ○A ○B ○C ○D ● 3種b ○A ○B ○C ○D</p> <p>○ 硬質ウレタンフォーム保温材 ○1種 ○1号 ○2号 ○3号 ○4号 ○2種 ○1号 ○2号</p> <p>○ ポリエチレンフォーム保温材 ○1種 ○1号 ○2号 ○2種 ○1号 ○2号</p> <p>○ フェノールフォーム保温材 ○1種1号 ○A1 ○B1 ○C1 ○D1 ○E1 ○1種2号 ○A1 ○B1 ○C1 ○D1 ○E1 ○1種3号 ○A1 ○B1 ○C1 ○D1 ○E1 ○2種1号 ○A1 ○A1 ○2種2号 ○A1 ○A1 ○2種3号 ○A1 ○A1 ○3種1号 ○A1 ○A1</p> <p>(3) 外断熱改修 (9. 3. 2 9. 3. 3 9. 3. 4) 7. 外装材の種類、防火性能、通気層の有無及び厚さ：図示 8. 既存外装材の処理 仕上り材撤去 ○行う ○行わない 下地面の清掃 ●行う (水洗浄10MPa) ○行わない 下地欠損部の改修 ○行う 工法 *図示 ●行わない 9. 不陸等の下地調整 ○図示 ○ 1. 断熱材の施工 ○ 2. 建築基準法に基づき定める風圧力に対応した工法 *適用する 工法 <u> </u> ○適用しない 3. 外装材の施工 ○ ○図示</p> <p>(4) 断熱・防露改修 (9. 5. 2) 7. 施工部位及び部位毎の厚さ *図示 4. 断熱材後張り工法において、断熱材にせっこうボード等を張り付けたパネルの適用 ○適用あり パネルの仕様 *図示 ○ (5) 断熱材及び保冷剤のホルムアルデヒド放散量 (9. 5. 2 9. 5. 4) *F☆☆☆☆ ○ (6) 断熱材現場発泡工法に使用する断熱材 (難燃性を有するもの) (9. 5. 3) 断熱材の種類 *A種1 ○A種1H ○ 厚さ(mm) ●25</p>
▷ 8. ガラス改修工事	<p>(1) 材料板ガラスの種類及び厚さの組み合わせ (9. 4. 2) *図示 ○ (2) 複層ガラスの厚さ *図示 ○ (9. 4. 2) (3) 断熱性による区分 *図示 ○ (9. 4. 2) (4) 複層ガラスの日射取得性・日射遮蔽性による区分 *図示 ○ (9. 4. 2) (5) 乾熱気体の種類 *図示 ○ (9. 4. 2)</p> <p>(1) 芝及び地盤の種類等 *図示 ○ (9. 6. 2) (2) 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 *図示 ○ (9. 6. 2) (3) 建築基準法に基づき定める風圧力に対応した工法 (9. 6. 3) *適用する ○適用しない (4) かん水装置 ○設置しない ○設置する(種類 <u> </u>) (9. 6. 3) (5) 既存保護層の撤去 ○行う ○行わない (9. 6. 3) (6) 新設芝及び地盤の植栽の期間 *引渡しの日から1年 ○ (9. 6. 4)</p>
▷ 9. 屋上緑化改修工事	<p>(1) 材料板ガラスの種類及び厚さの組み合わせ (9. 4. 2) *図示 ○ (2) 複層ガラスの厚さ *図示 ○ (9. 4. 2) (3) 断熱性による区分 *図示 ○ (9. 4. 2) (4) 複層ガラスの日射取得性・日射遮蔽性による区分 *図示 ○ (9. 4. 2) (5) 乾熱気体の種類 *図示 ○ (9. 4. 2)</p> <p>(1) 芝及び地盤の種類等 *図示 ○ (9. 6. 2) (2) 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 *図示 ○ (9. 6. 2) (3) 建築基準法に基づき定める風圧力に対応した工法 (9. 6. 3) *適用する ○適用しない (4) かん水装置 ○設置しない ○設置する(種類 <u> </u>) (9. 6. 3) (5) 既存保護層の撤去 ○行う ○行わない (9. 6. 3) (6) 新設芝及び地盤の植栽の期間 *引渡しの日から1年 ○ (9. 6. 4)</p>

○ 第10章 屋根工事

項目	特記事項						
▷ 1. 尺尺金属板の種類	<p>(公共建築工事標準仕様書13. 2. 2)</p> <table border="1"> <tr> <th>施工部位</th> <th>規格名称(規格番号)</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> <tr> <td></td> <td>* 連続溶接S57アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼等 (JIS G 3322)</td> <td>○0.4 ○0.35</td> </tr> </table>	施工部位	規格名称(規格番号)	厚さ(mm)		* 連続溶接S57アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼等 (JIS G 3322)	○0.4 ○0.35
施工部位	規格名称(規格番号)	厚さ(mm)					
	* 連続溶接S57アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼等 (JIS G 3322)	○0.4 ○0.35					
▷ 2. 下葺材料	<p>下葺材料の適用 (13. 2. 2) ○適用あり ○JIS A 6005に基づくアスファルトルーフィング940 ○改質アスファルトルーフィング下葺材(釘又はステーブルが打てない下地の場合は、粘着層付タイプ) ○適用なし</p>						
▷ 3. 尺尺金属板の葺き工法等	<p>(1) 形式 *横掛葺き ○横葺き ○瓦葺き (2) 工法 *立ち巻きはげ工法 ○平巻はげ ○溶接 ○その他()</p>						
▷ 4. 既存撤去範囲	<p>○既存尺尺カラー鉄板 ○アスファルトルーフィング ○ ○</p>						
▷ 5. 折板葺き	<p>(1) 折板の材料: *JIS G 3312 ○ (2) 形式: *重ね形 (K) ○はげ形 ○かん合形 (G) (3) 山高: ○150mm 厚0.5mm ○175mm 厚1.0mm ○ ピッチ <u> </u>mm (4) 軒先面戸板: *有り ○無し (5) 塗装: ○有り ○両面 (6) 断熱材 ○無し (種類 <u> </u> 厚さ <u> </u>) 耐火性能 ○耐火30分 ○不燃</p>						

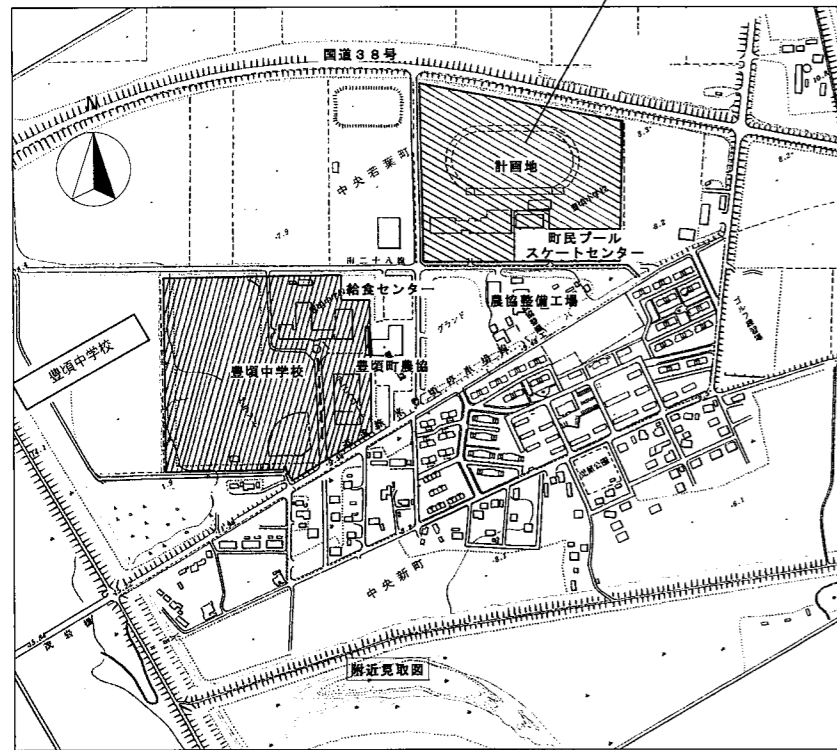
● 第11章 その他

項目	特記事項
▷ 1. 埋戻し及び盛土	<p>(公共建築工事標準仕様書3. 2. 3) (表3. 2. 1) ○A種 *B種 ○C種 ○D種 ○種の場合 (建設発生土受入量: <u> </u>m³) (発生場所 <u> </u>)</p> <p>●場外搬出 (約 <u> </u>km) (捨て場所住所 <u> </u>) (監理者 <u> </u>) 捨て土均し(○有り ○無し) (表3. 2. 5) ○構内敷均し ○構内指示の場所に均し(図示による)</p>
▷ 2. 建設発生土等の処理	<p>(1) 図面図示の箇所に (*設置 ○記入)</p> <p>(1) 室内: プラスチック製 寸法φ150 床下: *鉄製 寸法160×375 (防虫網付き) ○樹脂製</p> <p>(1) 排水ドレイン: φ50 (BOLA) 白ガス管: φ50</p> <p>(1) B.L規格品 ○6戸用 ○<u> </u>戸用</p> <p>(1) 次のそれぞれの工事終了後、家屋の調査を行うこと。 ○枯工事 ○高層工事 ○解体工事 ○ ・調査は「構造コンサルタント登録規程(昭和59年9月21日建設省告示第1341号)」による事業損失部門に登録している業者が調査すること。 ・調査箇所は、当該敷地に隣接する敷地の家屋とする。 調査戸数 <u> </u>戸 ・調査内容は、工事監督員と協議すること</p> <p>(1) 次に示した数量は概数であり、必要に応じて設計変更するものとする。 なお、設計に対して過大な出来高数量に変更するものではないことに留意すること。 (2) この工事においては、設計変更図書の作成(設計変更図面の作成及び工事数量の算出)を受注者に行わせることがある。 (3) 概数として取り扱っている事項の施工に当たっては、施工前に工事監督員と協議すること。 なお、数量の確認ができない場合を除き、施工前に数量を確定すること。 (4) 概数として示した仮設工の工事数量は、標準的な工法により算出したものであるため、取り合い等によって新たに必要となる項目についても概数として取り扱うことがある。 (5) 概数 7. 工事数量総括表目録内訳の備考欄に「概数」又は「概」と表示された項目・数量 4. 次の項目・数量</p>
▷ 3. 横骨号	
▷ 4. 換気口	
▷ 5. バルコニー排水、ドレンパイプ	
▷ 6. 連続板	
▷ 7. 家屋段階調査	
▷ 8. 概数等発注	

区分	設計数量(単位)	確定数量(単位)
鉄筋露出部補修	m	m
鉄筋露出部補修(巻露補)	か所	か所
ひび割れ補修 0.2≦W≦1.0mm	m	m
ひび割れ補修 1.0mm<W	m	m
浮き補修	m ²	m ²
欠損部補修 一般 300×300以下	か所	か所
欠損部補修 小規模 100×100以下	か所	か所
欠損面補修	m ²	m ²
	積込・運搬量	処分量
	積込・運搬量	処分量

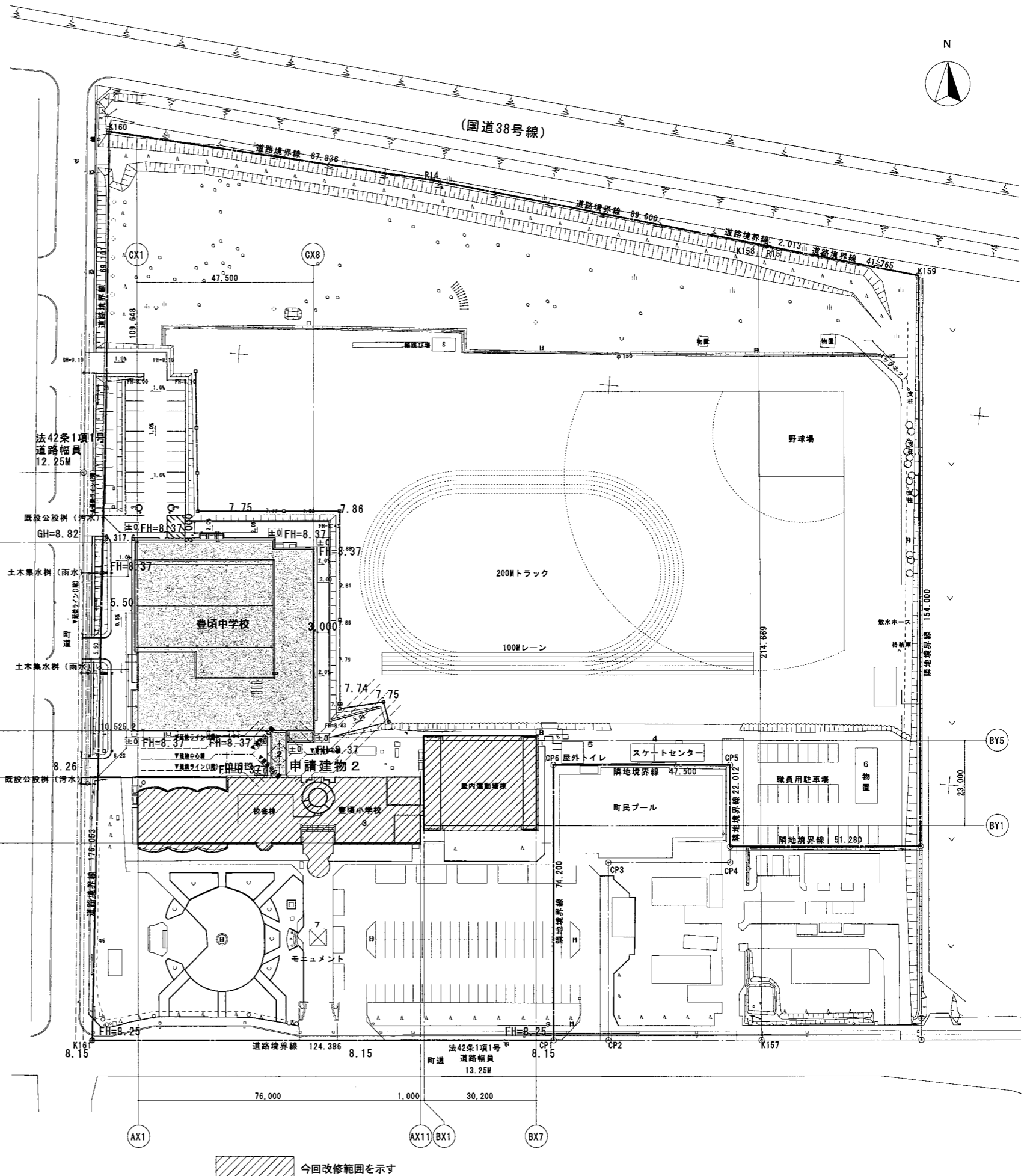
■建物概要
 工事名称：豊頃小学校改修工事
 計画地：北海道中川郡豊頃町中央若葉町22-1、21-2
 用途地域：指定無し
 防火地域：指定無し(法22条区域)
 地域地区：景観計画区域
 日影規制：規制無し
 用途：小学校(08080)
 敷地面積：43,800.54㎡
 前面道路：町道(南面)幅員13.25m、町道(西面)幅員12.25m
 工事種別：改修
 構造規模：鉄筋コンクリート造2階建 PH1階
 延床面積：3,098.59㎡
 建築面積：2,119.89㎡
 最高高さ：12.3m
 最高軒高：11.7m

建設地：北海道中川郡豊頃町中央若葉町22-1、21-2

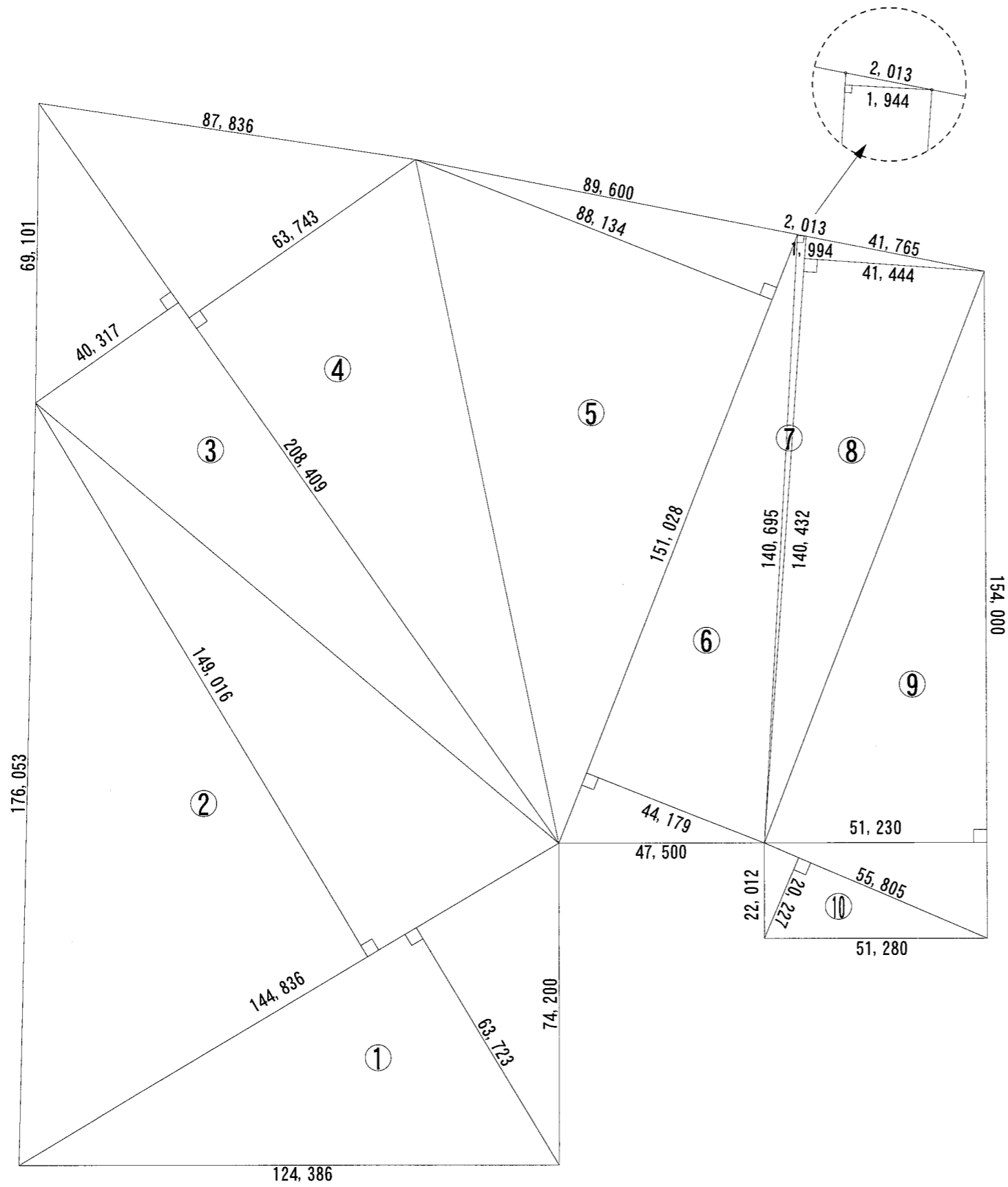


特記事項
 設計GL (SGL)=標高8.47
 平均地盤面(HGL)=標高8.47
 設計GLと平均地盤面の差±0
 建物周囲の設計GLの差を示す

申請区分	申請部分							申請以外の部分			全体合計	
	6	3			5	4	7	1	2	小計		
番号		小学校	小学校	小学校	屋外	スケート	モニュ	小計	中学校	中学校	中学校	
用途	物置	校舎棟	屋運棟	合計	トイレ	センター	メント	既存	校舎・屋運棟	渡り廊下棟	合計	
種別	既存	改修	改修	改修	既存	既存	既存	申請以外	既存	既存	申請以外	
構造	木造	RC造	RC造		木造	木造	RC造		RC造	RC造		
建築面積	79.49	1,370.19	749.70	2,119.89	23.59	67.77	16.00	2,306.74	2,481.15	50.00	2,531.15	4,837.89
延べ床面積	79.49	2,230.24	868.35	3,098.59	23.59	113.13		3,314.80	4,129.64	100.00	4,229.64	7,544.44
PH階床面積		44.73		44.73					170.95		170.95	
2階床面積		973.69	146.80	1,120.49		45.36		1,617.93	50.00		1,667.93	
1階床面積	79.49	1,211.82	721.55	1,933.37	23.59	67.77		2,340.76	50.00		2,390.76	



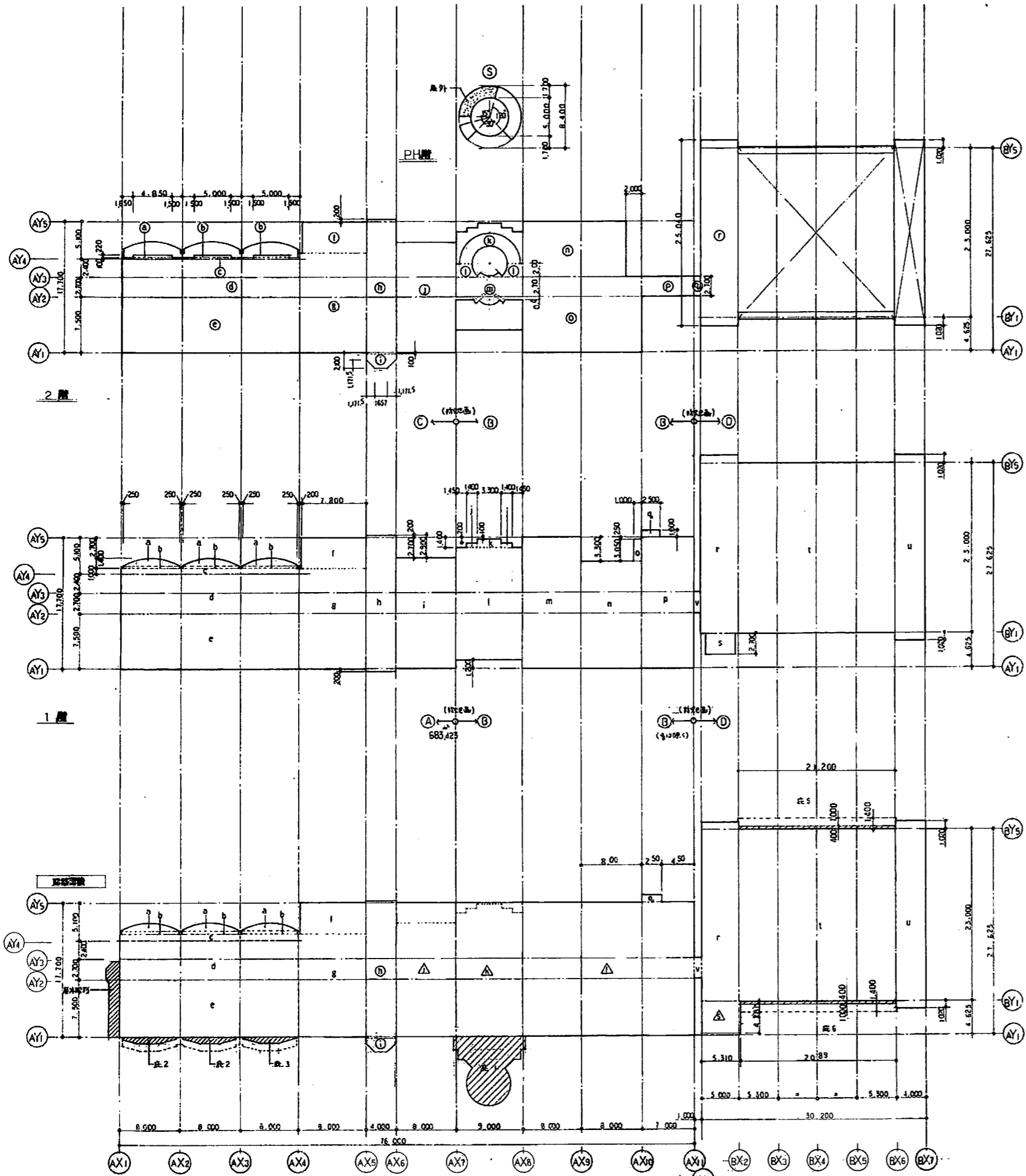
今回改修範囲を示す



敷地面積		
記号	計算式	面積
①	$144.836 \times 63.723 \div 2$	4,614.692214
②	$144.836 \times 149.016 \div 2$	10,791.440688
③	$208.409 \times 40.317 \div 2$	4,201.212826
④	$208.409 \times 63.743 \div 2$	6,642.307443
⑤	$151.028 \times 88.134 \div 2$	6,655.350876
⑥	$151.028 \times 44.179 \div 2$	3,336.133006
⑦	$140.695 \times 1.994 \div 2$	140.272915
⑧	$140.432 \times 41.444 \div 2$	2,910.031904
⑨	$154.000 \times 51.230 \div 2$	3,944.710000
⑩	$55.805 \times 20.227 \div 2$	564.383867
⑪	合計	43,800.535739
	合計	43,800.54

敷地面積求積図

1:600



面積

-1F-

a	$\{1.185 \times 0.553 + (0.553 + 0.891) \times 1.263 + (0.891 + 0.05) \times 1.302\} \times 1/2 \times 2 \times 3 = 14.843$
b	$7.50 \times 0.40 \times 3 = 9.0$
c	$24.00 \times 1.00 = 24.0$
d	$24.00 \times 5.10 = 122.4$
e	$24.00 \times 7.50 = 180.0$
f	$4.10 \times 7.80 = 31.98$
g	$8.00 \times 13.60 = 108.8$
h	$4.00 \times 18.10 = 72.40$
i	$8.00 \times 15.00 = 120.0$
j	$1.40 \times 0.70 \times 2 = 1.96$
k	$3.30 \times 1.30 = 4.29$
l	$9.00 \times 15.10 = 135.9$
m	$8.00 \times 17.70 = 141.6$
n	$8.00 \times 14.40 = 115.2$
o	$1.00 \times 3.05 = 3.05$
p	$7.00 \times 17.70 = 123.9$
q	$2.50 \times 1.00 = 2.5$

-2F-

①	$4.85 \times 0.22 = 1.067$
②	$5.00 \times 0.22 \times 2 = 2.2$
③	$24.00 \times 0.10 = 2.4$
④	$24.00 \times 5.10 = 122.4$
⑤	$24.00 \times 7.50 = 180.0$
⑥	$7.80 \times 4.10 = 31.98$
⑦	$8.00 \times 13.60 = 108.8$
⑧	$4.00 \times 18.00 = 72.00$
⑨	$4.00 \times 2.00 - 1.3115 \times 1.7115 = 6.6276$
⑩	$8.0 \times 15.0 = 120.0$
⑪	$8.0 \times 15.0 = 120.0$
⑫	$\{(4.2^2 \times 4^2 \times \pi) - (2.5 \times 2.5 \times \pi)\} \times 1/2 = 17.8823$
⑬	$(9.0 \times 2.0) - (2.5^2 \times \pi \times 90/360) - (1.7^2 \times \pi \times 90/360) = 10.8251$
⑭	$3.1 \times 9.0 + 1.7^2 \times \pi \times 90/360 + 2.5^2 \times \pi \times 90/360 = 29.3156$
⑮	$-1.2 \times 2.193/2 \times 2 = -2.6316$
⑯	$14.0 \times 7.50 = 105.0$
⑰	$16.0 \times 10.20 = 163.2$

-PH-

⑳ $(4.2^2 \times \pi) - (4.20^2 - 2.45^2) \times \pi \times 109/360 = 44.7316$

面積

a	14.84
b	9.00
c	24.00
d	122.40
e	180.00
f	31.98
g	108.80
①	72.00
②	141.60
③	159.30
④	407.40
⑤	2.50
r	120.10
s	22.302
t	487.60
u	100.16
v	2.70

■ 建築基準法面積

除外面積 $1.5 \times 7.5 + 2.5 \times 1.0 + 1.7 \times 0.7 + 0.7^2 + 2 \times 0.2 + 2 \times 15.51$

① $9.7 \times 1.8 + 8.4 \times 1.2 + 3.3^2 + 3^2 \times \pi \times \frac{1}{4} = 59.54$

② $(0.9 \times 2.46 + 0.7 \times 2.47 + 0.2 \times 2.47 \times 2) \times 2 = 9.862$

③ $0.9 \times 2.52 + 0.7 \times 2.54 + 0.2 \times 2.54 \times 2 = 5.062$

⑤ $(21.20 \times 0.4) = 8.48$

⑥ $(20.89 \times 0.4) = 8.356$

■ 建築基準法面積

	校舎棟	屋内運動場	合計
建築面積	1,370.19	749.70	2,119.89
床面積	1階	721.55	1,957.67
	2階	146.80	1,142.09
	PH階	44.73	44.73
	床面積合計		3,144.49

建築概要		外部仕上表				断熱仕様		塗装仕様：(特記なき塗装は下記による。)			特記事項		材料略号		
工 事 名	豊頃町豊頃小学校改修工事実施設計委託業務	屋上	改修前	改修後	ウレタン系塗膜防水(絶縁工法) 既存のまま	屋上	内断熱工法：天井撤去後 現場発泡ウレタン t100	記 号	名 称	規 格	○ 造作家具の取付けは先付けし裏面の壁仕上げは貼らないものとする。	○ GB-R : せっこうボード t 9.5 : 準不燃 QM-9828 t 12.5 : 不燃 NM-8619	○ GB-D : 化粧せっこうボード(トラバーチン) 準不燃 QM-9824 不燃 NM-8613	○ GB-S : シーリングせっこうボード 準不燃 QM-9826	○ GB-F : 強化せっこうボード t 12.5 : 不燃 NM-8615 t 21.0 : 不燃 NM-8615
施工場所	北海道中川郡豊頃町中央東葉町22-1	外壁(躯体)	改修前	改修後	コンクリート打放し 吹付タイル 外断熱部分既存のまま 塗装塗膜部分は既存吹付タイル撤去	外壁(鋼板下地)	乾式外断熱工法：GWボード t100 32kg/m ³ 高性能断熱処理品	○ E P - G	合成樹脂エマルジョンペイント(フヤ有り)	JIS-K-5660	○ 特記なき造作材は再生材とする。	○ GB-D : 化粧せっこうボード(トラバーチン) 準不燃 QM-9824 不燃 NM-8613	○ GB-S : シーリングせっこうボード 準不燃 QM-9826	○ GB-F : 強化せっこうボード t 12.5 : 不燃 NM-8615 t 21.0 : 不燃 NM-8615	
用途指定	指定無し		改修後	改修後	外断熱工法(金属部) EPS t100 ガルバウム鋼板 t0.4 (タイル部) EPS t100 無機質/パネル 2丁掛タイル接着剤	外壁(タイル下地)	断熱複合パネル t120 EPSボード B-特 t100+通気t10+無機質不燃板t10	○ W E P	合成樹脂エマルジョンペイント(水性つや無し)	JIS-K-5663 1種	○ ビニル床タイル、ビニル床シートは樹脂ワックス仕上とする。	○ GB-S : シーリングせっこうボード 準不燃 QM-9826	○ GB-F : 強化せっこうボード t 12.5 : 不燃 NM-8615 t 21.0 : 不燃 NM-8615		
防火指定	指定無し(法22条区域)				一部吹付タイル新設(クラック補修無し)	外壁(基礎立上り)	断熱複合パネル t120 EPSボード B-特 t100+通気t10+無機質不燃板t10	○ S O P	合成樹脂調合ペイント	JIS-K-5516	○ ビニル床シートの継目処理は、溶接工法とする。	○ GB-F : 強化せっこうボード t 12.5 : 不燃 NM-8615 t 21.0 : 不燃 NM-8615	○ JGB-R : ジョイントせっこうボード t 9.5 : 準不燃 QM-9828 t 12.5 : 不燃 NM-8619		
地域地区	景観計画区域	外壁(躯体)	既存のまま	既存のまま	コンクリート打放し 吹付タイル	ピット	収容機 1階廊下スラブ下 現場発泡ウレタン t50	○ D P	耐候性塗料(フッ素樹脂)	JIS-K-5659	○ 特記なきランパ-コアはシナとする。	○ DR : ロックウール化粧吸音版 不燃 NM-8599	○ F : フレキシブルボード 不燃 NM-8576 ○ F : 着色フレキシブルボード 不燃 NM-8577		
日影規制	高さ10mを越える場合規制有	笠木(収容機)	改修前	改修前	既製アルミ笠木 撤去	土間下(新設階段・バ-待合・自転車置き場)	FP板3種 b t30打込	○ W U C	水性反応硬化型ウレタン樹脂ワニス塗装(クリア)	-	○ 特記なきステンレスは、SUS304 HL以上とする。	○ DR : ロックウール化粧吸音版 不燃 NM-8599	○ F : フレキシブルボード 不燃 NM-8576 ○ F : 着色フレキシブルボード 不燃 NM-8577		
主要用途	小学校(08080)		改修後	改修後	既製アルミ笠木 W=350 新設	開口部廻り	現場発泡ウレタン充填	○ W S V	水性ステイン塗装	-	○ DRは、GB-R t 9.5捨貼とする。	○ DR : ロックウール化粧吸音版 不燃 NM-8599	○ F : フレキシブルボード 不燃 NM-8576 ○ F : 着色フレキシブルボード 不燃 NM-8577		
構 造	鉄筋コンクリート造 2階建 PH 1階	エントランス庇	改修前	改修前	既製塗装撤去、DP塗装新設	断熱欠損部	現場発泡ウレタン吹付t30 躯体面より(L=600)	○ W P	木材保護着色塗料(カ-ド-ラウ、セ-ラ-ラウ、サ-ラ-ラウ等品)	-	○ 流し台の排水金物と水栓は機械設備工事とする。	○ 不燃化粧板 グラスウールボード 不燃 NM-2183 不燃 NM-8606	○ ビニルクロス 不燃 NM-9889		
敷地面積	43,800.54m ²	水切										○	○		
建築面積	2,119.89m ²	E X P . J										○	○		
延床面積	3,144.49m ²	ポーチ										○	○		
最高高さ	8.6m 最高軒高 8.0m その他 建ぺい率 70% 容積率 400%	犬走り													

階	改修前 室名	改修後 室名	床				巾 木		壁				天井		廻り縁	天井高さ	備 考		
			下 地		仕 上		仕 上	高 さ	下 地		仕 上		下 地					仕 上	
			下 地	仕 上	仕 上	高 さ	スラブ高 さ	仕 上	高 さ	下 地	仕 上	下 地	仕 上	下 地				仕 上	
1 階	普通教室 (1) (2) (3)	普通教室 (1) (2) (3)	前	モルタル	フローリングブロック t15 撤去	±0	-45	青木 SOP	100	木製	シナベニア t5.5 目透SOP H=1,900	木製	ラワンベニア t5.5 SOP	LGS撤去	化粧石膏ボード撤去	塩ビ撤去	3,050	*	
			後	既存のまま	流し前 長尺塩ビシート t2.0撤去 化粧フローリング t15 (ナラ) 新設 流し前 長尺塩ビシート A t2.0新設	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	既存のまま	木羽目板・見切り新設 LC塗装新設	既存のまま	EP-G塗装	LGS新設	化粧石膏ボード撤去	塩ビ撤去	2,700	上部壁 一部掲示板クロス新設	
	コンピュータ室 はまなす教室	特別支援教室 (1) (2)	前	鋼製床組み	タイルカーペット t6.5撤去	±0	-100	青木 SOP	100	木製	シナベニア t5.5 目透SOP H=900	木製	有孔シナベニア t5.5 SOP (GW t50充填)	LGS	化粧石膏ボード撤去	塩ビ撤去	3,050	*	
			後	既存のまま	長尺シートB t 2.8新設	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	LGS	木羽目板・見切り新設 LC塗装新設 H=900	既存のまま	LGS	化粧石膏ボード撤去	塩ビ撤去	2,700	上部壁 一部掲示板クロス新設		
	放送室	放送室	前	OAフロア	タイルカーペット 撤去	+300	-10	青木 SOP	100	-	-	木製	有孔シナベニア t5.5 SOP (GW t50充填)	LGS	化粧石膏ボード t9 撤去	塩ビ撤去	2,400	*	
			後	既存のまま	タイルカーペットA 新設	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	-	-	既存のまま	既存のまま	既存のまま	化粧石膏ボード t9.5 新設	既存のまま	既存のまま	*	
	前室	前室	前	鋼製床組	ラワンベニア t5.5の上 タイルカーペット撤去 踏込：長尺塩ビシート撤去	+150 ±0	-10	青木 SOP	100	-	-	木製	有孔シナベニア t5.5 SOP (GW t50充填)	LGS	化粧石膏ボード t9 撤去	塩ビ撤去	2,550	*	
			後	既存のまま	タイルカーペットA 新設 踏込：長尺塩ビシートA新設	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	-	-	既存のまま	既存のまま	既存のまま	化粧石膏ボード t9.5 新設	既存のまま	既存のまま	*	
	スタジオ	物置庫 (1)	前	鋼製床組	ラワンベニア t5.5の上 タイルカーペット貼付	+150	-10	青木 SOP	100	-	-	木製	有孔シナベニア t5.5 SOP (GW t50充填)	LGS	化粧石膏ボード t9 撤去	塩ビ撤去	2,550	*	
			後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	-	-	既存のまま	既存のまま	既存のまま	化粧石膏ボード t9.5 新設	既存のまま	既存のまま	*	
	ひまわり教室	特別支援教室 (3)	前	モルタル	タイルカーペット t6.5撤去	±0	-45	青木 SOP	100	木製	シナベニア t5.5 目透SOP H=900	木製	ラワンベニア t5.5 E P - G 塗装	LGS撤去	化粧石膏ボード撤去	塩ビ撤去	3,050	ユニットバス撤去	
			後	既存のまま	長尺シートB t 2.8新設	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	既存のまま	木羽目板・見切り新設 LC塗装新設 H=900	既存のまま	EP-G塗装	LGS新設	化粧石膏ボード撤去	塩ビ撤去	2,700	上部壁 一部掲示板クロス新設	
	U B	脱衣室	前	鋼製床組撤去	ユニットバス撤去	+150	-10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ユニットバス撤去	
			後	鋼製床組新設	耐水合板 t12 長尺シートA t 2新設	既存のまま	既存のまま	ソフト巾木新設	60	-	-	LGS	GB-S t12.5の上 ビニルクロス	LGS新設	化粧石膏ボード撤去	塩ビ撤去	2,400	*	
	すずらん教室	保健室	前	モルタル	タイルカーペット t6.5撤去	±0	-45	青木 SOP	100	-	-	木製	シナベニア t5.5 目透SOP	LGS	化粧石膏ボード撤去	塩ビ撤去	3,050	*	
			後	既存のまま	長尺シートB t 2.8新設	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	LGS	木羽目板・見切り新設 LC塗装新設 H=900	既存のまま	LGS	化粧石膏ボード撤去	塩ビ撤去	2,700	ユニットシャワー新設、上部壁 一部掲示板クロス新設		
	保健室	職員更衣室 (女)	前	モルタル	ビニルタイル 撤去	±0	(-10)	青木 SOP	100	-	-	木製	J-PB t9の上 ビニルクロス撤去 (既前) 耐水PB t9の上 ガ-スキシブルボード t4撤去	LGS	化粧石膏ボード t9 撤去	塩ビ撤去	2,700	*	
			後	既存のまま	長尺塩ビシートA t2.0 新設	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	-	-	既存のまま	既存のまま	既存のまま	化粧石膏ボード t9.5 新設	既存のまま	既存のまま	*	
	ミーティング室	ミーティング室	前	鋼製床組撤去	畳敷き撤去 一部 長尺塩ビシート t2.0撤去 (ラワンベニア t5.5下地)	+150	(-10)	杉木撤去	-	-	-	木製	J-PB t9 和風 t2.0撤去	LGS撤去	杉目石膏ボード t9撤去	青木撤去	2,550	*	
			後	セルフレベリング 新設	長尺塩ビシートB t2.8新設	±0	既存のまま	ビニル巾木新設	60	-	-	既存のまま	J-PB t9既存のまま ビニルクロス新設	LGS新設	化粧石膏ボード t9.5 新設	塩ビ撤去	2,700	*	
	踏込	ミーティング室	前	モルタル	長尺塩ビシート貼付撤去 長尺塩ビシート貼付撤去 (ラワンベニア t5.5下地)	±0 +150	(-10)	杉目板 t15 撤去	300	-	-	木製	J-PB t9 和風 t2.0撤去	LGS撤去	杉目石膏ボード t9撤去	青木撤去	2,700	*	
			後	モルタル新設	長尺塩ビシートB t2.8新設	±0	既存のまま	ビニル巾木新設	60	-	-	既存のまま	J-PB t9既存のまま ビニルクロス新設	LGS新設	化粧石膏ボード t9.5 新設	塩ビ撤去	2,700	*	
	水屋	ミーティング室	前	鋼製床組撤去	長尺塩ビシート貼付撤去 (ラワンベニア t5.5下地)	+150	(-10)	杉目板 t15 撤去	300	-	-	木製	J-PB t9 和風 t2.0撤去	LGS撤去	杉目石膏ボード t9撤去	青木撤去	2,400	*	
			後	モルタル新設	長尺塩ビシートB t2.8新設	±0	既存のまま	ビニル巾木新設	60	-	-	既存のまま	J-PB t9既存のまま ビニルクロス新設	LGS新設	化粧石膏ボード t9.5 新設	塩ビ撤去	2,700	*	
	押入 (3段)	ミーティング室	前	鋼製床組撤去	シナベニア t5.5撤去	+150	(-10)	雑巾撤去	25	-	-	木製	PB t9 突付貼付撤去	LGS撤去	PB t9 突付貼付撤去	-	-	*	
			後	モルタル新設	長尺塩ビシートB t2.8新設	±0	既存のまま	ビニル巾木新設	60	-	-	既存のまま	PB t9既存のまま ビニルクロス新設	LGS新設	化粧石膏ボード t9.5 新設	塩ビ撤去	2,700	*	
	男子更衣室 女子更衣室	男子便所 女子便所	前	モルタル	ビニルタイル t2.0撤去	±0	(-10)	ビニル巾木撤去	60	-	-	LGS撤去	J-PB t9 A-EMP 撤去	LGS撤去	化粧石膏ボード t9 撤去	塩ビ撤去	2,400	*	
			後	既存のまま	長尺塩ビシート t2.0新設	既存のまま	既存のまま	ビニル巾木新設	60	-	-	LGS新設	GB-S t9.5新設 化粧フレキシブルボード t6(ジョ-工法)新設	LGS新設	化粧石膏ボード t9.5 新設	塩ビ撤去	2,400	*	
	男子便所 女子便所	男子便所 女子便所	前	モルタル	長尺塩ビシート t2.0貼付 撤去	-30	-70	SUS [-20×40 撤去	-	-	-	LGS	耐水PB t9下張り フレキシブルボード t6(ジョ-工法) A-EMP撤去	LGS撤去	化粧石膏ボード t9 撤去	塩ビ撤去	2,400	*	
			後	モルタル新設	長尺塩ビシート t2.0新設	±0	(-10)	ビニル巾木新設	60	-	-	既存のまま	耐水PB t9下張り 既存のまま 化粧フレキシブルボード t6(ジョ-工法)新設	LGS新設	化粧石膏ボード t9.5 新設	塩ビ撤去	2,400	*	
	職員室	職員室	前	モルタル	ビニルタイル t2.0撤去	±0	(-10)	青木 SOP	100	-	シナベニア t5.5 目透SOP H=900	木製	J-PB t9の上 ビニルクロス貼付	LGS	化粧石膏ボード t9 撤去	塩ビ撤去	2,700	*	
			後	既存のまま	長尺塩ビシートA t2.0新設	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	-	EP-G塗装 (壁見切り含む)	既存のまま	既存のまま	既存のまま	化粧石膏ボード t9.5 新設	既存のまま	既存のまま	*	
	印刷室 給湯コーナー	印刷室 給湯コーナー	前	モルタル	長尺塩ビシート t2.0撤去	±0	(-10)	青木 SOP	100	-	-	木製	シナベニア t5.5 目透SOP	LGS	化粧石膏ボード t9 撤去	塩ビ撤去	2,700	*	
			後	既存のまま	長尺塩ビシートA t2.0新設	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	-	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	化粧石膏ボード t9.5 新設	既存のまま	既存のまま	*	
	校長室	校長室	前	モルタル	タフテッドカーペット 撤去	±0	(-10)	青木 SOP	100	-	-	木製	J-PB t9の上 ビニルクロス貼付撤去	LGS	化粧石膏ボード t9 撤去	塩ビ撤去	2,700	*	
			後	既存のまま	タフテッドカーペット t7.5新設	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	-	-	既存のまま	既存のまま	既存のまま	化粧石膏ボード t9.5 新設	既存のまま	既存のまま	*	
	機械室	洗濯機・SK・手洗室	前	コンクリート金丁	防塵塗装仕上撤去	-600	-610	モルタル金コテ	60	-	-	-	断熱複合板 t40打込 (FP板 t25+木毛板 t15) 撤去	-	断熱複合板 t40打込 (FP板 t25+木毛板 t15) <設置ととも> 既存のまま	-	直天	*	
			後	鋼製床組み	長尺塩ビシートA t2.0新設	±0	既存のまま	ソフト巾木	60	-	-	LGS	GB-S t9.5下張り 化粧フレキシブルボード t6(ジョ-工法) 新設	LGS新設	化粧石膏ボード t9.5新設	塩ビ撤去	2,500	*	

階	改修前 室名	改修後 室名	床										壁				天井		廻り縁	天井高さ	備考
			下地		仕上		仕上 高さ	スラブ 高さ	巾木		腰壁		上部壁		天井						
			下地	仕上	仕上	高さ			下地	仕上	下地	仕上	下地	仕上							
1階	機械室	男子更衣室	前	コンクリート金丁	防塵塗装仕上撤去	-600	-610	モルタル金コテ	60	-	-	-	断熱複合板 t40打込 (FP板 t25+木毛板t15)	-	断熱複合板 t40打込 (FP板 t25+木毛板t15) <梁型とも> 既存のまま	-	直天	*			
			後	既存のまま	長尺塩ビシートA t2.0新設	既存のまま	既存のまま	ソフト巾木	60	-	-	既存のまま	既存のまま	LGS 50 GB-R t9.5新設の上 ビニルクロス新設	LGS新設	化粧石膏ボードt9.5新設	塩ビ新設	2,500	*		
	休憩室	物品庫スペース	前	鋼製2重床撤去 コンクリート金丁	ラワンベニアt5.5の上 タタミ敷 撤去 跡込部:長尺塩ビシート t2.0 撤去	-450 -570	-610	タタミ寄撤去 青木 SOP 撤去	100	-	-	木製	J-PB t9 ビニルクロス貼り撤去	LGS	化粧石膏ボード t9.0撤去	塩ビ撤去	2,400	*			
			後	モルタル t30新設	長尺塩ビシートA t2.0新設	-600	既存のまま	ソフト巾木	60	-	-	既存のまま	既存J-PB t9の上 ビニルクロス新設	既存のまま	化粧石膏ボード t9.5新設	塩ビ新設	2,500	*			
消火ポンプ室	消火ポンプ室	前	コンクリート金丁	防塵塗装	±0	-30	モルタル金コテ押込	100	-	-	-	断熱複合板 t40打込 (FP板 t25+木毛板t15)	-	断熱複合板 t40打込 (FP板 t25+木毛板t15) <梁型とも>	-	直天	*				
		後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	-	-	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	*			
2階	普通教室 (4) (5) (6)	普通教室 (4) (5) (6)	前	モルタル モルタル	フローリングブロック t15 撤去 流し前 長尺塩ビシート撤去 化粧フローリング t15 (ナラ) 新設	±0	-45	青木 SOP	100	木製	シナベニア t5.5 目透SOP H=1,900	木製	ラワンベニア t5.5 特殊ビニルクロス貼り	LGS撤去	化粧石膏ボード撤去 梁型 コンクリート打放 A-EMP 既存のまま	塩ビ撤去	3,050	*			
			後	既存のまま	流し前 長尺塩ビシートA t2.0 新設	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	既存のまま	木羽目板・見切り新設 LC塗装新設	既存のまま	EP-G塗装	LGS新設	化粧石膏ボード新設	塩ビ新設	2,700	上部壁 一部掲示板クロス新設			
	図工教室	特別支援教室 (4) (5)	前	コンクリート金丁	長尺塩ビシート t2.0撤去	±0	(-10)	青木 SOP	100	木製	シナベニア t5.5 目透SOP H=900	木製	シナベニア t5.5 目透 SOP	LGS	化粧石膏ボード撤去 梁型 コンクリート打放 A-EMPそのまま	塩ビ撤去	3,050	*			
			後	既存のまま	長尺塩ビシートB t2.8新設	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	既存のまま	木羽目板・見切り新設 LC塗装新設 H=900	既存のまま	既存の上 EP-G塗装 新設壁:GB-Rt12.5両面貼りの上EP-G塗装	既存のまま	化粧石膏ボード 新設	塩ビ新設	2,700	上部壁 一部掲示板クロス新設、落下防止手摺3.5m+3.5m			
	たんぽぽ教室前室	教材室	前	コンクリート金丁	防塵塗装仕上撤去	±0	-30	青木 SOP	100	-	-	木製	シナベニア t5.5 目透 SOP	LGS	化粧石膏ボード t9.0撤去	塩ビ	2,700	*			
			後	既存のまま	長尺塩ビシートA t2.0新設	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	-	-	既存の上 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	既存のまま	化粧石膏ボード t9.5新設	塩ビ新設	既存のまま	*			
	理科教室	特別支援教室 (6) (7)	前	コンクリート金丁	長尺塩ビシート t2.0撤去	±0	(-10)	青木 SOP	100	-	-	木製	シナベニア t5.5 目透 SOP	LGS	化粧石膏ボード 撤去 梁型 コンクリート打放 A-EMPそのまま	塩ビ撤去	3,050	*			
			後	既存のまま	長尺塩ビシートB t2.8新設	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	-	木羽目板・見切り新設 LC塗装新設 H=900	既存の上 EP-G塗装 新設壁:GB-Rt12.5両面貼りの上EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	既存のまま	化粧石膏ボード 新設	塩ビ新設	2,700	上部壁 一部掲示板クロス新設、落下防止手摺3.5m+3.5m		
	たんぽぽ教室	体調管理室	前	コンクリート金丁	タイルカーペット t5.5撤去	±0	(-10)	青木 SOP	100	-	-	木製	シナベニア t5.5 目透 SOP	LGS	化粧石膏ボード 撤去 梁型 コンクリート打放 A-EMPそのまま	塩ビ	2,700	*			
			後	既存のまま	長尺塩ビシートB t2.8新設	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	-	木羽目板・見切り新設 LC塗装新設 H=900	既存の上 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	既存のまま	化粧石膏ボード 新設	塩ビ新設	既存のまま	上部壁 一部掲示板クロス新設、落下防止手摺5.0m		
	家庭科教室	図画・美術教室	前	コンクリート金丁	長尺塩ビシート t2.0撤去	±0	(-10)	青木 SOP	100	木製	シナベニア t5.5 目透SOP H=1,900 H=900	木製	ラワンベニア t5.5 特殊ビニルクロス貼り	LGS	化粧石膏ボード 撤去 梁型 コンクリート打放 A-EMPそのまま	塩ビ撤去	3,050	*			
			後	既存のまま	長尺塩ビシートB t2.8新設	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	既存のまま	木羽目板・見切り新設 LC塗装新設 H=900	既存の上 EP-G塗装	EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	化粧石膏ボード 新設	塩ビ新設	2,700	上部壁 一部掲示板クロス新設、落下防止手摺10.6m		
	あさがお教室	図工・美術準備室	前	コンクリート金丁	長尺塩ビシート t2.0撤去	±0	(-10)	青木 SOP	100	-	-	木製	シナベニア t5.5 目透SOP	LGS	化粧石膏ボード t9 撤去	塩ビ	2,700	*			
			後	既存のまま	長尺塩ビシートA t2.0新設	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	-	-	既存の上 EP-G塗装	一部 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	化粧石膏ボード 9.5新設	塩ビ新設	既存のまま	落下防止手摺3.4m		
	教材庫	教材庫	前	コンクリート金丁	ビニルタイル貼り	±0	(-10)	青木 SOP	60	-	-	木製	J-PB t9 A-EMP	LGS	化粧石膏ボード t9 撤去	塩ビ	2,700	*			
			後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	-	-	既存の上 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	化粧石膏ボード 9.5新設	塩ビ新設	既存のまま	*			
音楽教室	音楽教室	前	コンクリート金丁	カーペット敷き 撤去	±0	(-10)	青木 SOP	100	木製	シナベニア t5.5 目透SOP H=1,900、H=900	木製	ラワンベニア t5.5 特殊ビニルクロス貼り	LGS	化粧石膏ボード 梁型 コンクリート打放 A-EMP	塩ビ	3,050	*				
		後	既存のまま	化粧フローリング t15(ナラ) 新設	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	既存のまま	木羽目板・見切り新設 LC塗装新設 H=900	既存の上 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	上部壁 一部掲示板クロス新設、落下防止手摺9.5m			
特別支援教室	音楽準備室	前	コンクリート金丁	カーペット敷き 撤去	±0	(-10)	青木 SOP	100	木製	シナベニア t5.5 目透SOP H=900	木製	ラワンベニア t5.5 特殊ビニルクロス貼り	LGS	化粧石膏ボード 梁型 コンクリート打放 A-EMP	塩ビ	2,700	*				
		後	既存のまま	化粧フローリング t15(ナラ) 新設	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	既存のまま	木羽目板・見切り新設 LC塗装新設 H=900	既存の上 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	既存の上 EP-G塗装	落下防止手摺2.6m				

階	改修前 室名	改修後 室名	床				巾 木		壁				天 井		廻り線	天井高さ	備 考	
			仕 上		仕 上 高 さ	ス ラ ブ 高 さ	仕 上	高 さ	壁 壁		上 部 壁		天 井					
			下 地	仕 上					下 地	仕 上	下 地	仕 上	下 地	仕 上				
共 通	多目的室	多目的室 図書コーナー	前	押入コンクリート金タテ (メッシュ入り)	長尺塩ビシート撤去 (床暖房)	±0	-100	ラワン OS LC	100	木製	小幅縦組 LC 一部ラワンベニア t5.5 OS LC シナベニア t5.5 目透 SOP H=900	木製	シナベニア t5.5 目透 多彩模様吹付	LGS	化粧石膏ボード 梁型 コンクリート打放 多彩模様吹付	塩ビ	3,050	*
			後	既存のまま	長尺塩ビシート新設	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	(シナベニア面) 木羽目板・見切り新設 LC塗装新設 H=900	既存のまま	EP-G塗装 新設	既存のまま	EP-G塗装 新設	既存のまま	既存のまま
教材庫	1階ホール	2階ホール	前	コンクリート金タテ	ビニルタイル撤去	±0	(-10)	青木 S O P 撤去	60	-	-	木製	既存壁: J-PB t9 A-EMP撤去	LGS	化粧石膏ボード t9 撤去	塩ビ	2,700	*
			後	既存のまま	長尺塩ビシート新設	既存のまま	既存のまま	青木 EP-G新設	100	-	-	既存のまま	新設壁: DB-R t12.5両面貼り EP-G	既存のまま	化粧石膏ボード 9.5新設	塩ビ新設	既存のまま	*
配膳室	1階ホール	2階ホール	前	コンクリート金タテ	ビニルタイル撤去	±0	(-10)	青木 S O P 撤去	60	-	-	木製	既存壁: J-PB t9 A-EMP撤去	LGS	化粧石膏ボード t9 撤去	塩ビ	2,700	*
			後	既存のまま	長尺塩ビシート新設	既存のまま	既存のまま	青木 EP-G新設	100	-	-	既存のまま	新設壁: DB-R t12.5両面貼り EP-G	既存のまま	化粧石膏ボード 9.5新設	塩ビ新設	既存のまま	*
物品庫	1階ホール	2階ホール	前	コンクリート金タテ	ビニルタイル撤去	±0	(-10)	ビニル巾木撤去	60	-	-	木製	既存壁: J-PB t9 A-EMP撤去	LGS	化粧石膏ボード t9 撤去	塩ビ	2,700	*
			後	既存のまま	長尺塩ビシート新設	既存のまま	既存のまま	青木 EP-G新設	100	-	-	既存のまま	新設壁: DB-R t12.5両面貼り EP-G	既存のまま	化粧石膏ボード 9.5新設	塩ビ新設	既存のまま	*
風除室(2)	1階ホール	2階ホール	前	モルタル	100角磁器タイル貼りの上樹脂モルタル t10 長尺塩ビシート撤去	-150 ±0	-200 (-10)	テラソーブロック撤去 一部ビニル巾木撤去	150	-	-	LGS撤去 R C	G B-R t9.0 多彩模様吹付 撤去 R C面 多彩模様吹付撤去	LGS撤去	カラーフレッシュボード t6 (ジョイナー工法) 撤去	塩ビ撤去	2,550 2,400	*
			後	モルタル打設	長尺塩ビシート新設	±0	既存のまま	青木 EP-G新設	100	-	-	R C	R C面 木羽目板新設 LC塗装新設	LGS新設	化粧石膏ボード 9.5新設	塩ビ新設	2,700	*
児童便所 (男子)(女子)	児童便所 (男子)(女子)	児童便所 (男子)(女子)	前	モルタル	50角磁器タイルモザイクタイル	-30 ±40	-70	SUS [-20×40 撤去	40	-	-	LGS	耐水PB t9下張り フレッシュボード t6(ジョイナー) A-EMP撤去	LGS	化粧石膏ボード t9 撤去	塩ビ撤去	2,400	*
			後	モルタル打設	既存タイルの上モルタル t30敷設 長尺シートC t.2.0新設	±0	(-10)	床材立上	100	-	-	既存のまま	耐水PB t9下張り 既存のまま 化粧フレッシュボード t6(ジョイナー工法)新設	既存のまま	化粧石膏ボード 9.5新設	塩ビ新設	既存のまま	落下防止手摺1.1m×1.1m
手洗い・水飲み場 (男子・女子)	手洗い・水飲み場 (男子・女子)	手洗い・水飲み場 (男子・女子)	前	モルタル	50角磁器タイルモザイクタイル	±0	(-10)	SUS [-20×40 撤去	40	-	-	LGS	耐水PB t9下張り フレッシュボード t6(ジョイナー) A-EMP撤去	LGS	化粧石膏ボード t9 撤去	塩ビ撤去	2,400	*
			後	モルタル打設	既存タイルの上モルタル t30敷設 長尺シートC t.2.0新設	±0	(-10)	床材立上	100	-	-	既存のまま	耐水PB t9下張り 既存のまま 化粧フレッシュボード t6(ジョイナー工法)新設	既存のまま	化粧石膏ボード 9.5新設	塩ビ新設	既存のまま	*
風除室(1)	風除室 (1)	風除室 (1)	前	モルタル	100角磁器タイル貼り	-150	-200	テラソーブロック	150	-	-	LGS撤去	コンクリート打放し 多彩模様吹付 横目地 石巻鏡面タイル貼り	LGS撤去	カラーフレッシュボード t6 (ジョイナー工法) 撤去	塩ビ撤去	2,900	*
			後	既存のまま	(建具撤去跡) 100角磁器タイル補修	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	-	-	LGS新設	弾性吹付塗材 E新設 (建具撤去) 横目地 石巻鏡面タイル貼り補修	LGS新設	化粧石膏ボード t9.5 新設 木製羽目板新設	塩ビ新設	既存のまま	*
昇降口	昇降口	昇降口	前	モルタル	100角磁器タイル貼り 一部樹脂モルタル t10 長尺塩ビシート t2.0撤去	-150 ±0	-200	テラソーブロック	150	-	-	R C L G S	コンクリート打放し 多彩模様吹付 撤去 横目地 石巻鏡面タイル貼り 既存のまま	-	トップライト	-	吹抜	*
			後	モルタル打設	一部100角磁器タイル既存のまま 一部長尺塩ビシート B t2.8新設	既存のまま (一部樹脂撤去)	既存のまま	既存のまま	既存のまま	-	-	既存のまま	弾性吹付塗材 E新設 横目地 石巻鏡面タイル貼り 既存のまま	-	既存のまま	-	既存のまま	*
階段・昇降口ホール	階段・昇降口ホール	階段・昇降口ホール	前	コンクリート金タテ	長尺塩ビシート t2.0 撤去	±0	(-10)	ビニル巾木撤去	100	-	-	R C L G S	コンクリート打放し 多彩模様吹付 撤去 横目地 石巻鏡面タイル貼り 既存のまま	LGS	石膏吸音板撤去 一部不燃繊維石膏板 t10 撤去	塩ビ撤去	(吹抜) 6,100 2,400	*
			後	既存のまま	長尺塩ビシート B t2.8新設 一部 タイルカーペット B t7.0新設	既存のまま	既存のまま	ビニル巾木新設	100	-	-	既存のまま	コンクリート面 EP-G 新設 木羽目板 t15.5新設 横目地 石巻鏡面タイル貼り 既存のまま	既存のまま	化粧石膏ボード 9.5新設 木製羽目板新設	塩ビ新設	既存のまま	視覚障害者誘導用床タイル 300角×24新設
2階ギャラリー	2階ギャラリー	2階ギャラリー	前	コンクリート金タテ	長尺塩ビシート t2.0 撤去	±0	(-10)	ラワン巾木	100	-	小幅縦組 LC 一部ラワンベニア t5.5 OS LC H=900	L G S	ラワンベニア t5.5 S O P	LGS	化粧石膏ボード t9 撤去	塩ビ撤去	2,400	*
			後	既存のまま	長尺塩ビシート B t2.8新設	既存のまま	既存のまま	ラワン巾木 E P-G	100	-	既存のまま	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	化粧石膏ボード 9.5新設	塩ビ新設	既存のまま	*
廊下	廊下	廊下	前	コンクリート金タテ	長尺塩ビシート t2.0 撤去	±0	(-10)	ラワン巾木	100	-	ラワンベニア t5.5 SOP H=900	L G S	ラワンベニア t5.5 多彩模様吹付	LGS	化粧石膏ボード t9 撤去	塩ビ撤去	2,400	*
			後	既存のまま	長尺塩ビシート B t2.8新設	既存のまま	既存のまま	ラワン巾木 E P-G	100	-	木羽目板・見切り新設 LC塗装新設 H=900	既存のまま	EP-G塗装	既存のまま	化粧石膏ボード 9.5新設	塩ビ新設	既存のまま	上部壁 一部掲示板クロス新設
屋内体育館 便所 (男子)(女子)	屋内体育館 便所 (男子)(女子)	屋内体育館 便所 (男子)(女子)	前	モルタル	ビニルタイル t2.0貼り撤去	±0	(-10)	ビニル巾木撤去	60	-	-	LGS撤去	J-PB t9 A-EMP 撤去	LGS撤去	化粧石膏ボード t9 撤去	塩ビ撤去	2,400	*
			後	モルタル打設	長尺塩ビシート t2.0新設	既存のまま	既存のまま	ビニル巾木新設	60	-	-	LGS新設	GB-S t9.5新設 化粧フレッシュボード t6(ジョイナー工法)新設	LGS新設	化粧石膏ボード t9.5 新設	塩ビ新設	2,400	*

■改修概要

外部	屋根	・屋根板金塗装改修概要：屋根既存カラーガルバリウム鋼板塗装面 4種ケレン+高圧水洗浄（10Mpa程度）+錆止塗装（破風の釘頭シール処理共） 塗装は2液型シリコン系塗装：SK科研ルーフスターSI（同等品）とする ・鉄板包（破風・雨押・軒先）：4種ケレン+高圧水洗浄（10Mpa程度）+エポキシ系錆止+2液型シリコン系塗料2回塗り
	屋上防水	・既存防水 高圧水洗浄（10Mpa程度）の上 ウレタン防水吹付（増し吹き）
	外壁	・吹付タイル改修面：剥離剤工法除去 ・水洗い（高圧水洗浄10Mpa程度） ・シーリング撤去新設（打ち継ぎ、建具廻り、皿板面、金属廻り、フード廻り） ：旧シーリング材撤去後目地部清掃の上シーリング新設（シーリング材は変性シリコン2成分系とする） 改修概要、外部、外壁シーリングにおいて、打継部、建具廻り等は既存のシーリング部の打ち替えを行った後、外断熱工法を施工する 1FLの外断熱（タイル）と基礎立上りの外断熱（吹付）の間には打継目地を設ける ・下地調整：全面にカチオン系フィラーにて、しごく（下地との密着性、中性化防止） ・仕上材：吹付タイル（透湿弾性仕上塗材：SK化研ダンツコート 上塗り水性弾性セラタイトF（防水型複層塗材E）同等品）
	軒天	普通教室バルコニー軒天改修： ・吹付タイル改修面：剥離剤工法除去 ・水洗い（高圧水洗浄10Mpa程度） ・仕上材：吹付タイル（透湿弾性仕上塗材：SK化研ダンツコート 上塗り水性弾性セラタイトF（防水型複層塗材E）同等品）
	建具	SD塗装改修 ・建具表 による塗装改修対象建具は既存塗装撤去の上、DP塗装（建具全面（枠共）、錆止め共）
内部	床	・フローリングブロック撤去：床サンダーがけ（機械）の後 化粧フローリングt15（ナラ）新設（塗装品） ・防塵塗装仕上撤去：ケレン+サンダーがけの上、長尺塩ビシート新設
	壁	・既存壁塗装（シナベニア）：サンダーがけの上、EP-G塗装（特記仕様による）、掲示板クロス貼り新設（上枠新設 25×25 EP-G塗装） ・新設壁塗装（シナベニア）：EP-G塗装（特記仕様による）、（腰見切り共） ・壁ビニルクロス改修：既存ビニルクロス撤去の上、ビニルクロス（不燃）新設 下地GB-Rは既存のまま ・壁ふさぎ：壁種別による下地、仕上は仕上表による ・壁撤去跡の補修：壁撤去の後EP-G t12.5、パテ処理後、EP-G塗装 ・児童用手洗い・水飲み場エコカラット新設：既存フレキシブルボードt6撤去、ケレン+サンダーがけの上 エコカラット接着貼り ・児童用手洗い鏡廻りモザイクタイル：鏡取外し、既存モザイクタイルの上、樹脂モルタルで平滑後、新設モザイクタイル、鏡再取付 ・壁塗替：A-EMP塗装 サンダーがけの上 EP-G塗装
	腰壁	・既存 ラワンベニア t5.5 SOP 既存のまま、既存見切り撤去、木羽目板新設、上部見切り25×25新設 水性LC塗装（見切り共）
	掲示板クロス	・既存ラワンベニア サンダーがけの上 掲示板クロス貼付、上枠新設 25×25 EP-G塗装
	天井改修	・天井撤去に伴い吊りボルトはそのままのこし、Mバーは撤去新設
	天井改修	・間仕切り撤去に伴う吊りボルト撤去範囲は、撤去間仕切り壁から600mmとする。改修に伴い新規吊りボルト設置
	天井改修	・天井高さ変更（3050→2700）に伴う吊りボルト延長は、延長金物を利用し既存吊りボルトを延長とする
	柱	・児童用便所前 水飲み柱：ケレン+サンダーがけの上、EP-G塗装（特記仕様による）
	厨板	・厨板塗替：ケレン50%パテ処理50%サンダーがけの上、EP-G塗装（特記仕様による）
	掲示板	・掲示板クロス貼替：既存掲示板クロス撤去 サンダーがけの上 掲示板クロス（不燃）接着貼り
	トイレブース	・トイレブース撤去跡：パテ補修
	昇降口嵩上げ	・FP板 b 2種 t 75の上 無筋コンクリートt75新設（ワイヤーメッシュφ 100角）
	木製建具	・建具枠・扉 塗装改修：ケレン50%パテ処理50%サンダーがけの上、EP-G塗装（特記仕様による）
	防火扉穴補修	・穴補修：300×300 ケレン+パテ処理+サンダーがけの上、全体：SOP塗装（特記仕様による）
	家具	・造作家具撤去後の処理：家具撤去後、木屑袋 タテ45×45 @455 ヨコ 45×18 @455の上 シナ合板t5.5 EP-G
	壁補修	・ひび割れ補修：L2000 ケレン+パテ処理+サンダーがけの上、W300の範囲：EP-G塗装（特記仕様による）
	壁一部補修	（音楽室・音楽準備室）200×200の範囲 ケレン+パテ処理+サンダーがけの上、：EP-G塗装（特記仕様による）
	ビクチャール	アルミ製 天井埋込タイプ ホワイト

■壁仕様リスト

撤去			新設		
符号	壁構成	備考	符号	壁構成	備考
W 1	RC t150 増コンt25 外部：外部弾性吹付タイル 内部：断熱材 t 25 胴縁25×45 @450タテヨコの上 GB-R t12	(内部表面仕上げは仕上表による)	W 1	RC t150 増コンt25 外部：断熱材 t 100の上 各仕上 内部：LGS50 GB-R t9.5の上 各仕上	(外部・内部表面仕上げは仕上表による) 開口部塞ぎ
			W 1 A	アスロック t60 上下金物止め 外部：断熱材 t 100の上 各仕上 内部：LGS50 GB-R t9.5の上 各仕上	(外部・内部表面仕上げは仕上表による)
W 2	LGS65 GB-Rt12+t12 両面張り	・水屋・踏込・押入～廊下壁H2900まで撤去 (内部表面仕上げは仕上表による)	W 2	LGS65 GB-Rt12.5+t12.5 両面張り	(内部表面仕上げは仕上表による) ｽﾌﾟﾝ又は梁下まで
			W 2 G	LGS65 GB-Rt12.5+t12.5 両面張り+GW100充填	(内部表面仕上げは仕上表による) ｽﾌﾟﾝ又は梁下まで
W 3	LGS65 GB-Rt12 両面張り	(内部表面仕上げは仕上表による)	W 3	LGS65 GB-Rt12.5両面張り	(内部表面仕上げは仕上表による) 天井まで
			W 3 G	LGS65 GB-Rt12.5両面張り+GW100充填	(内部表面仕上げは仕上表による) 天井まで
W 4	RC t150 胴縁25×45 @450タテヨコの上	DWシャフト・休憩室（機械室）	W 4	RC t150の上 GL工法 PB t9.5	(内部表面仕上げは仕上表による) 天井まで
W 5	LGS65 GB-Rt12片面張り（天井まで）	(内部表面仕上げは仕上表による)			

■新設 使用材料一覧表（同等品以上とする）

屋上ウレタン防水	超速硬化ウレタン防水吹付 ダイフレックス SPOR-200工法 t=2.0mm 同等品
吹付タイル	透湿弾性仕上塗材：SK化研ダンツコート、上塗り水性弾性セラタイトF（防水型複層塗材E）同等品
2丁掛タイル	せり器質二丁掛タイル：フェイブOX/リクシル 同等品
外断熱工法	上部：カラーガルバリウム鋼板t0.4+型枠兼用樹脂補強材付断熱材（岩倉化学スタッドボードG 3同等品） 下部：無機質不燃外装材t10（通気層）ESP版B-特（型枠兼用）（岩倉化学フライアッシュG Pパネル同等品）
金属建具	アルミ樹脂複合サッシ（カバー工法）／不二サッシ
外装材	ガルバリウム鋼板：雪印シリーズ／北海鋼機
長尺塩ビシートA	タジマ タフゾーン t2.0 同等品
長尺塩ビシートB	タジマ ACフロア木目28 t2.8 同等品
長尺塩ビシートC	タジマ 消臭クリンセフ t2.0 同等品
タイルカーベットA	タジマ タビス セレクトPlus t6.5 同等品
タイルカーベットB	タジマ TS-7000 t7.5 同等品
化粧ケイ酸カルシウム板	エアンドエーマテリアル ステンド#400 t6 同等品
エコカラット	フェミニナシリーズ/リクシル 標準色
内藤タイル	インテリアモザイク：ジュエリーモザイク・アコルディMシリーズ/リクシル
鋼製床組み	万協フロア H=600 同等品
木製ルーバー自然塗料	オスモカラー ワンコートオンリー（染色クリア塗装）同等品
化粧フローリングt15（ナラ）	
造作家具	(株)加藤家具店+帝国機材、メジロカバ 接続する中学校家具同等品
共通	接続する新設中学校の仕様と同等とする

■改修項目明細リスト (小学校)

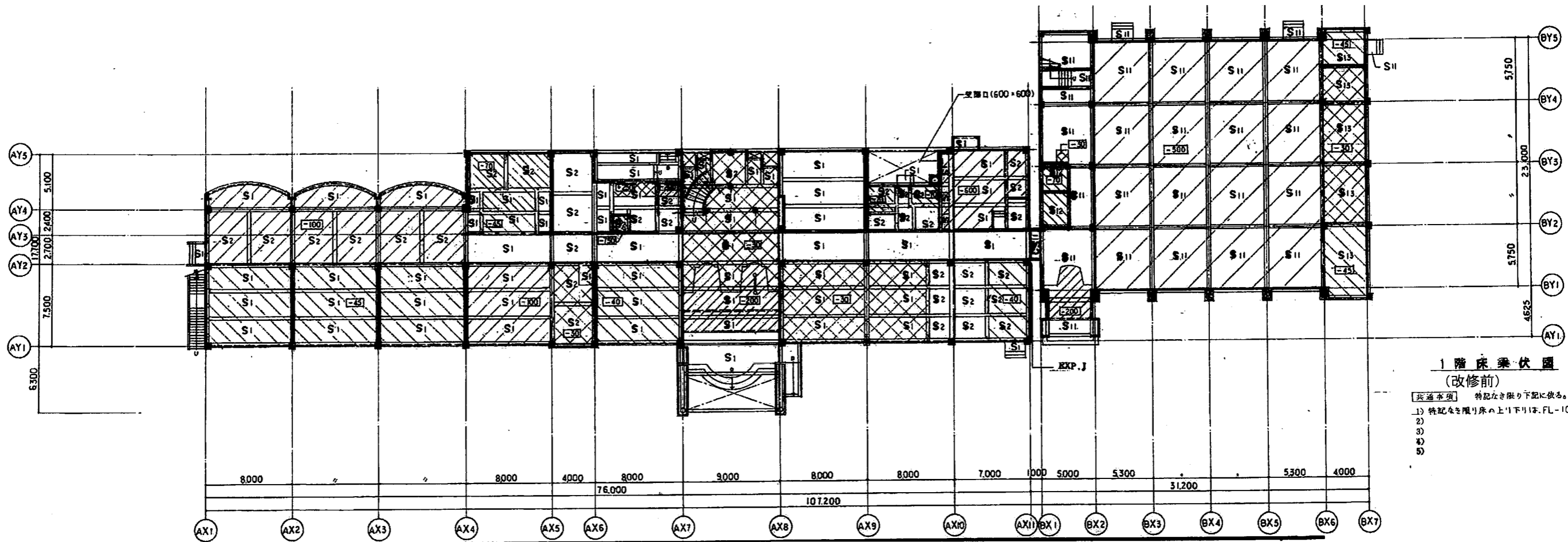
改修前			改修後		
(部屋前) 部屋名	撤去項目	撤去詳細	(部屋後) 部屋名	新設項目	新設詳細
【共通】	既存建具枠	※詳細は改修概要による		既存建具枠	E P - G 塗装
	既存建具	※詳細は改修概要による		既存建具	E P - G 塗装
	既存扉壁	※詳細は改修概要による		既存扉壁	E P - G 塗装
普通教室 (1) ~ (6)	黒板撤去	平板黒板 W3600×H1800	普通教室 (1) ~ (6)	黒板新設	上下黒板 W3600×H1800 暗線入り
				黒板塗替	黒板塗替 5300×300×t25
	掲示板上枠撤去	青木25×25×5000		掲示板上枠新設	青木25×25×5000 EPG塗装
	掲示板クロス撤去			掲示板クロス新設 (不燃)	
コンピュータ室	黒板		特別支援教室 (1)	黒板塗替	黒板塗替 5300×300×t25
	掲示板撤去	1700×1500		ライティング新設	LGS65 天端 メラミンポストフォーム (Rタイプ) W1000 H1000 GB-S19.6 の上カラーフレキt4(j)ジョイナー
	F-10家具撤去			黒板新設	平板黒板 W3600×H1200 暗線入り
前室 (放送室)			前室 (放送室)	上り樞塗替	D35×H150×L1450
	長尺シート撤去 (廊下部)	W1050×D930		長尺シート新設 (廊下部)	W1050×D930
	タイルカーペット撤去	W1050×D930		タイルカーペット新設	W1050×D930
はまなす教室			特別支援教室 (2)	黒板塗替	黒板塗替 1700×300×t25
				ライティング新設	LGS65 天端 メラミンポストフォーム (Rタイプ) W1000 H1000 GB-S19.6 の上カラーフレキt4(j)ジョイナー
				黒板新設	平板黒板 W3600×H1200 暗線入り
ひまわり教室	黒板撤去	平板黒板 W3600×H1800	特別支援教室 (3)	黒板新設	平板黒板 W3600×H1200 暗線入り
				黒板塗替	黒板塗替 3500×300×t25
	掲示板上枠撤去	W1400×H1200		ライティング新設	LGS65 天端 メラミンポストフォーム (Rタイプ) W1000 H1000 GB-S19.6 の上カラーフレキt4(j)ジョイナー
	本棚移設	W1800×H900		本棚再設置	W1800×H900
	掲示板撤去	W2500×H900			
すずらん教室	掲示板撤去	W2500×H900	保健室	黒板塗替	黒板塗替 3500×300×t25
	黒板撤去	黒板塗替 3200×300×t25		流し台新設	既製品流し台 L=1500
				吊り棚新設	既製品吊り棚 L=1500 H700 黒板H400共
				ユニットシャワー新設	TOTO 0808 Lタイプ同等品
保健室	掲示板撤去	W1200×H900	女子更衣室		
校長室			校長室	廊下扉枠のみ塗装	特EP-G塗装
				洗面扉	EP-G塗装
給湯・印刷室	コンロ台撤去	W600×D600	給湯・印刷室	コンロ台新設	W600×D600
	流し台撤去	W1200×D600		流し台新設	W1200×D600
	吊り棚撤去	W1200×H700		吊り棚新設	W1200×H700
	レンジフード撤去	W600×D600 (機械設備工事)		レンジフード新設	W600×D600 (機械設備工事)
ミーティング室	木床組み撤去	60×60 @450タテヨコ	ミーティング室		
ミーティング室	床の間撤去	W2000×D400×H50床板 105×105床柱 H200×D30×W2000飾り縁			
1階多目的・図書コーナー			1階多目的・図書コーナー	ヘルメット収納新設	普通教室(1)(2)W3900×450、普通教室(3)W3685×450
2階多目的・図書コーナー	本棚移設	W1800×H1800×D460×6台	2階多目的・図書コーナー	ヘルメット収納新設	普通教室(4)(5)W3900×450、普通教室(6)W3685×450
図工教室	F-27家具撤去		特別支援教室 (4)		
	F-10A 家具撤去				
	流し台撤去			黒板新設	平板黒板 W3600×H1200 暗線入り
	作業台撤去			ライティング新設	LGS65 天端 メラミンポストフォーム (Rタイプ) W1000 H1000 GB-S19.6 の上カラーフレキt4(j)ジョイナー
	F-19家具撤去		特別支援教室 (5)		
	F-20家具撤去				
	家具移設	W930×H1440×D500×2台		黒板新設	平板黒板 W3600×H1200 暗線入り
	黒板撤去	曲面黒板 W3500×H1500		ライティング新設	LGS65 天端 メラミンポストフォーム (Rタイプ) W1000 H1000 GB-S19.6 の上カラーフレキt4(j)ジョイナー
	プラスチックラップ移設	図画・美術室へ移設			
理科教室	F-16家具×2撤去		特別支援教室 (6)	ライティング新設	LGS65 天端 メラミンポストフォーム (Rタイプ) W1000 H1000 GB-S19.6 の上カラーフレキt4(j)ジョイナー
	F-17家具撤去			黒板新設	平板黒板 W3600×H1200 暗線入り
	生徒用実験台移設	W3000×980×670×3台 中学校理科実験室2へ移設	特別支援教室 (7)	ライティング新設	LGS65 天端 メラミンポストフォーム (Rタイプ) W1000 H1000 GB-S19.6 の上カラーフレキt4(j)ジョイナー
	教師用実験台移設	W2400×900×800×1台 中学校理科実験室2へ移設		黒板新設	平板黒板 W3600×H1200 暗線入り
たんぽぽ教室	カーテンレール取外し	L3000	体調管理室	カーテンレール再取付	L3000
たんぽぽ教室教室前室	収納・保管家具移設	W930×H1440×D510	教材庫	吊りカーテンレール新設	L2000×2
				家具新設	W900×H2150×D600×2箇所

■改修項目明細リスト (小学校)

改修前			改修後		
(部屋前) 部屋名	撤去項目	撤去詳細	(部屋後) 部屋名	新設項目	新設詳細
たんぽぽ教室教室前室	収納・保管家具移設	W930×H1440×D510	教材庫	吊りカーテンレール新設	L2000×2
音楽室			音楽室	家具新設	W900×H2150×D600×2箇所
	黒板撤去	五線黒板・引分 W3600×H1200		黒板塗替	黒板塗替 (5200+4000) ×300×t25
特別支援教室			音楽準備室	黒板新設	五線黒板・暗線入り・引分 W3600×H1200
				黒板塗替	黒板塗替 2400×300×t25
あさがお教室	掲示板上枠撤去	W1805×H1200	図画・美術教室準備室	黒板塗替	黒板塗替 3200×300×t25
	掲示板上枠撤去	W1805×H1200			
家庭科教室	家具移設	F-13 3台移設	図画・美術教室	収納・保管家具新設	W930×H1440×D500×2台
	作業台撤去			収納保管家具	W930×H1440×D500×2台 図工室より
	黒板撤去	平板黒板 W3600×H1200		黒板新設	曲面黒板 W3600×H1200 暗線入り
				プラスチックラップ移設	図工教室より
1階児童用トイレ			1階児童用トイレ	開口枠	SUS 304 HL 25×125
1階児童用水飲み場			1階児童用水飲み場	柱再塗装	250φ H=2400 ×4本
				水飲み器木塗装	
				水飲み器新設	
				水飲み器エンドパネル新設	W700×H800×D25 R200面取り メラミン化粧板 2枚
				エコカラット新設	
				鏡前モザイクタイル新設	
1階児童用手洗い			1階児童用手洗い	エコカラット新設	
				手洗い新設	W450×H600
				開口枠	SUS 304 HL 25×125
2階児童用水飲み場			2階児童用水飲み場	柱再塗装	250φ H=2400 ×4本
				水飲み器木塗装	
				水飲み器新設	
				水飲み器エンドパネル新設	W700×H800×D25 R200面取り メラミン化粧板 2枚
				エコカラット新設	
				鏡前モザイクタイル新設	
2階児童用手洗い			2階児童用手洗い	エコカラット新設	
				手洗い新設	W450×H650
				開口枠	SUS 304 HL 25×125
1階正面昇降口	上がり樞撤去	テラズブロック 25×150	1階正面昇降口	上がり樞新設	SUS 304 HL 40×150 モルタル詰め
1階・2階階段室			1階正面昇降口	視覚障害者誘導用床タイル新設	300×300 塩ビ製
				ベンチ家具新設	ナラ床材再利用品

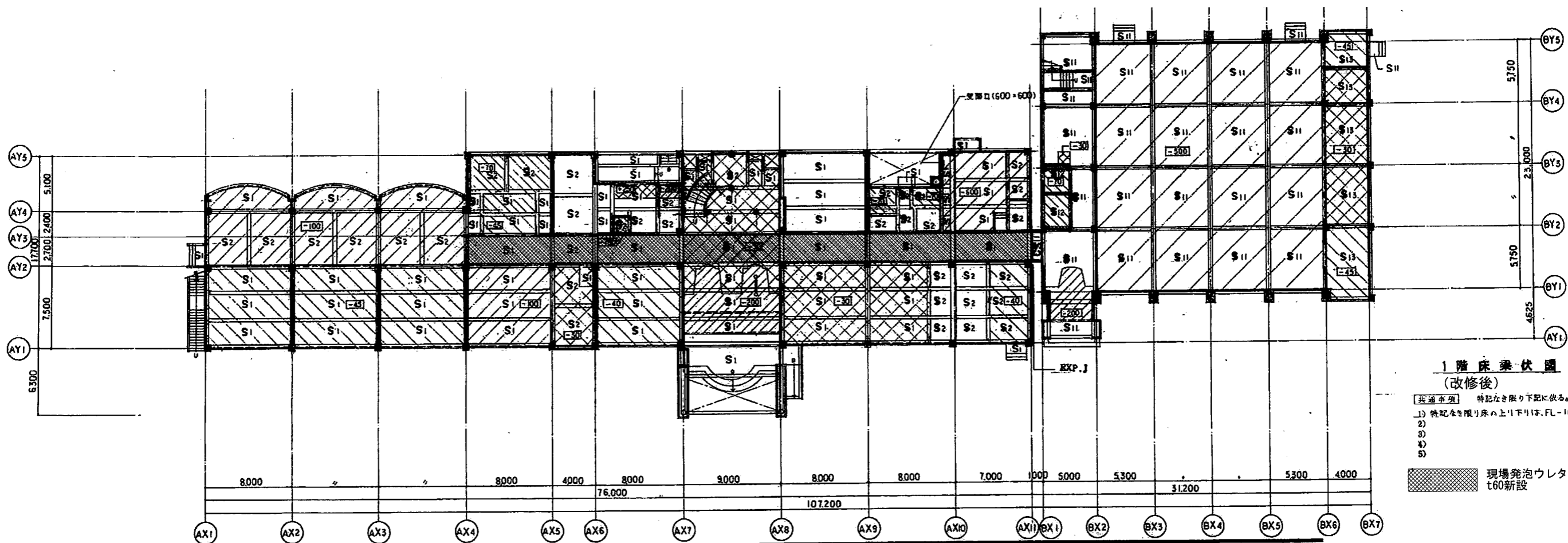
■改修項目明細リスト (既存中学校)

改修前			改修後		
(部屋前) 部屋名	撤去項目	撤去詳細	(部屋後) 部屋名	新設項目	新設詳細
生徒会室	平板黒板撤去	W3600×H1200	生徒会室	ホワイトボード取付	W3600×H1200 (材料支給)
C R 4	上下黒板撤去	W3600×H1800	多目的室	ホワイトボード取付	W3600×H1100 (材料支給)
C R 5	上下黒板移設	W3600×H1800			
多目的室続き部屋	平板黒板撤去	W3600×H1200	多目的室続き部屋	ホワイトボード取付	W1800×H900 (材料支給)
理科室	上下黒板撤去	W3600×H1800	理科室	ホワイトボード取付	W3600×H1200 (材料支給)



1階床梁伏図 1/200
(改修前)

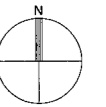
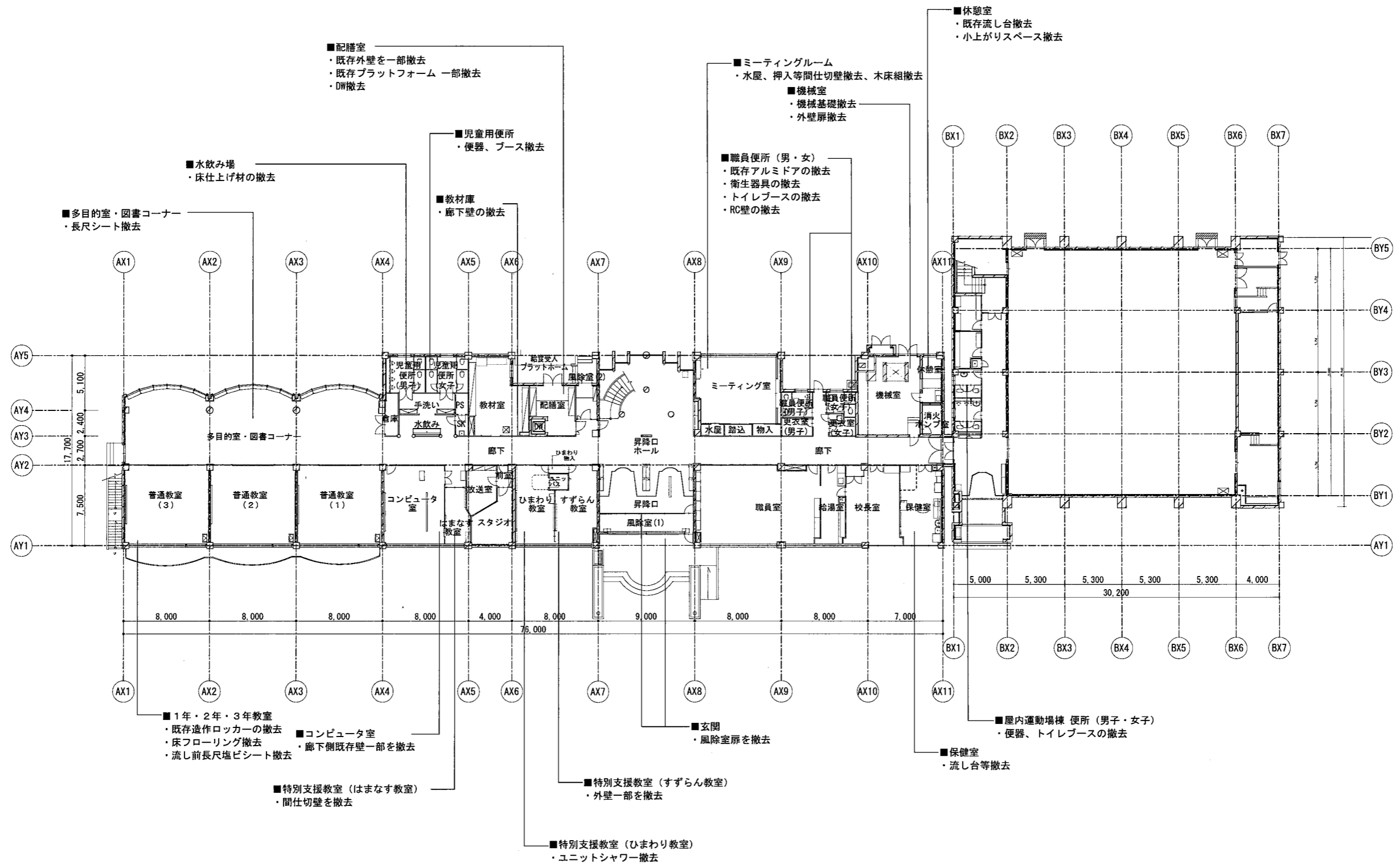
【共通事項】 特記なき限り下記に依る。
 1) 特記なき限り床の上1'下1'は、FL-10とす。
 2)
 3)
 4)
 5)



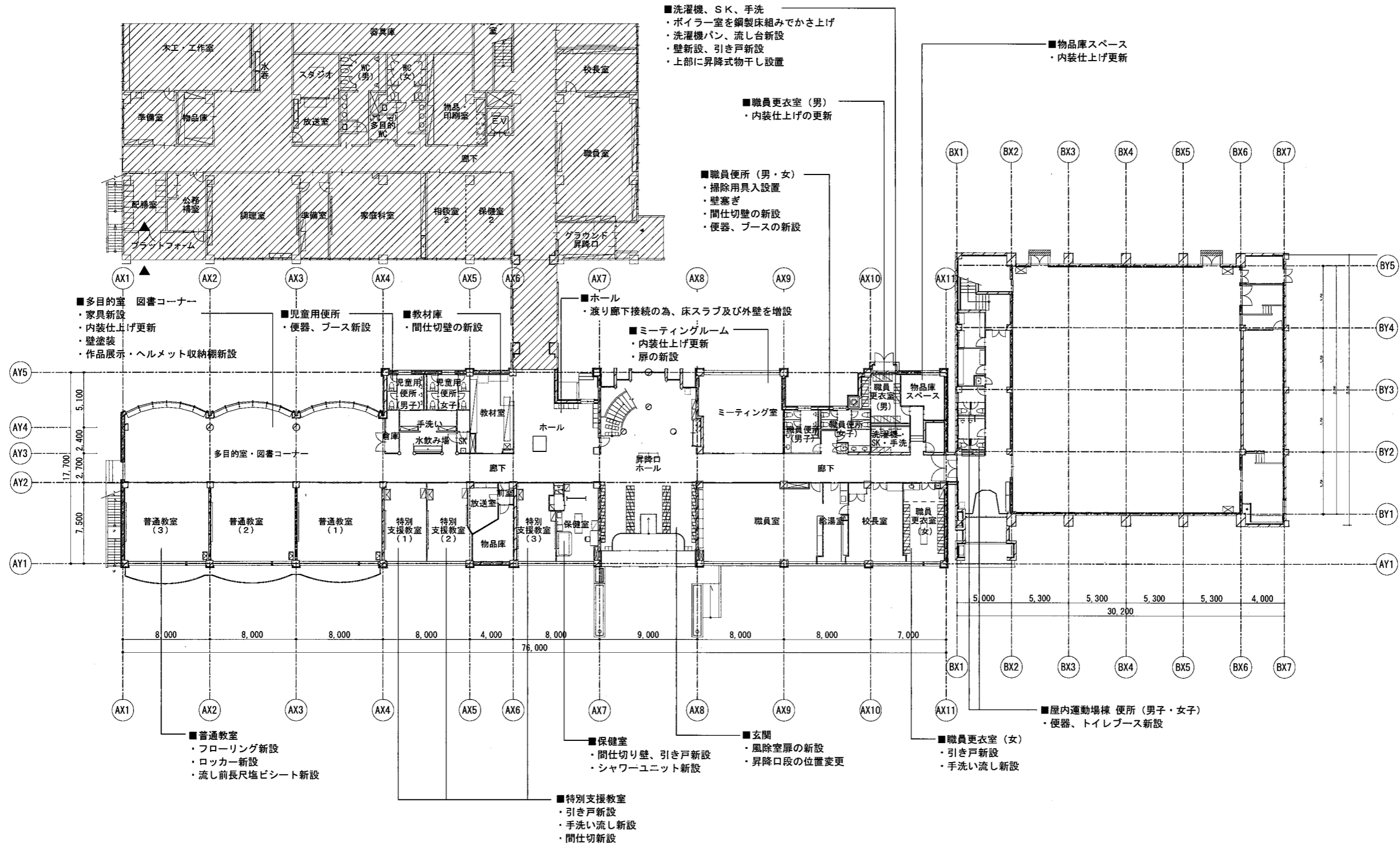
1階床梁伏図 1/200
(改修後)

【共通事項】 特記なき限り下記に依る。
 1) 特記なき限り床の上1'下1'は、FL-10とす。
 2)
 3)
 4)
 5)

現場発泡ウレタン t60新設



部分は中学校増築部を示す



- 洗濯機、SK、手洗
- ・ボイラー室を鋼製床組みでかさ上げ
- ・洗濯機パン、流し台新設
- ・壁新設、引き戸新設
- ・上部に昇降式物干し設置

- 職員更衣室 (男)
- ・内装仕上げ更新

- 職員便所 (男・女)
- ・掃除用具入設置
- ・壁塞ぎ
- ・間仕切壁の新設
- ・便器、プースの新設

- 物品庫スペース
- ・内装仕上げ更新

- 多目的室 図書コーナー
- ・家具新設
- ・内装仕上げ更新
- ・壁塗装
- ・作品展示・ヘルメット収納新設

- 児童用便所
- ・便器、プース新設

- 教材庫
- ・間仕切壁の新設

- ホール
- ・渡り廊下接続の為、床スラブ及び外壁を増設

- ミーティングルーム
- ・内装仕上げ更新
- ・扉の新設

7,500
17,700
2,700 2,400
5,100

8,000 8,000 8,000 8,000 4,000 8,000 9,000 8,000 8,000 7,000
76,000
5,000 5,300 5,300 5,300 5,300 4,000
30,200

- 普通教室
- ・フローリング新設
- ・ロッカー新設
- ・流し前長尺塩ビシート新設

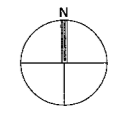
- 保健室
- ・間仕切り壁、引き戸新設
- ・シャワーユニット新設

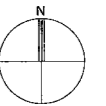
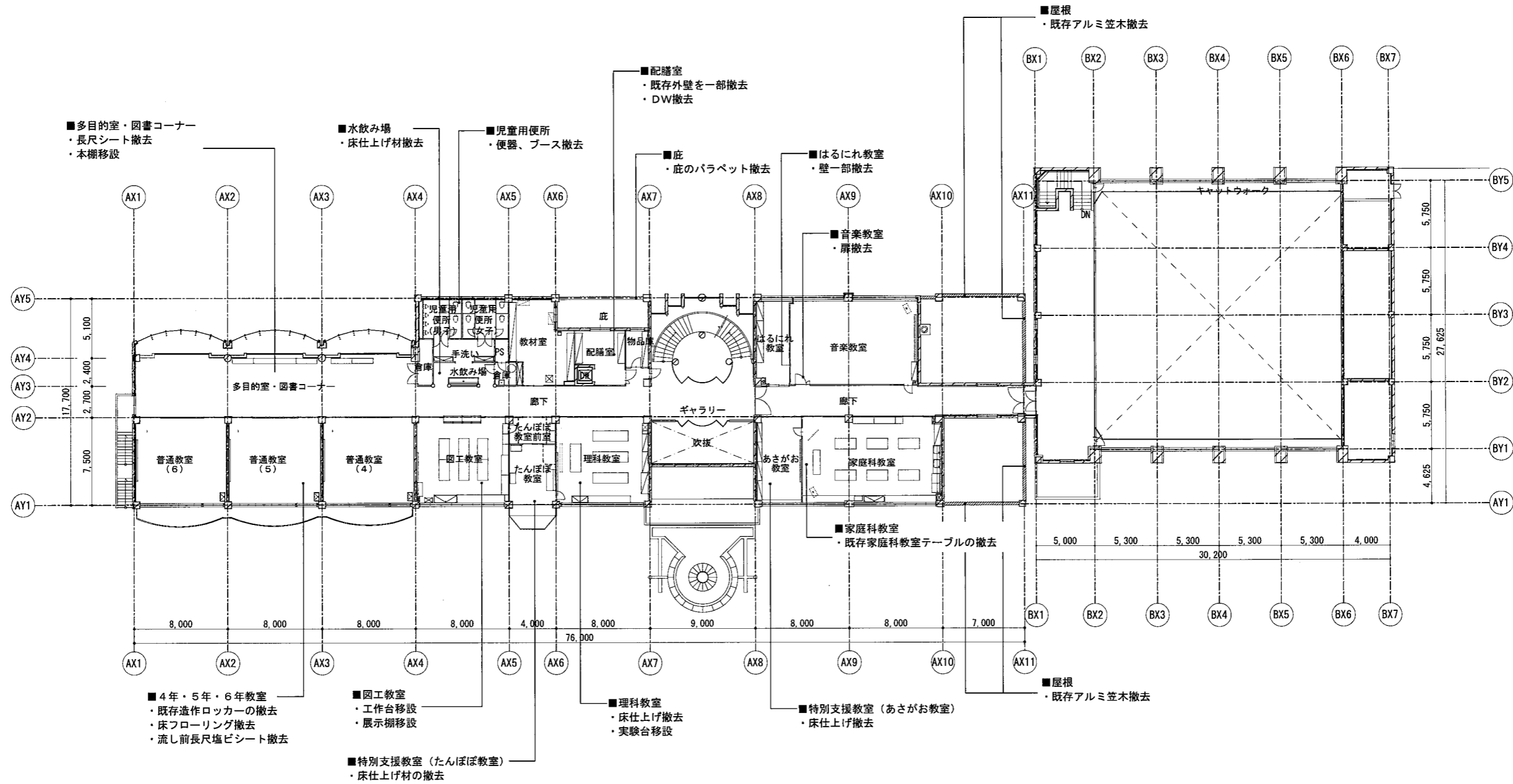
- 玄関
- ・風除室扉の新設
- ・昇降口段の位置変更

- 職員更衣室 (女)
- ・引き戸新設
- ・手洗い流し新設

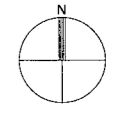
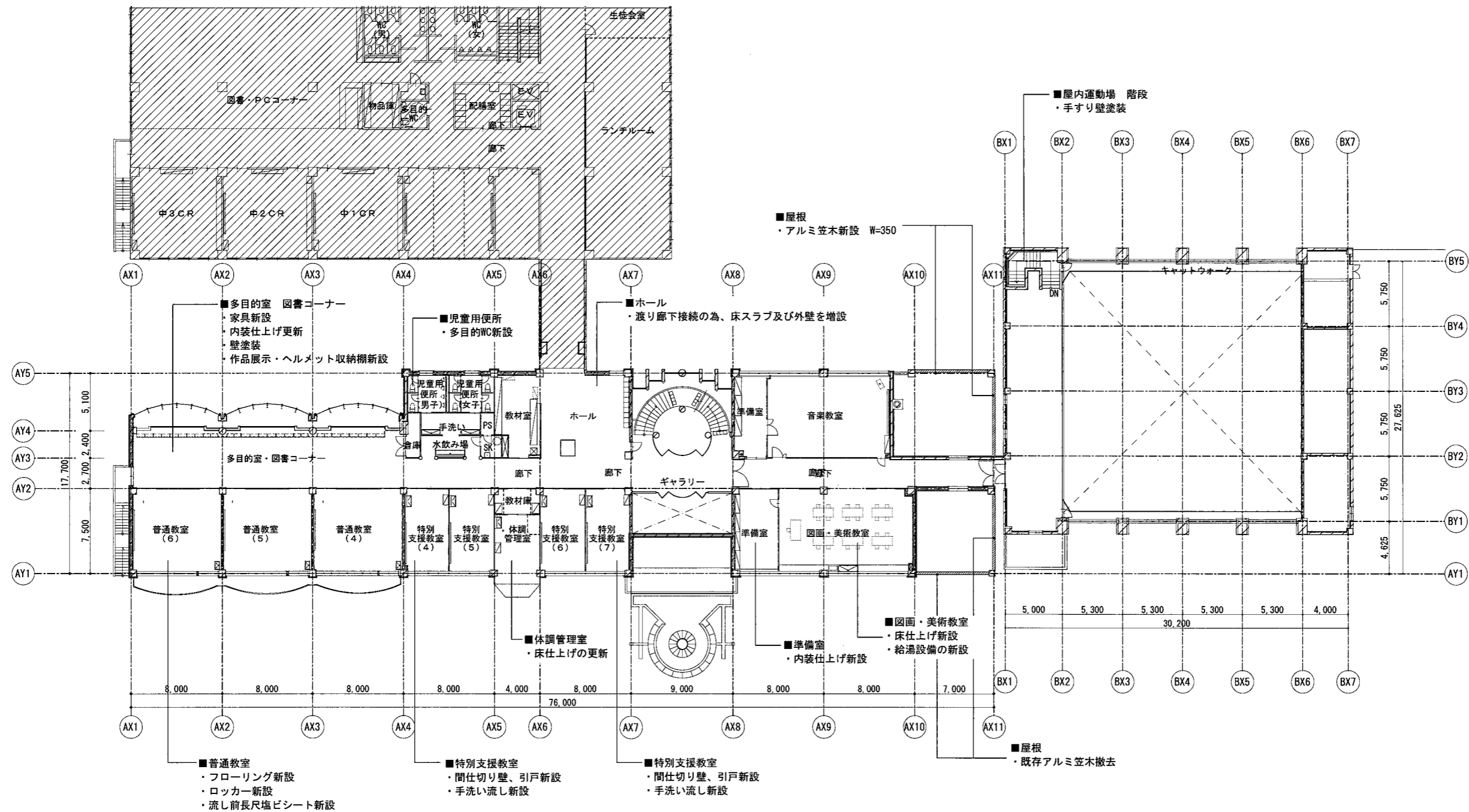
- 特別支援教室
- ・引き戸新設
- ・手洗い流し新設
- ・間仕切新設

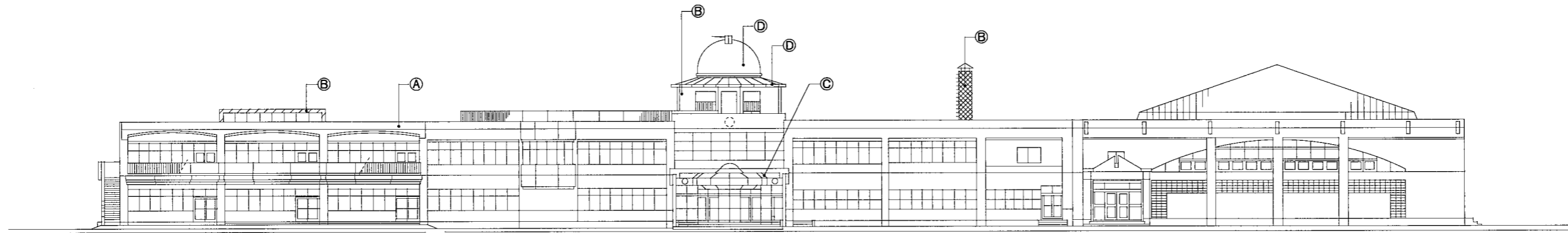
- 屋内運動場棟 便所 (男子・女子)
- ・便器、トイレプース新設



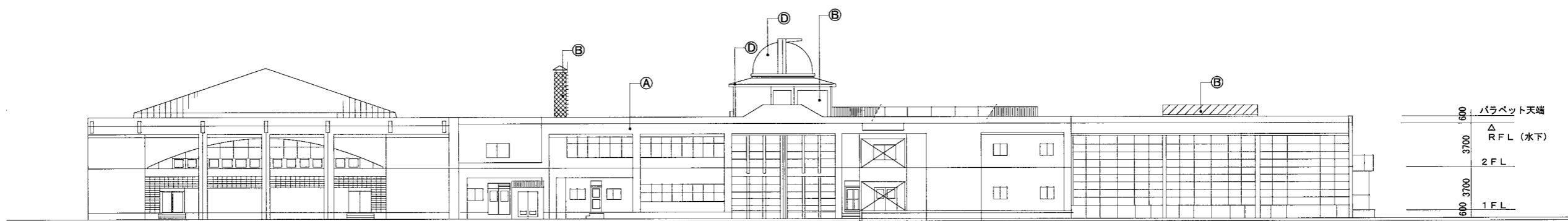


部分は中学校増築部を示す



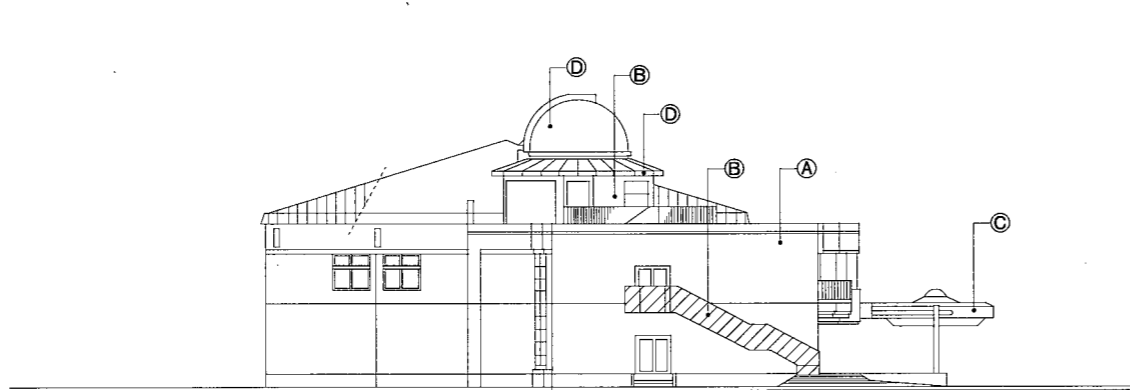


南面 立面图 S=1/200

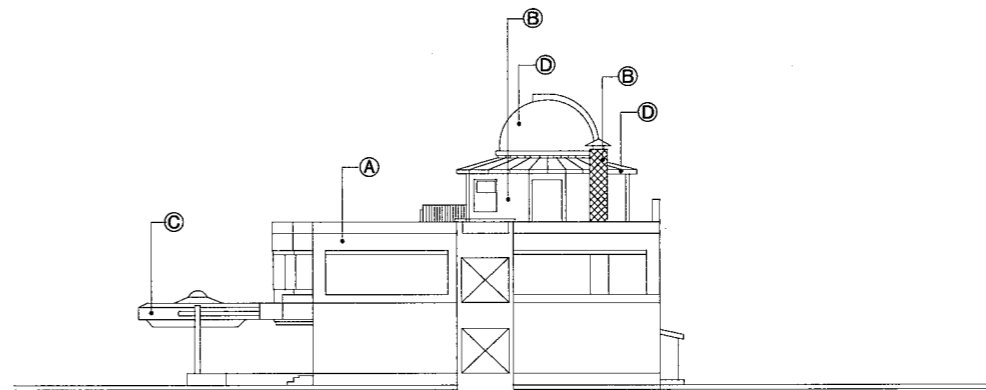


北面 立面图 S=1/200

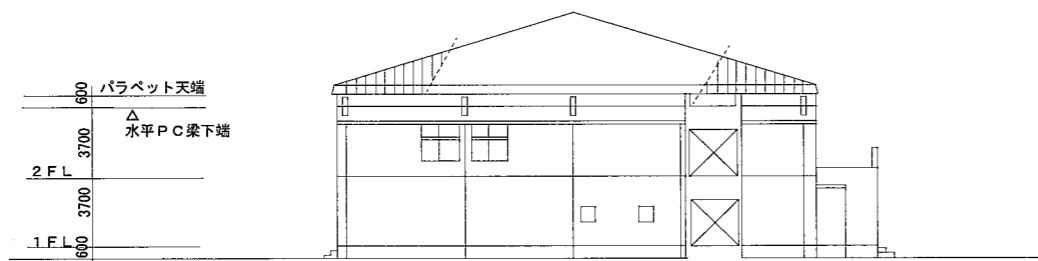
600	パラペット天端
△	RFL (水下)
3700	2FL
3700	1FL
600	



西面 立面图 S=1/200

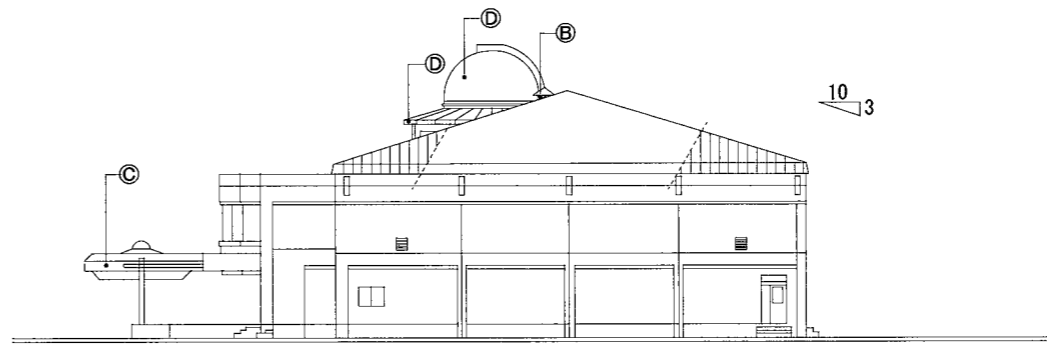


東面 立面图 S=1/200



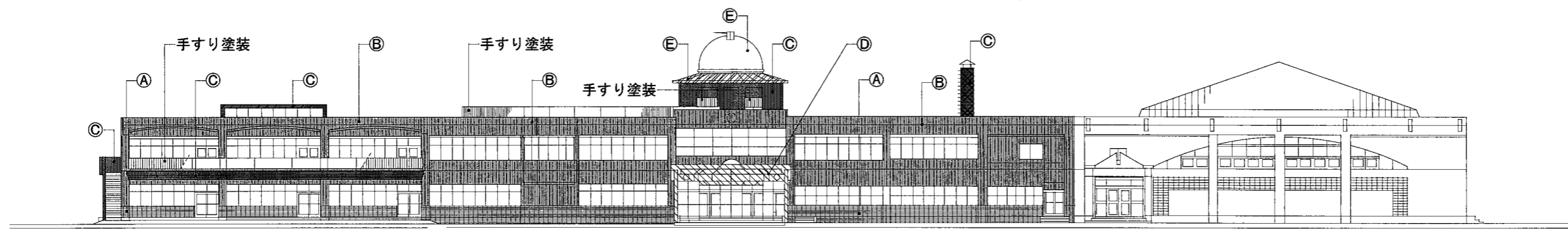
西面 立面图 S=1/200

600	パラペット天端
△	水平PC梁下端
3700	2FL
3700	1FL
600	

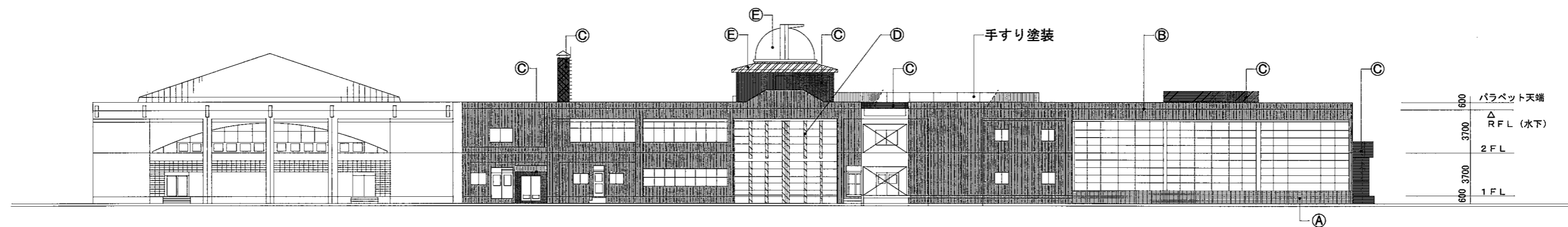


東面 立面图 S=1/200

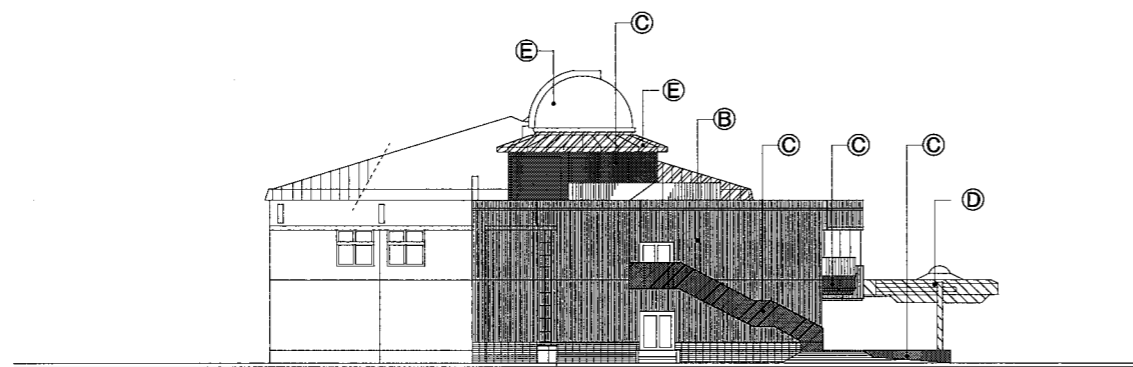
凡例	
Ⓐ	複層塗材E 既存のまま
Ⓑ	複層塗材E 撤去
Ⓒ	既存塗装SOP 撤去
Ⓓ	既存板金屋根



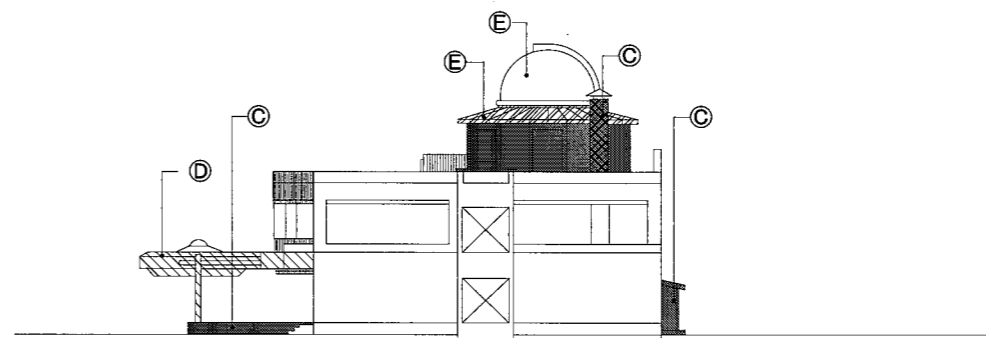
南面 立面図 S=1/200



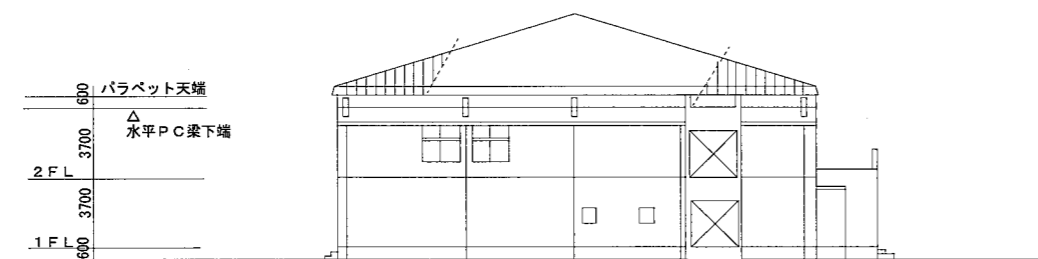
北面 立面図 S=1/200



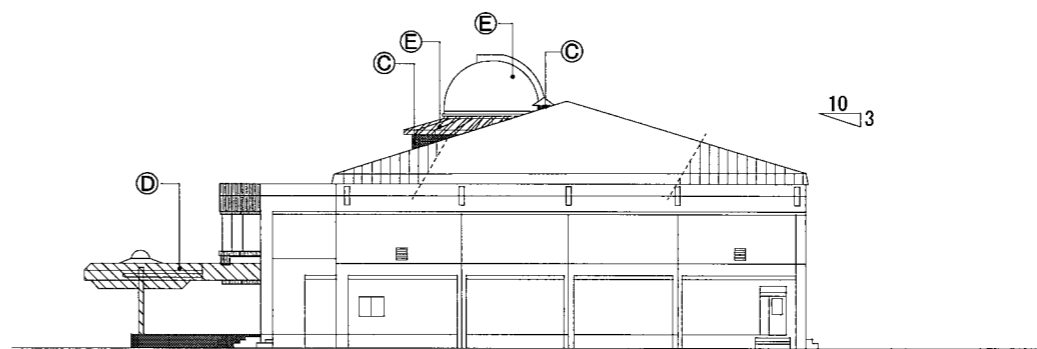
西面 立面図 S=1/200



東面 立面図 S=1/200

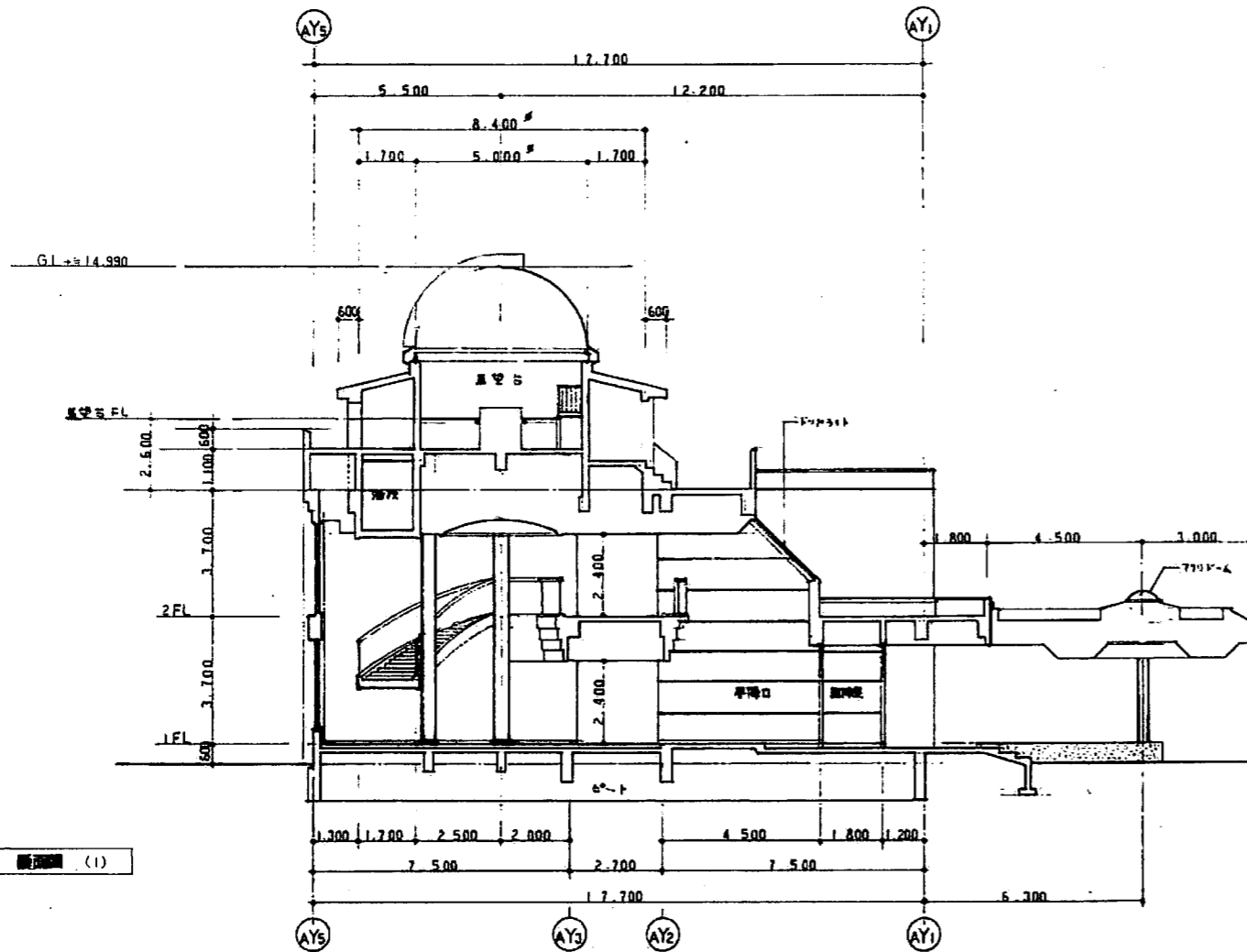


西面 立面図 S=1/200

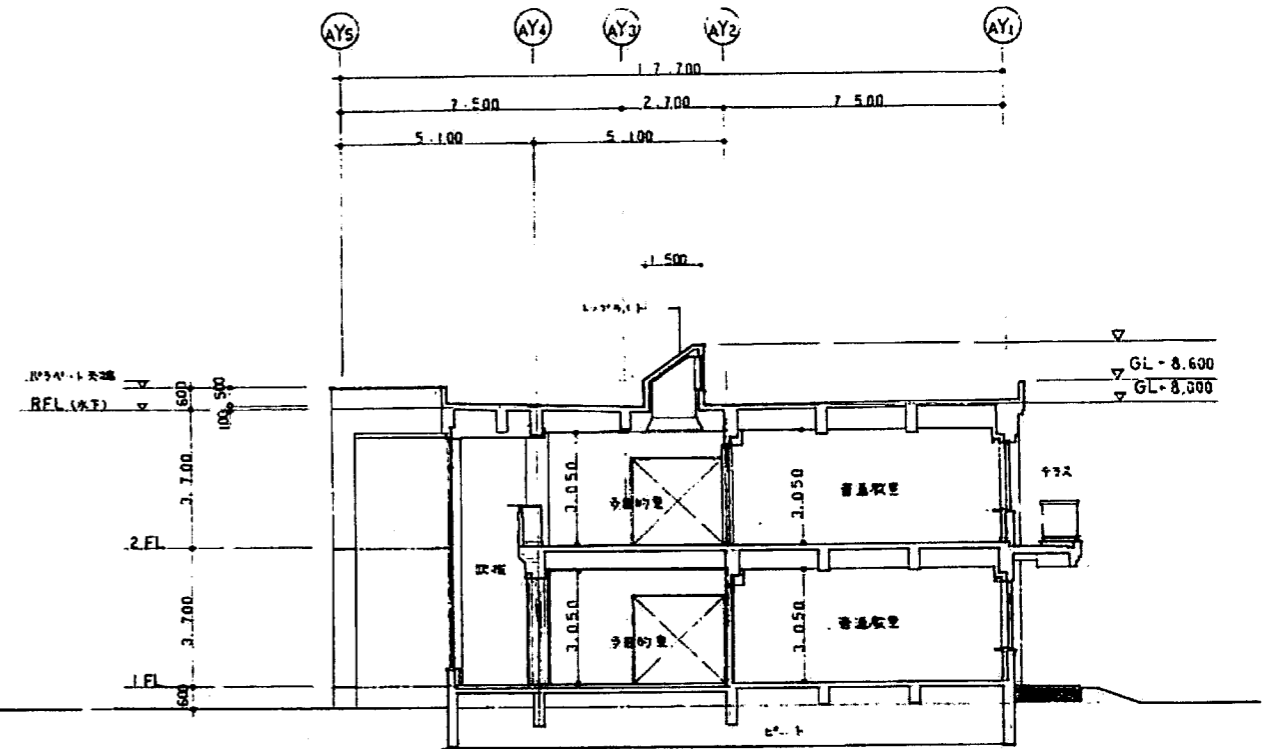


東面 立面図 S=1/200

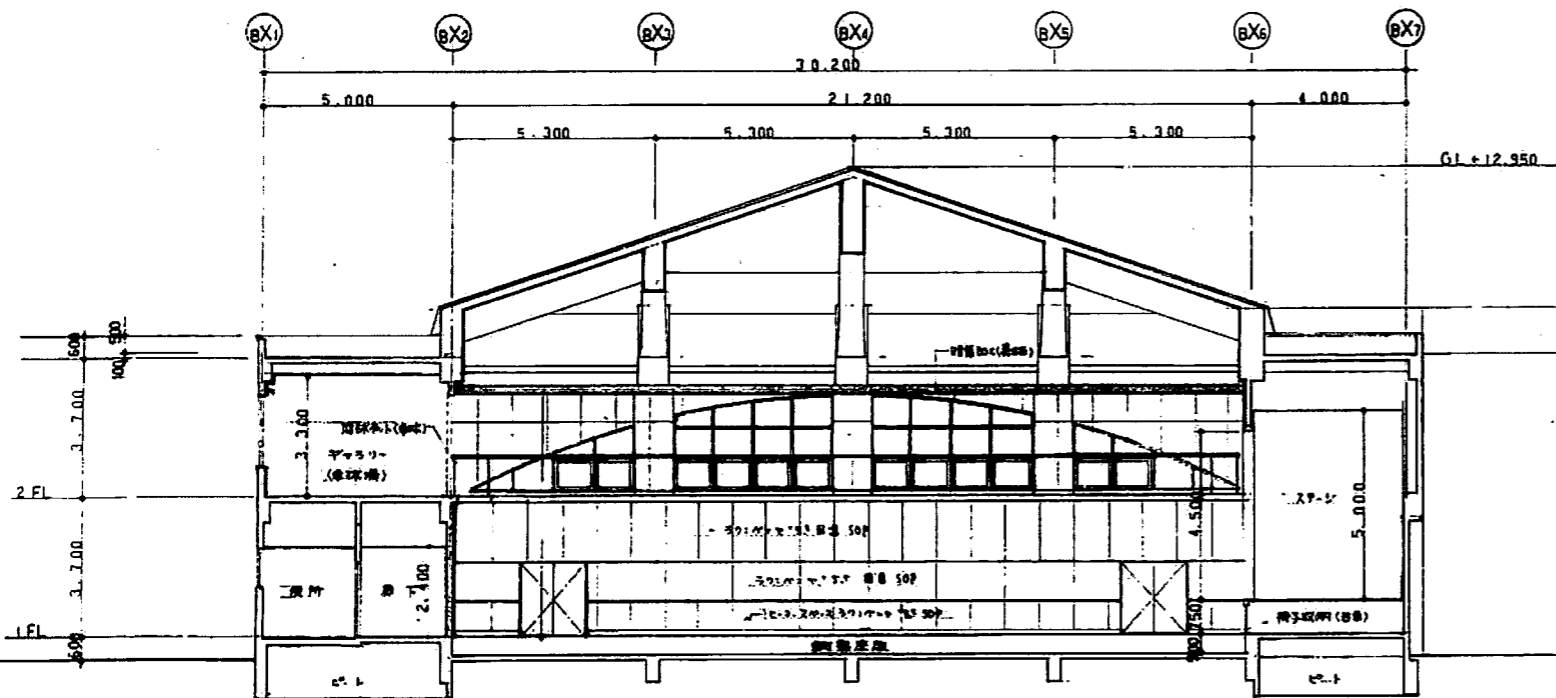
凡例	
(A)	外断熱 EPS t100 フライアッシュパネル 2T掛タイル接着貼
(B)	外断熱 EPS t100 ガルバリウム鋼板 (角波スパンドレル) t0.4
(C)	弾性複層塗材 E
(D)	金属部塗装 DP
(E)	屋根板金塗装



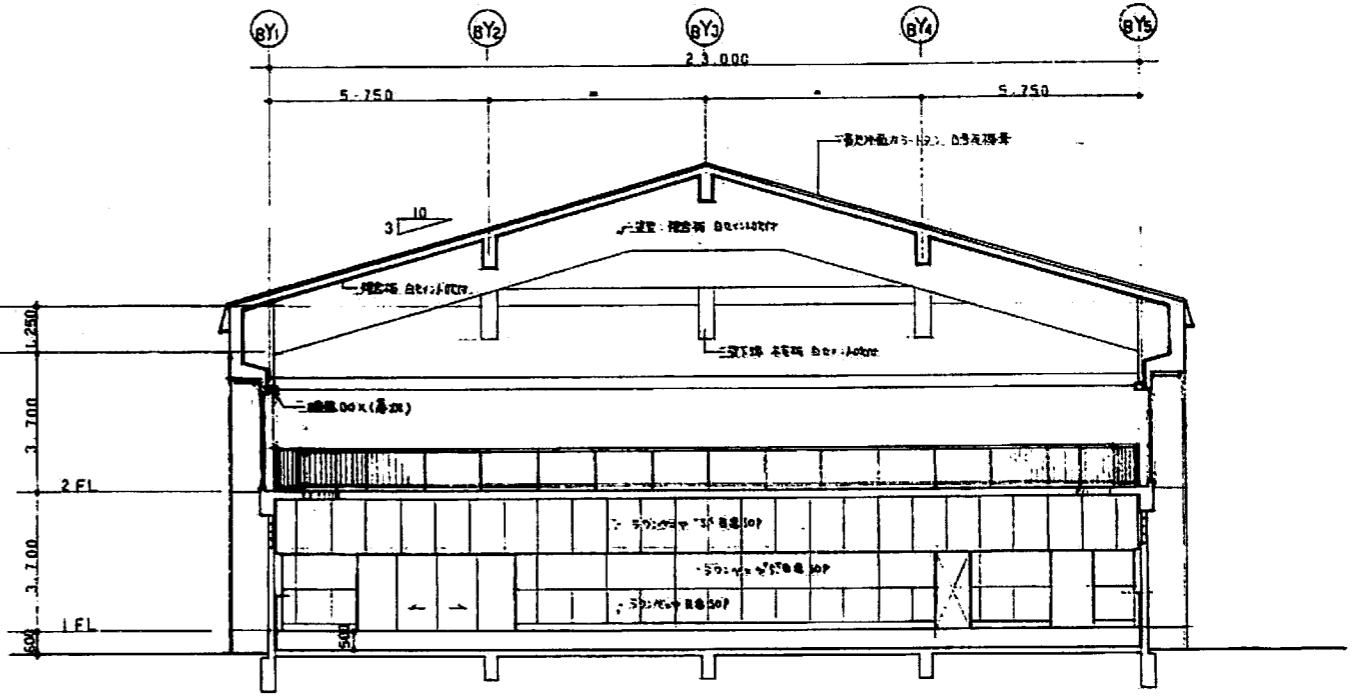
校舎棟 断面図 (1)



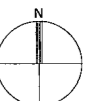
校舎棟 断面図 (2)

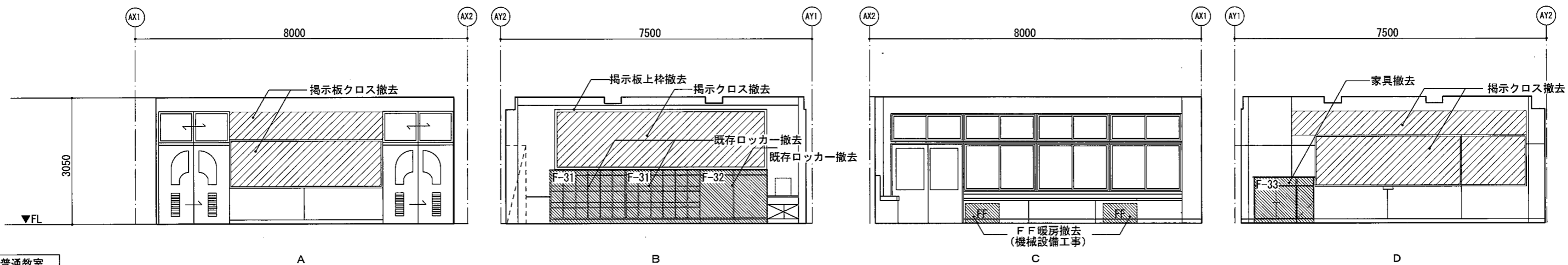
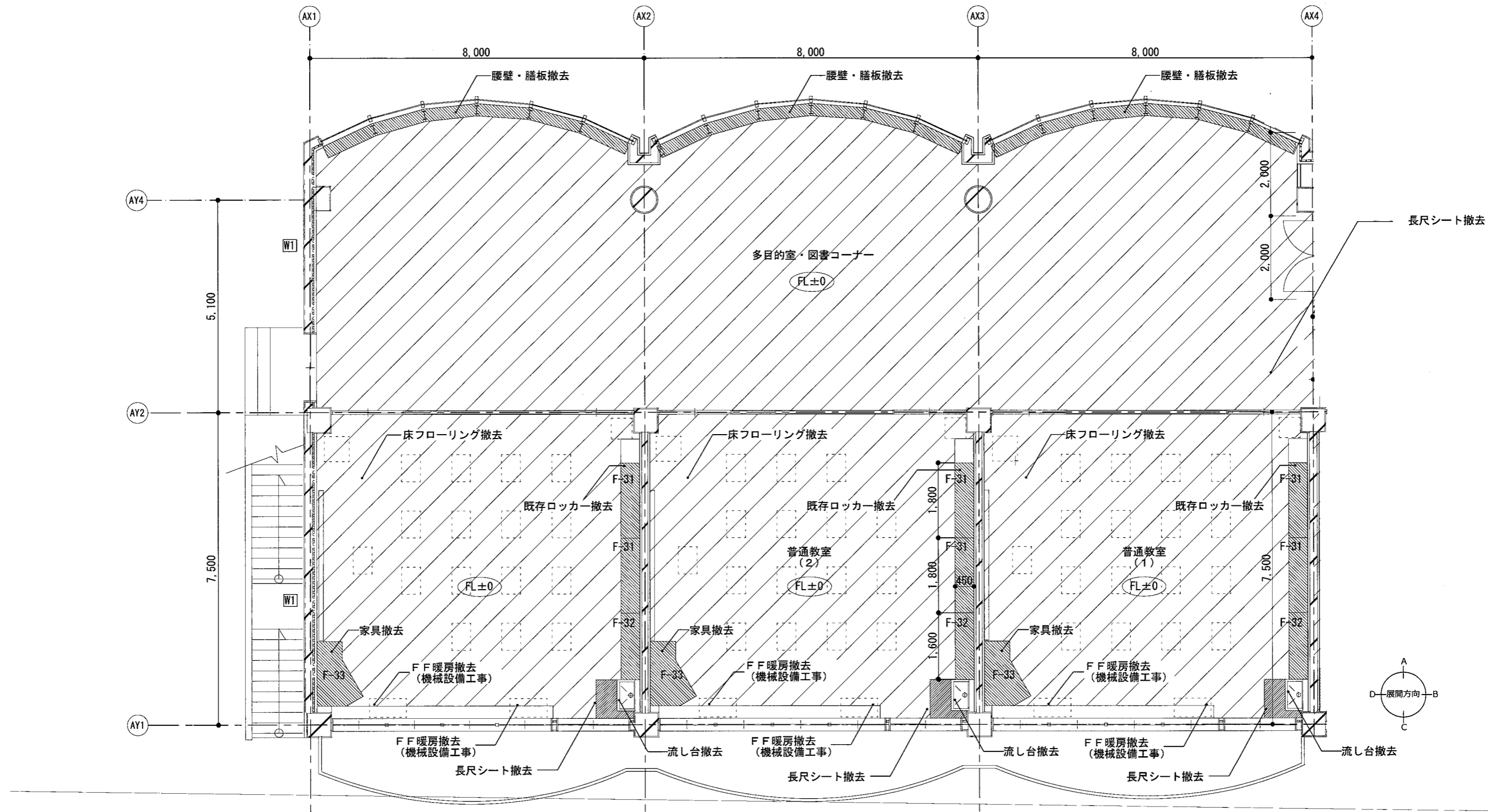


屋内体育館棟 断面図 (1)

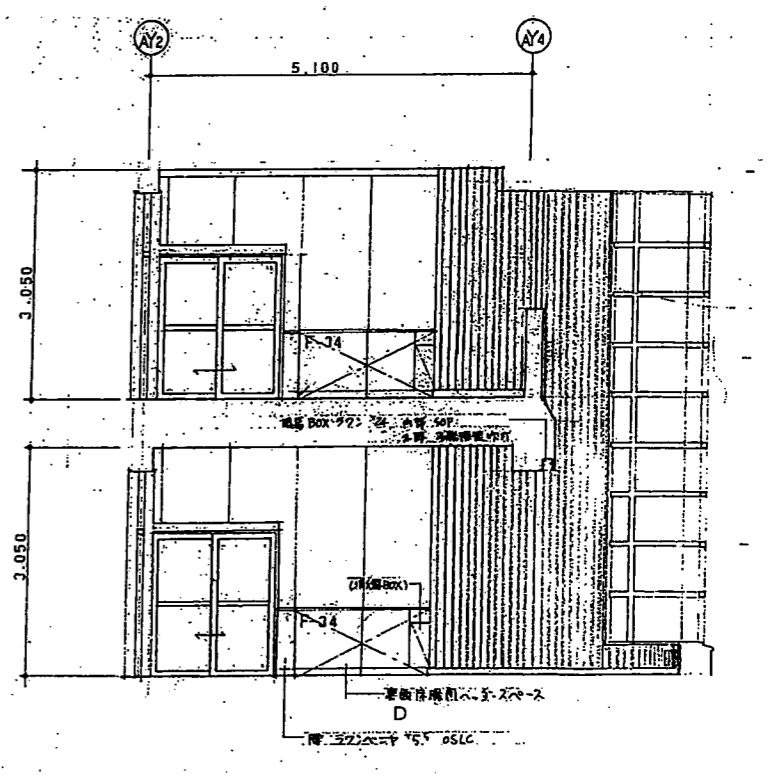
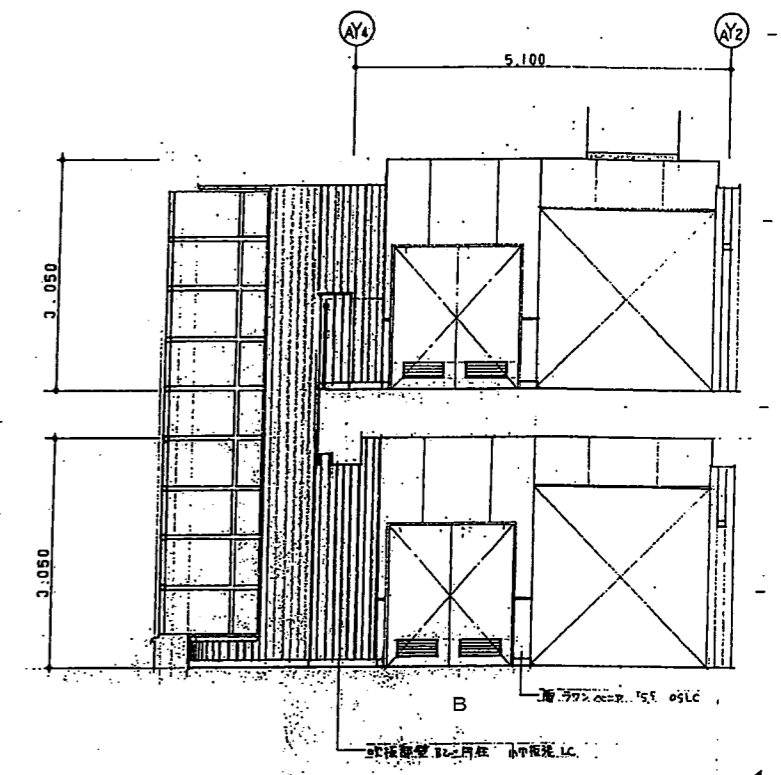
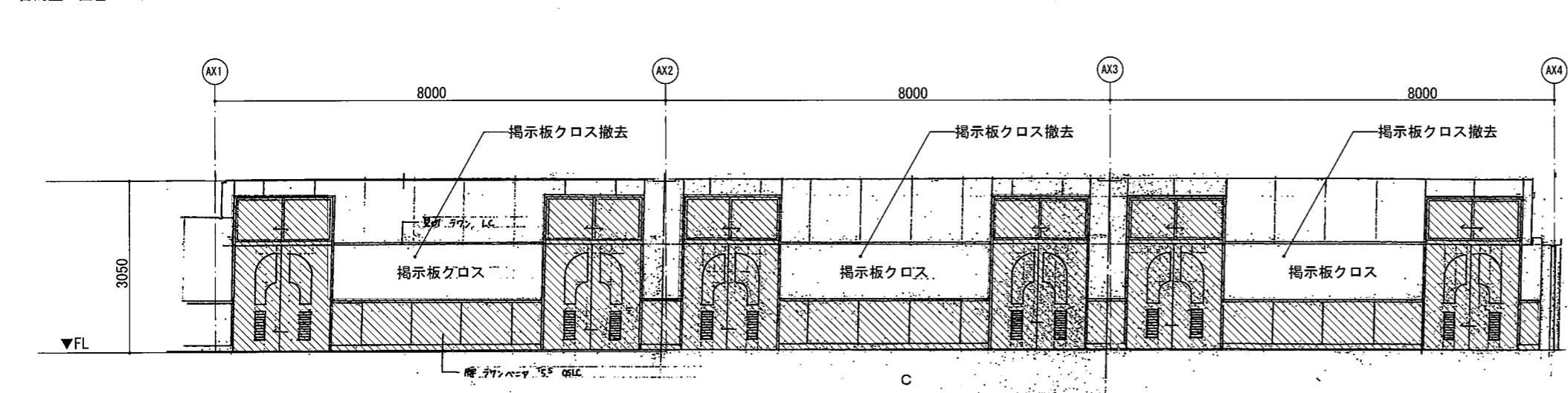
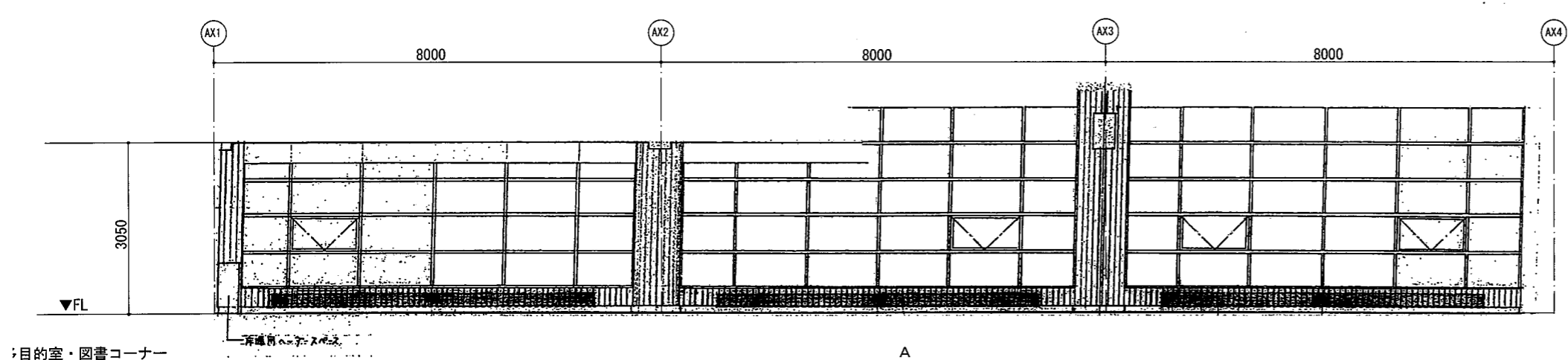
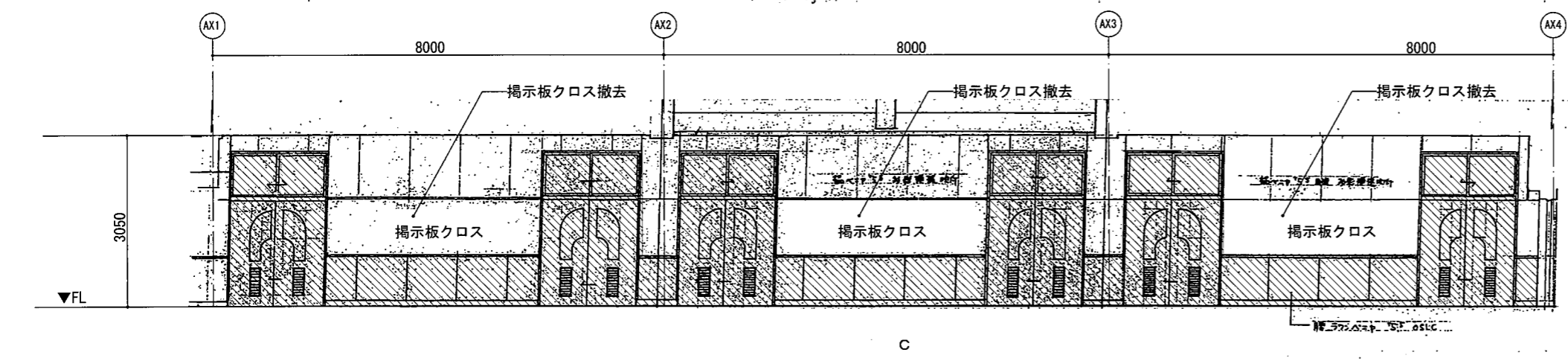
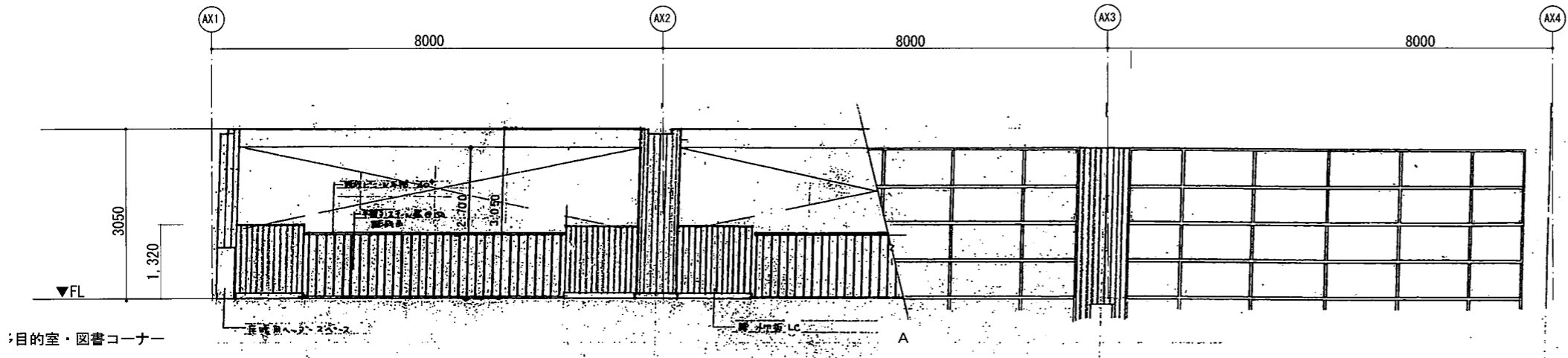


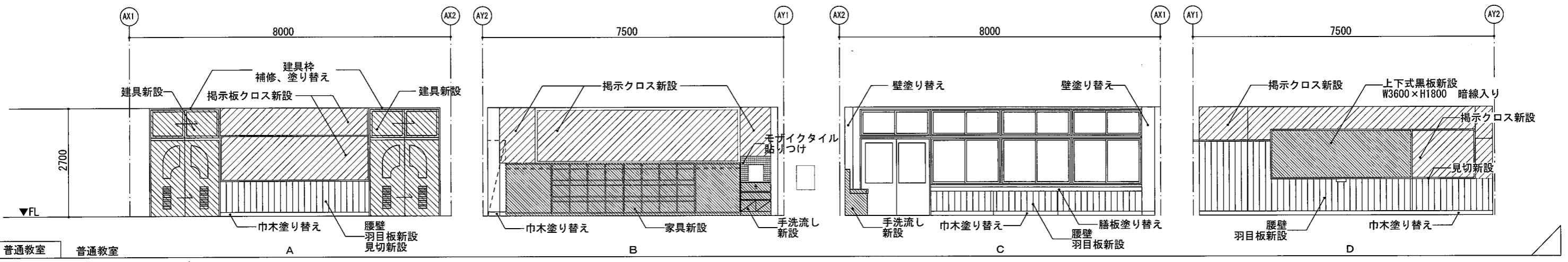
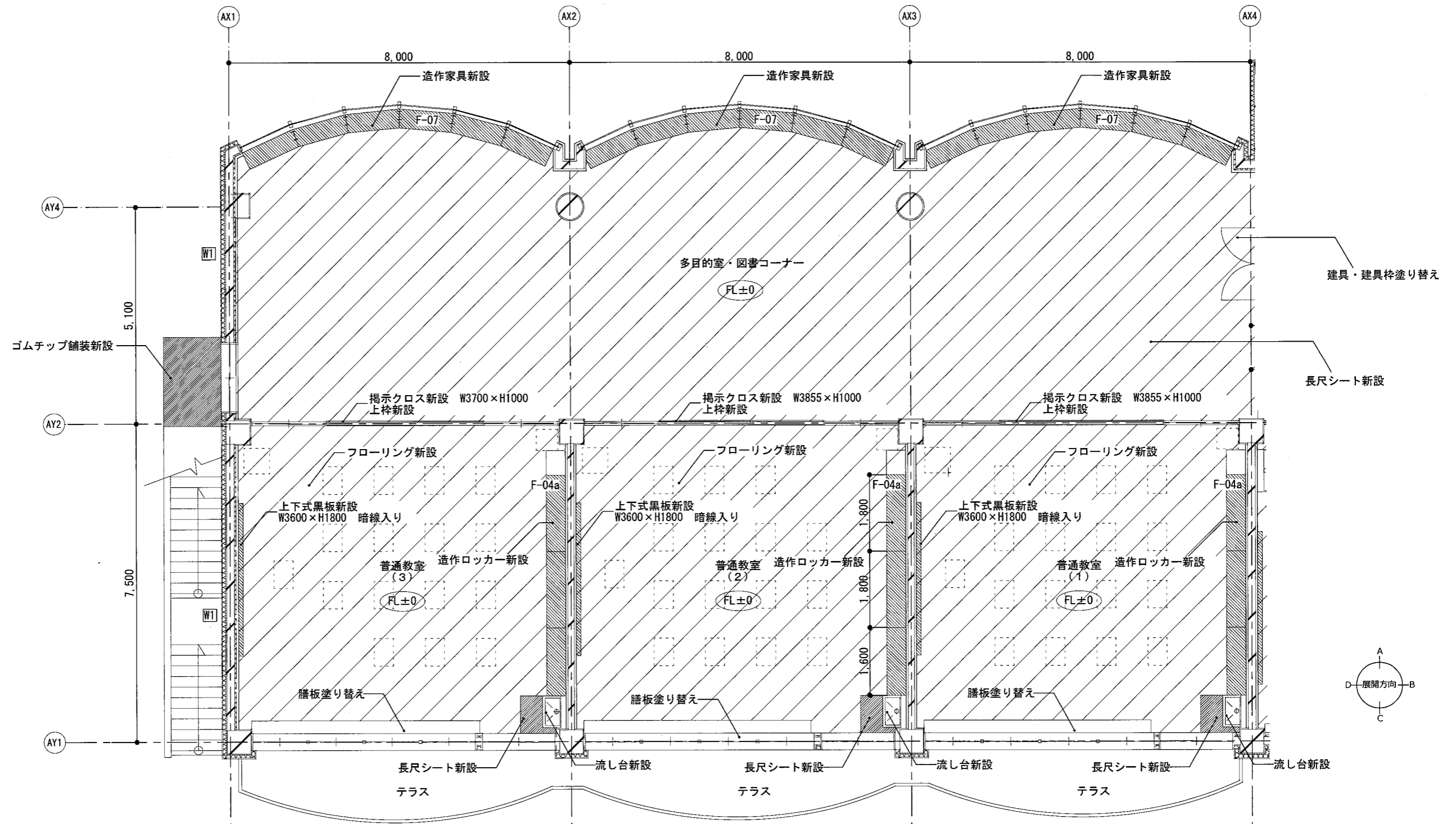
屋内体育館棟 断面図 (2)

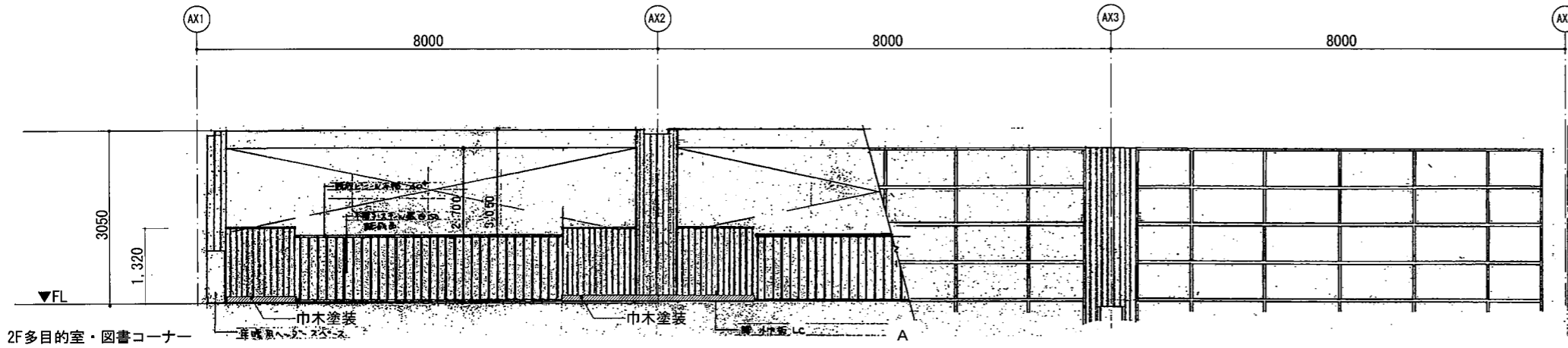




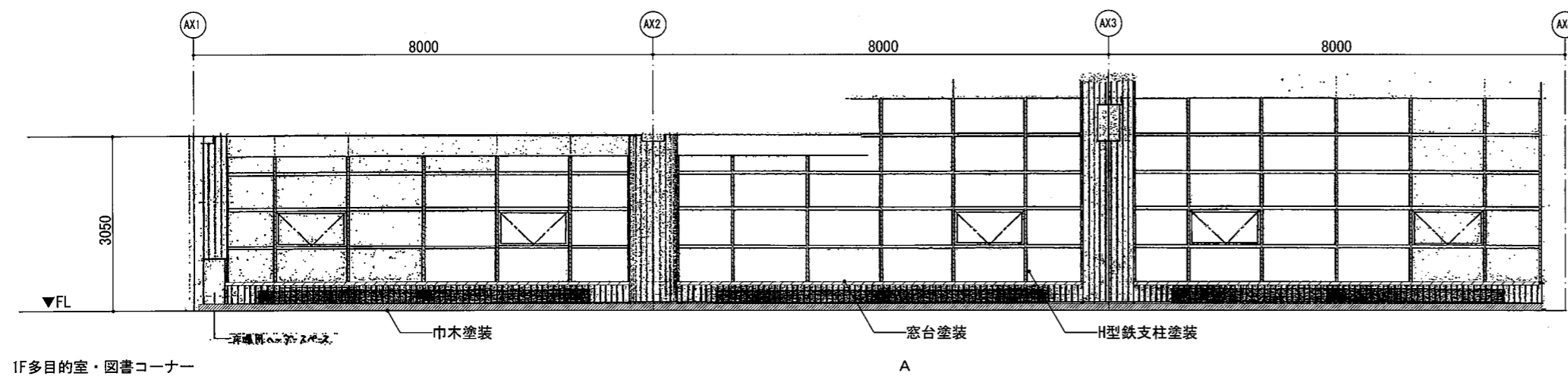
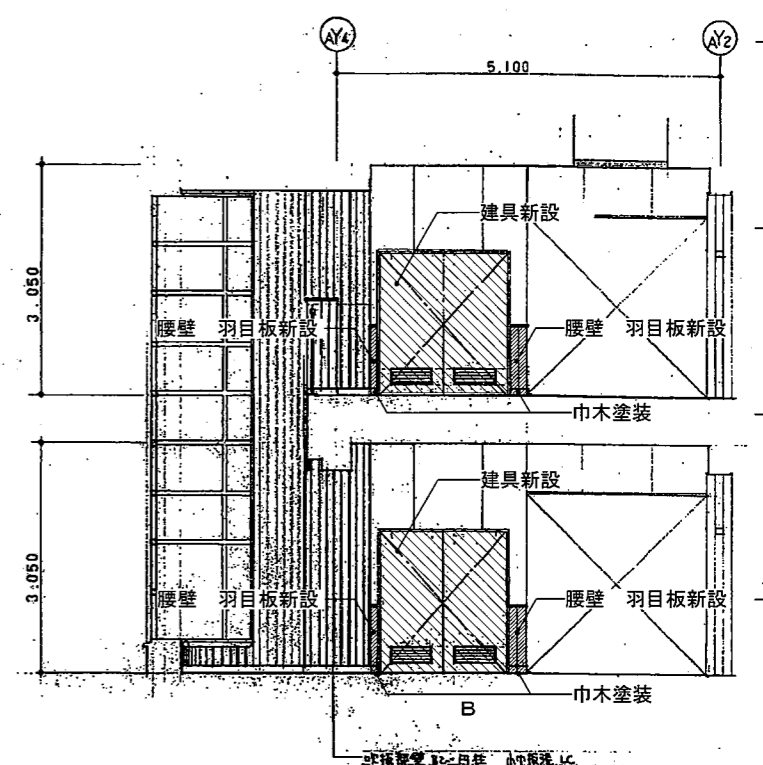
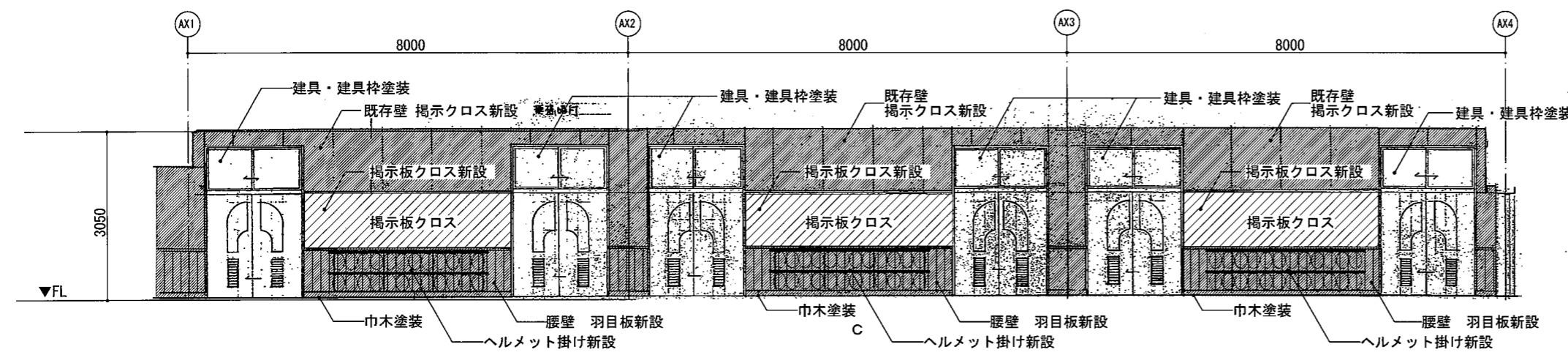
普通教室 A B C D



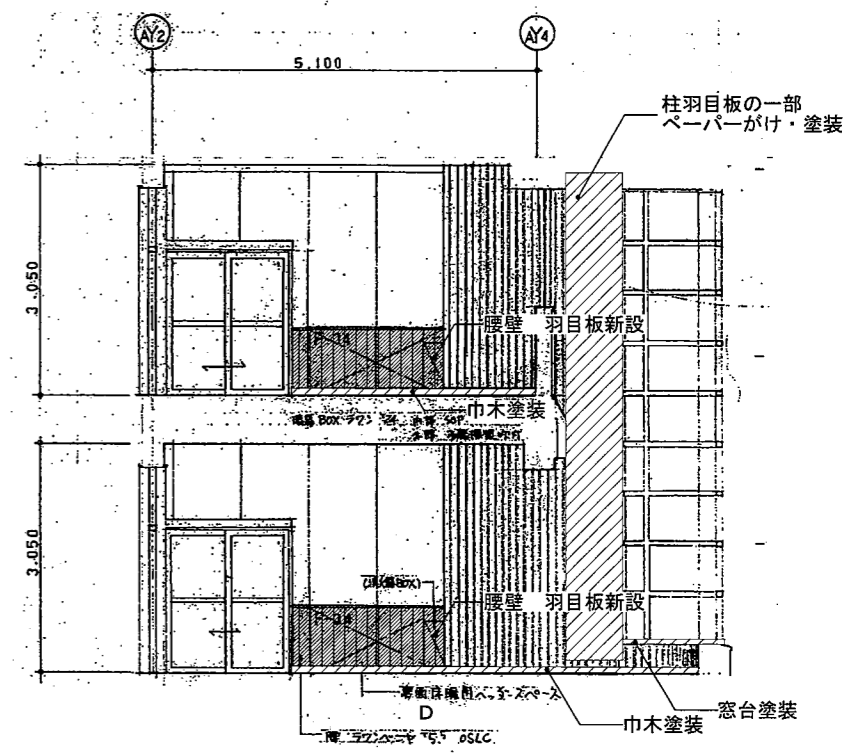
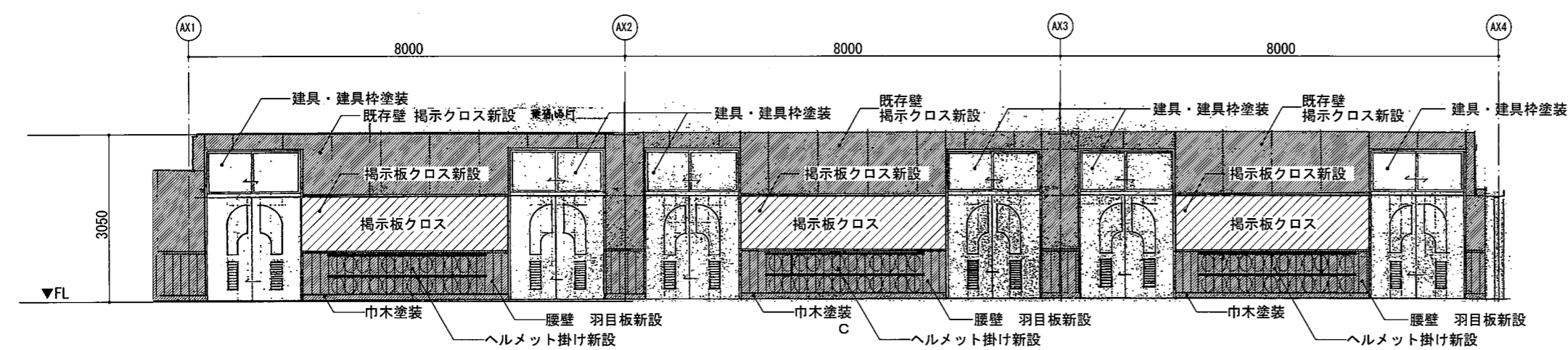


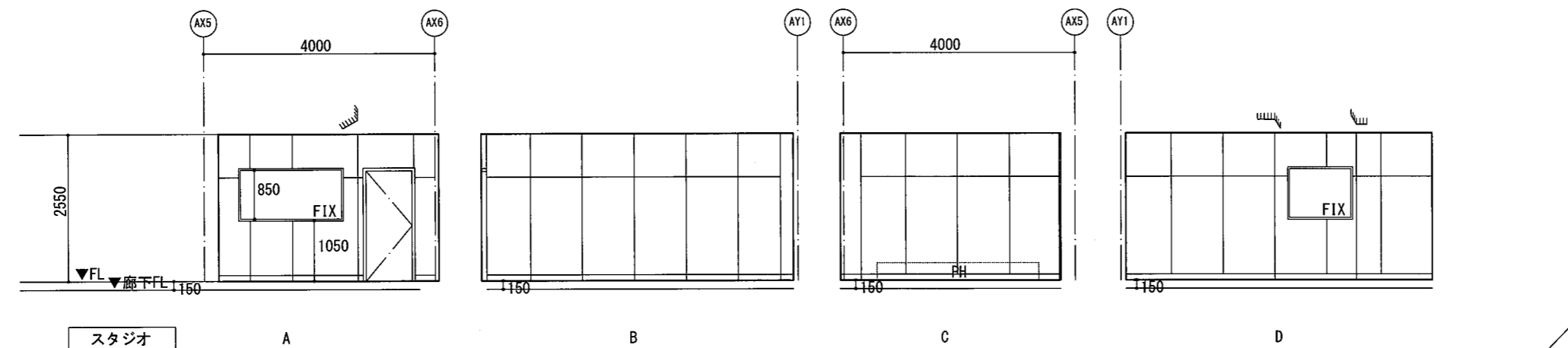
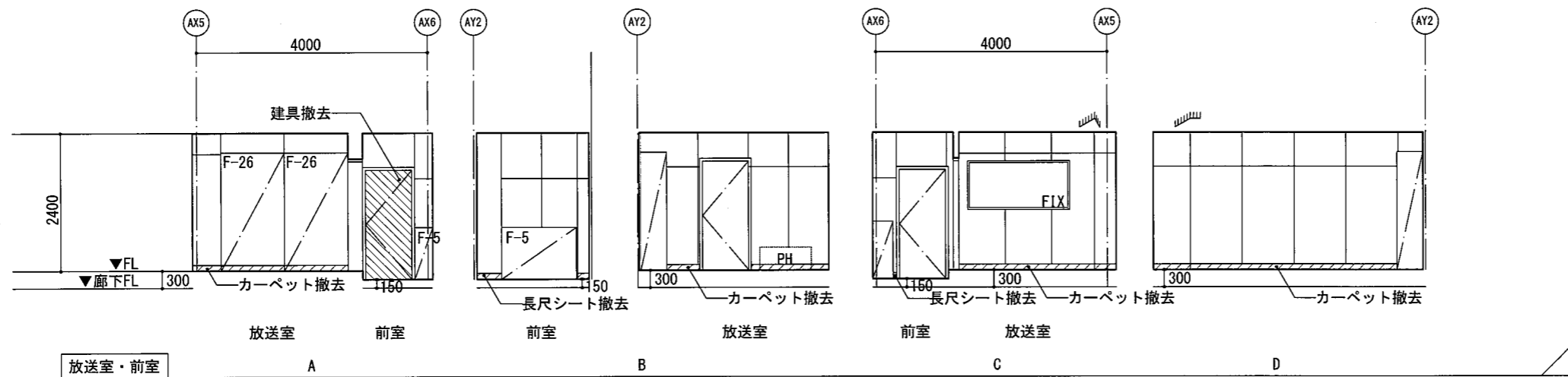
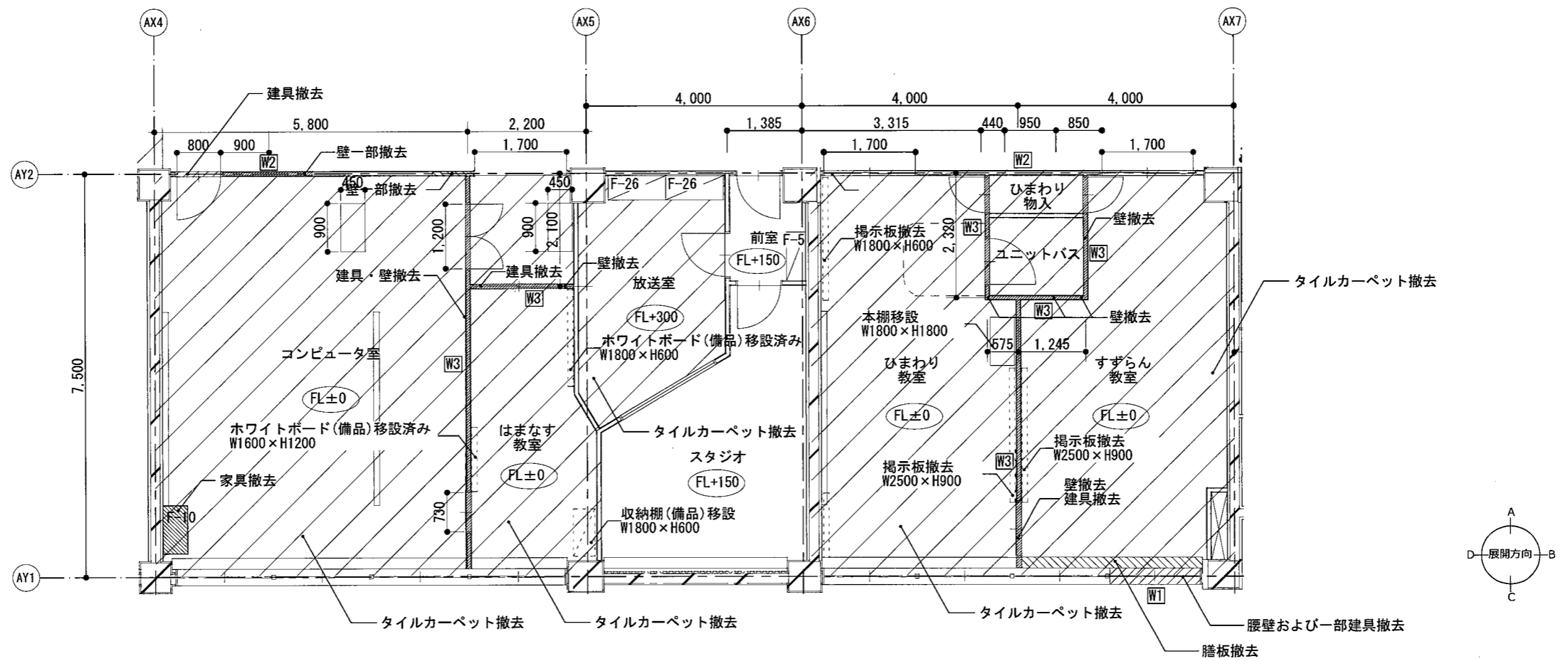


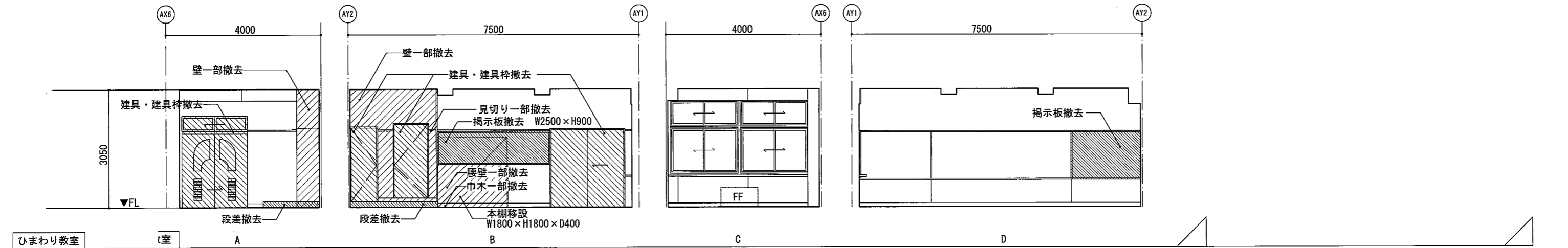
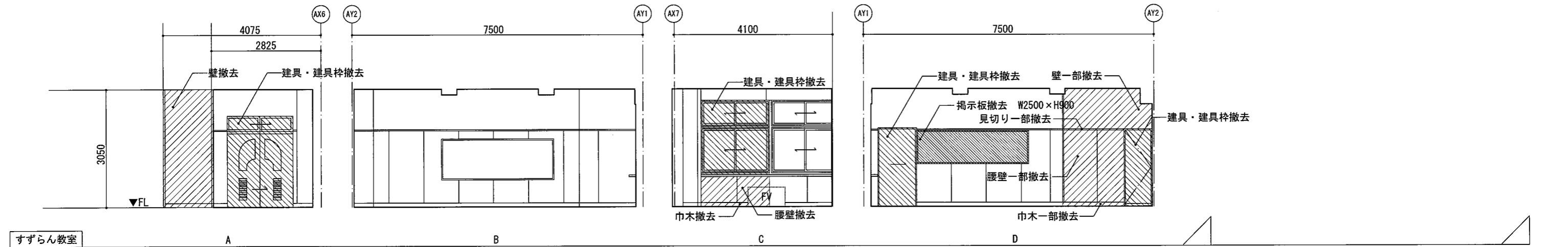
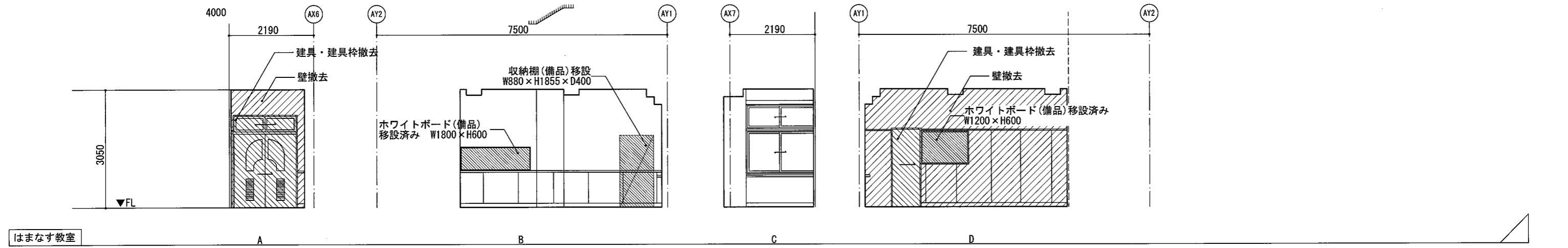
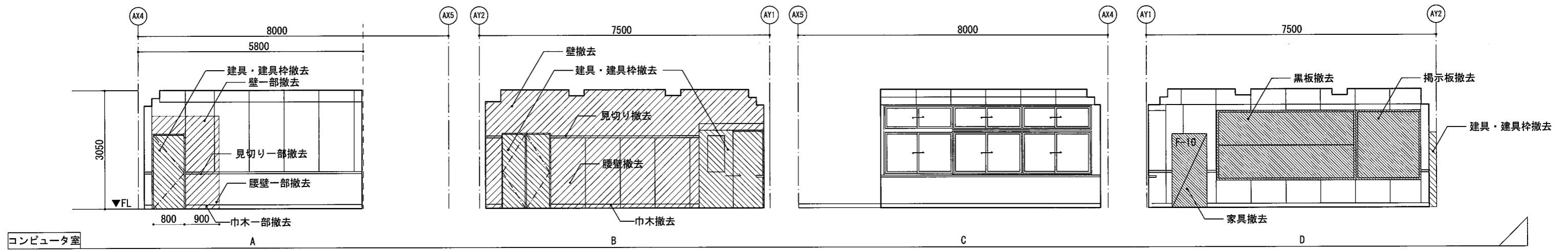
2F多目的室・図書コーナー

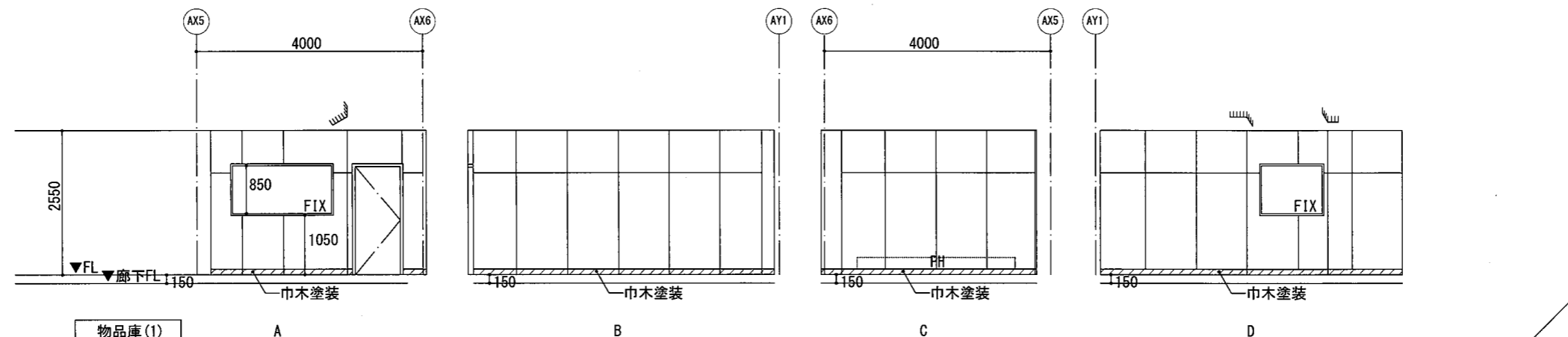
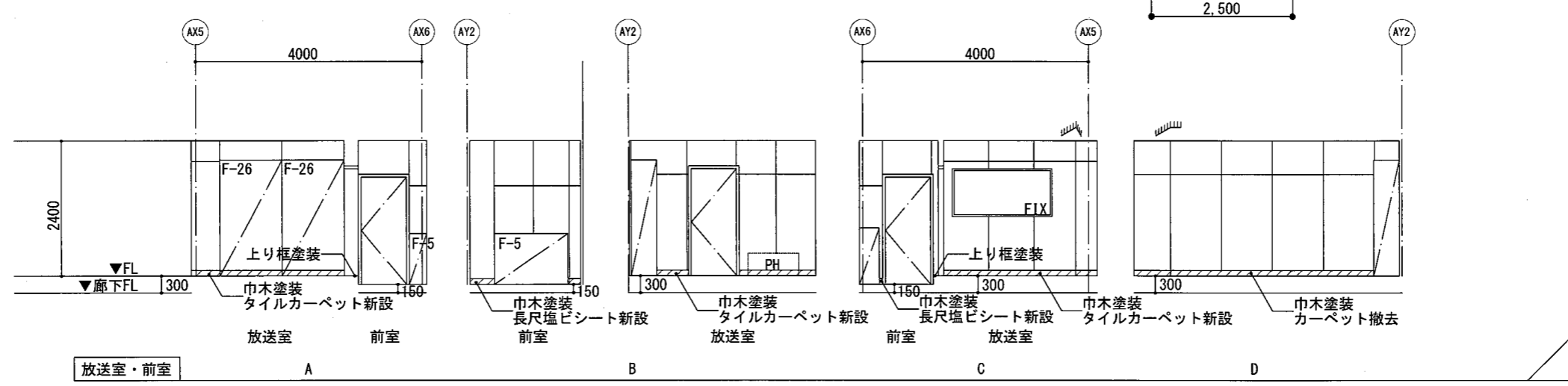
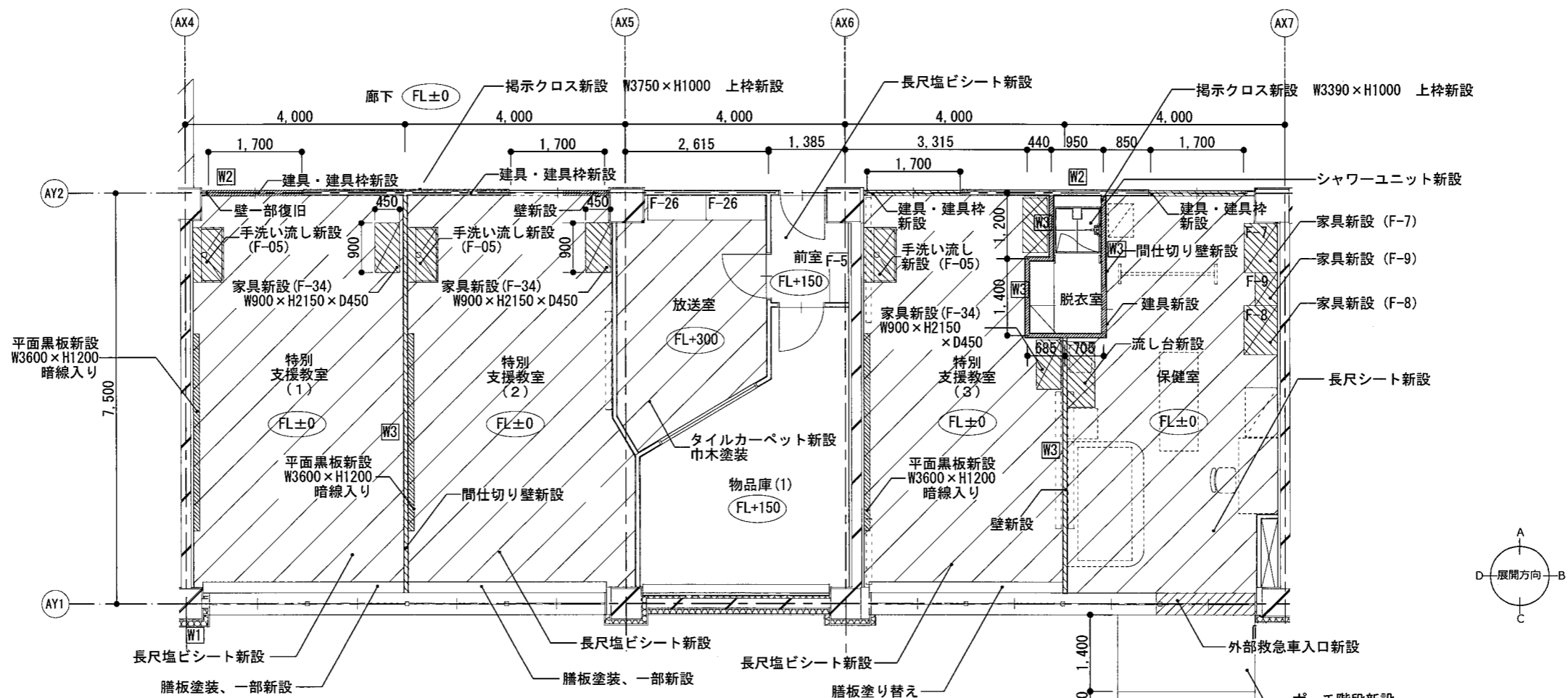


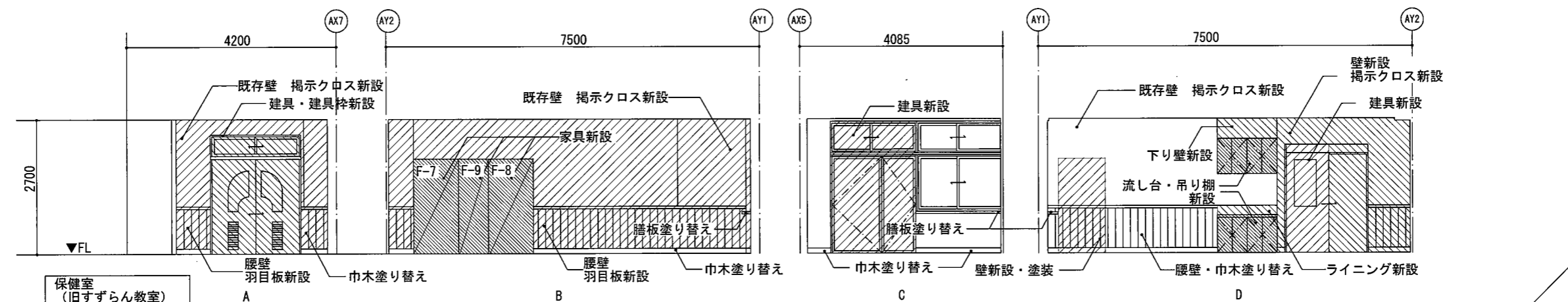
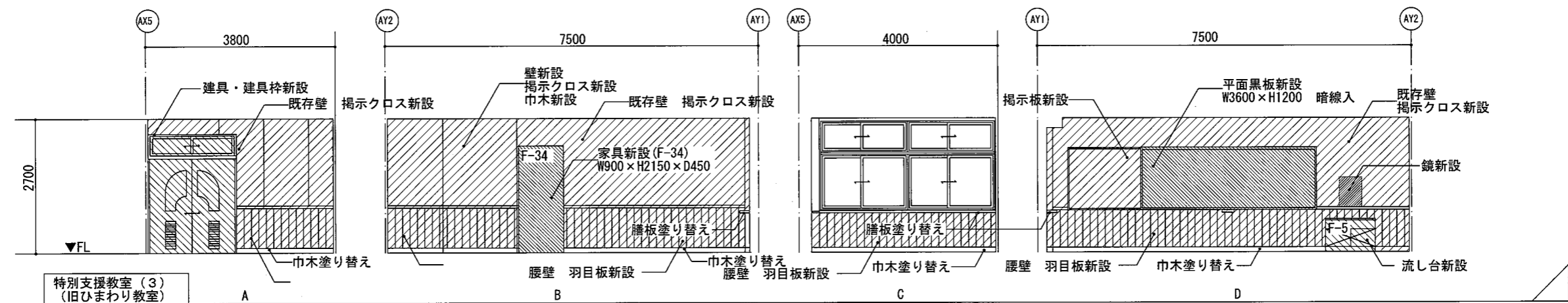
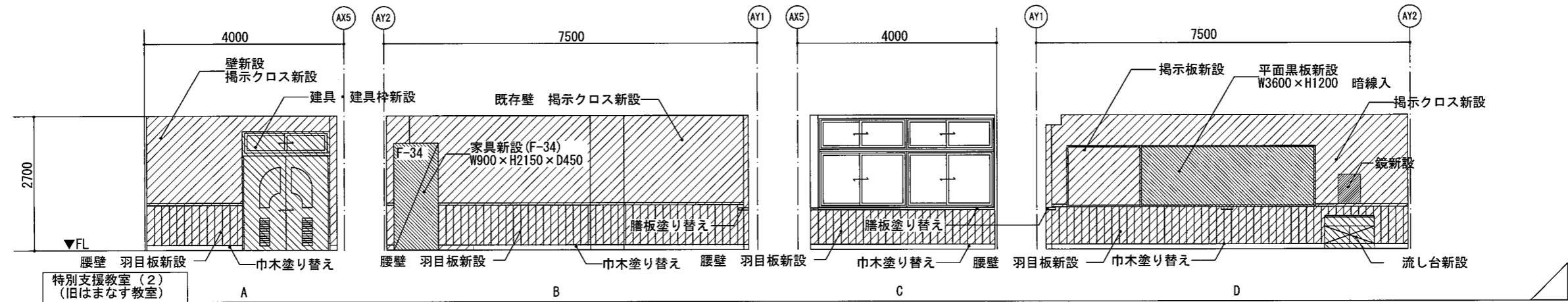
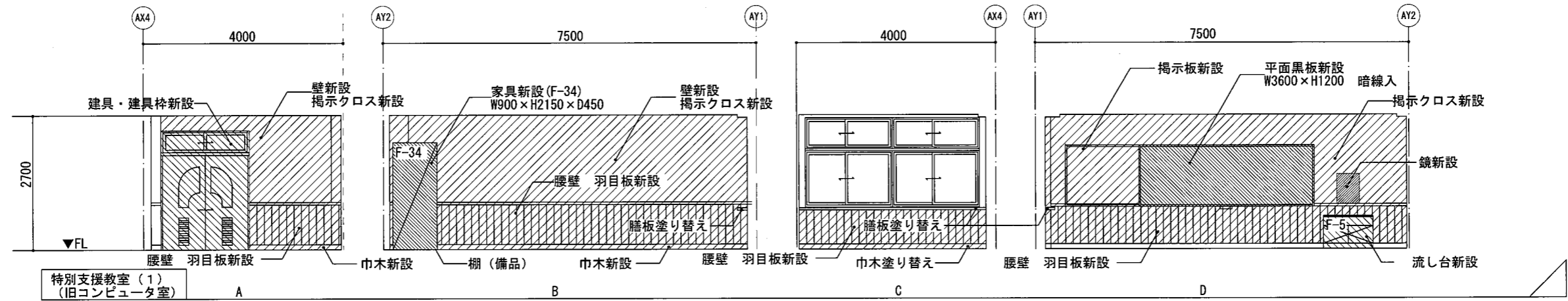
1F多目的室・図書コーナー

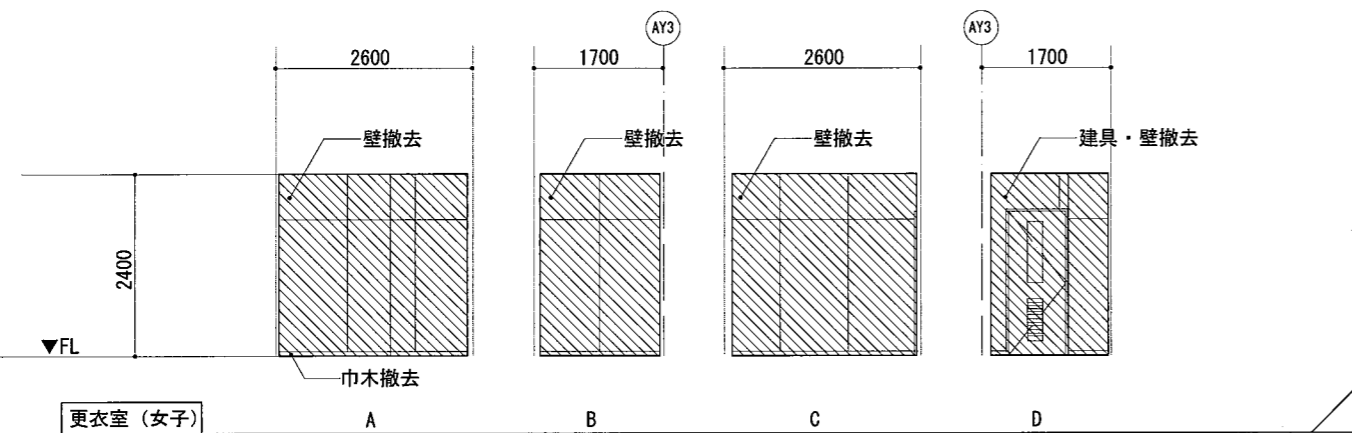
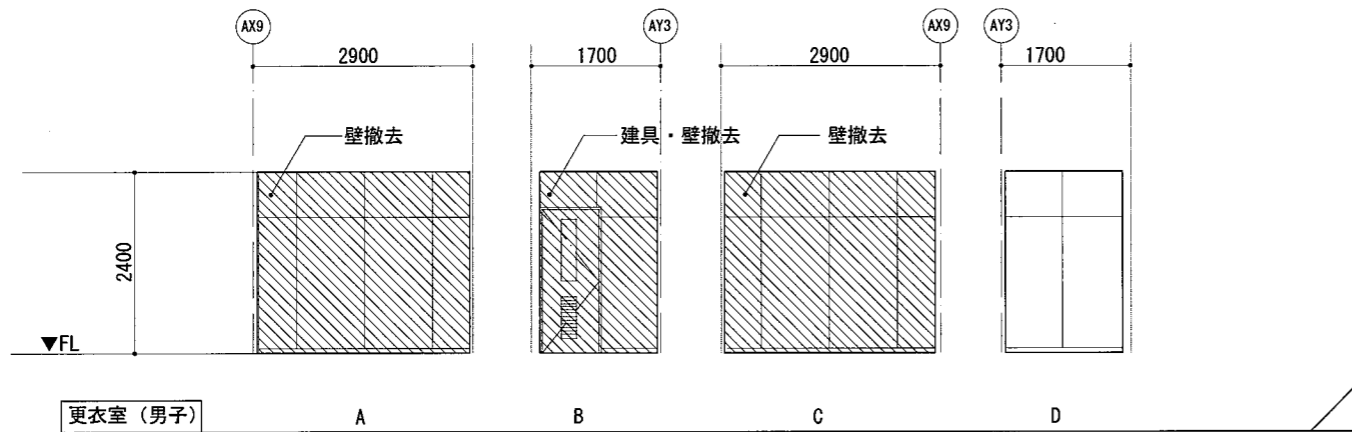
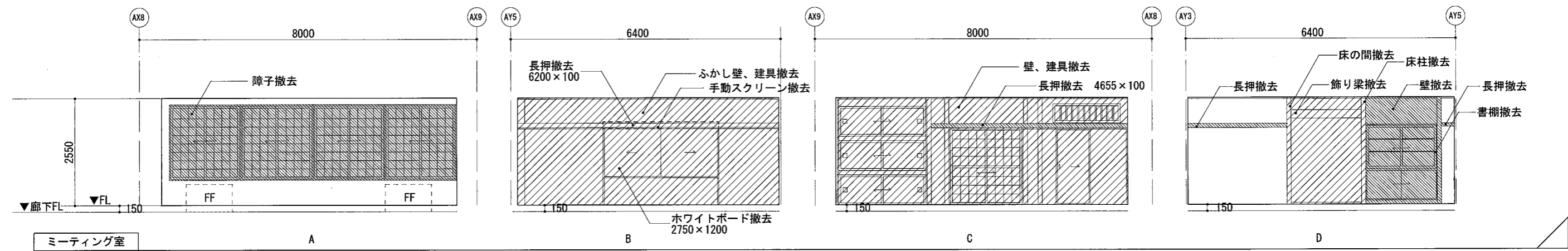
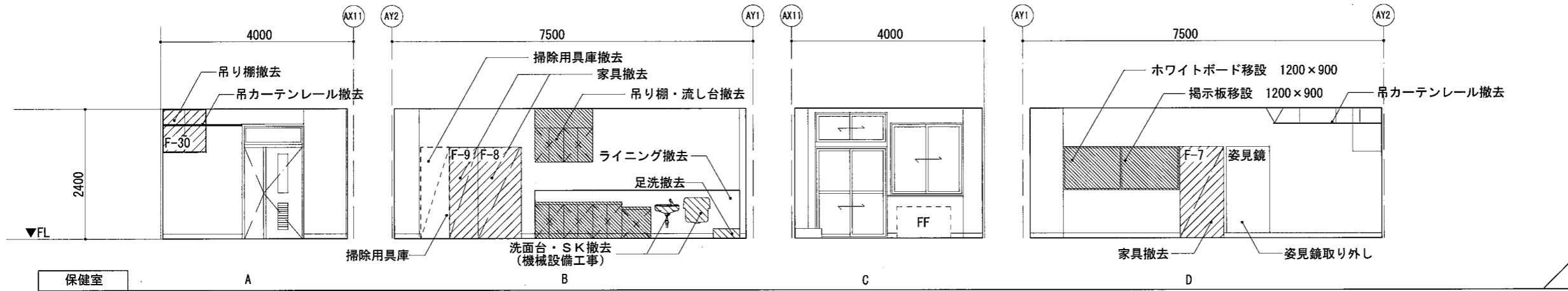


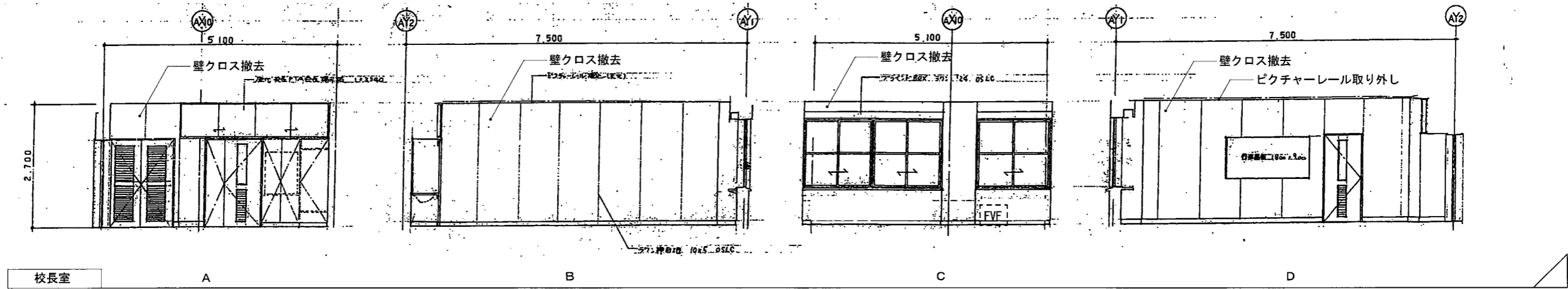
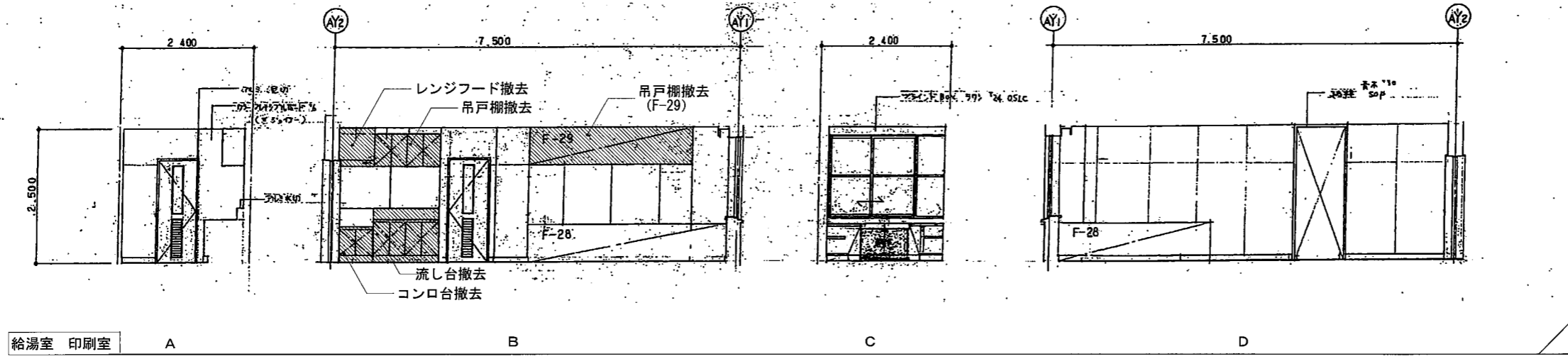
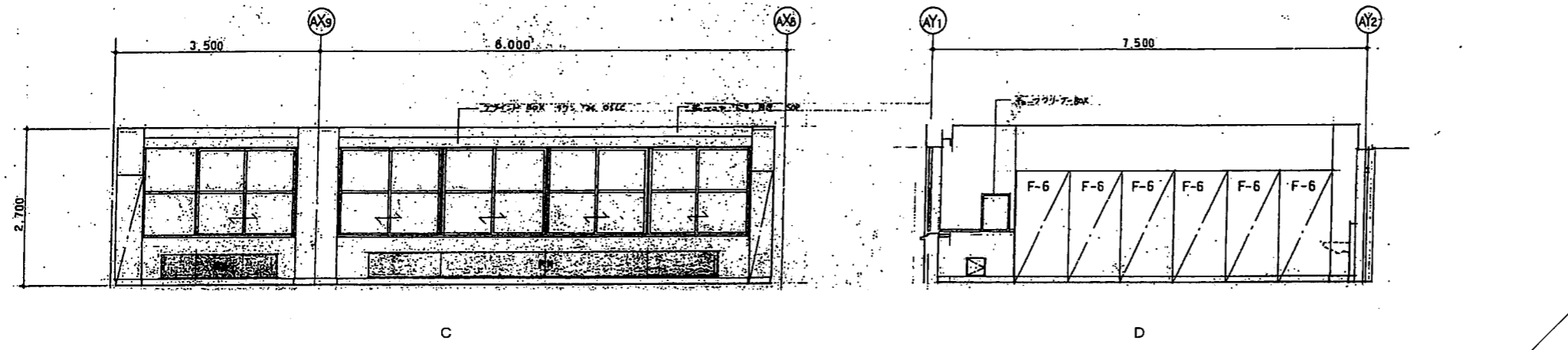
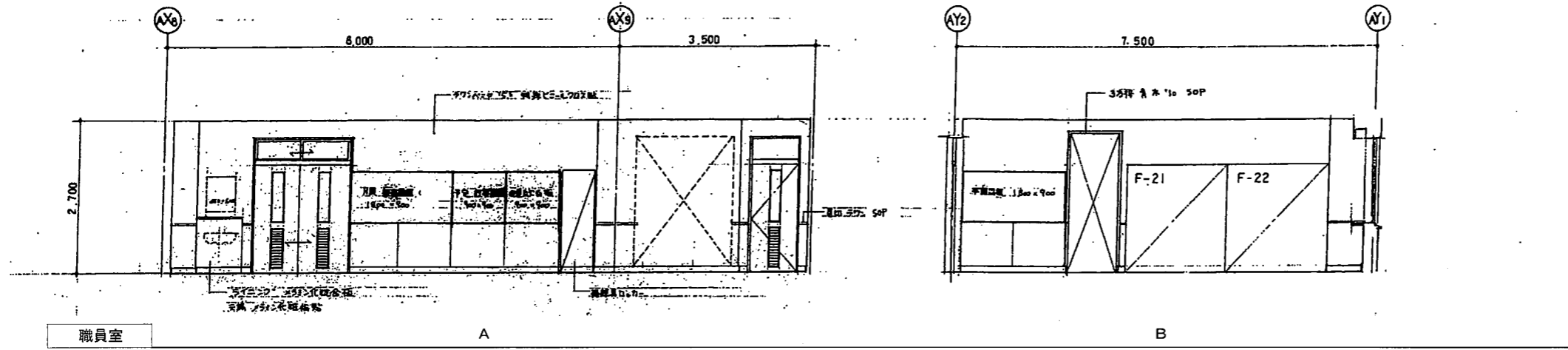


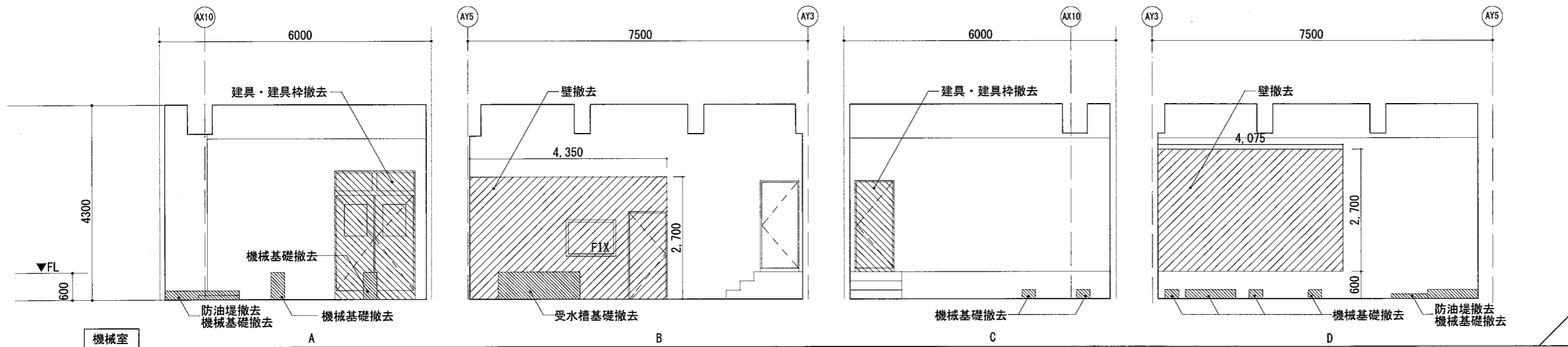
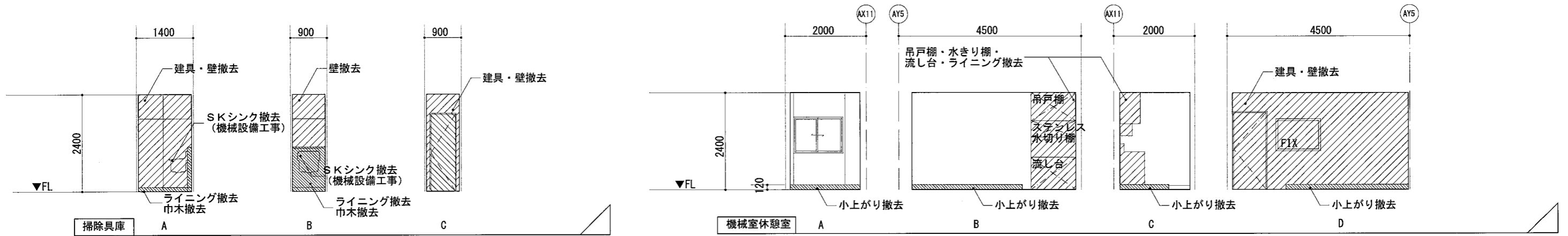
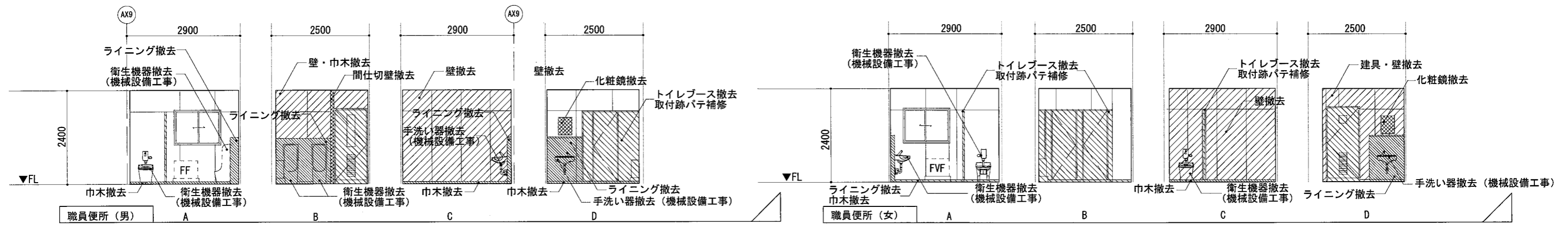


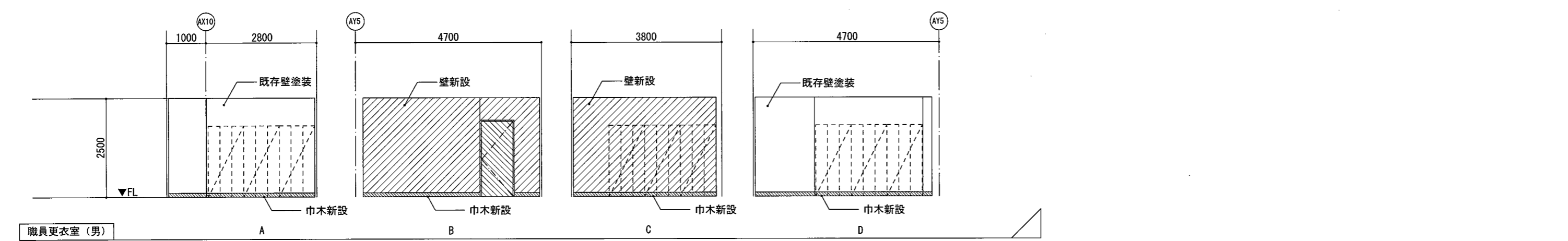
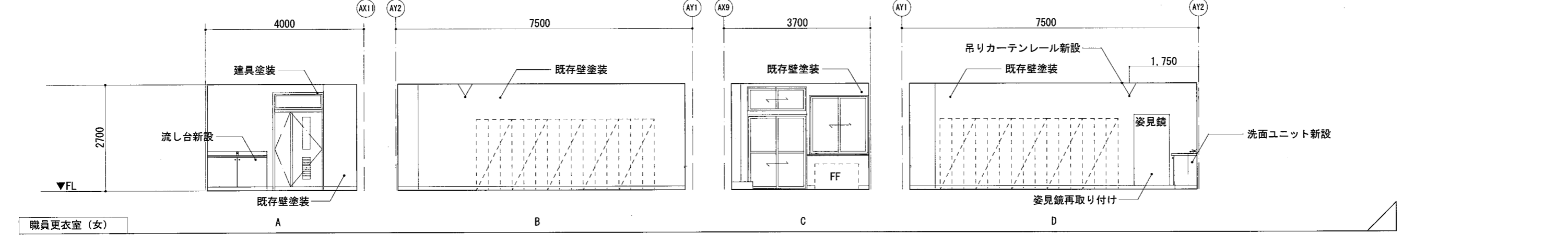
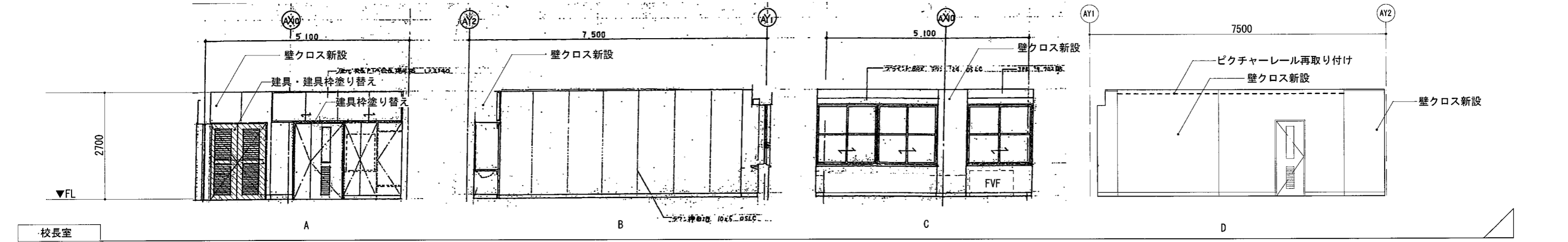
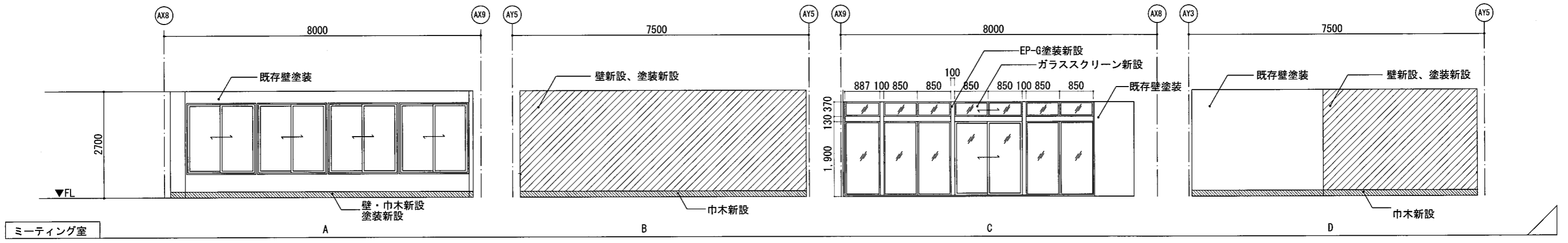


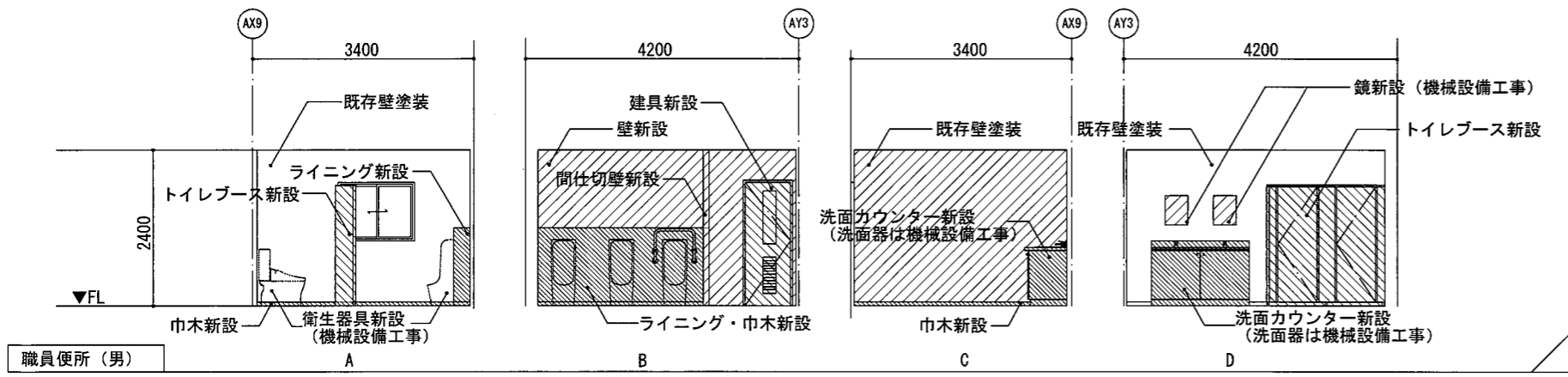




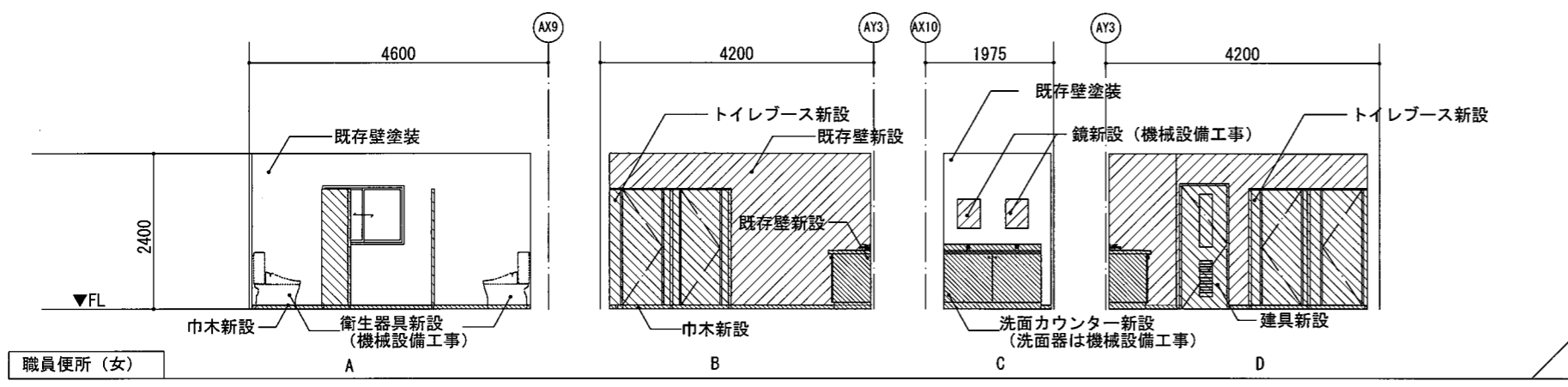




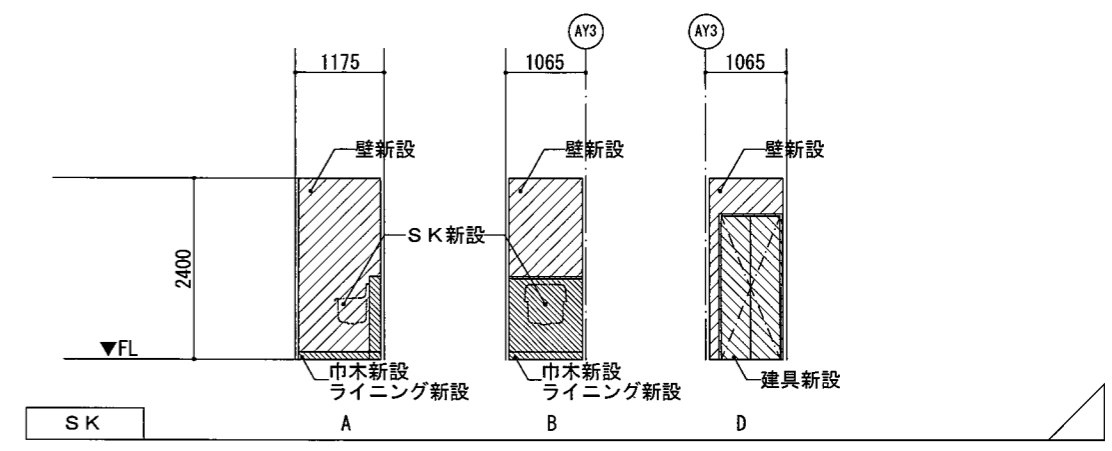




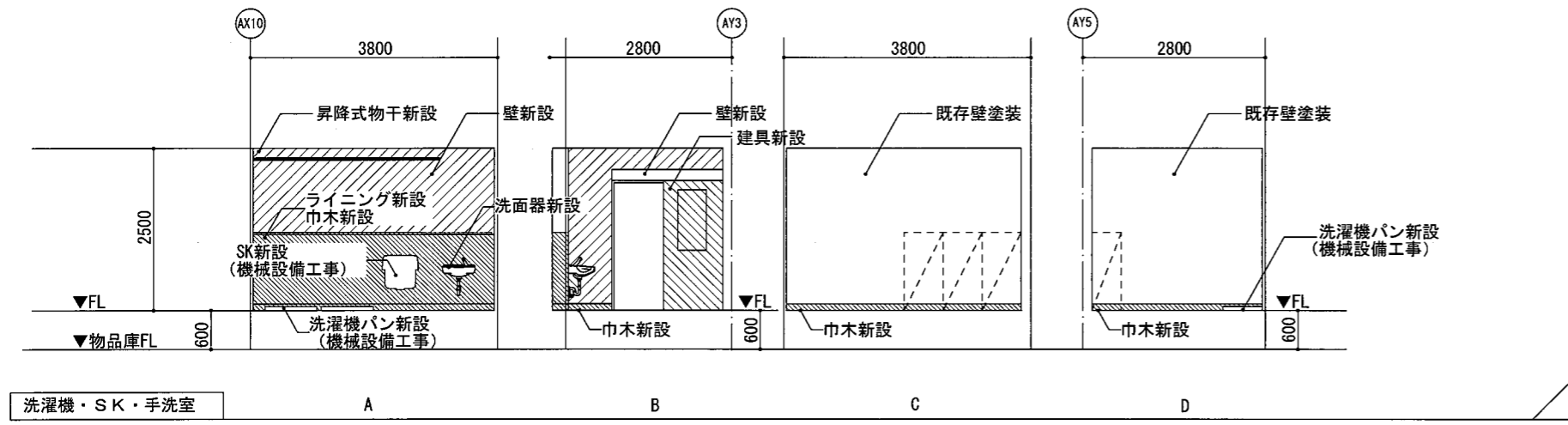
職員便所 (男)



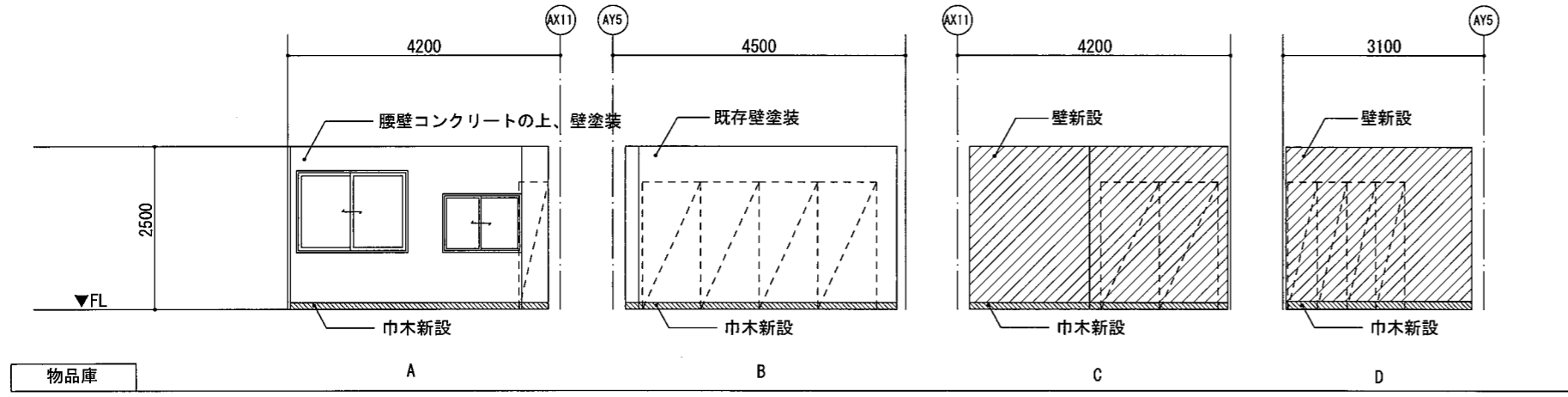
職員便所 (女)



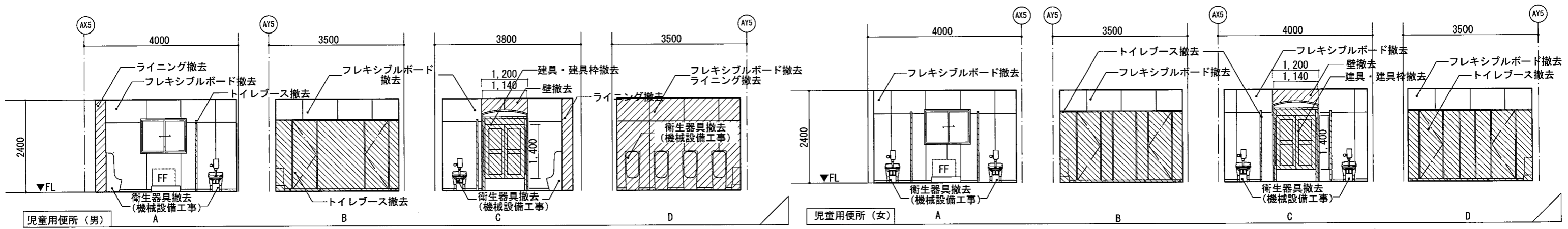
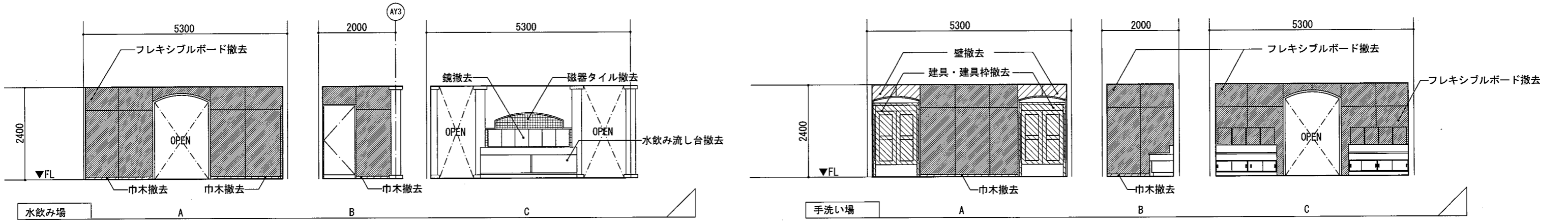
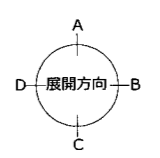
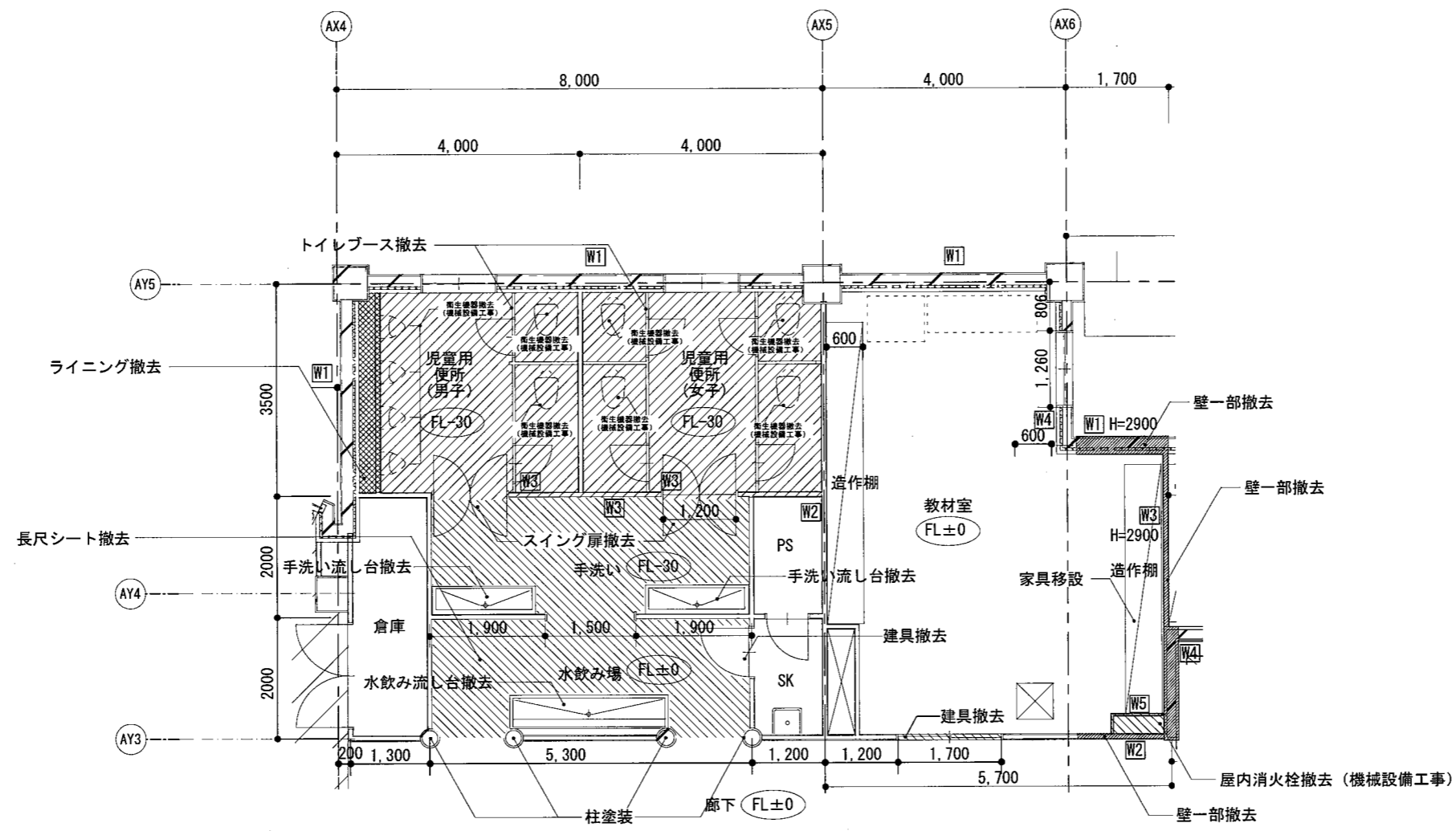
SK

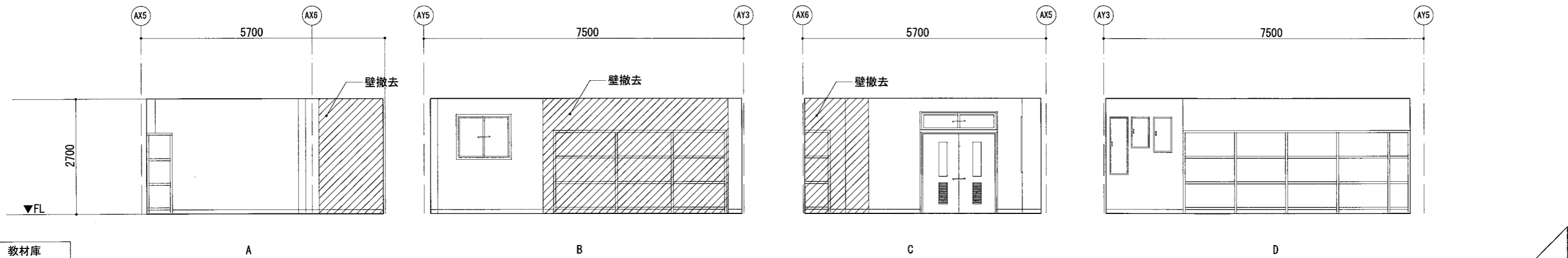


洗濯機・SK・手洗室

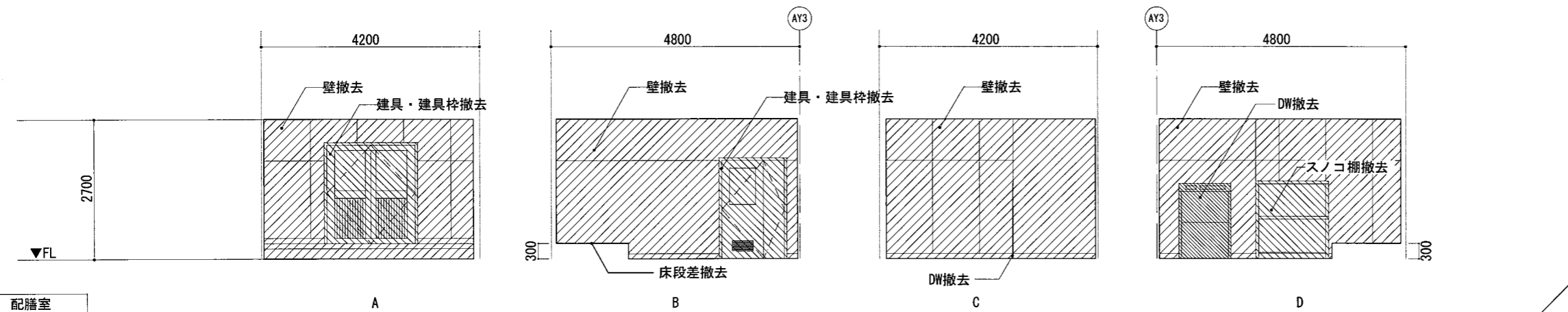


物品庫

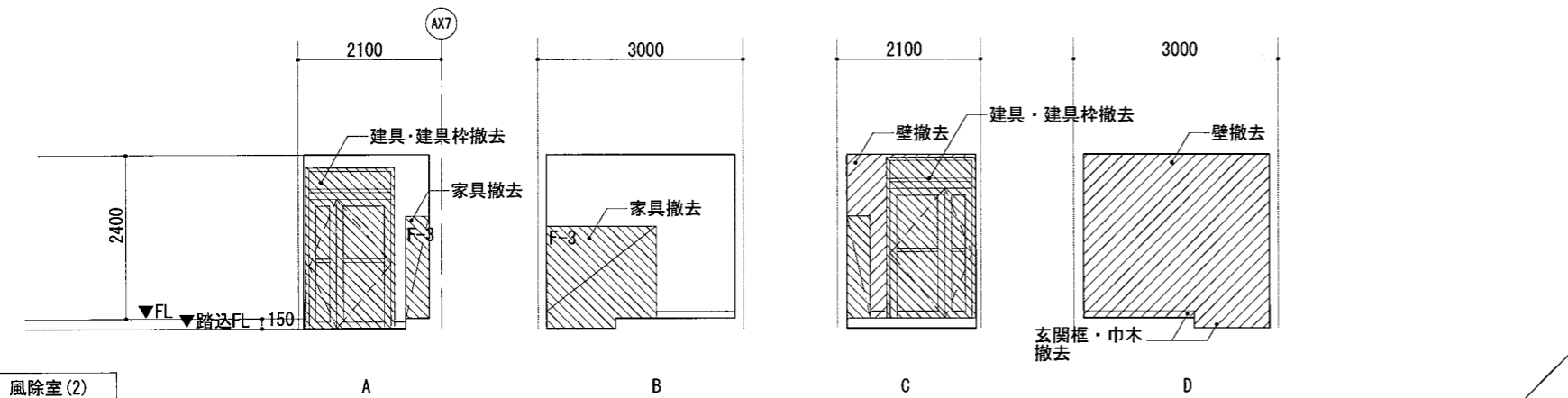




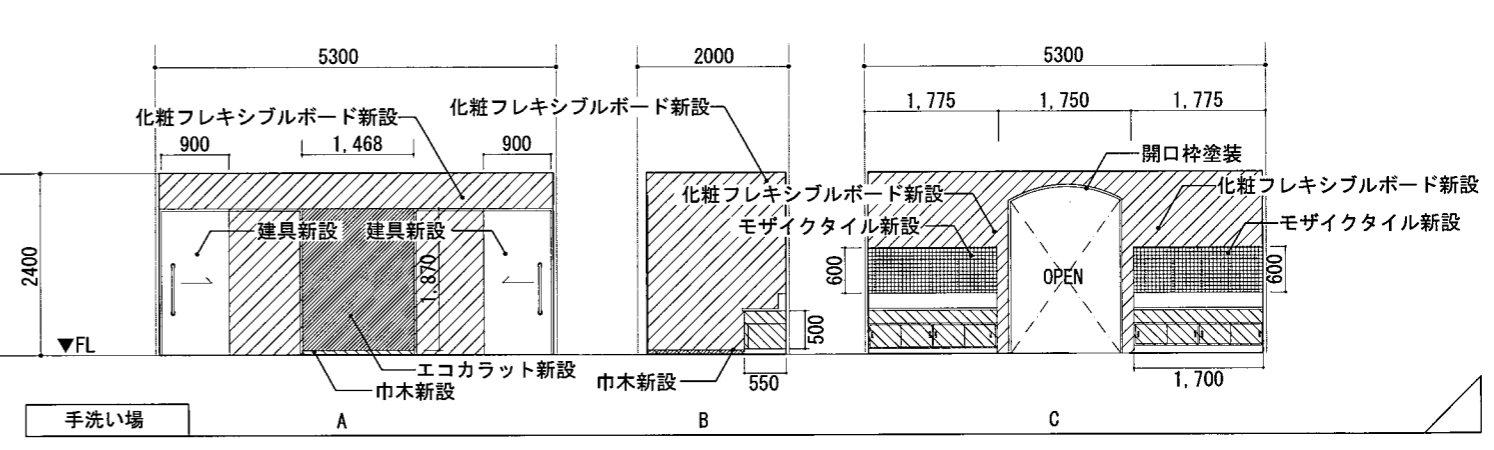
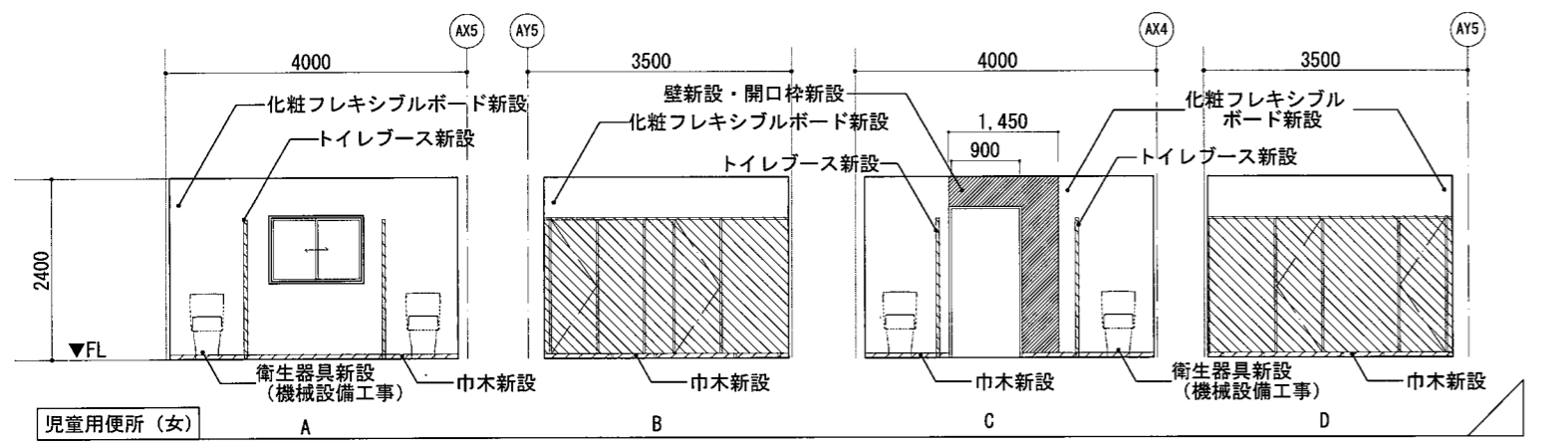
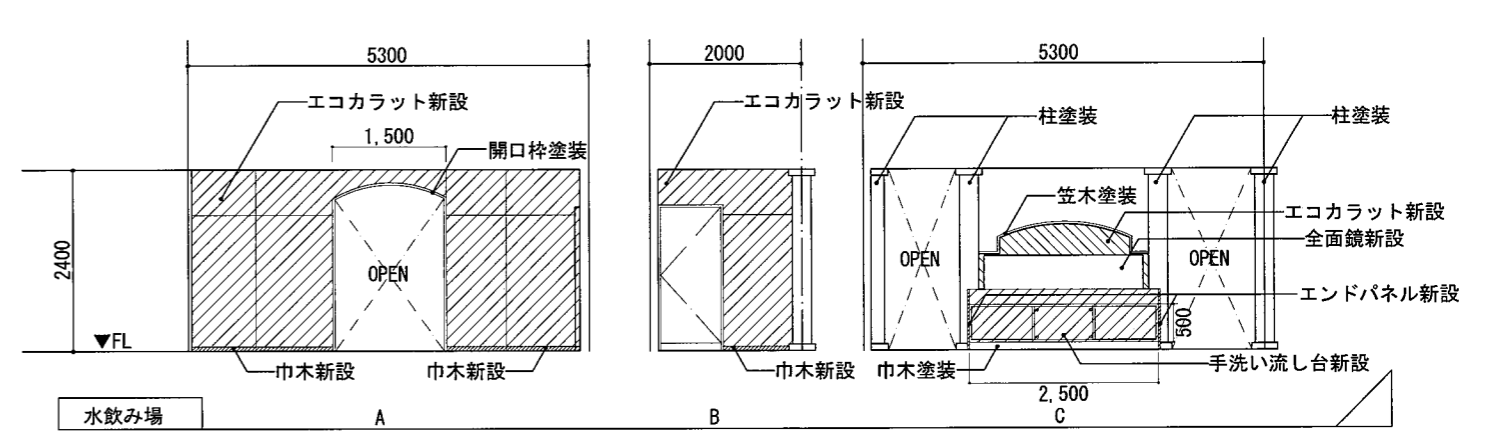
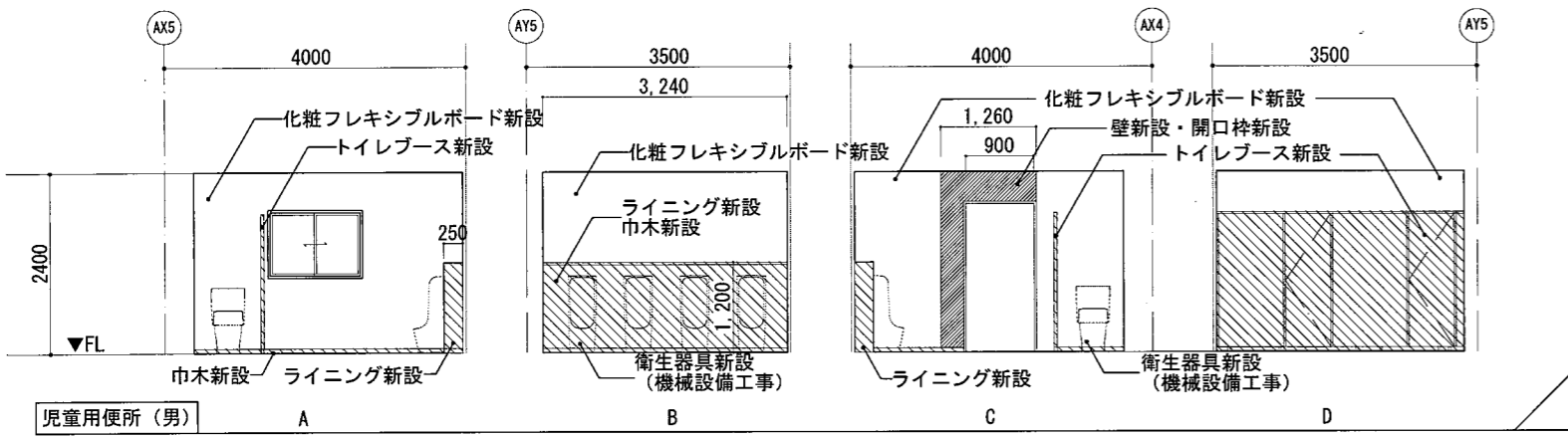
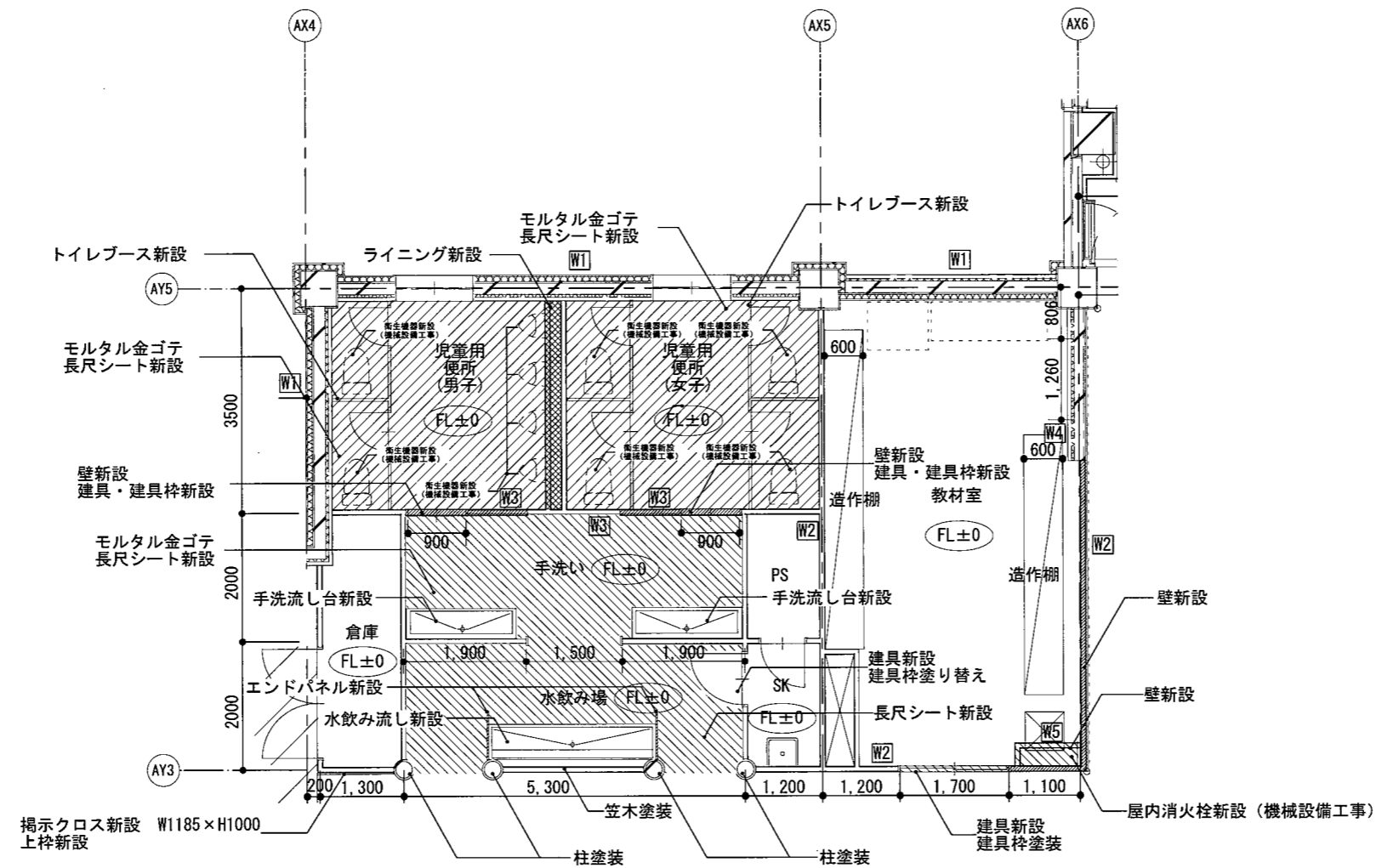
教材庫

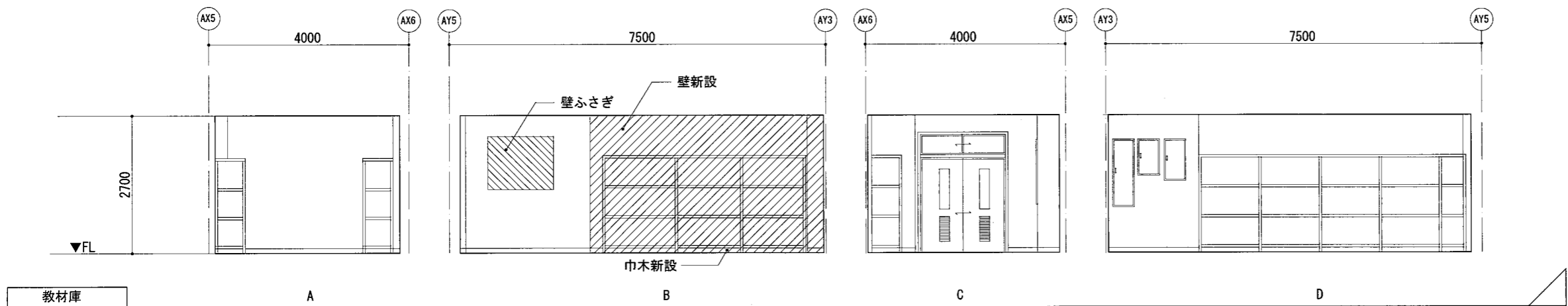


配膳室

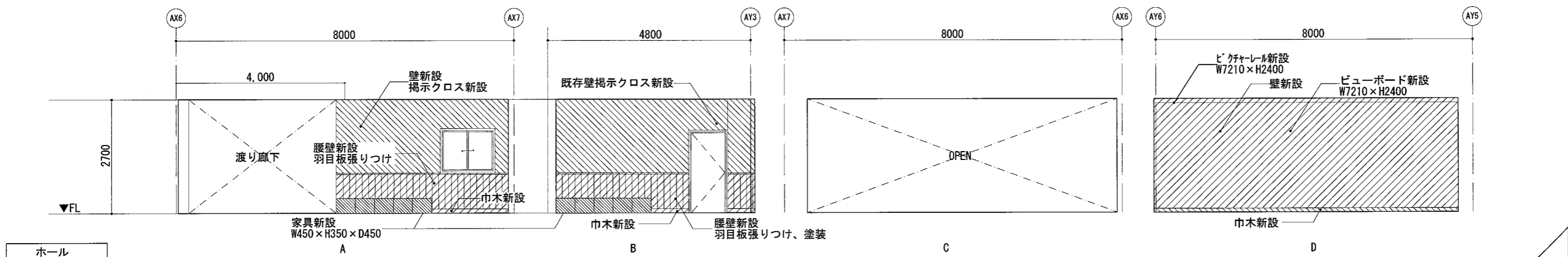


風除室(2)

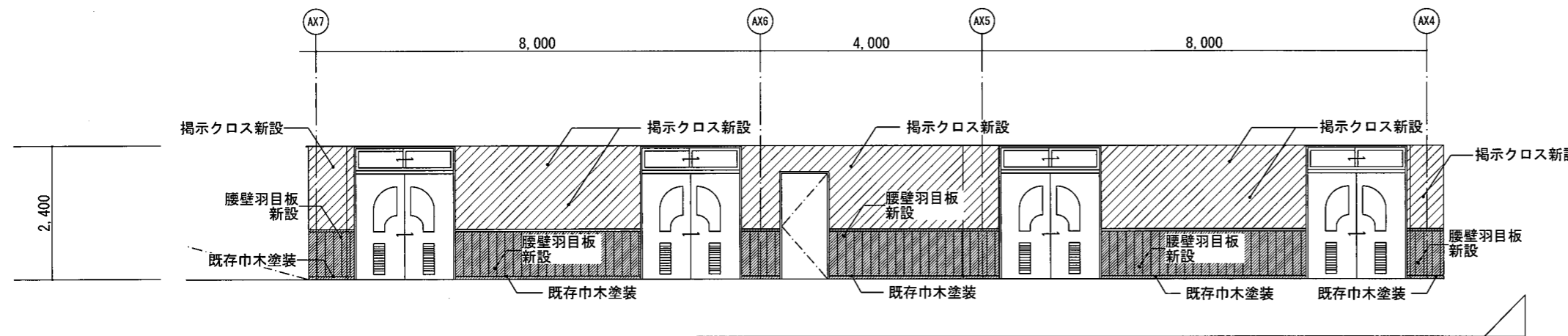
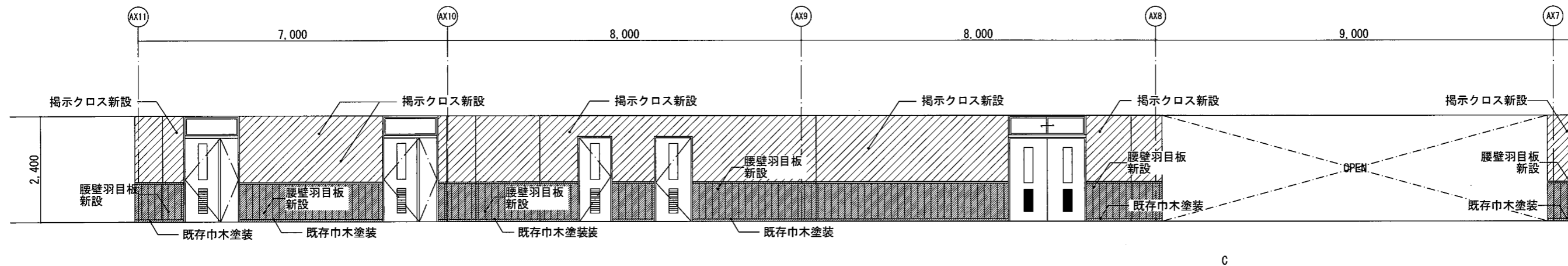
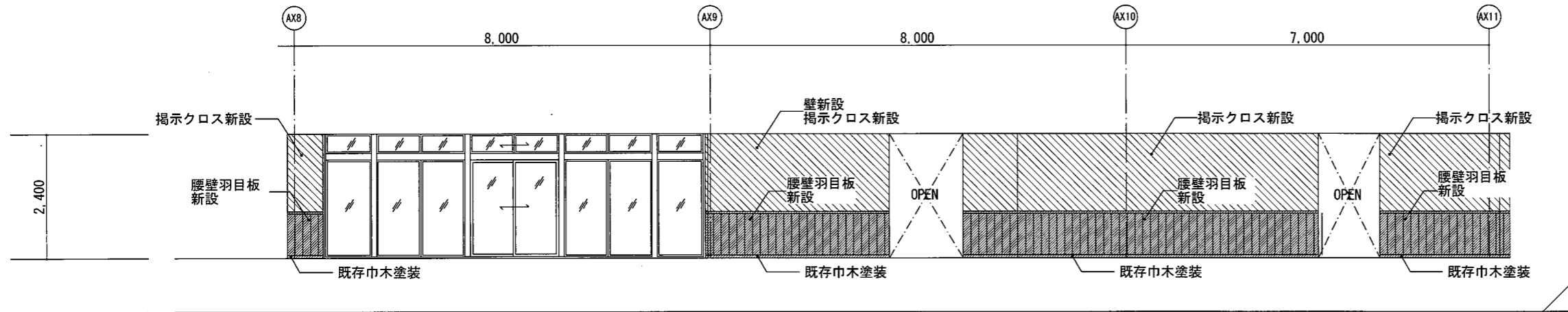
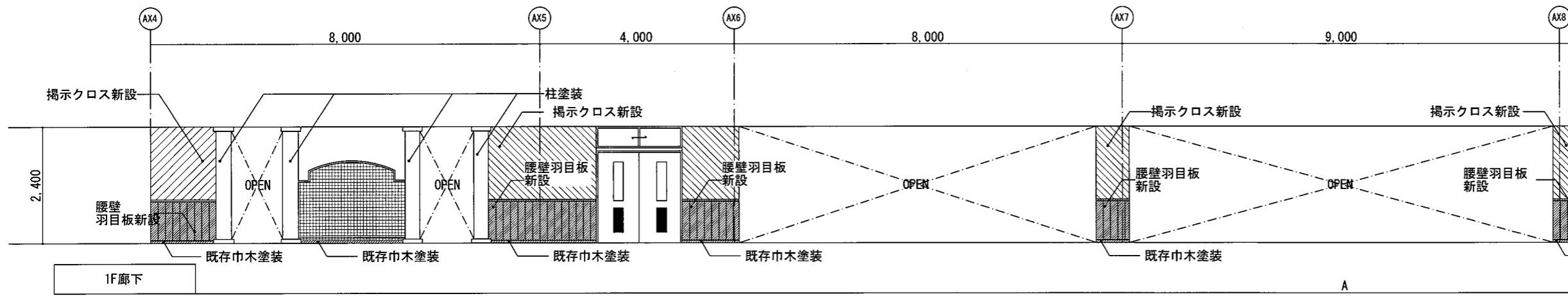


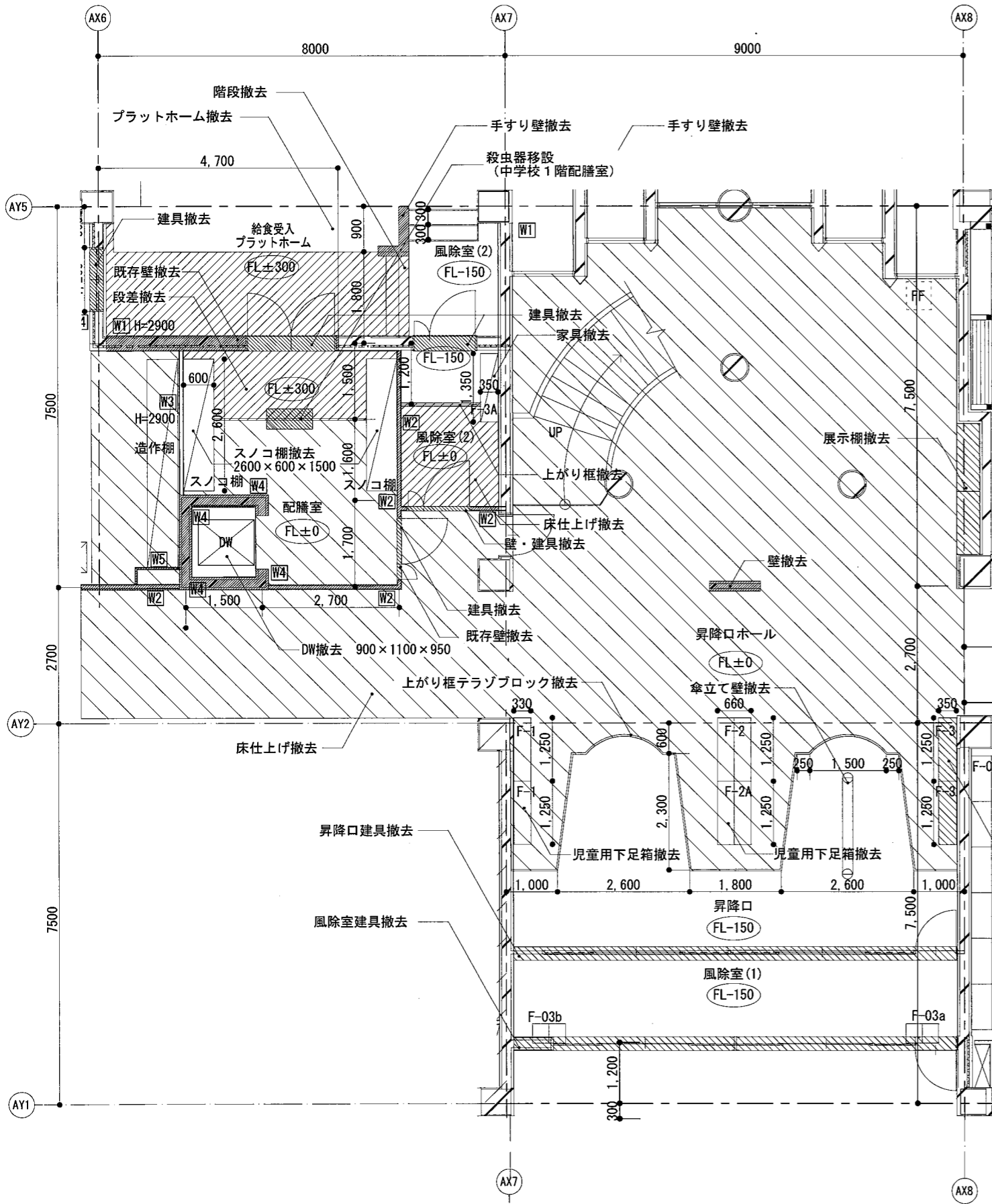


教材庫 A B C D

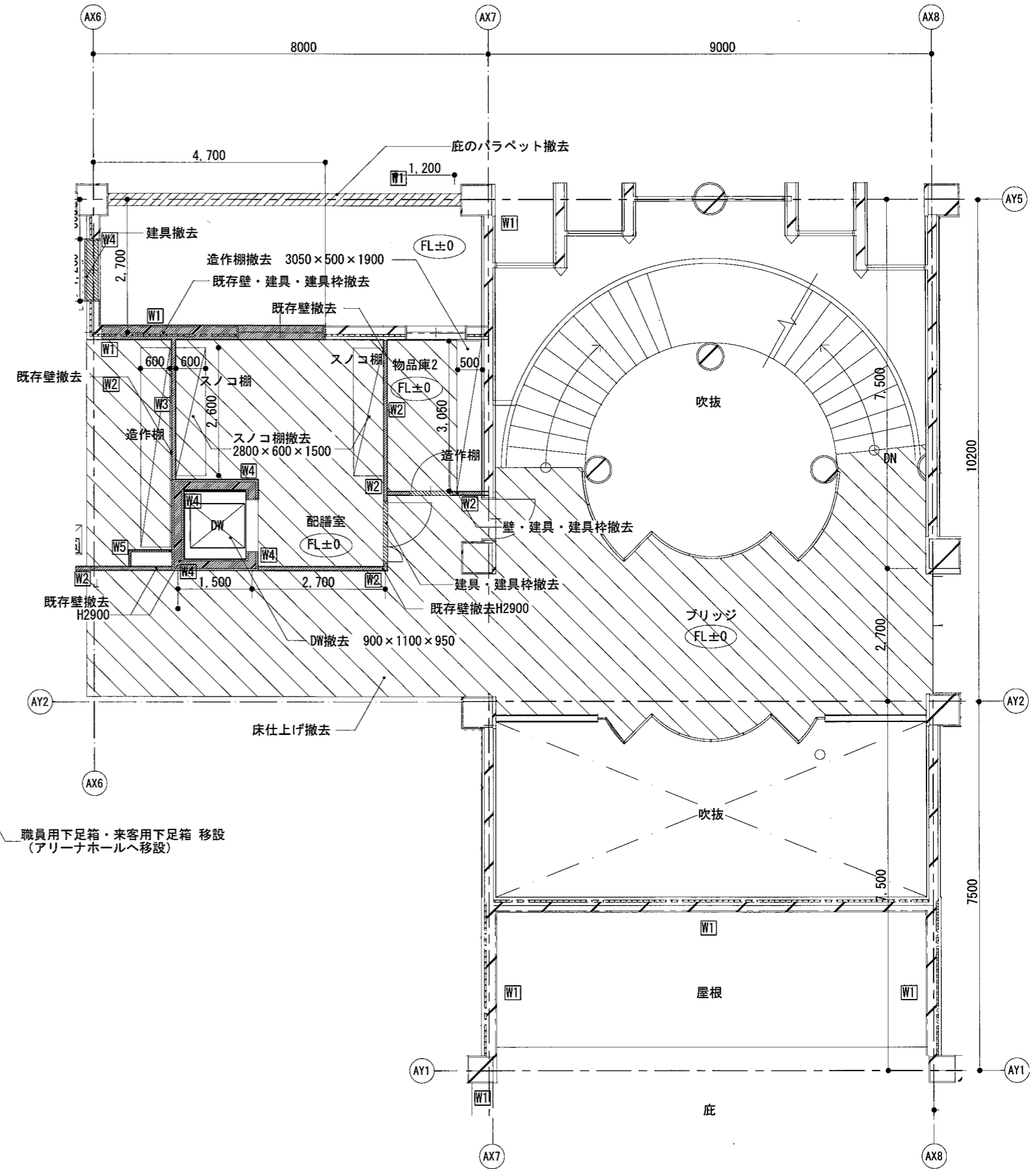


ホール A B C D

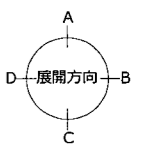


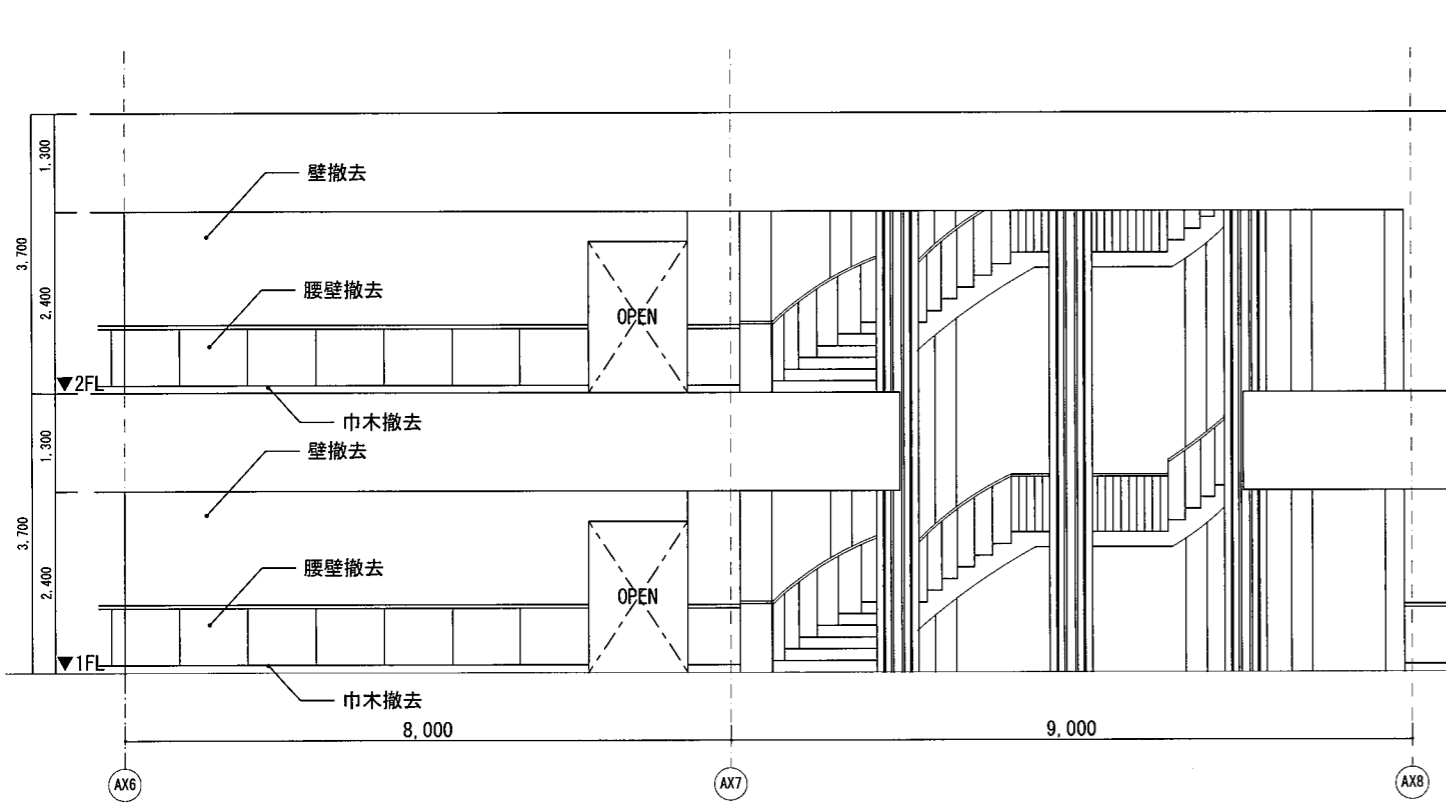


1階改修前

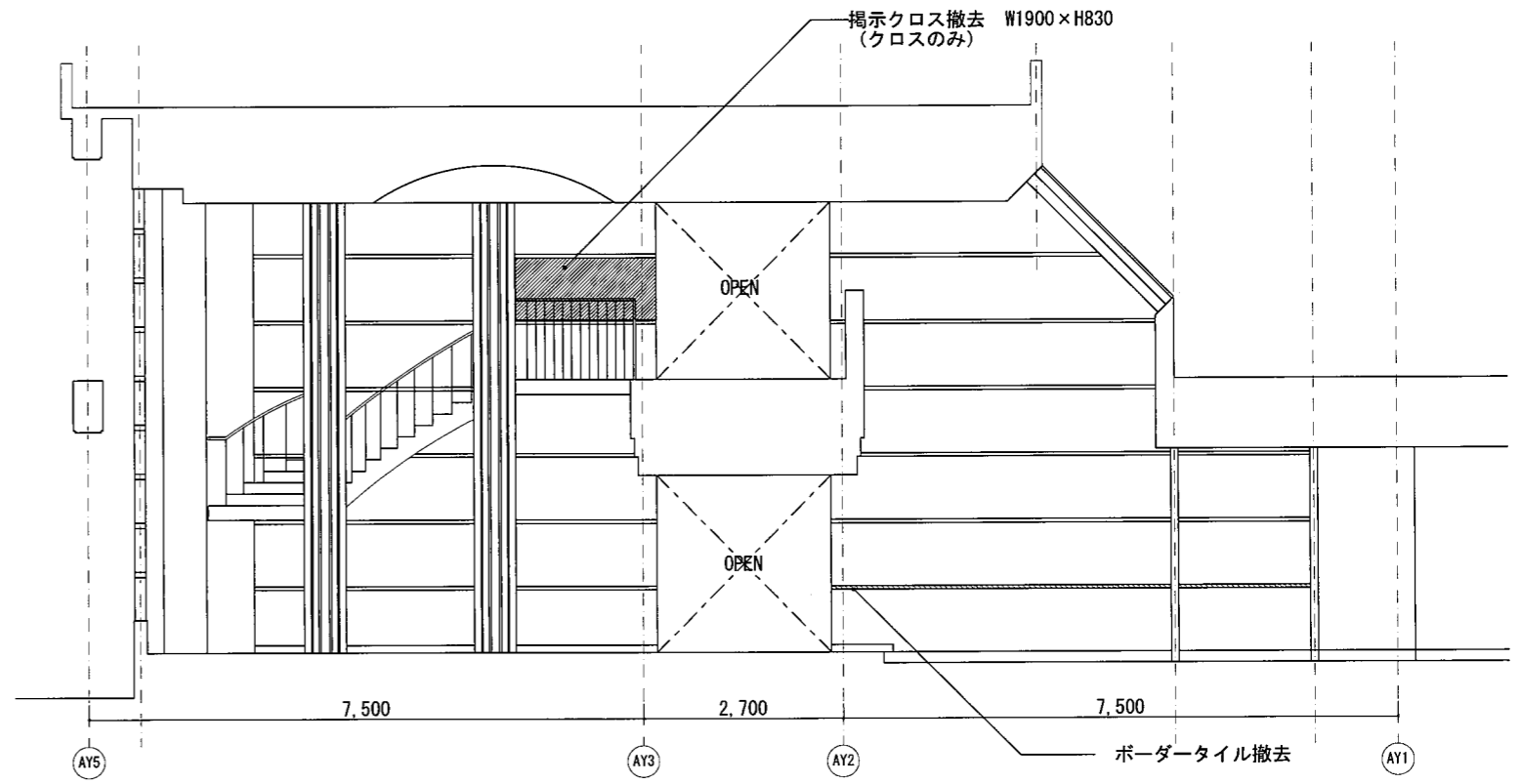


2階改修前

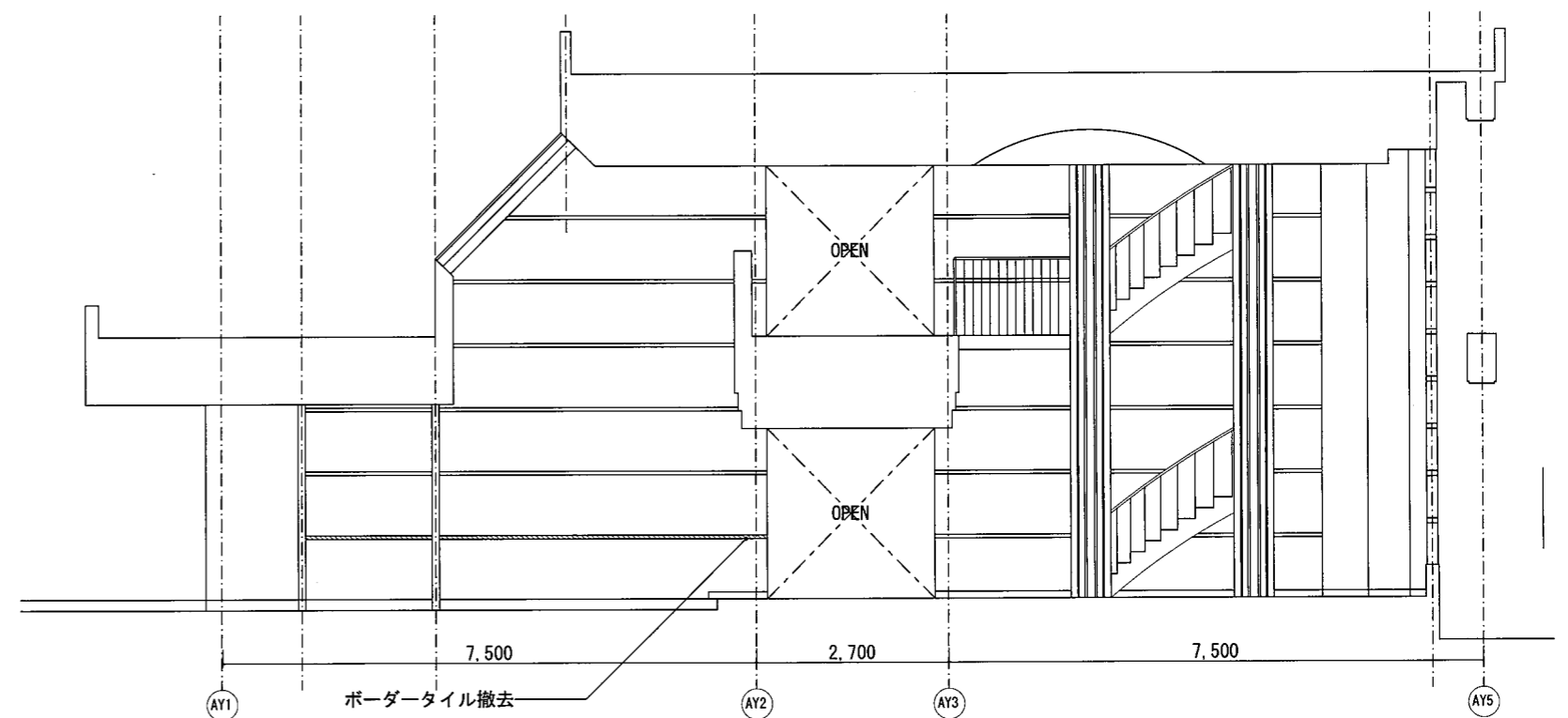




A (AY2+2000)

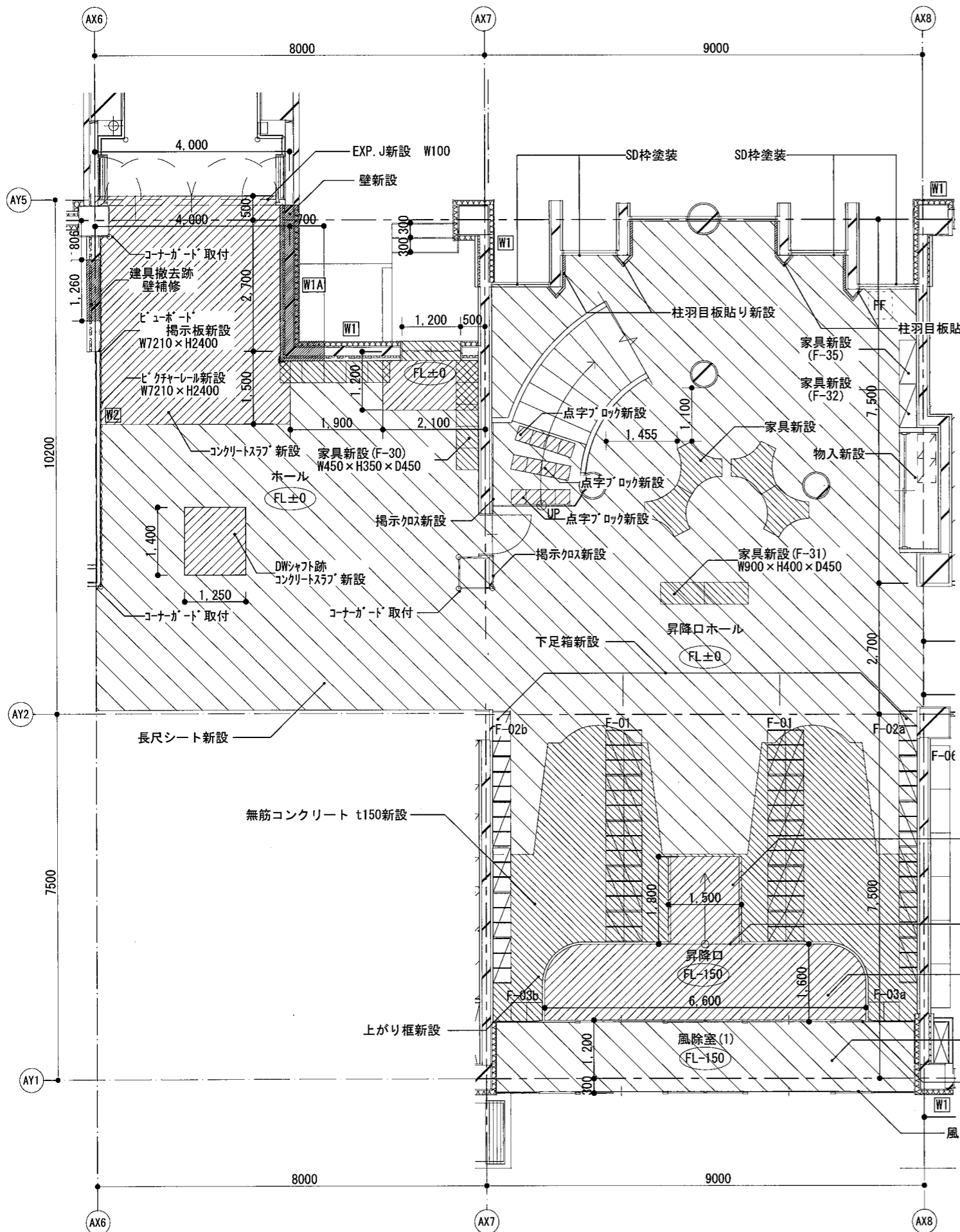


B

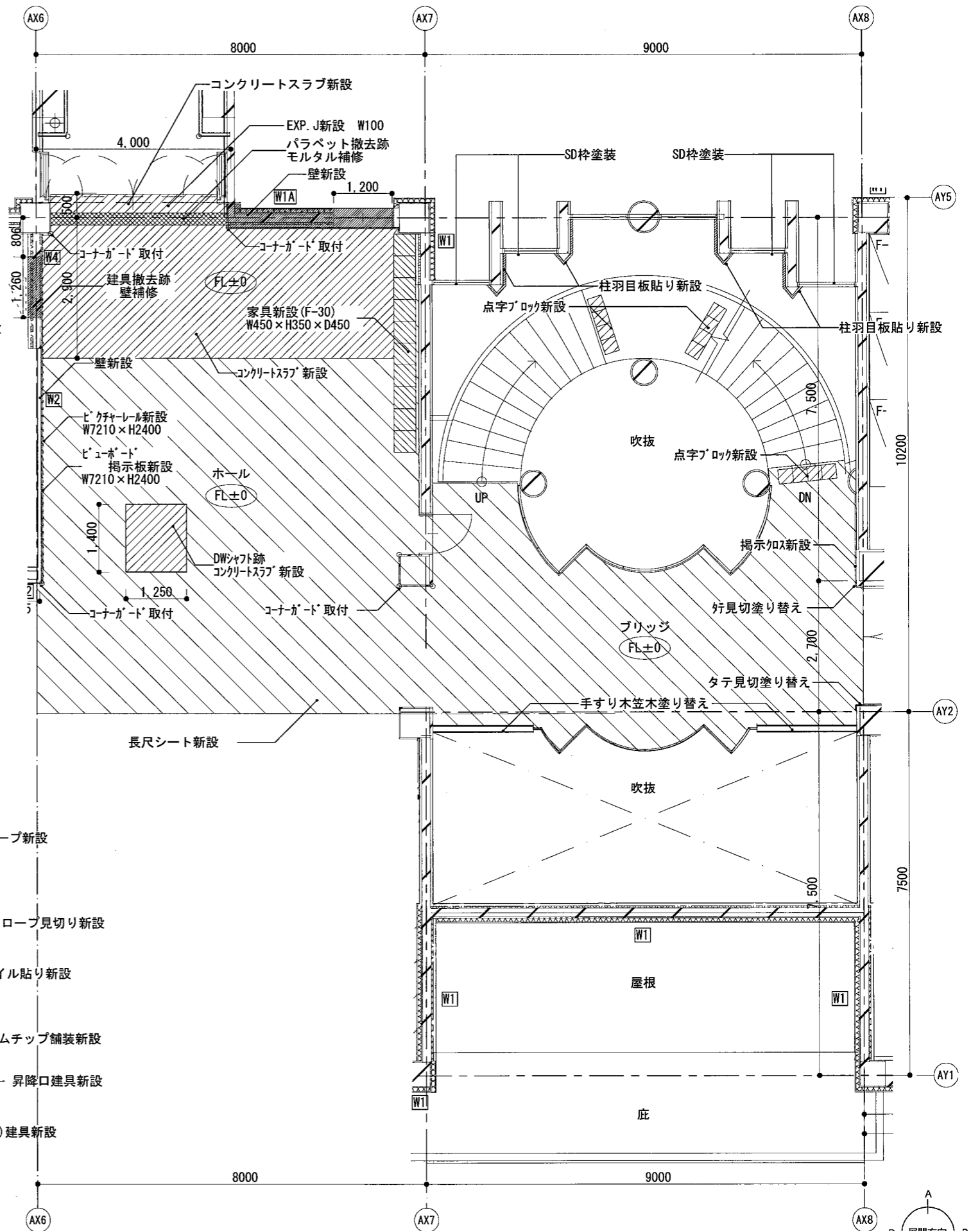


D

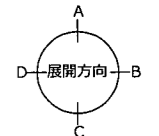
昇降口ホール
(改修前)

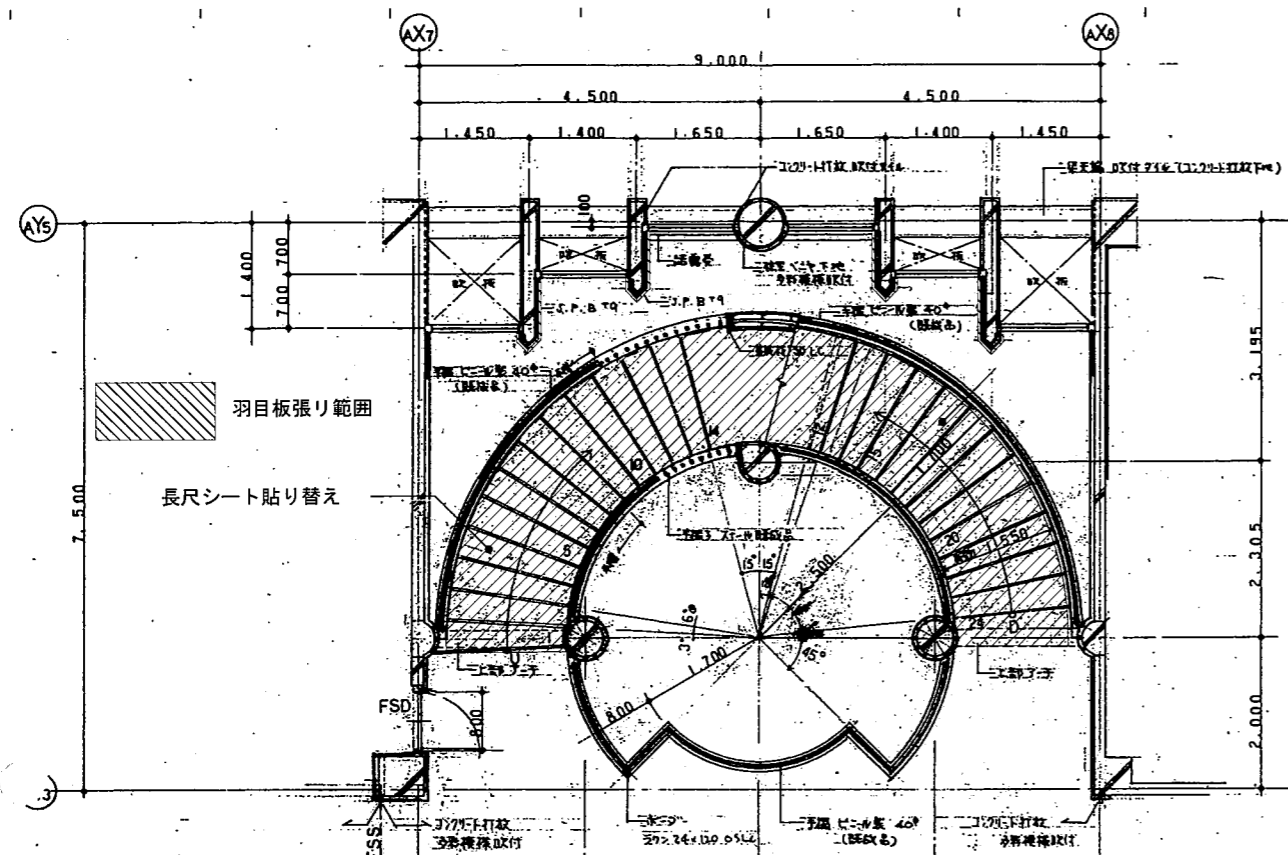


1階改修後

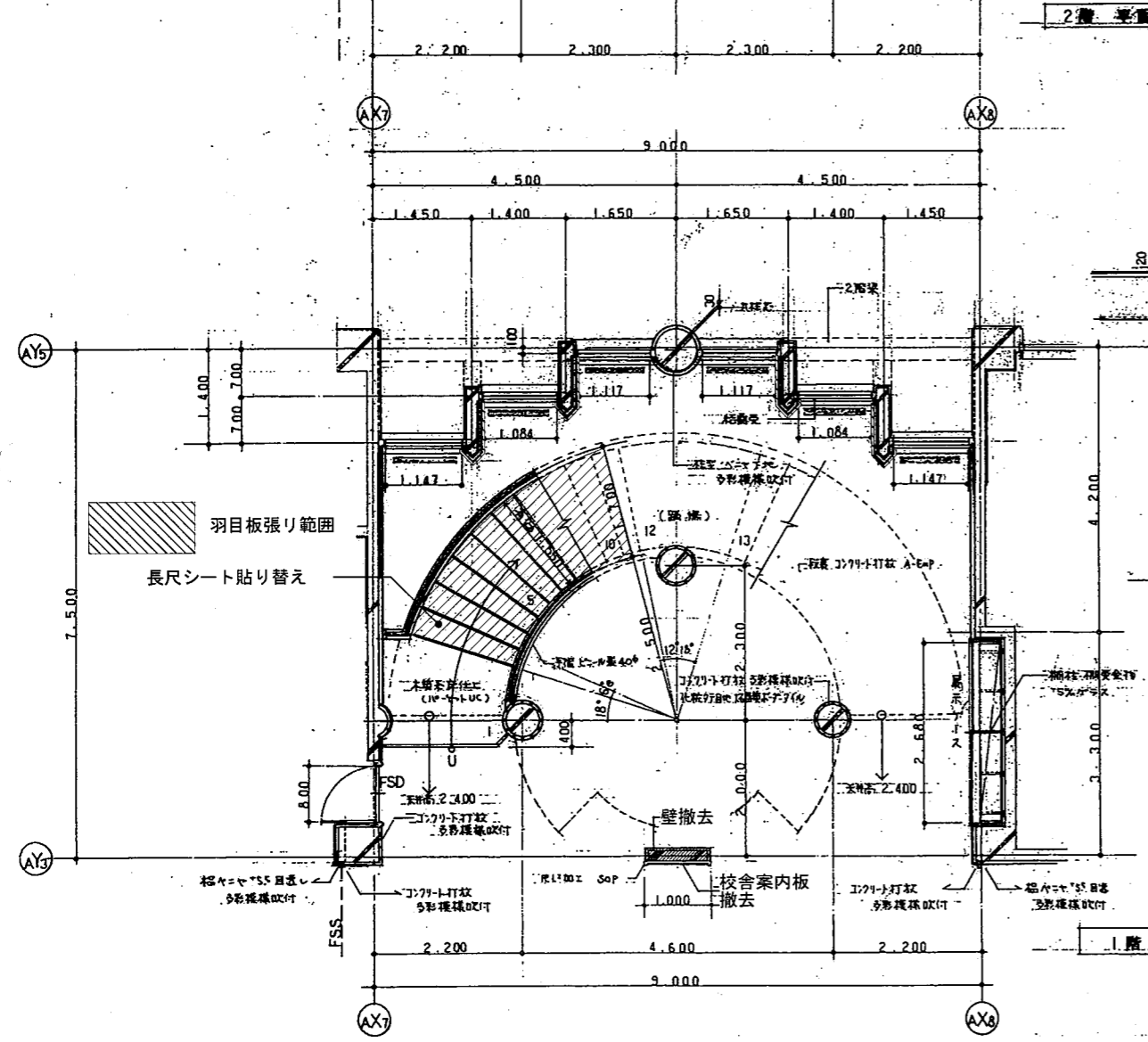
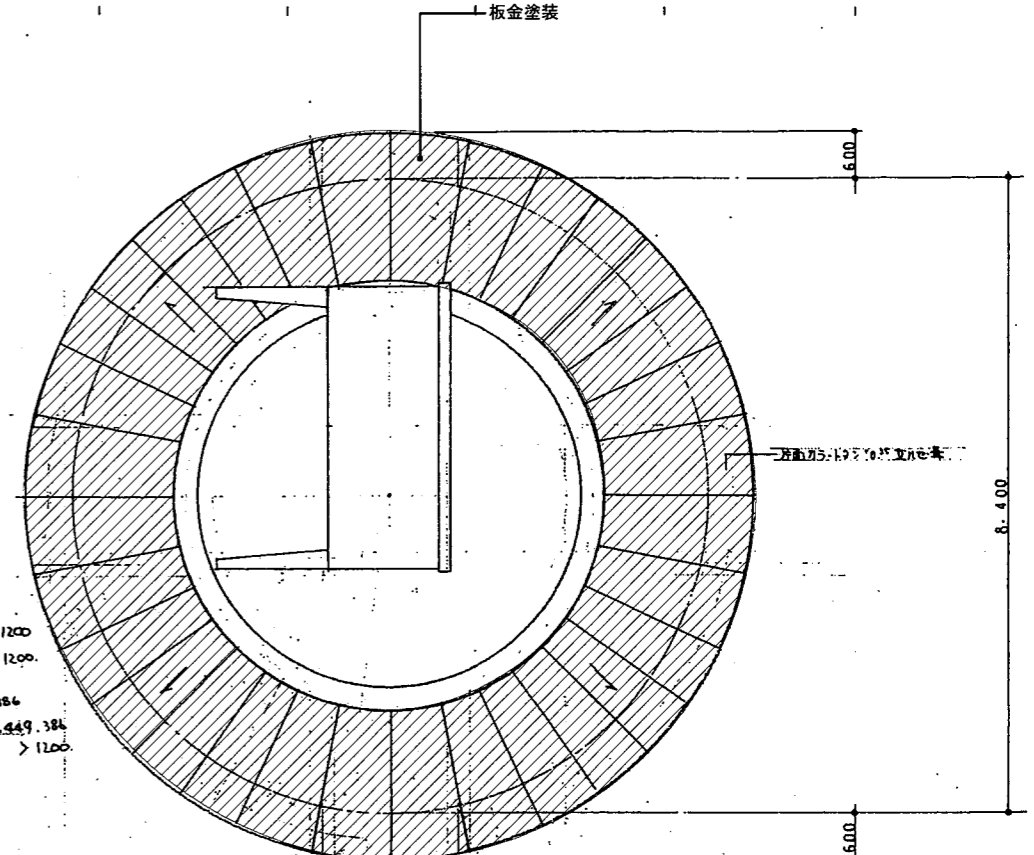


2階改修後

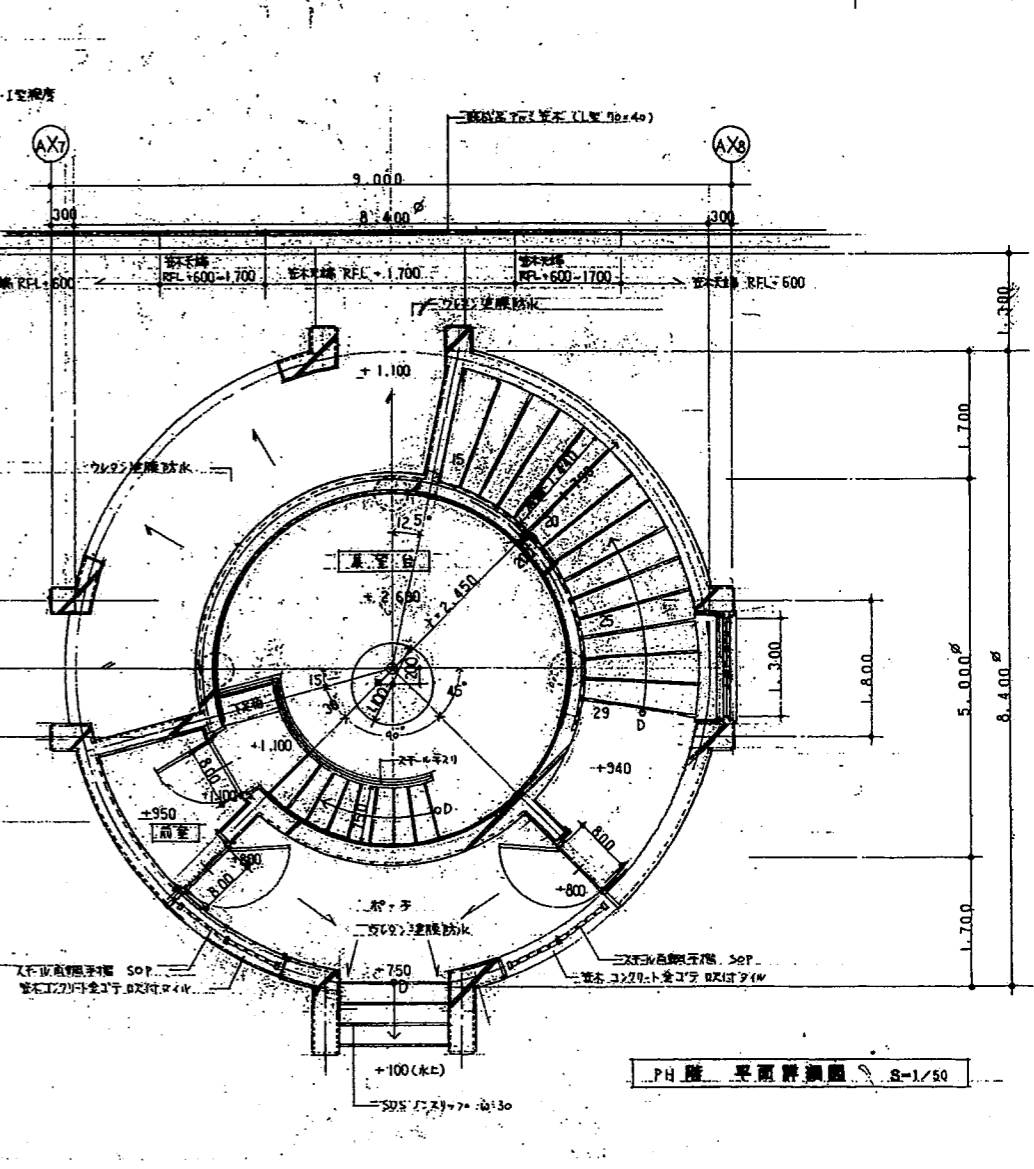


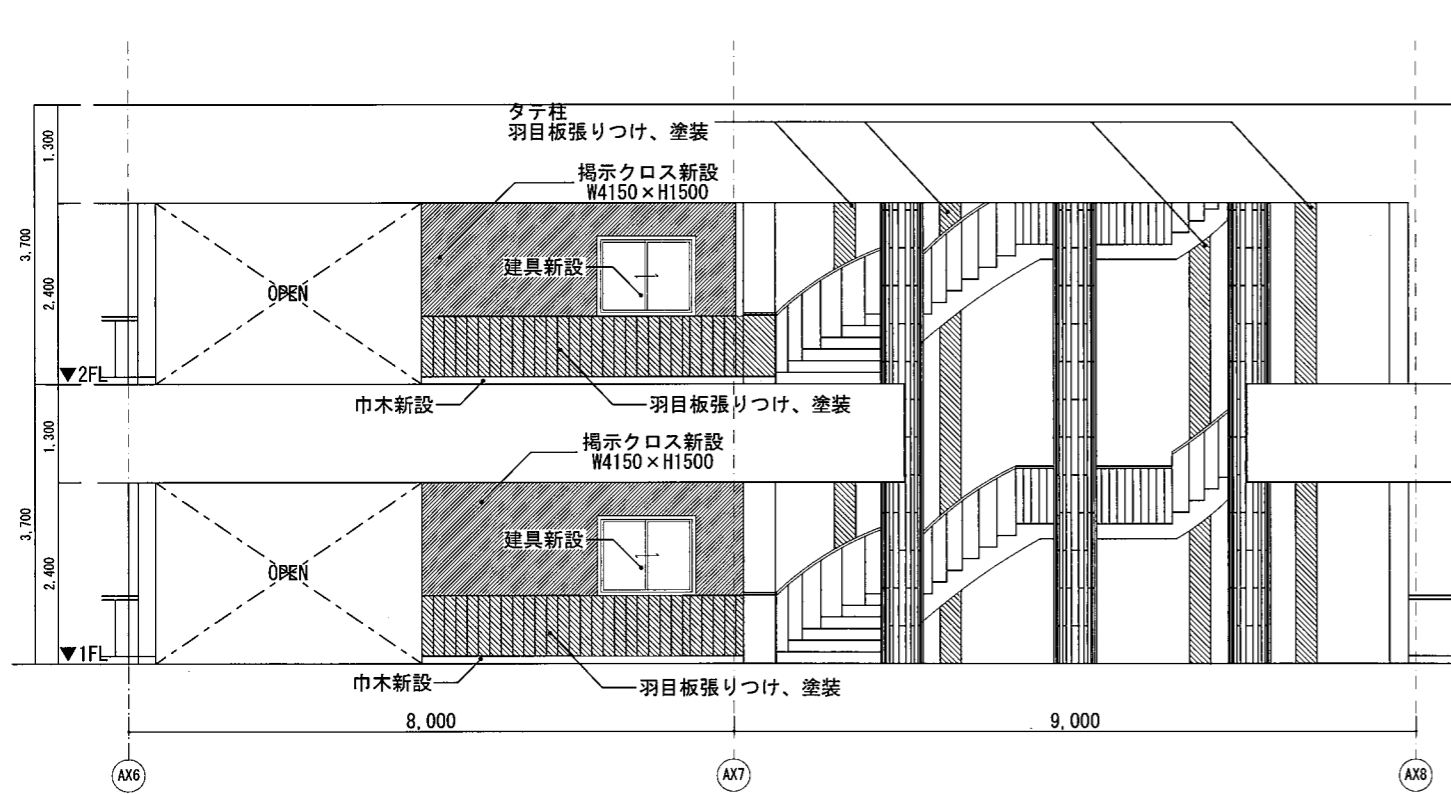


※ 階段 踏面寸法 (巾幅1300(標準)) × 11寸
 $2 \times 踏面 \times 360^\circ = 2 \times 3.14159 \times 2.800 \times \frac{1}{60} = 293.215 > 260$
 踏面寸法
 $1 \times 踏面 \times 360^\circ = 3.14159 \times 2.800 \times \frac{1}{60} = 154.167 < 160$
 $2 \times 踏面 \times (360^\circ \div 40) = 29 \times 160 \leq 160$
 踏面寸法
 踏面寸法 (基準寸法)
 $1 \times 踏面 \times 360^\circ = 3.14159 \times 2.800 \times \frac{1}{60} = 154.167 > 1200$
 $2 \times 踏面 \times (360^\circ \div 40) = 29 \times 1200 = 1466.075 > 1200$
 $踏面 = 2 \times 2.800 \times \sin 15^\circ = 1.444 \times 384 = 1.449 \times 384 > 1200$

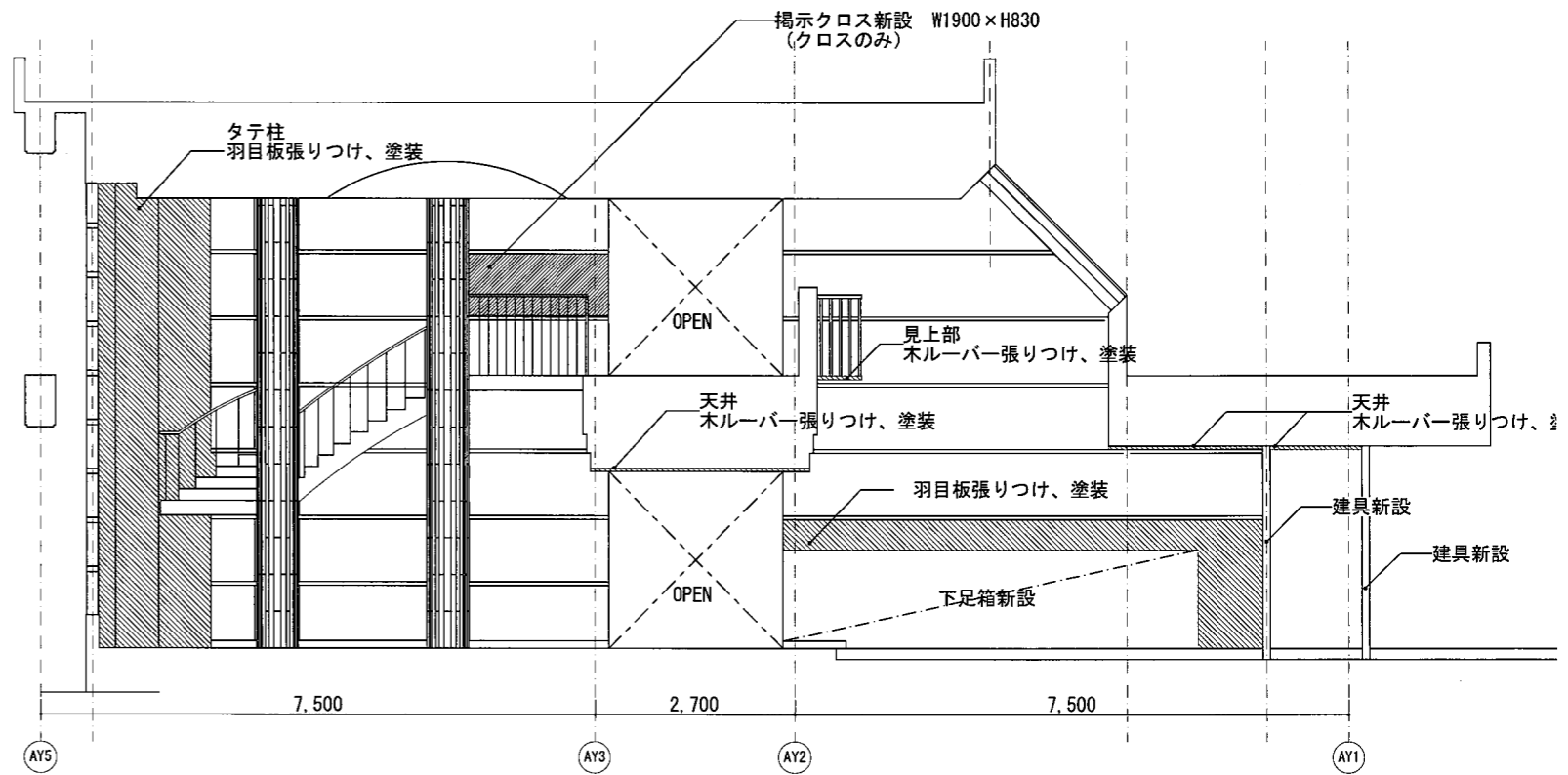


階段 踏面寸法 (巾幅1300(標準)) × 11寸
 $2 \times 踏面 \times 360^\circ = 2 \times 3.14159 \times 2.800 \times \frac{1}{60} = 293.215 > 260$
 踏面寸法
 $1 \times 踏面 \times 360^\circ = 3.14159 \times 2.800 \times \frac{1}{60} = 154.167 < 160$
 $2 \times 踏面 \times (360^\circ \div 40) = 29 \times 160 \leq 160$
 踏面寸法
 踏面寸法 (基準寸法)
 $1 \times 踏面 \times 360^\circ = 3.14159 \times 2.800 \times \frac{1}{60} = 154.167 > 1200$
 $2 \times 踏面 \times (360^\circ \div 40) = 29 \times 1200 = 1466.075 > 1200$
 $踏面 = 2 \times 2.800 \times \sin 15^\circ = 1.444 \times 384 = 1.449 \times 384 > 1200$

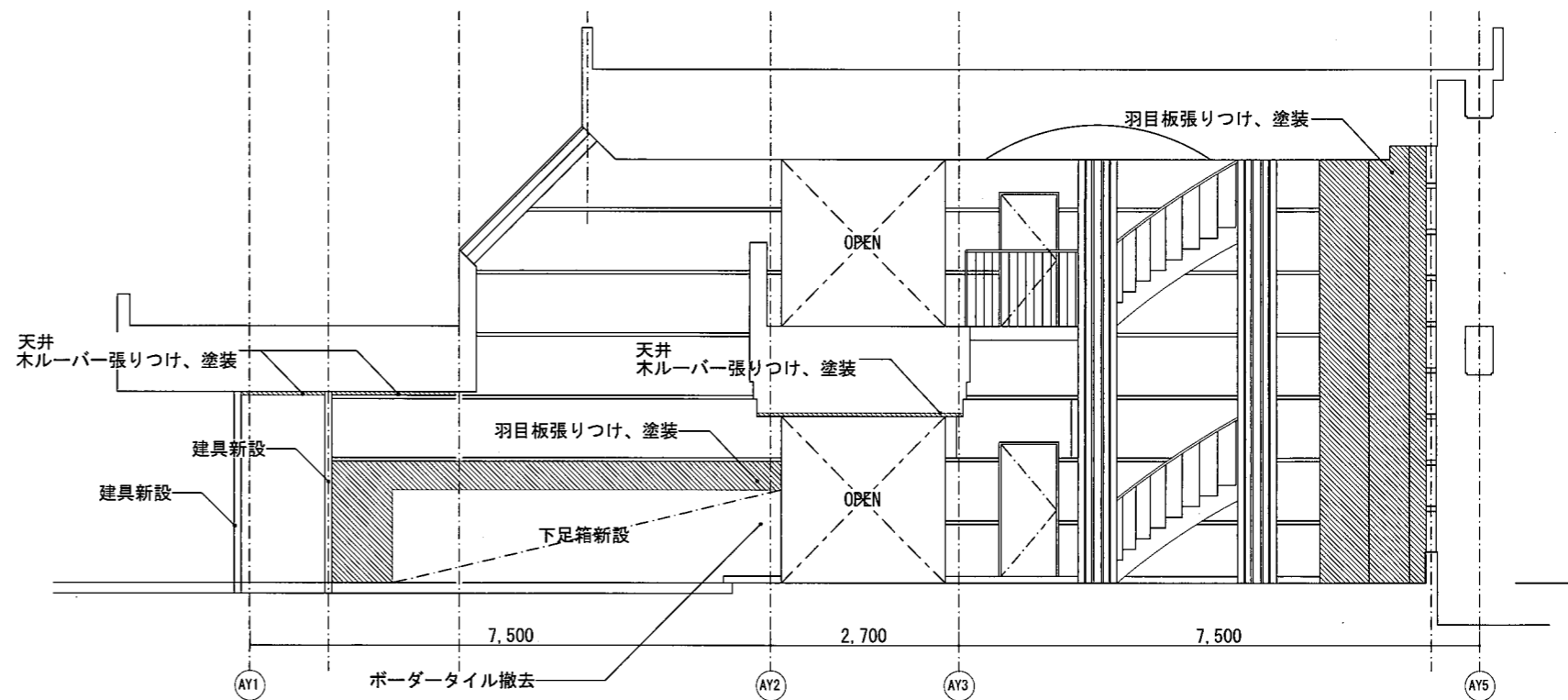




A (AY2+3500)

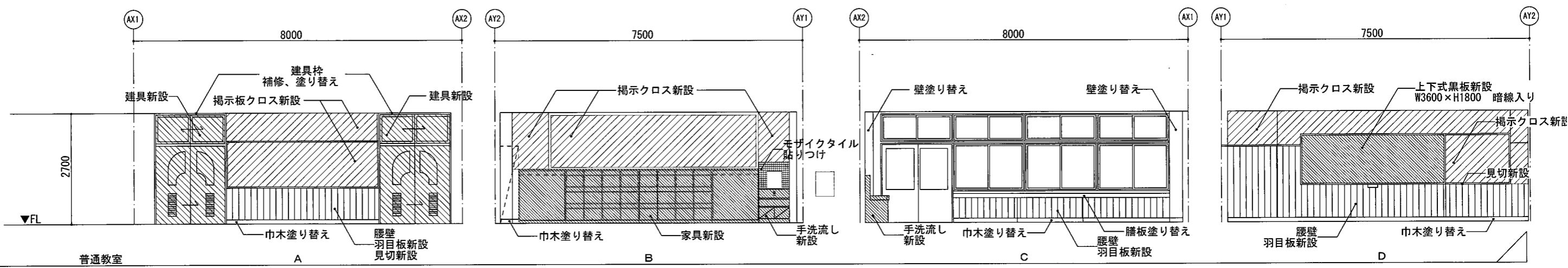
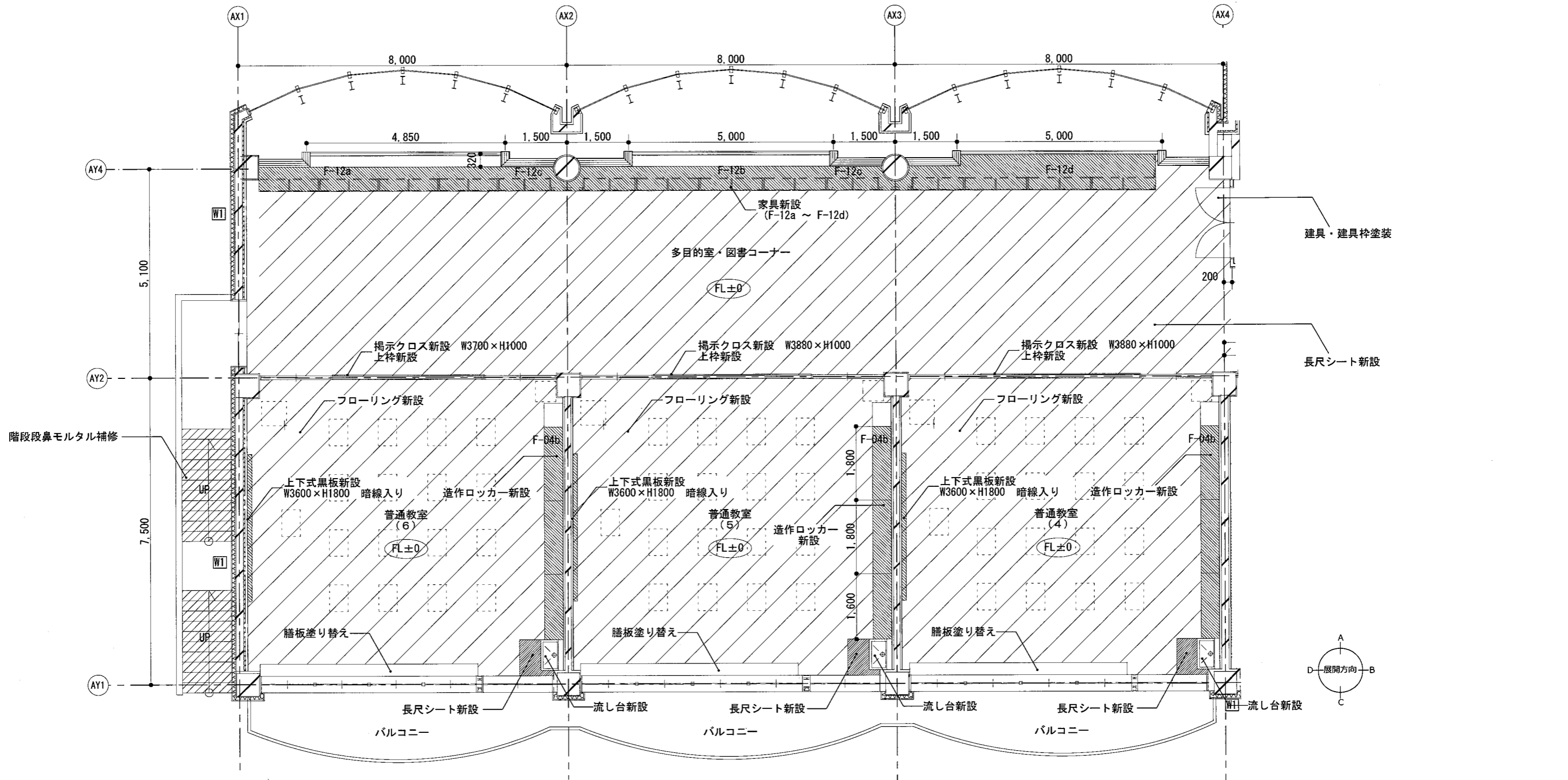


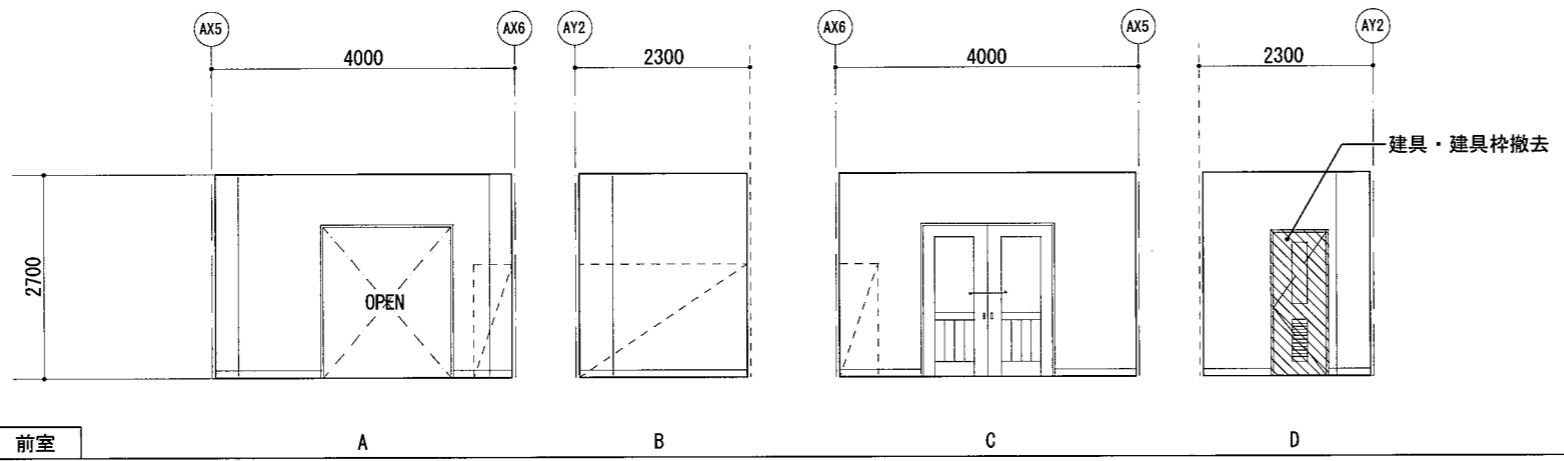
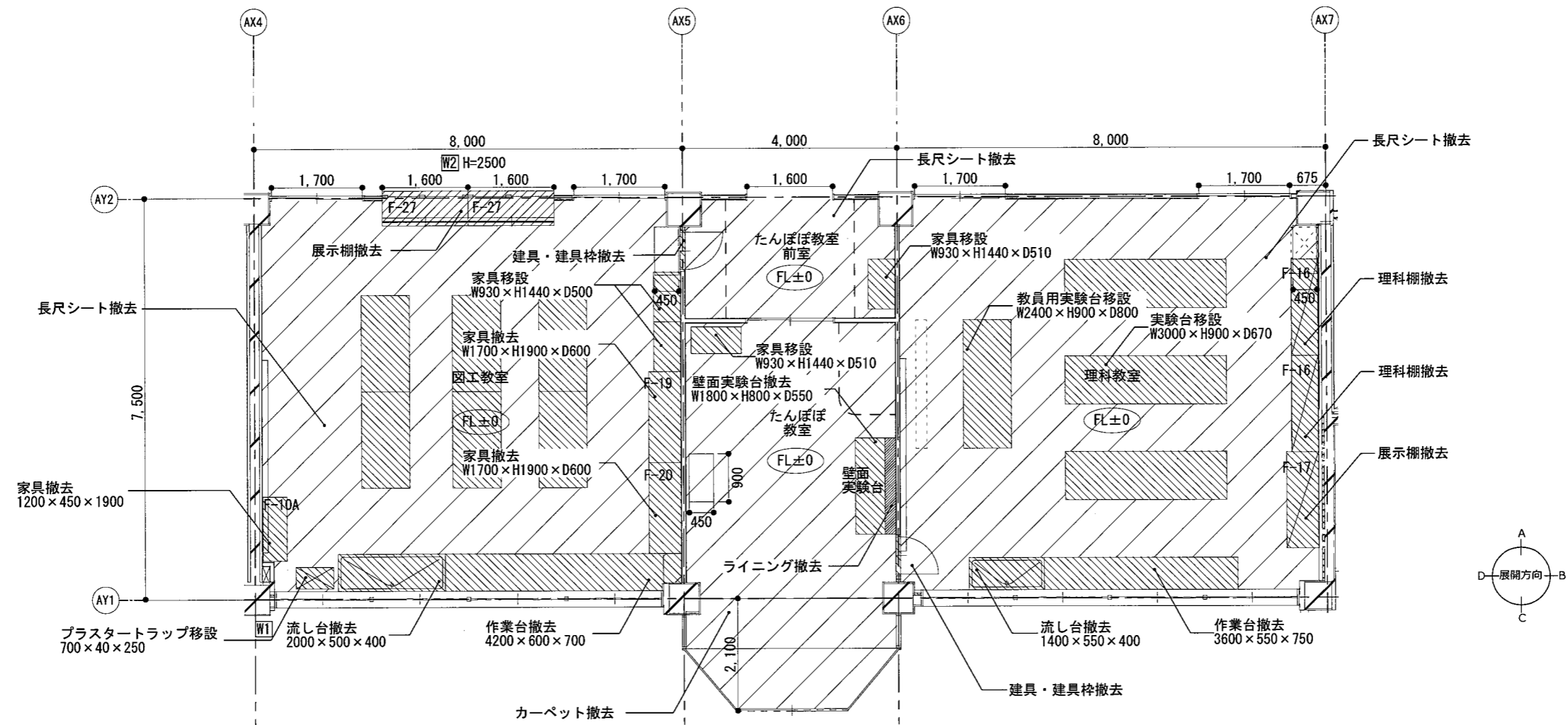
B



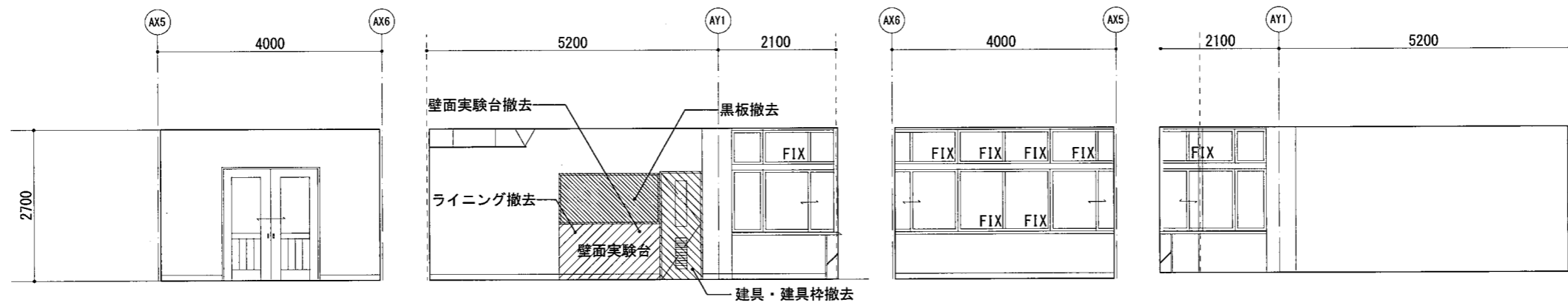
D

昇降口ホール
(改修後)

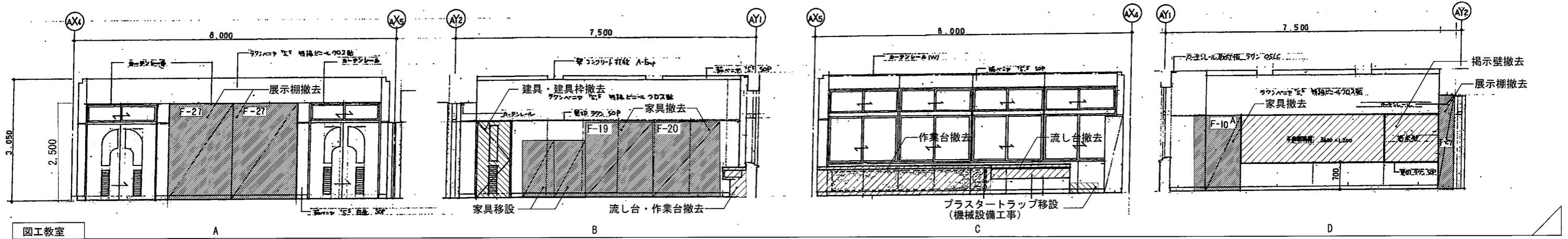




たんぼぼ教室 前室



たんぼぼ教室



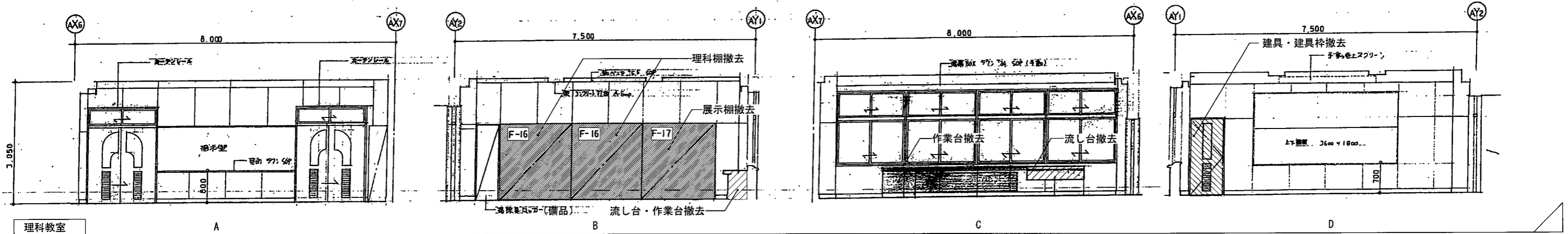
図工教室

A

B

C

D



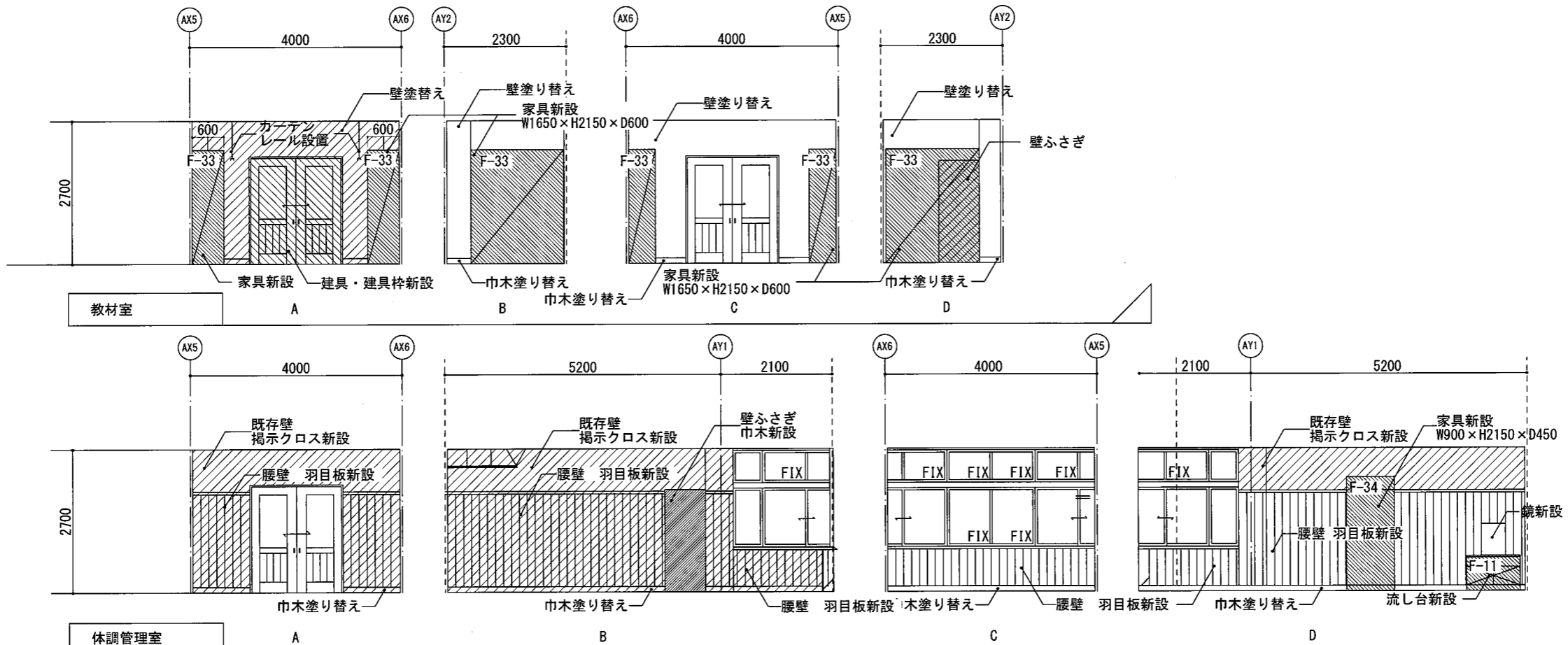
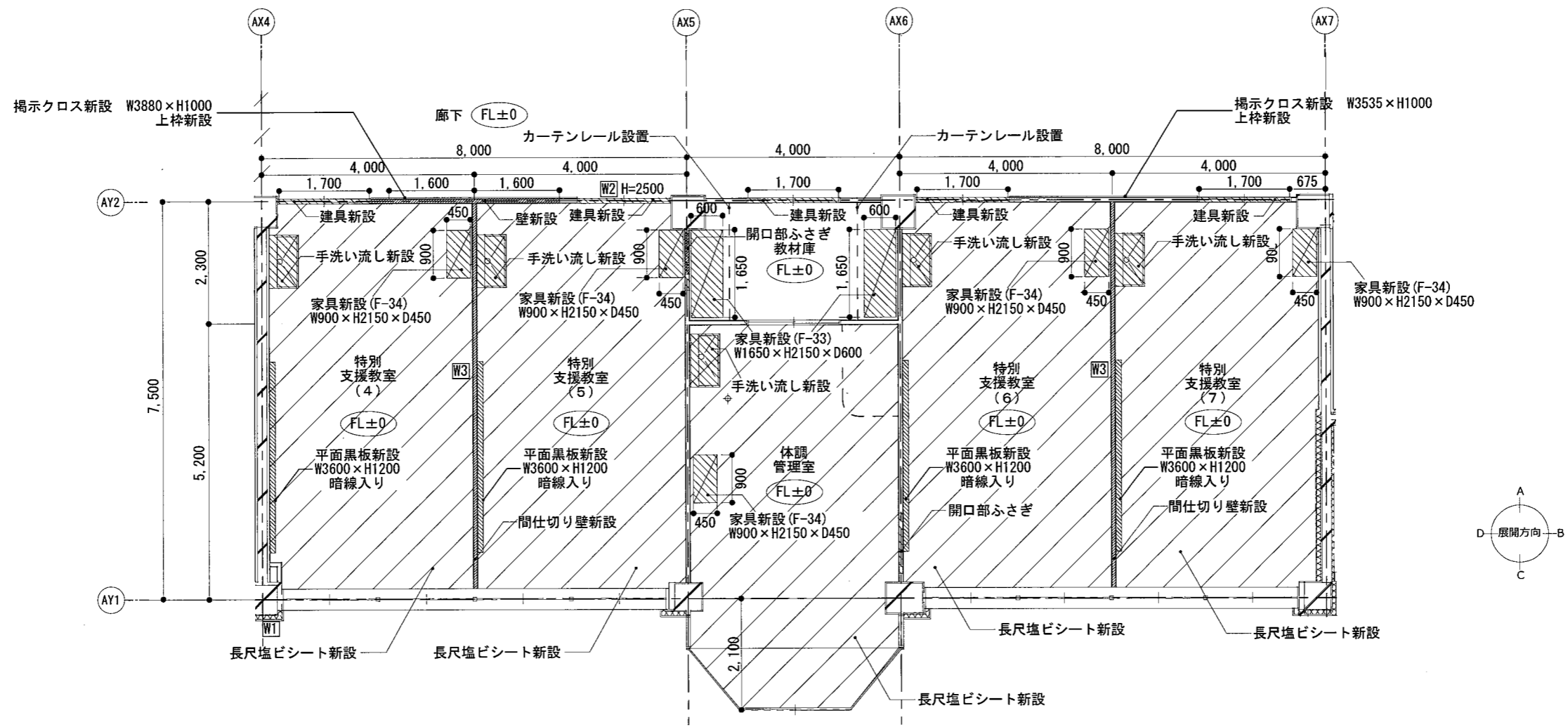
理科教室

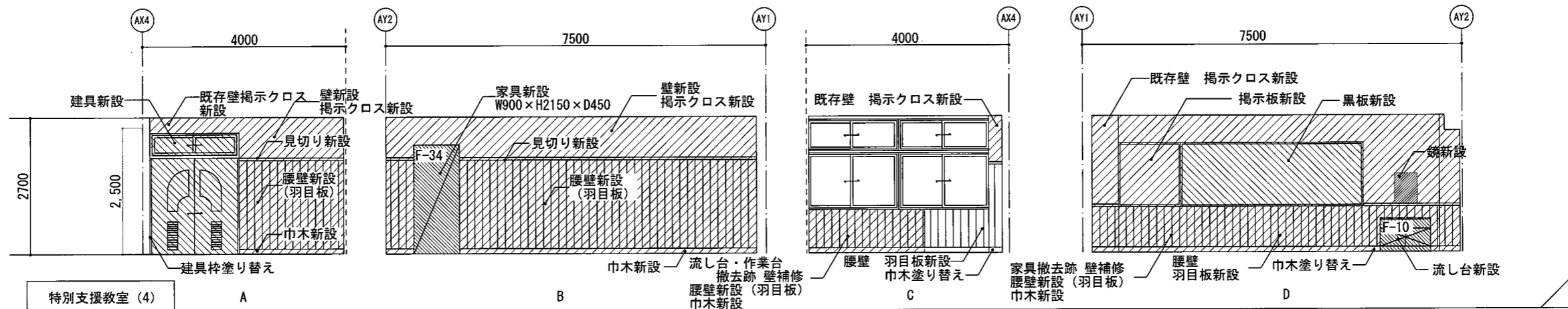
A

B

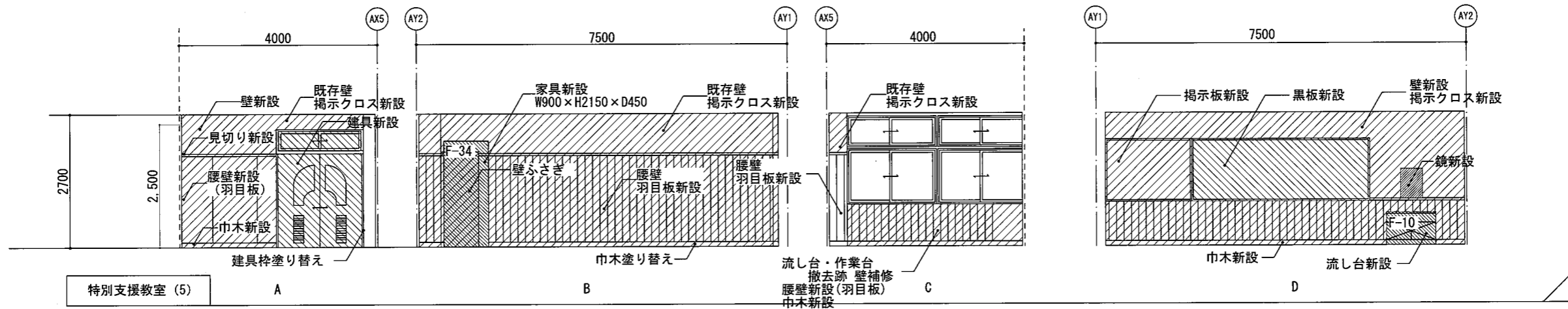
C

D

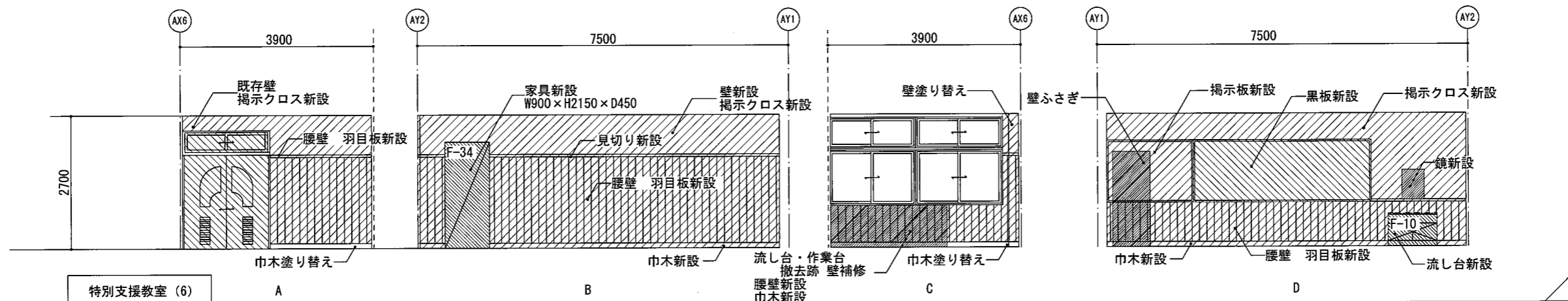




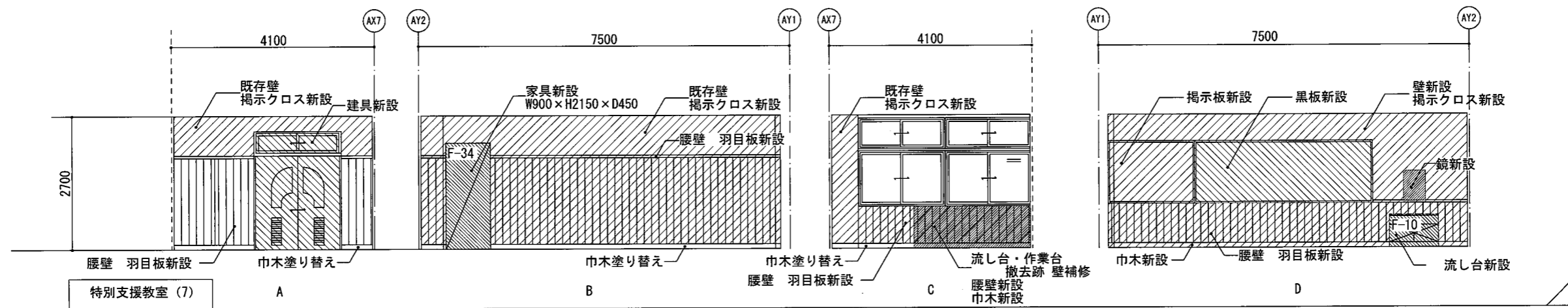
特別支援教室 (4)



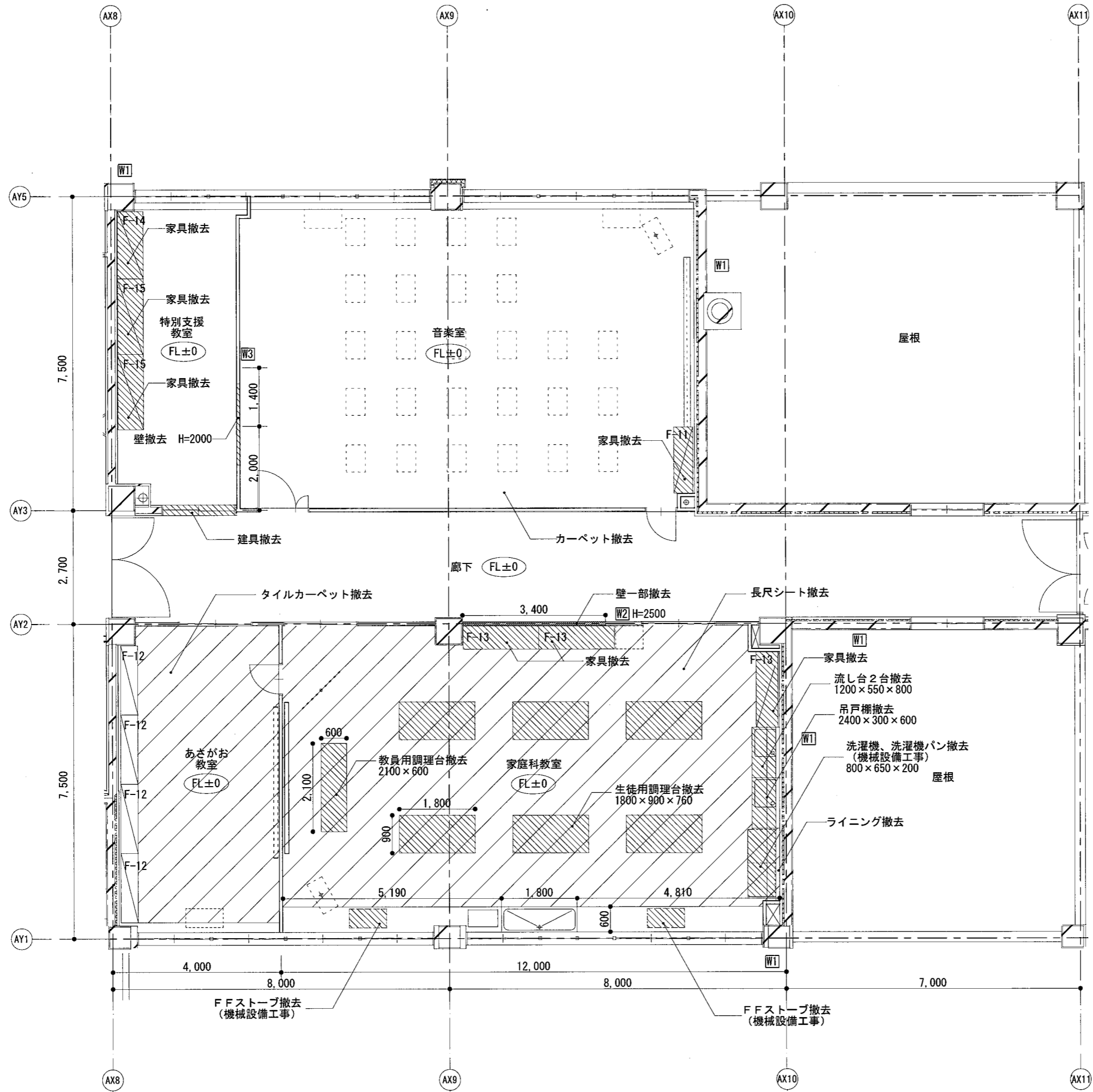
特別支援教室 (5)

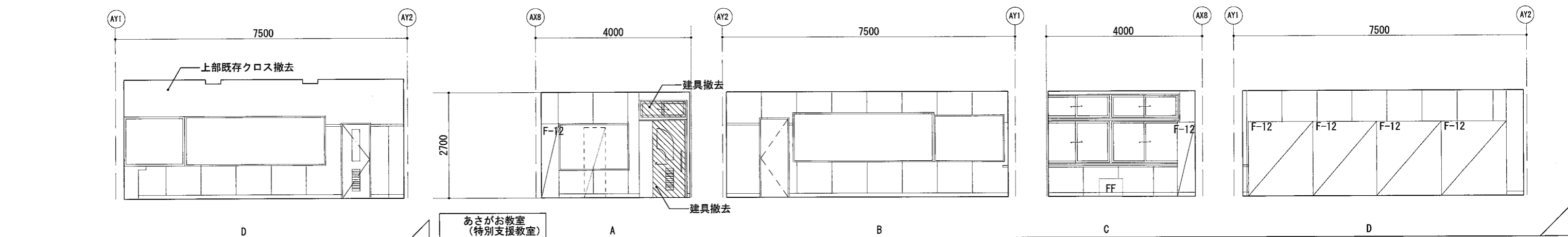
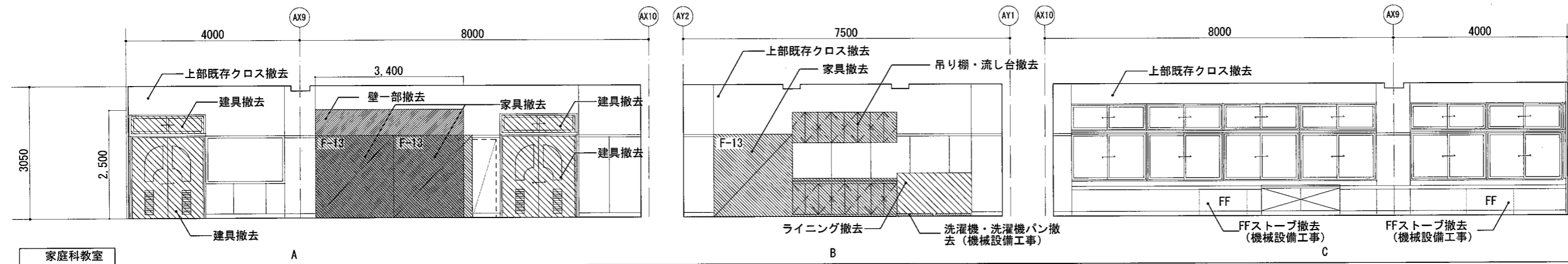
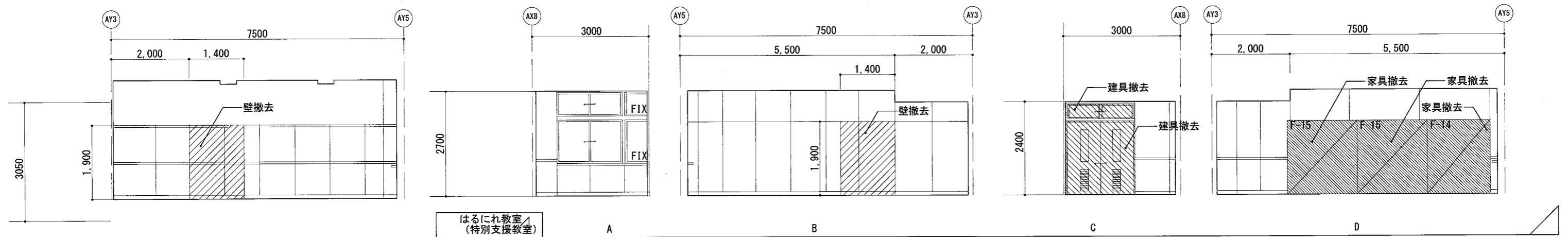
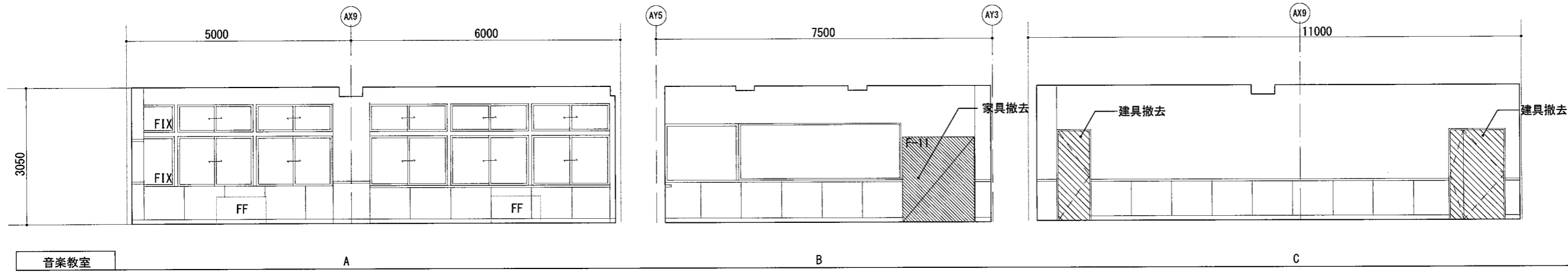


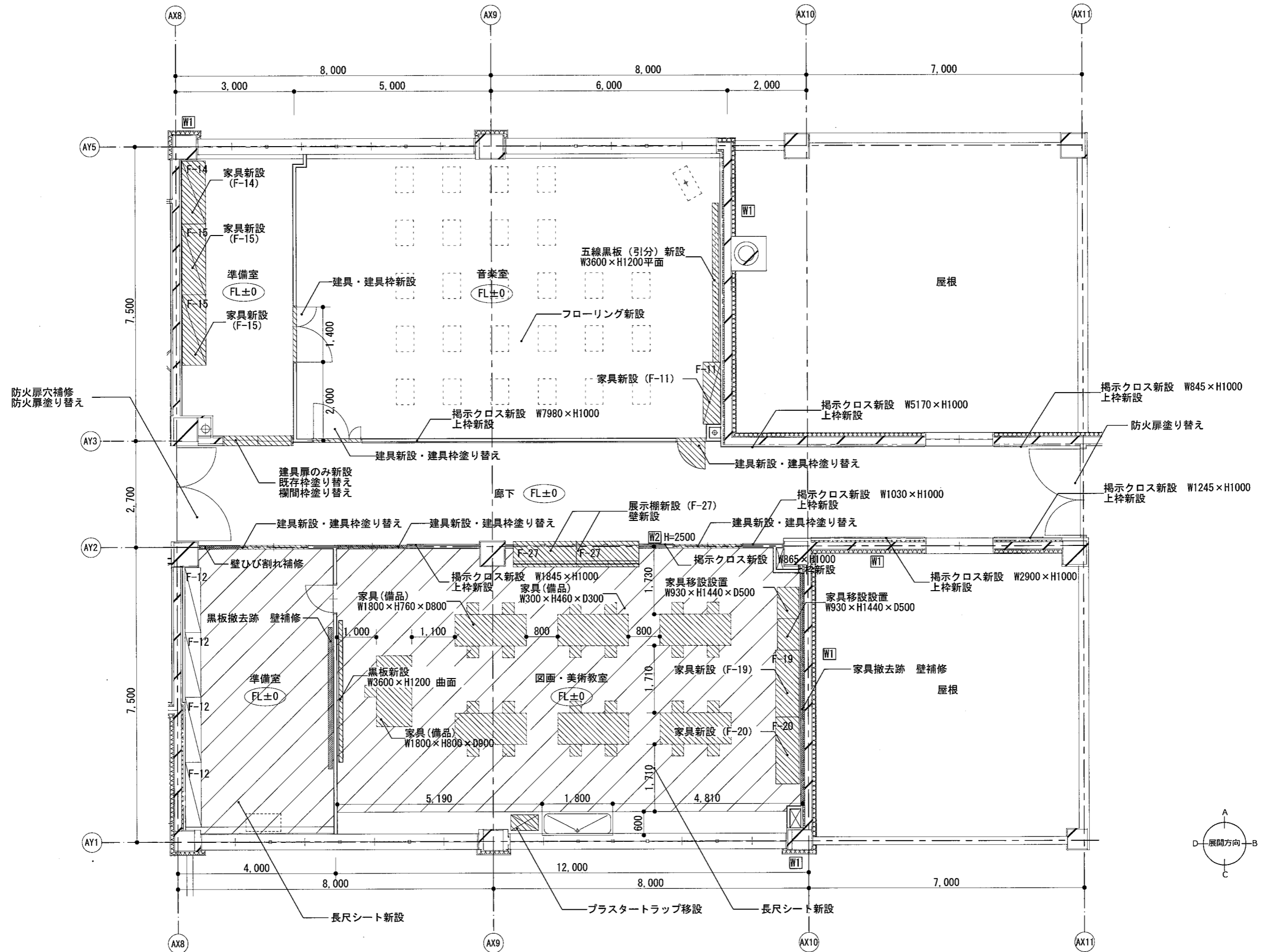
特別支援教室 (6)

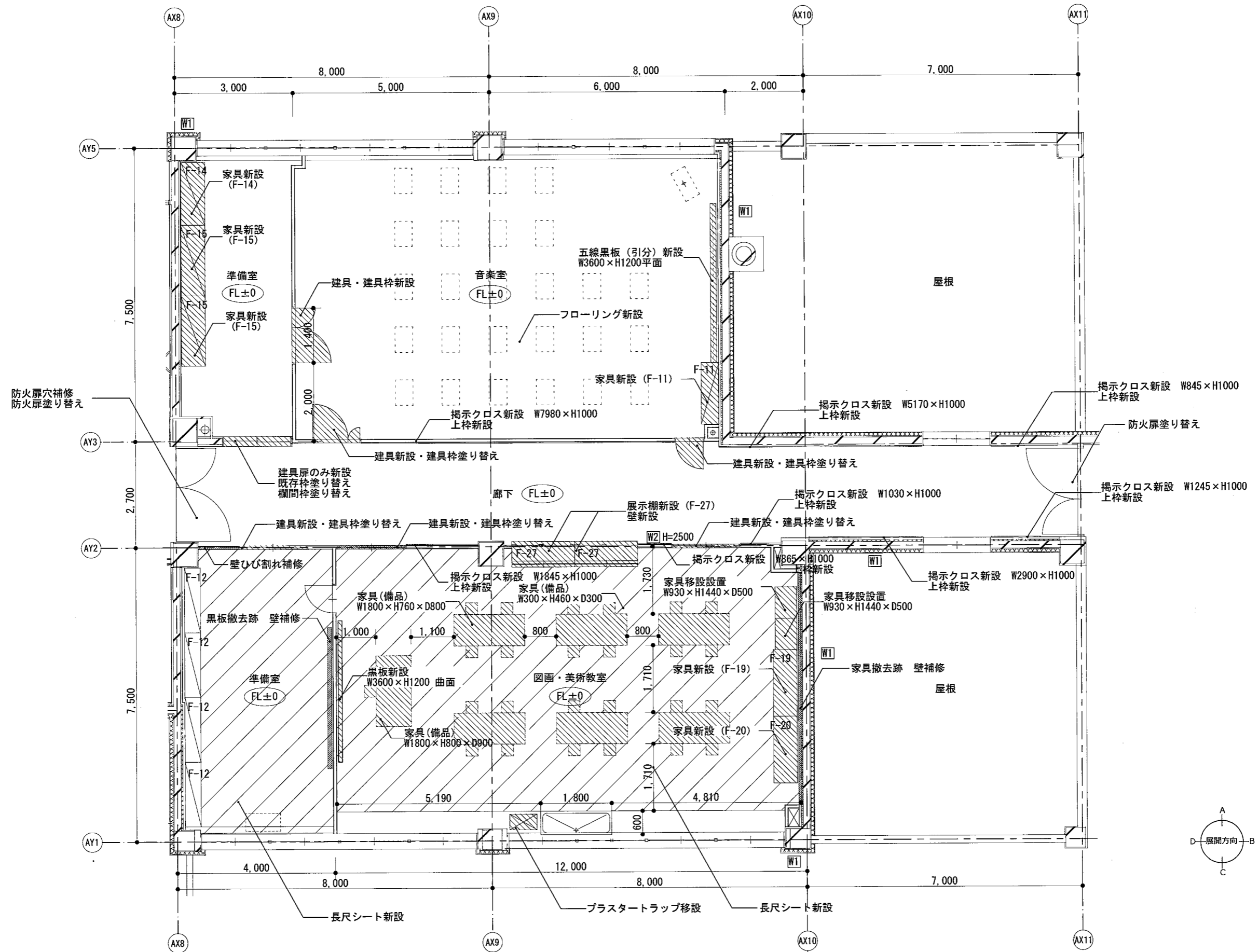


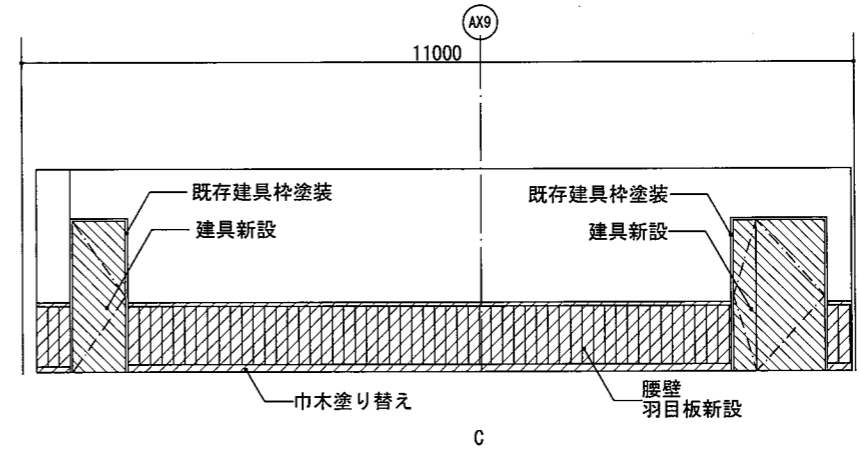
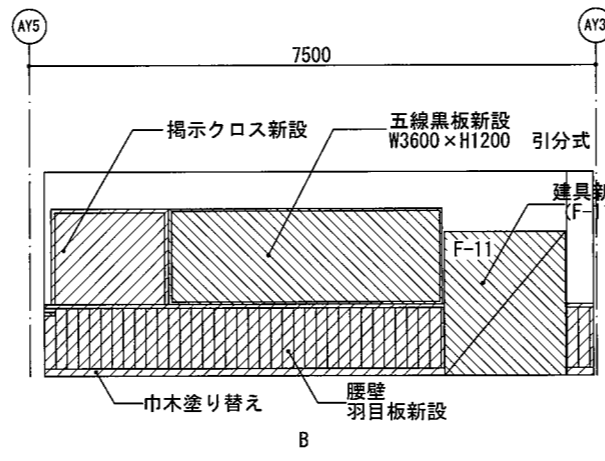
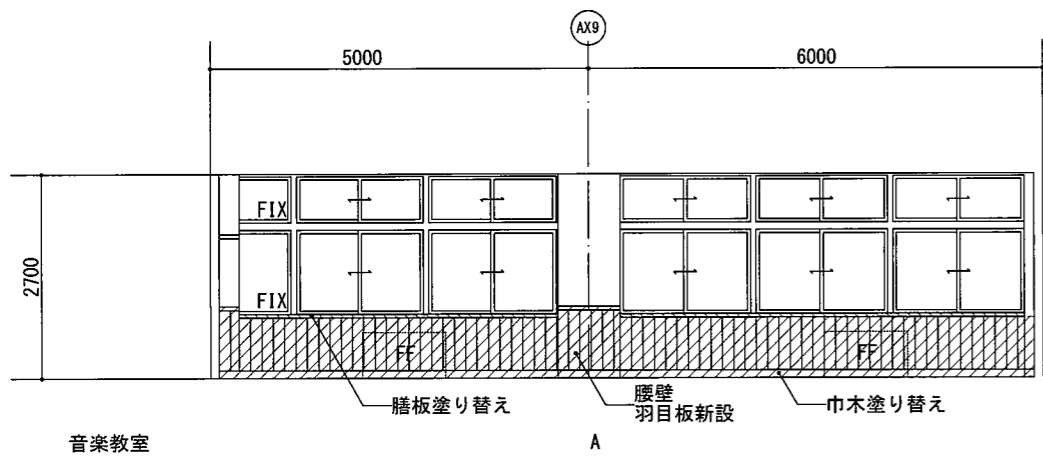
特別支援教室 (7)









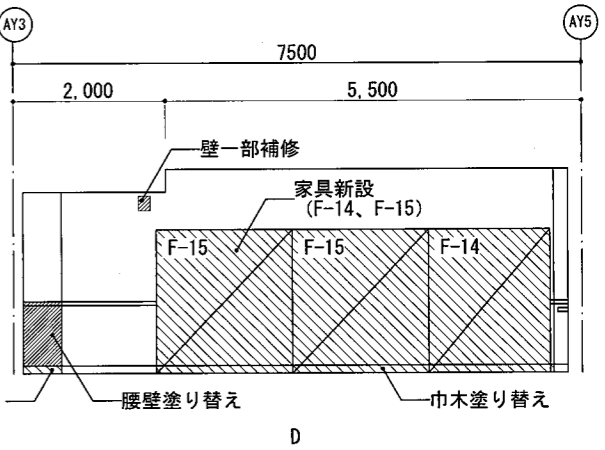
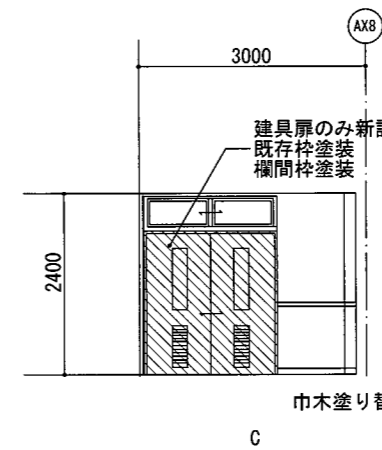
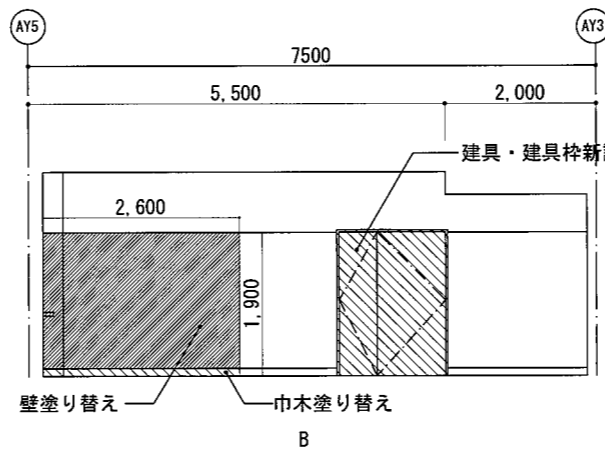
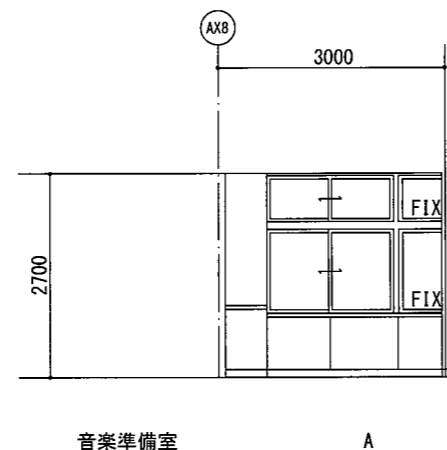
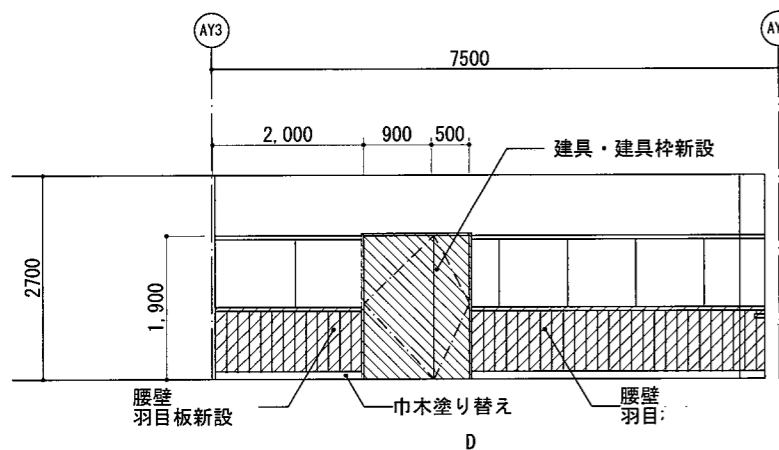


音楽教室

A

B

C



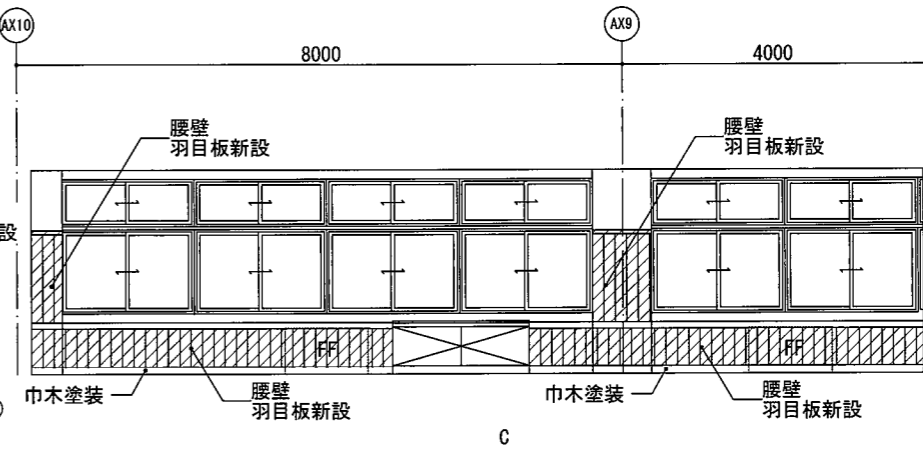
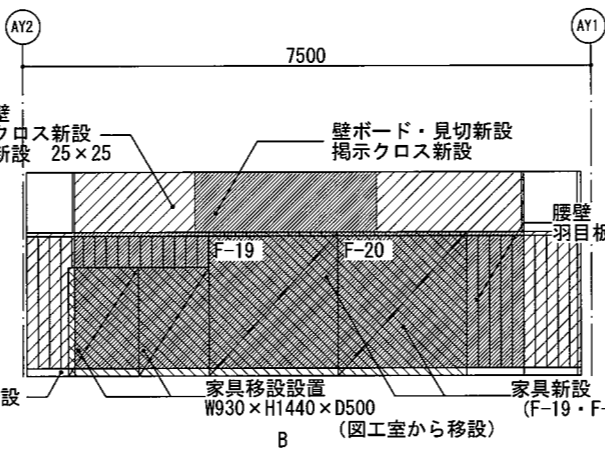
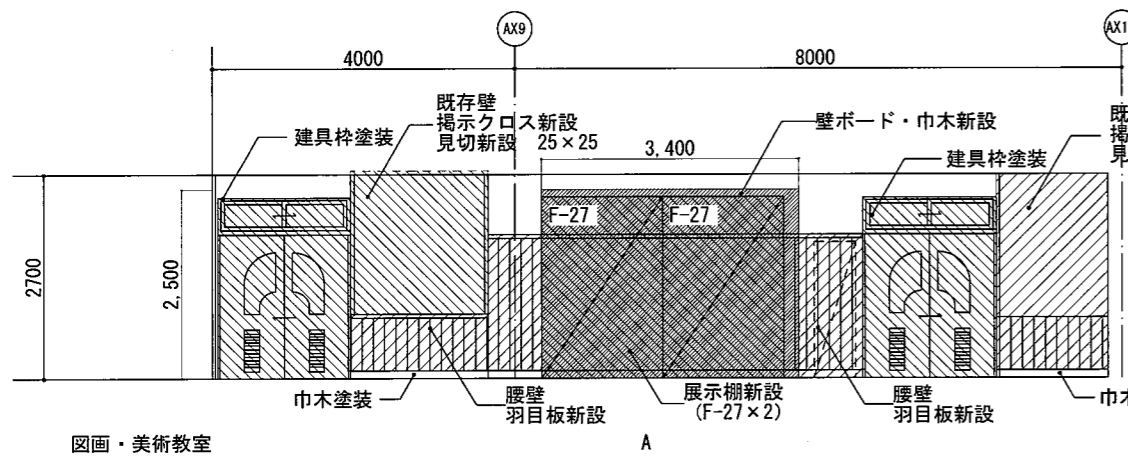
音楽準備室

A

B

C

D

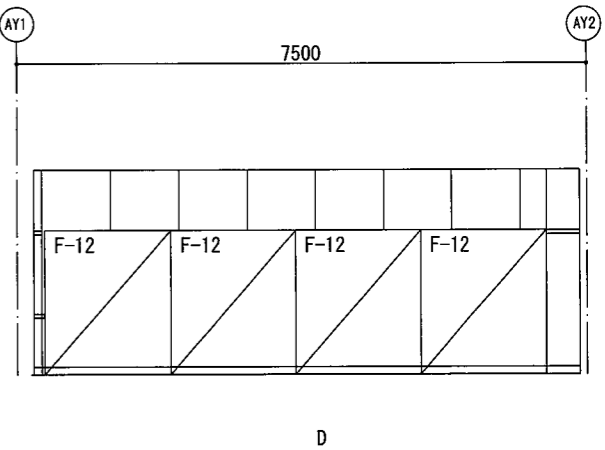
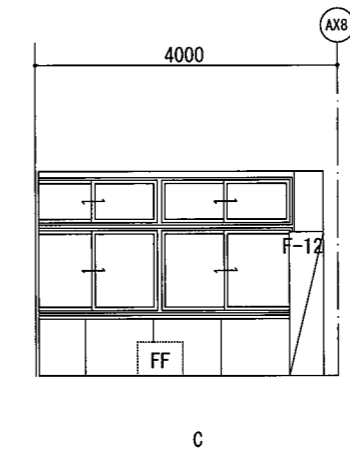
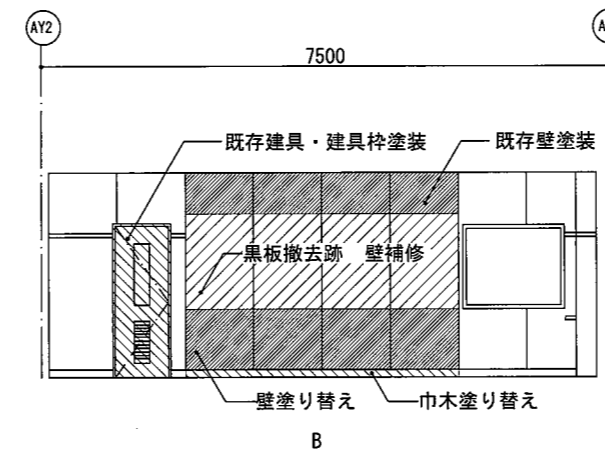
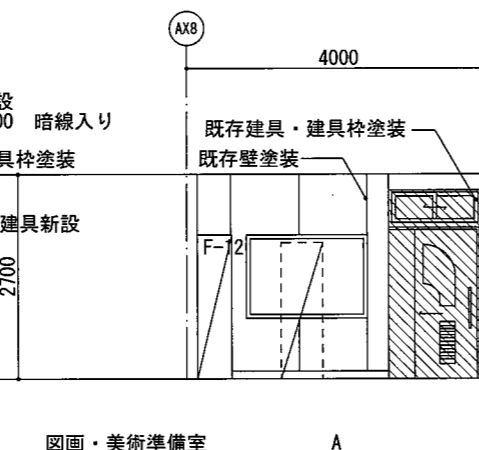
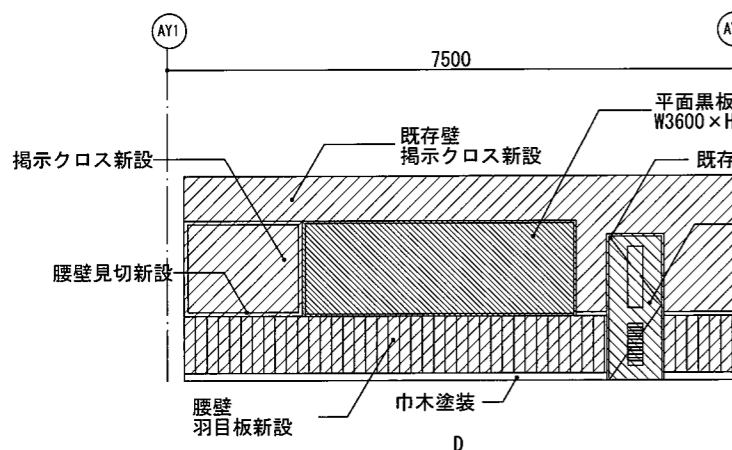


図画・美術教室

A

B

C



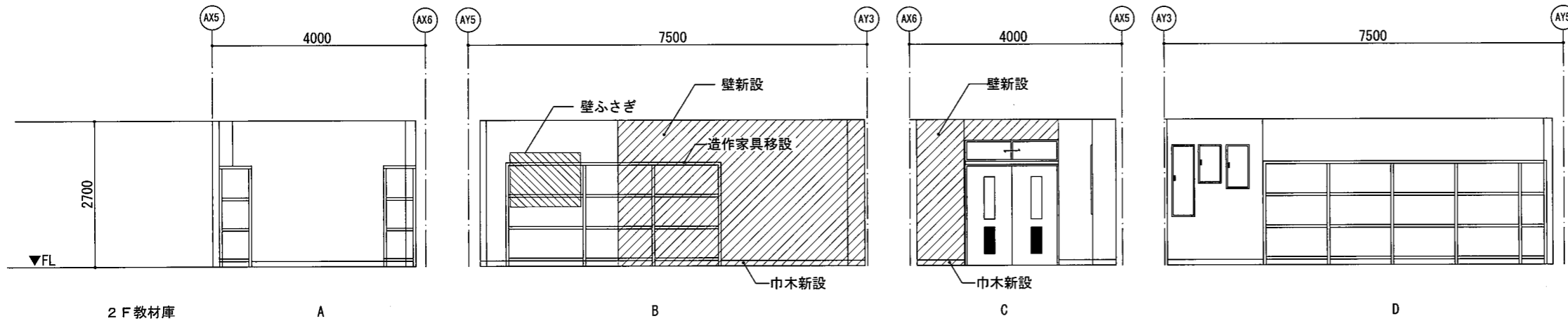
図画・美術準備室

A

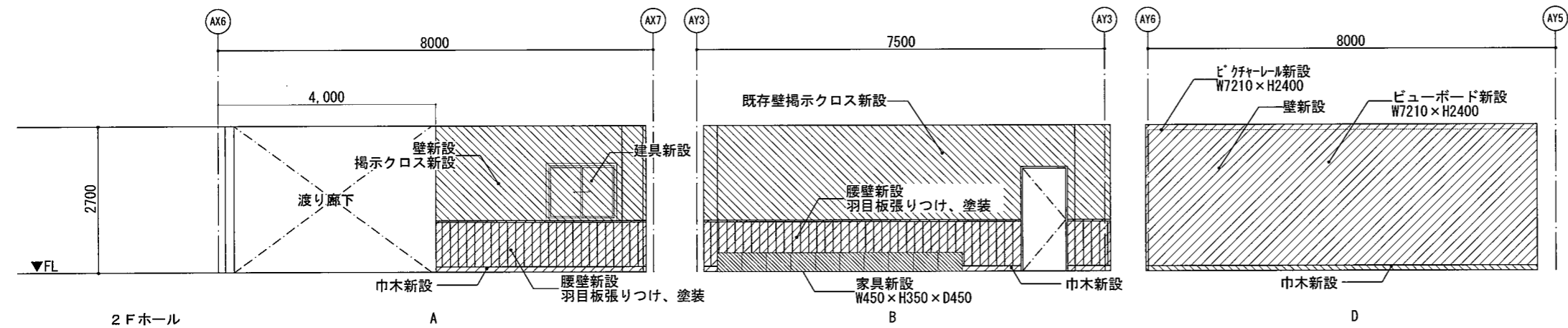
B

C

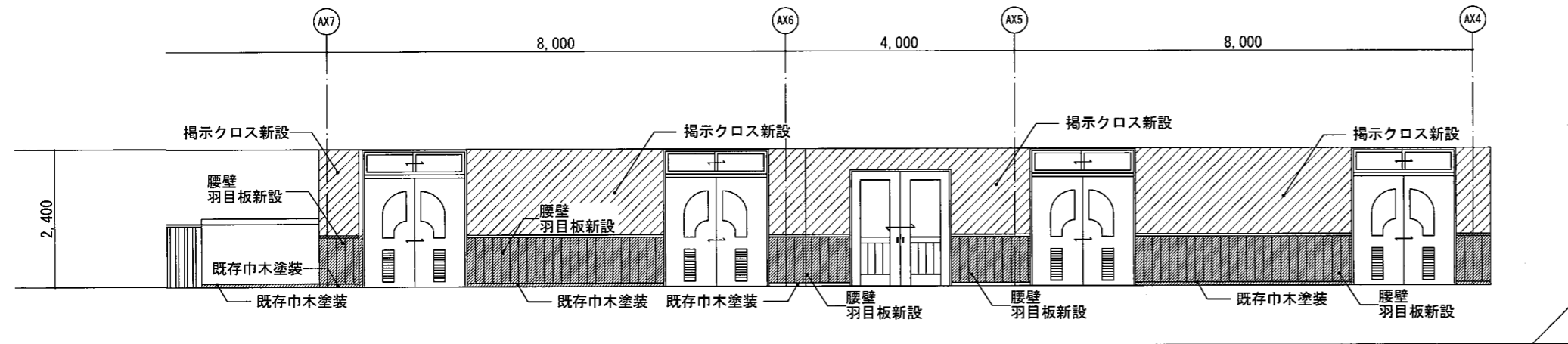
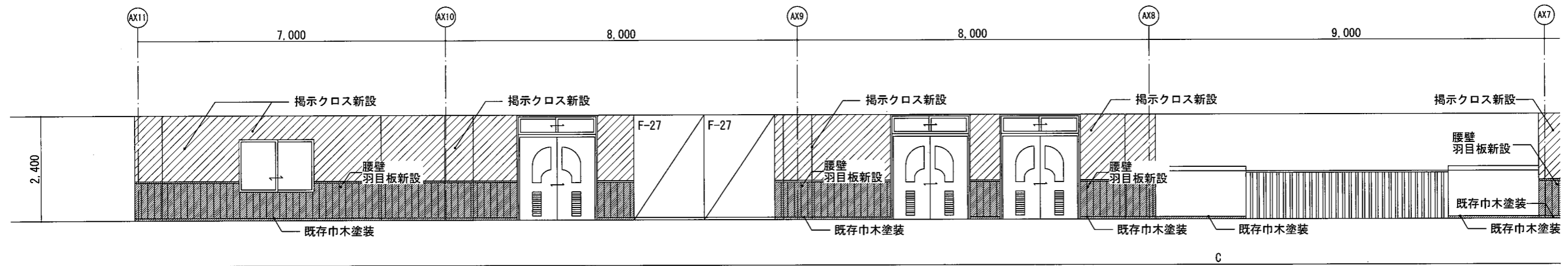
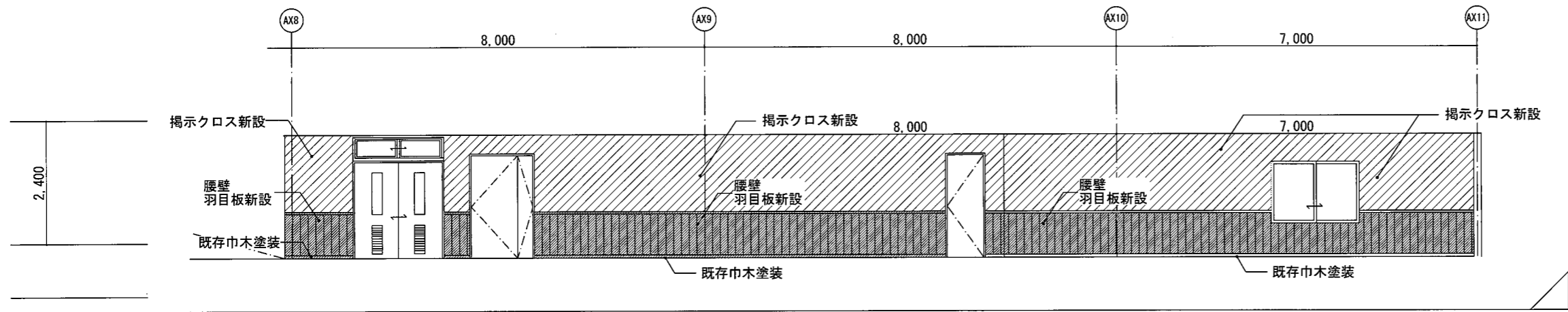
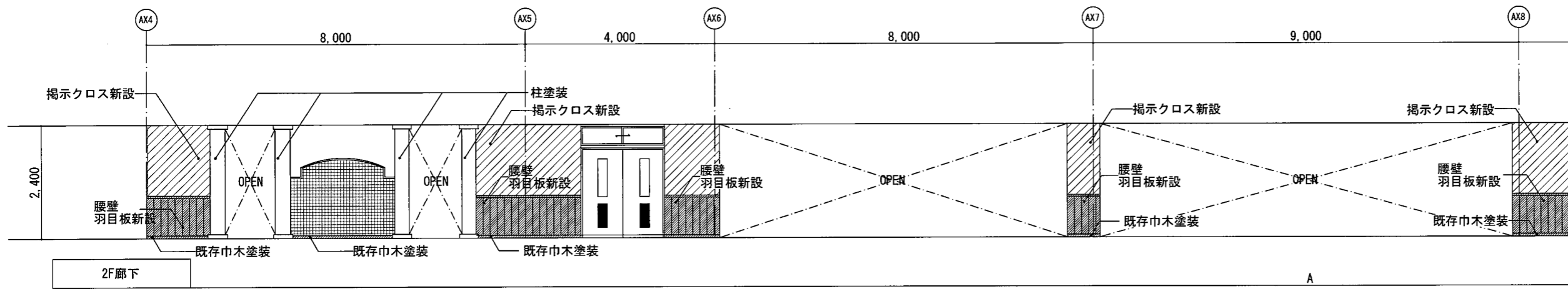
D

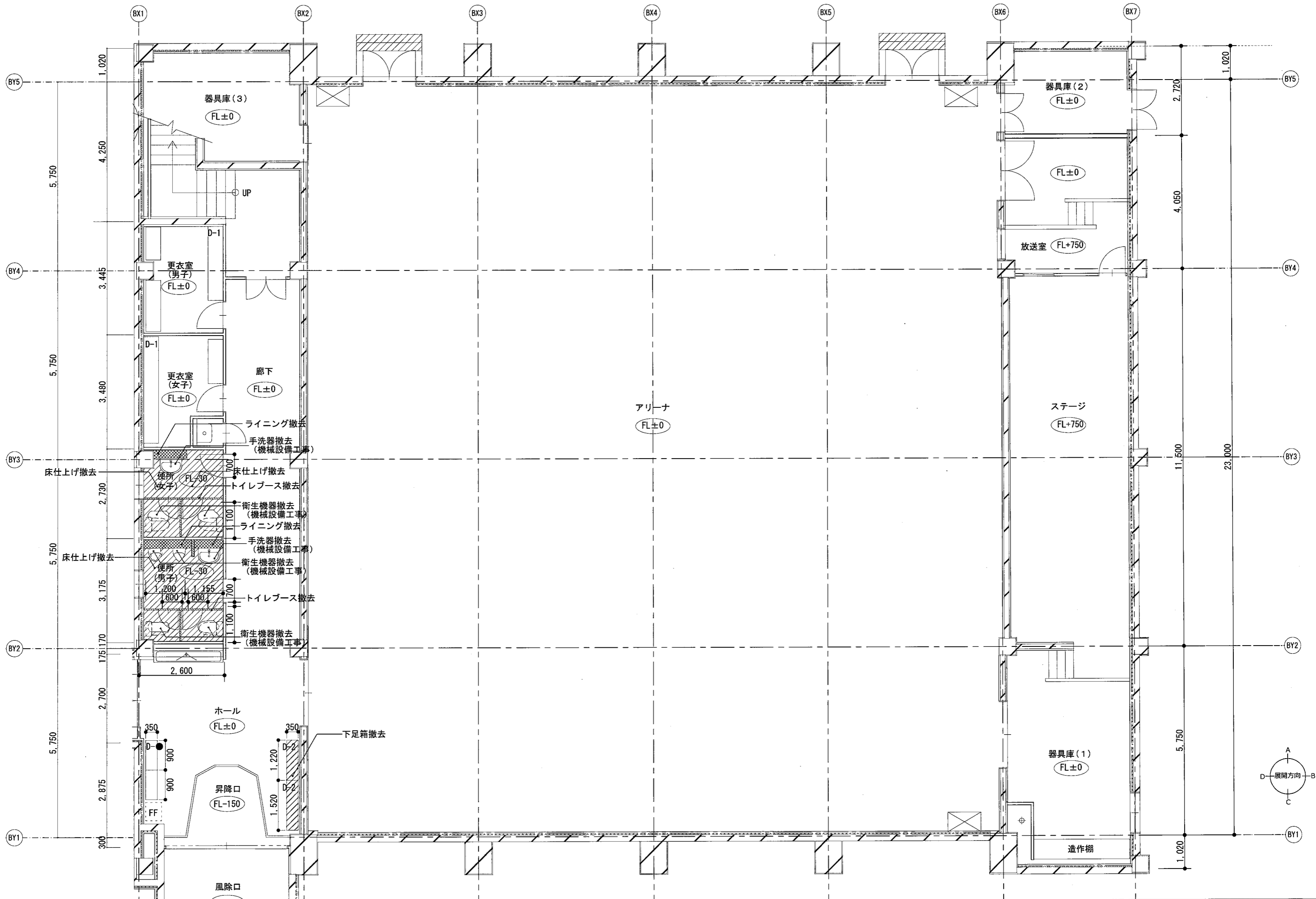


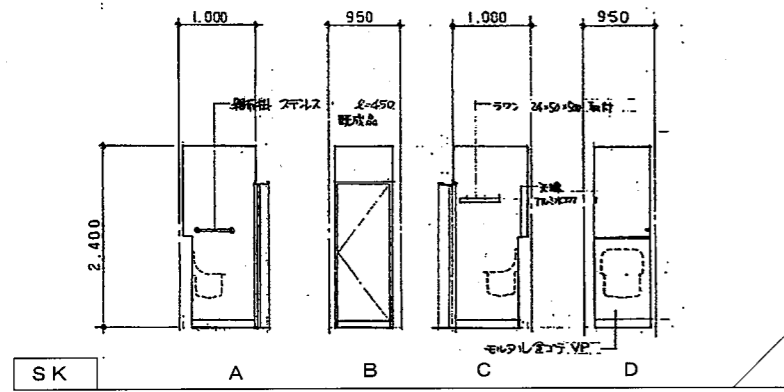
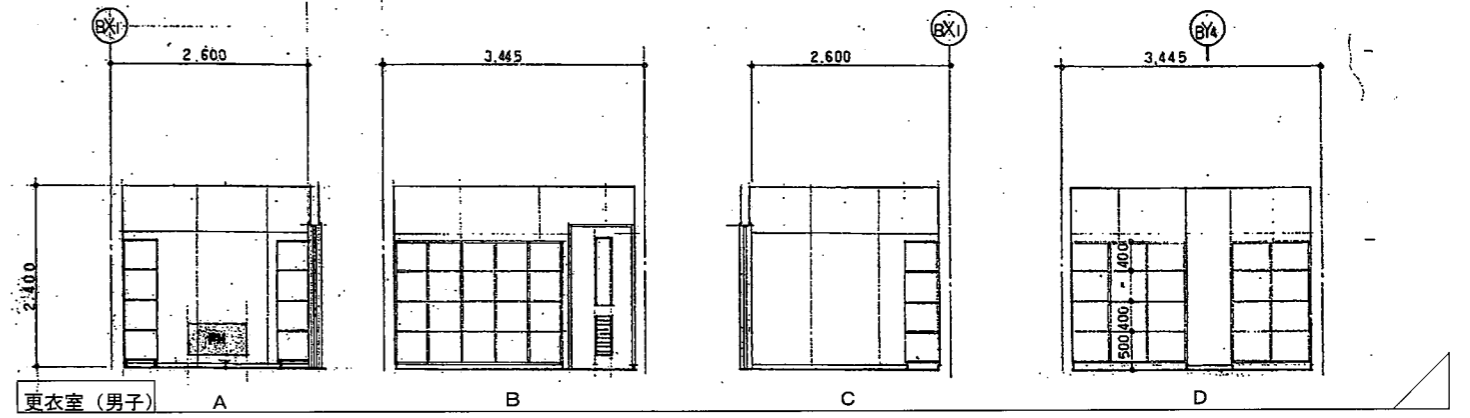
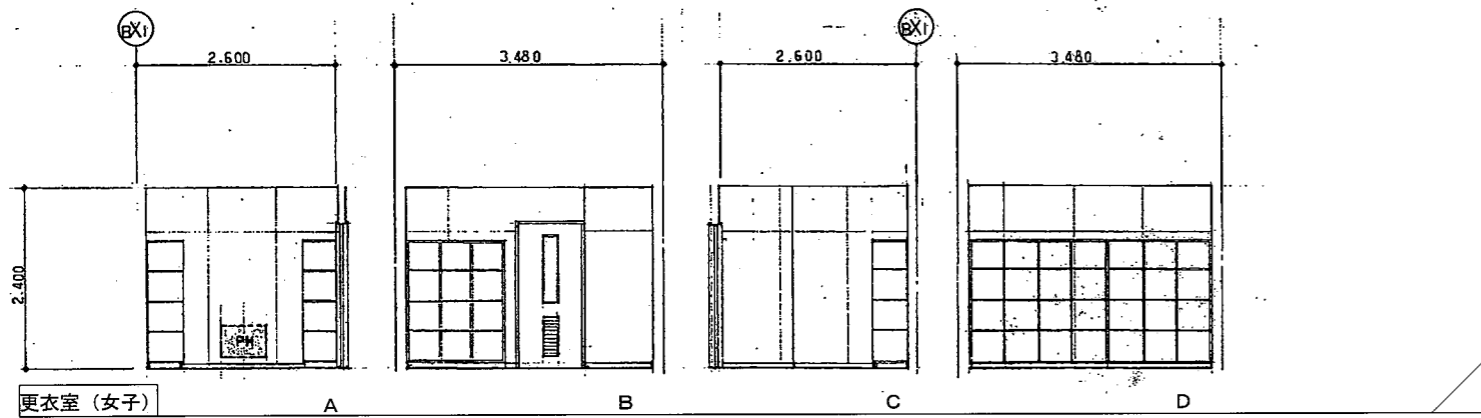
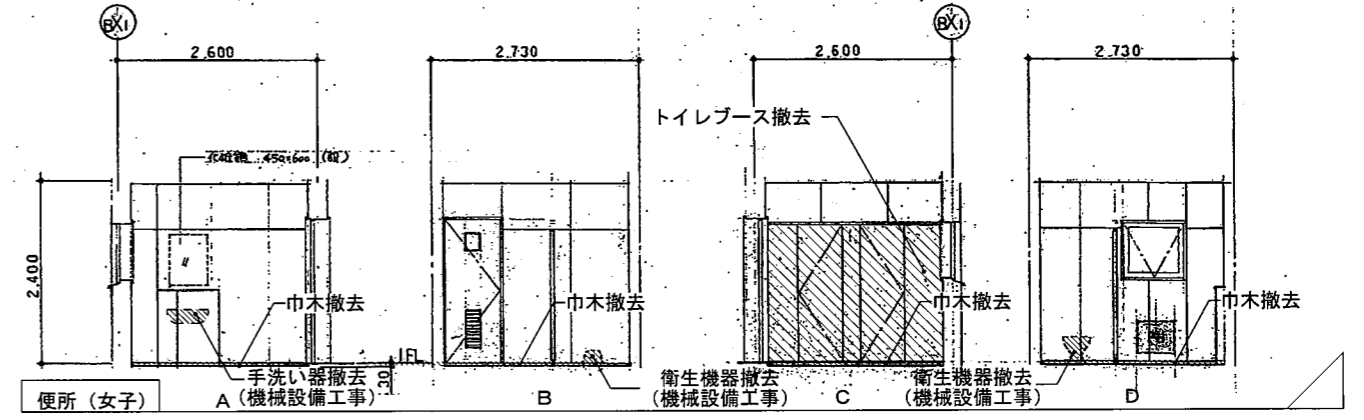
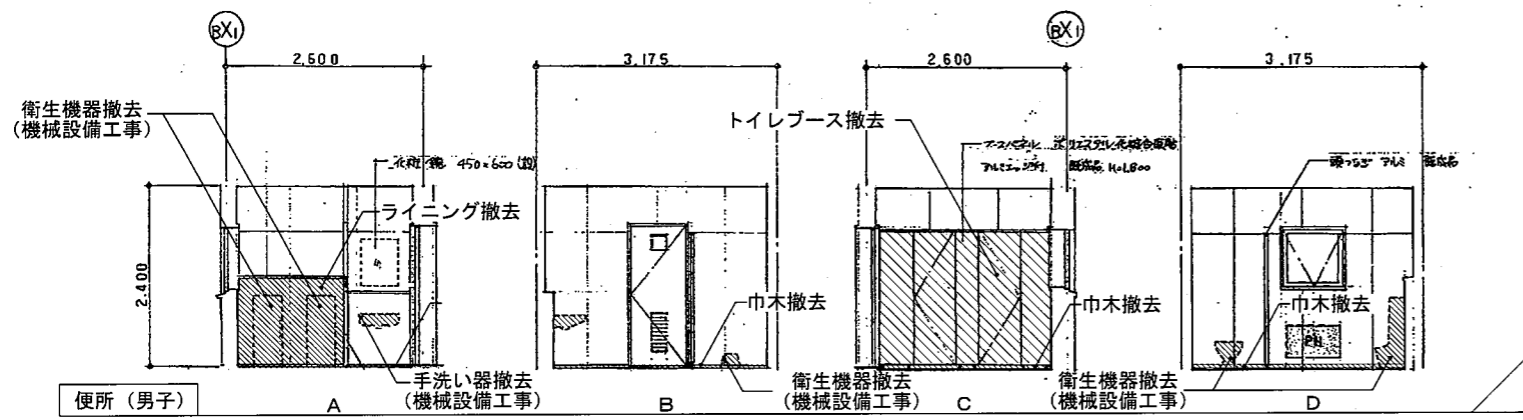
2 F教材庫

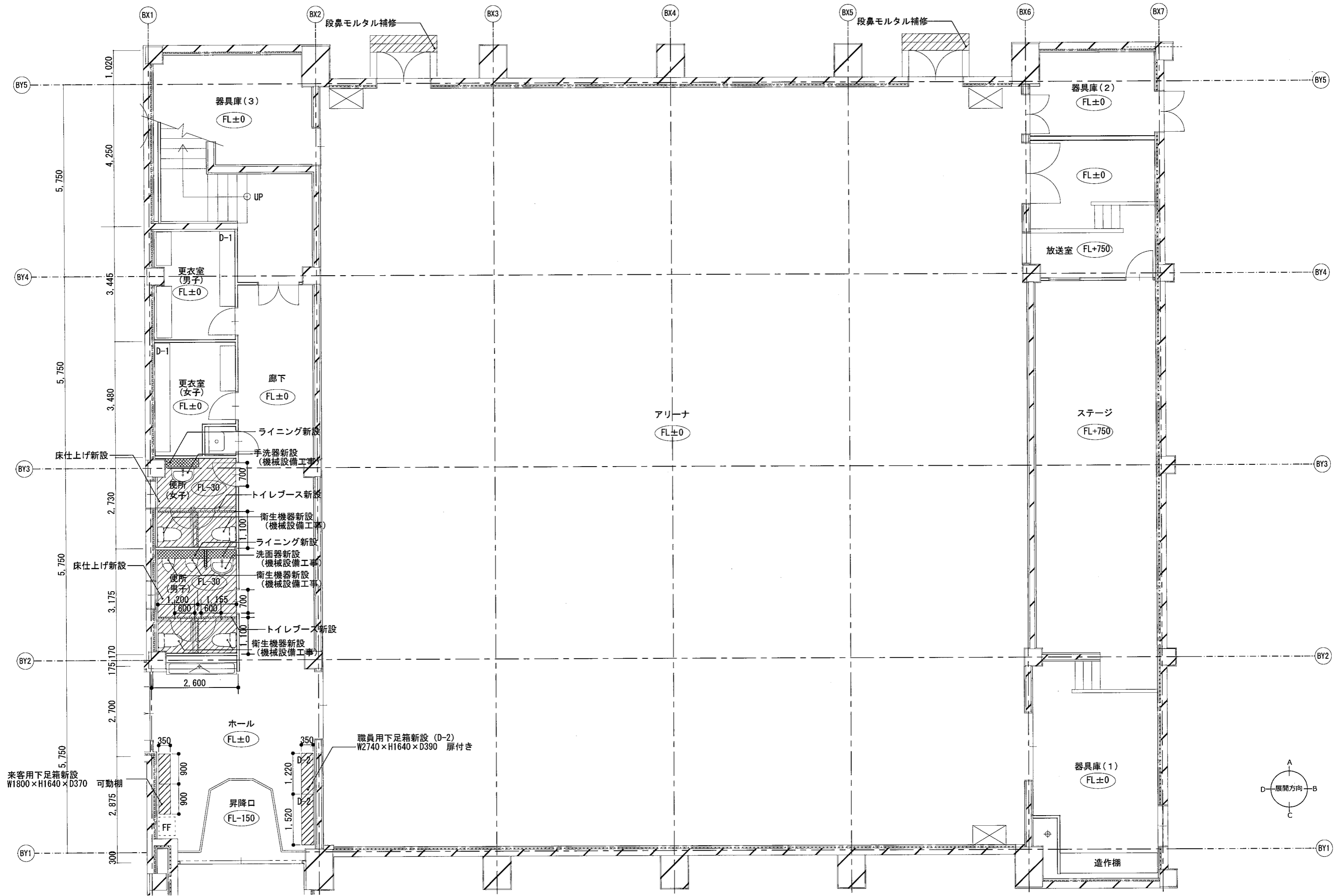


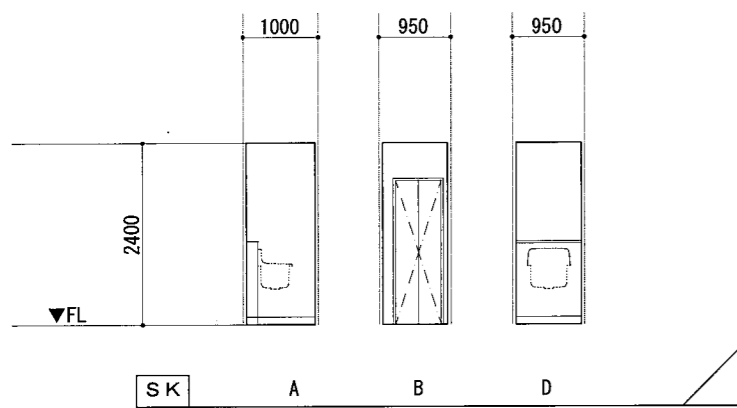
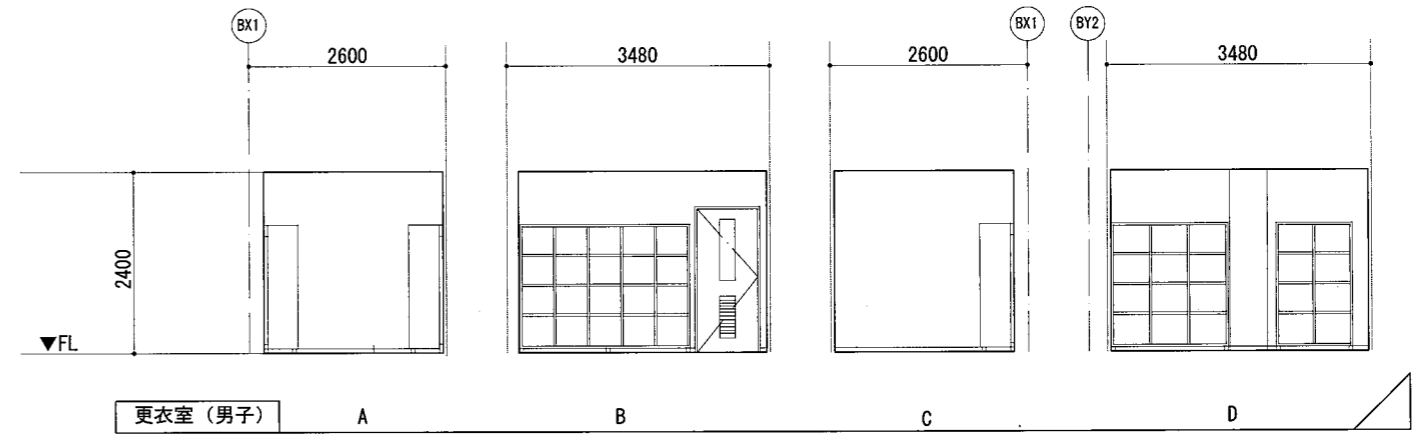
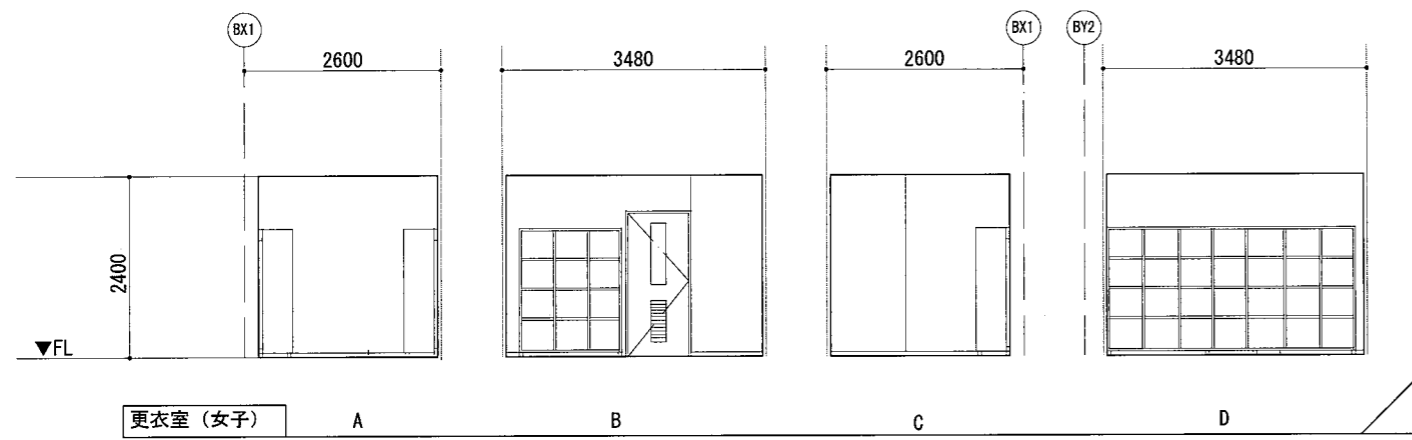
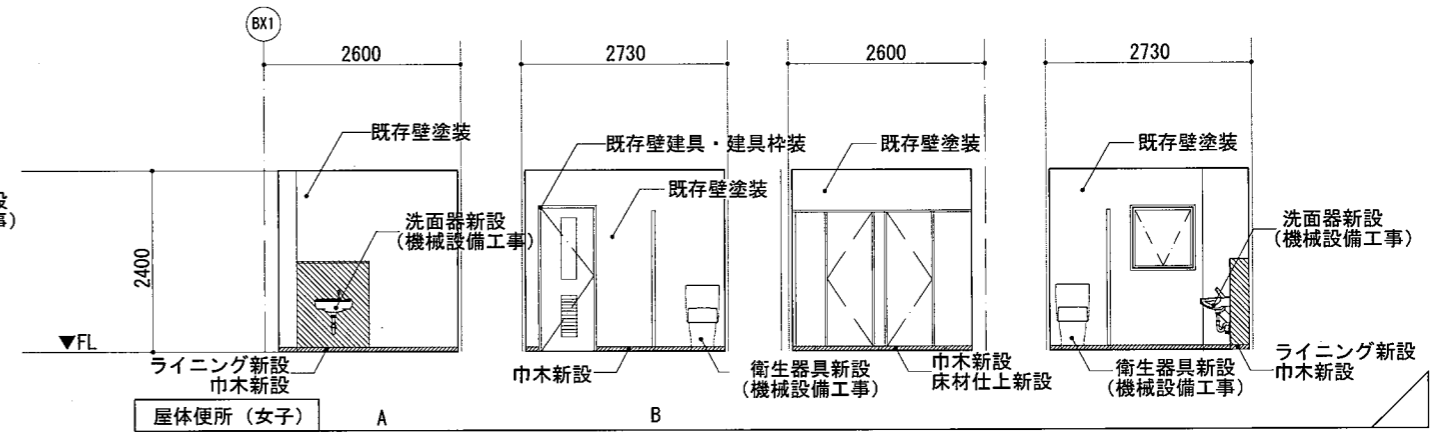
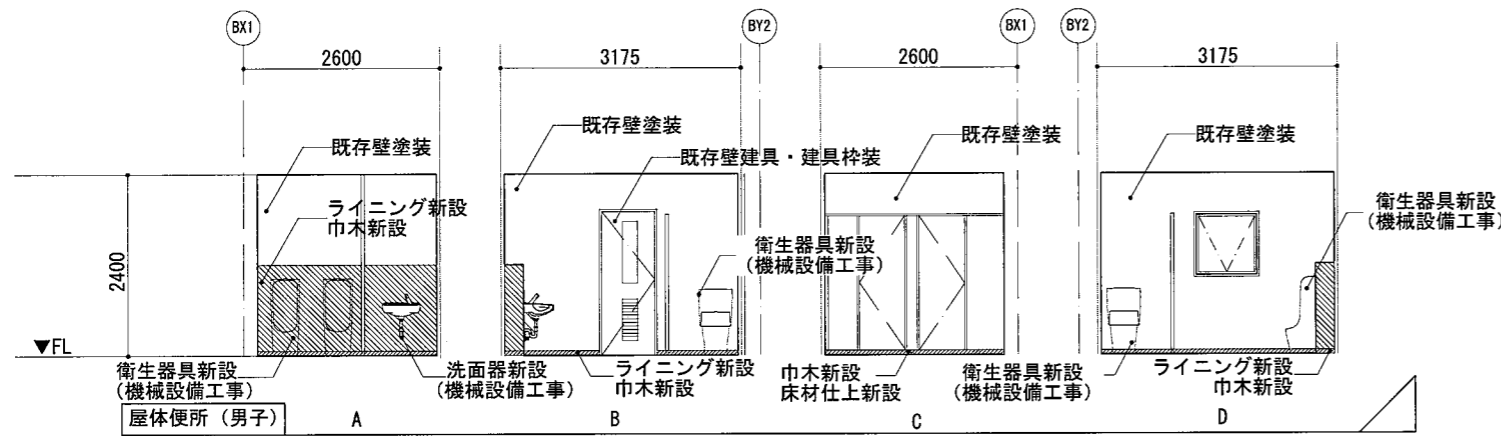
2 Fホール

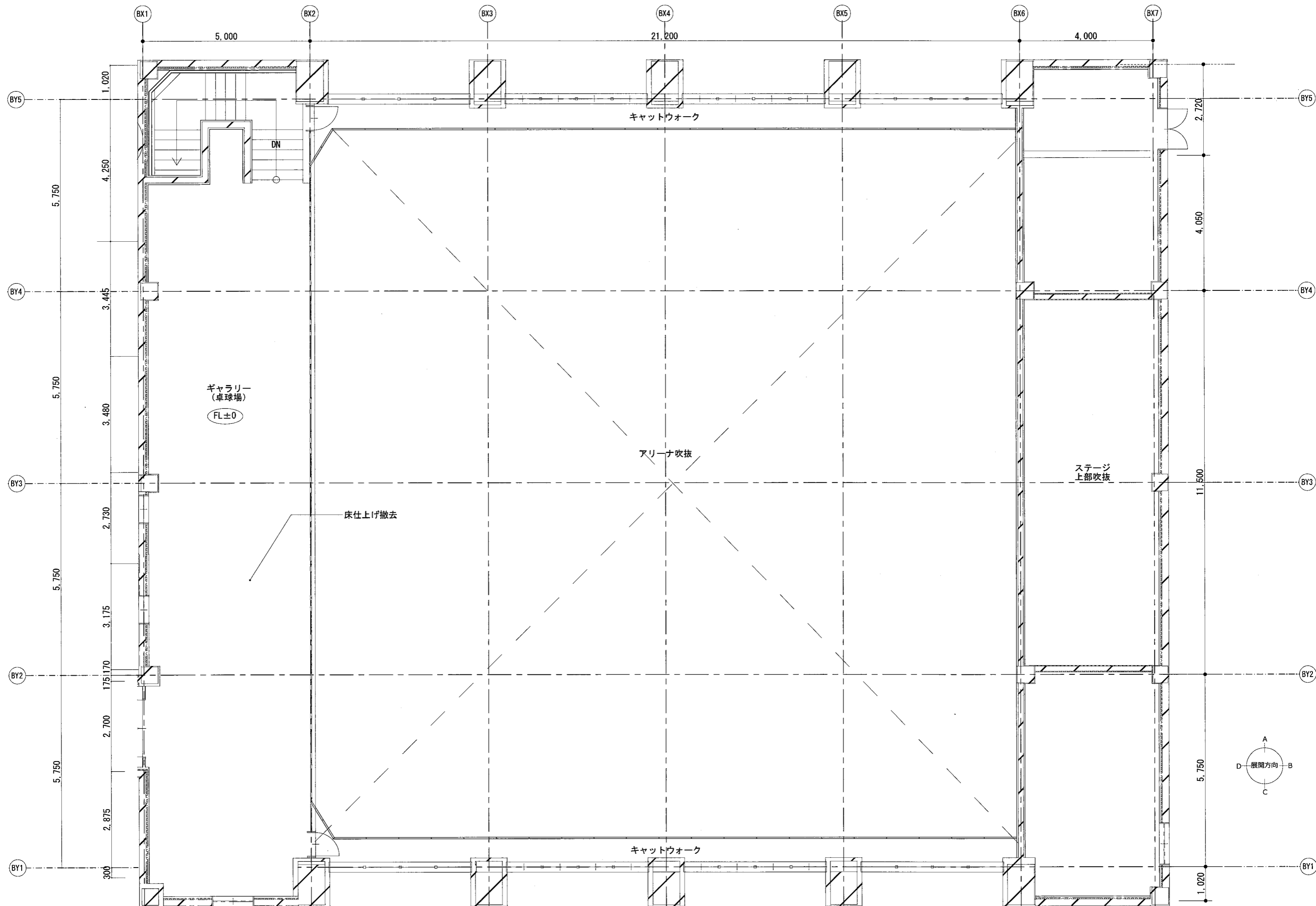


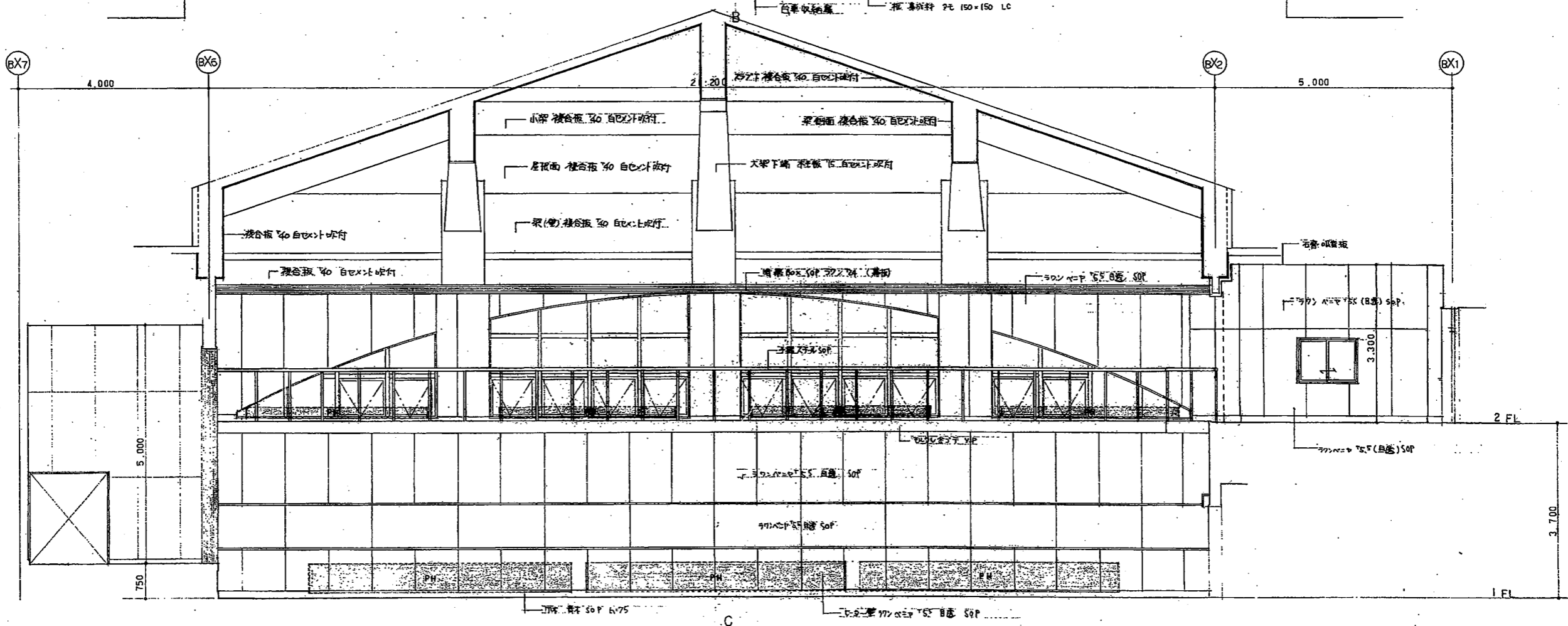
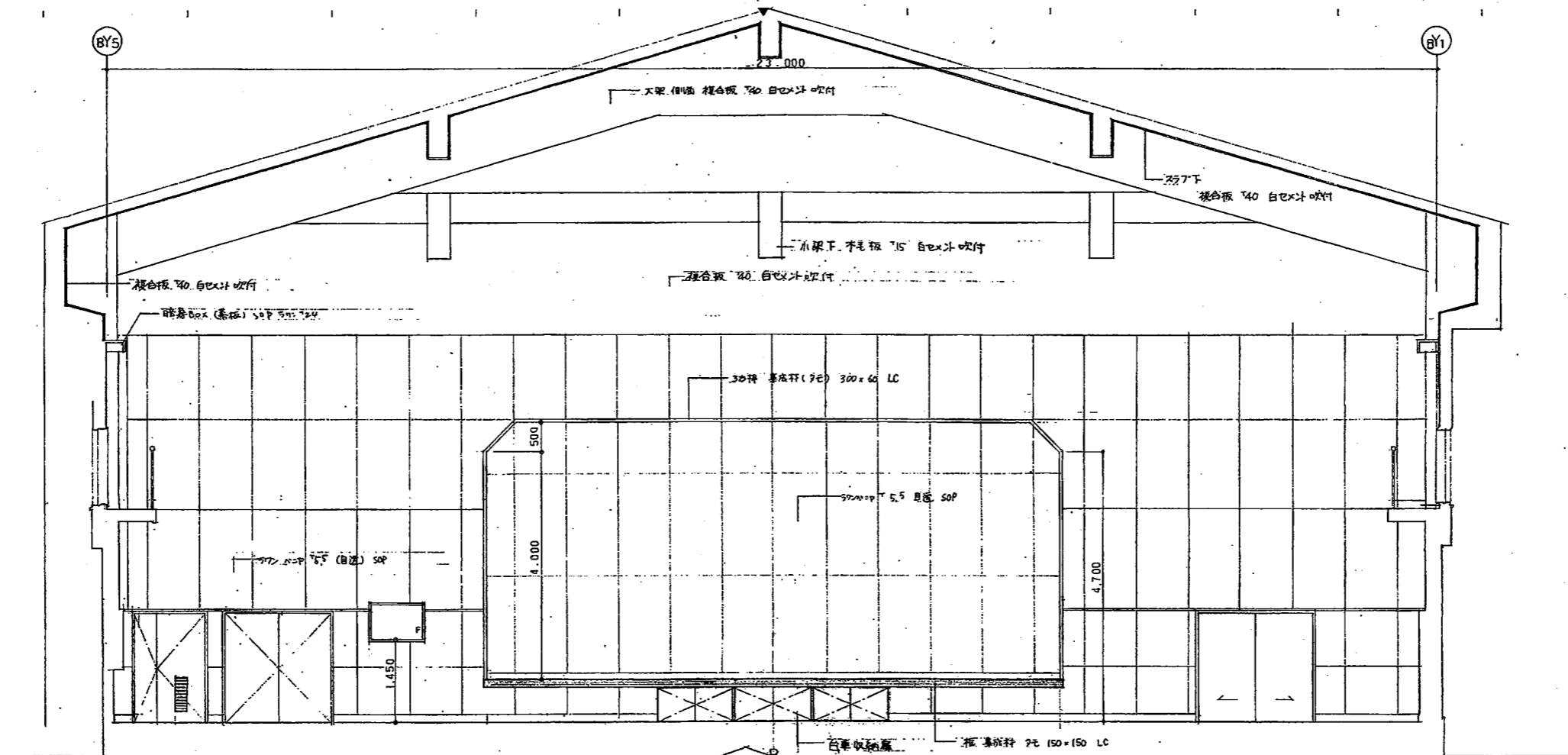


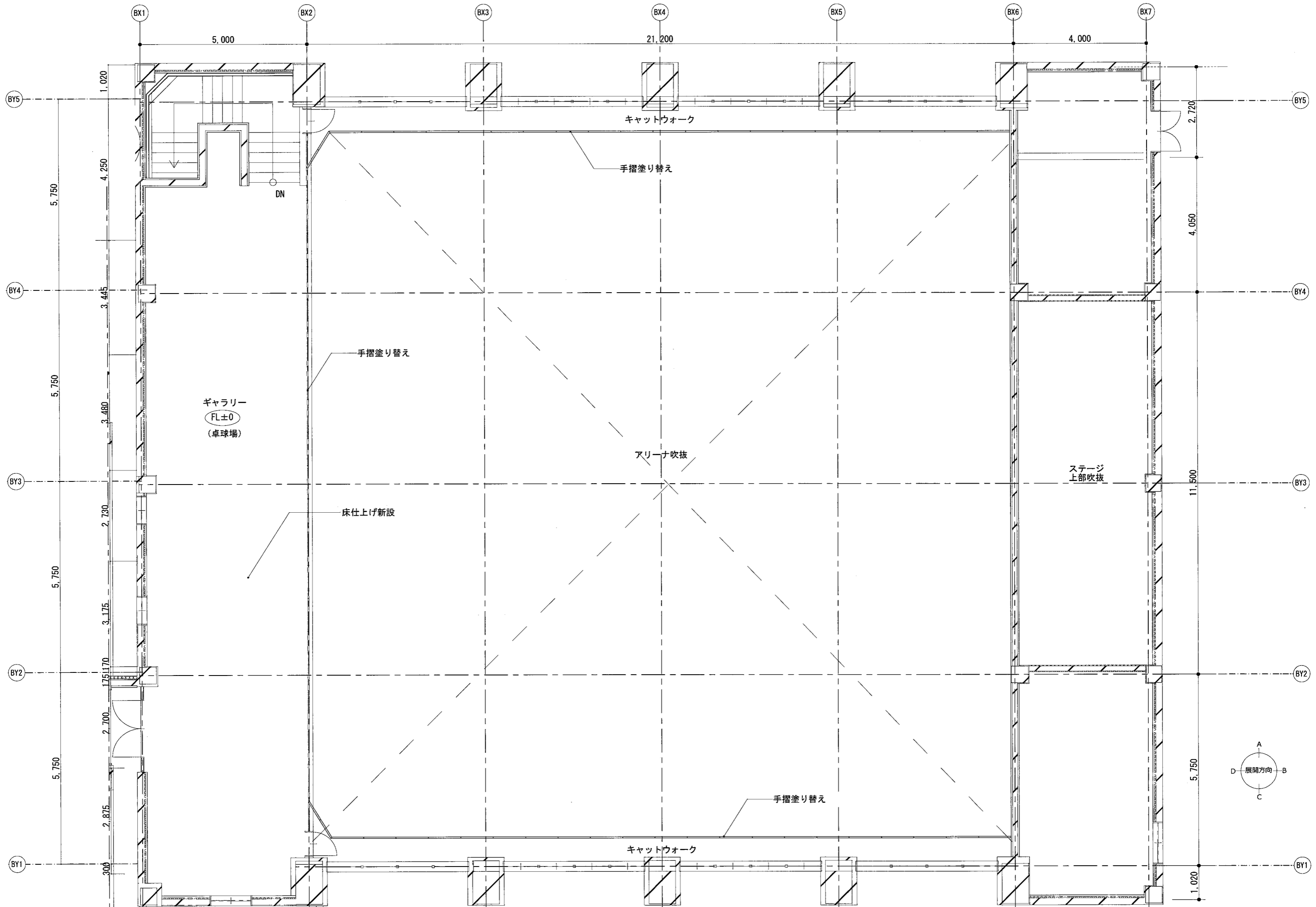


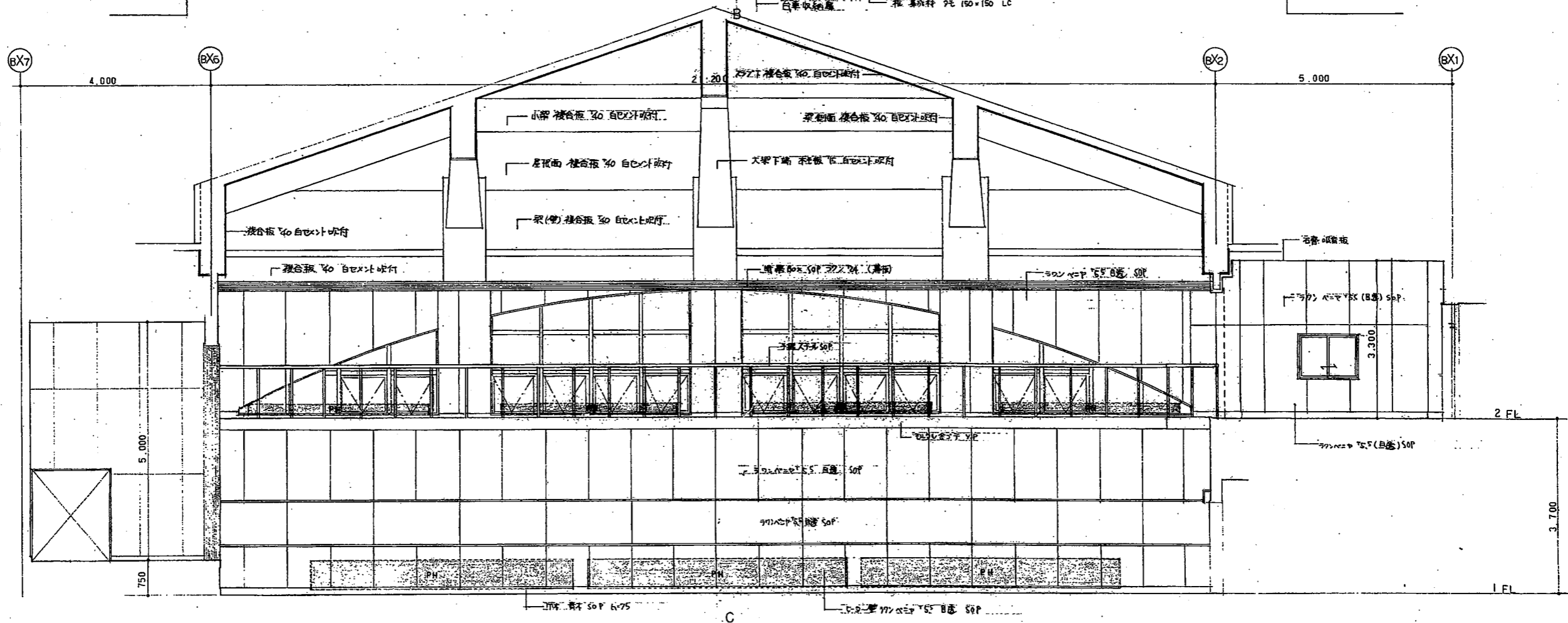
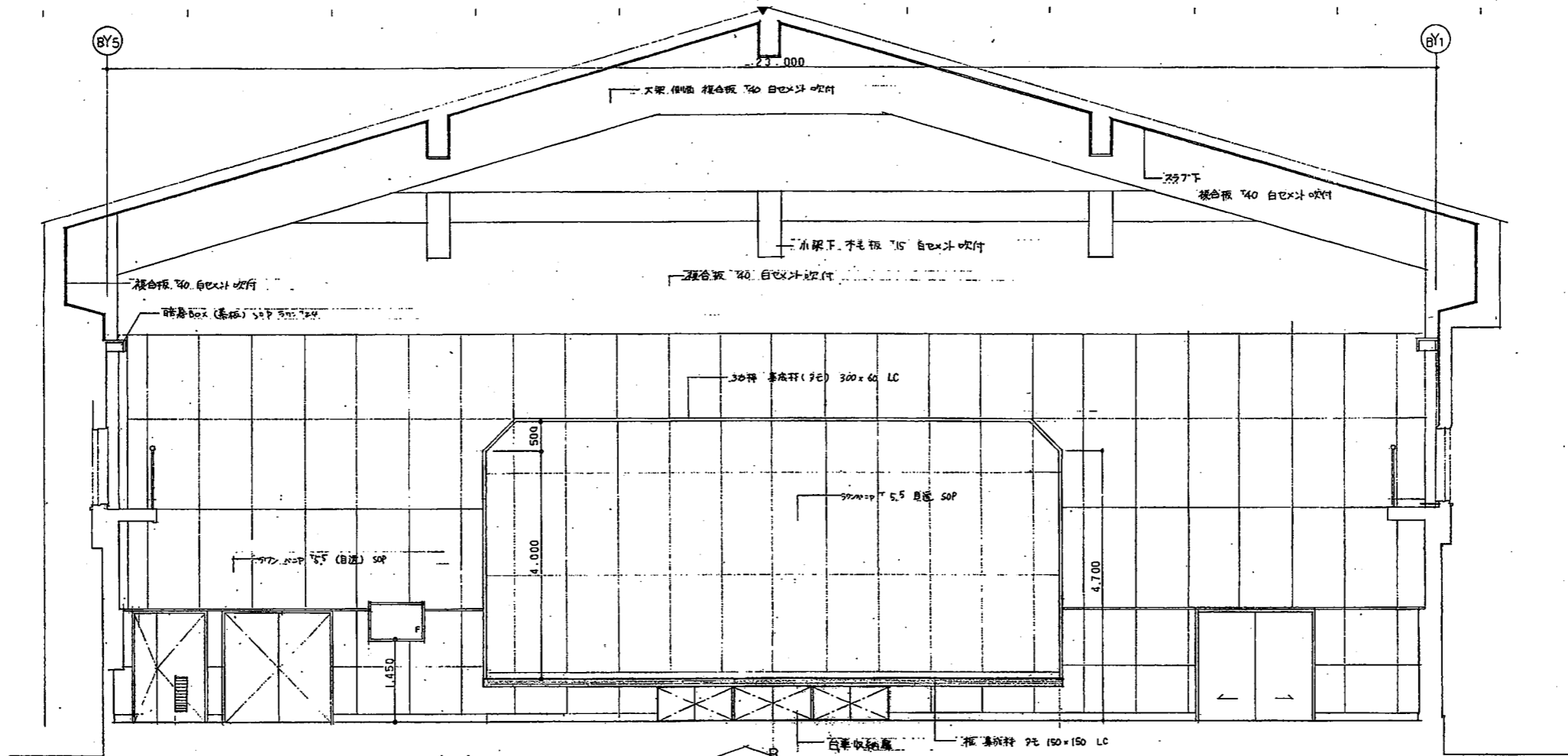


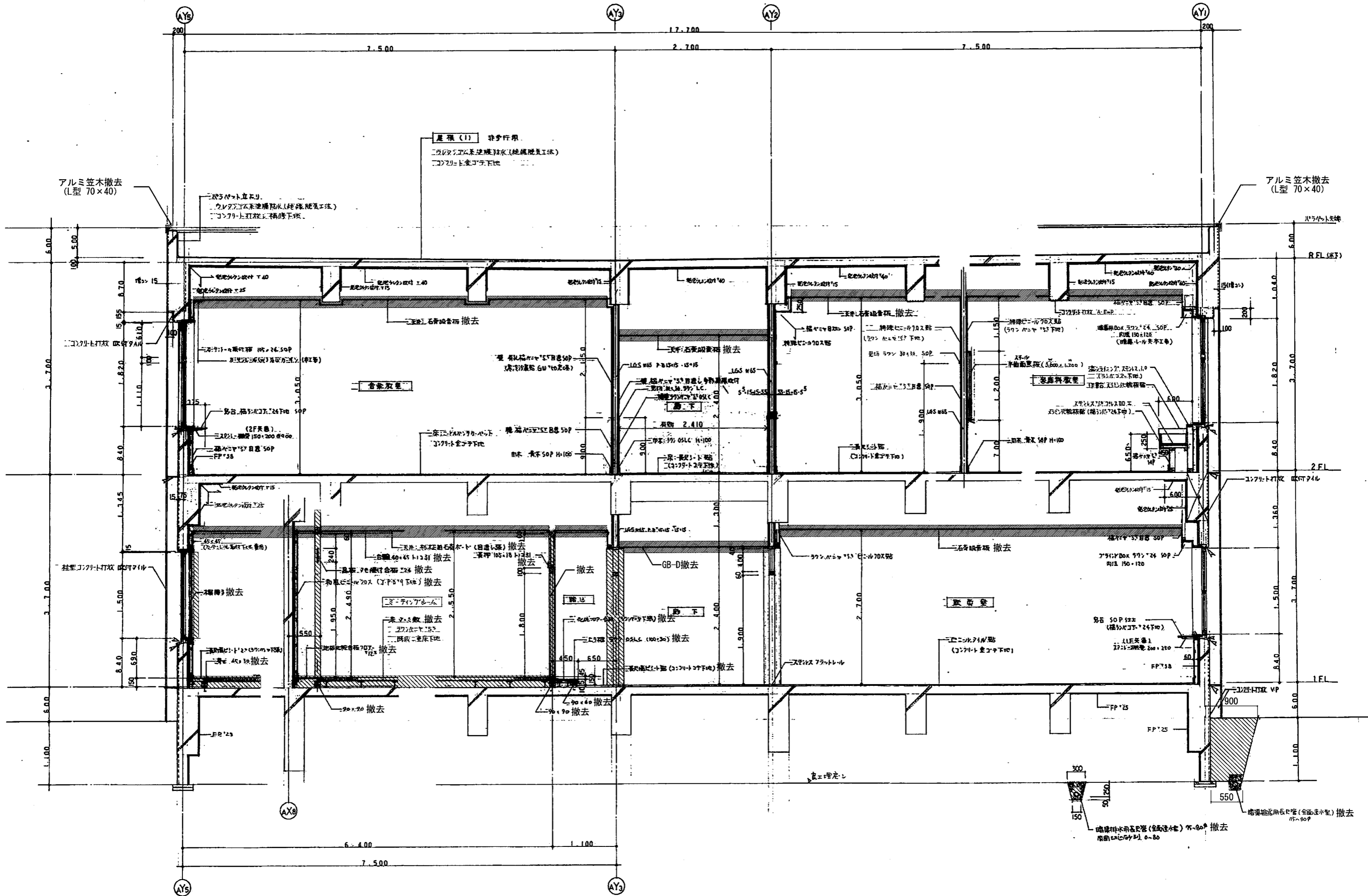


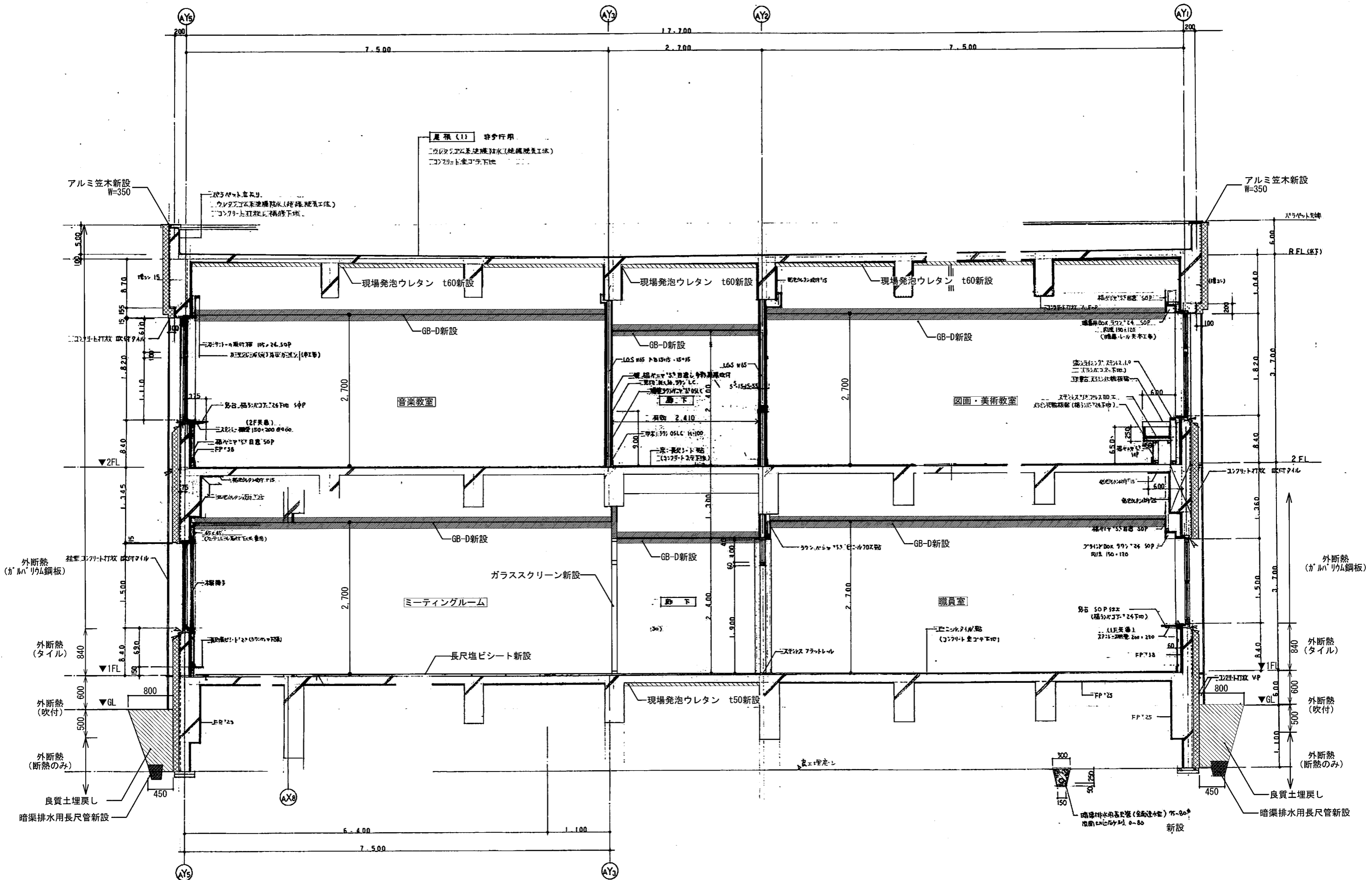


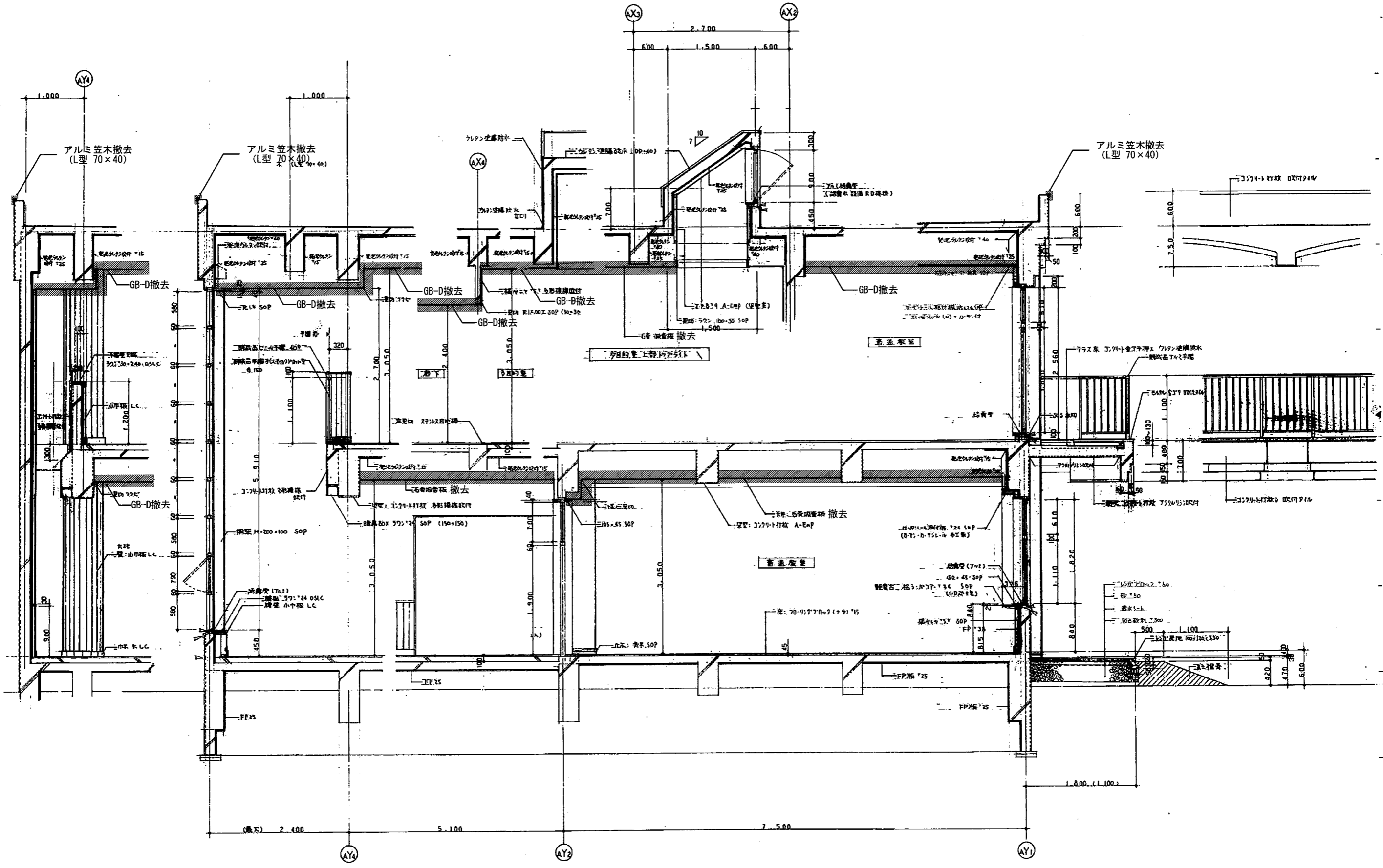


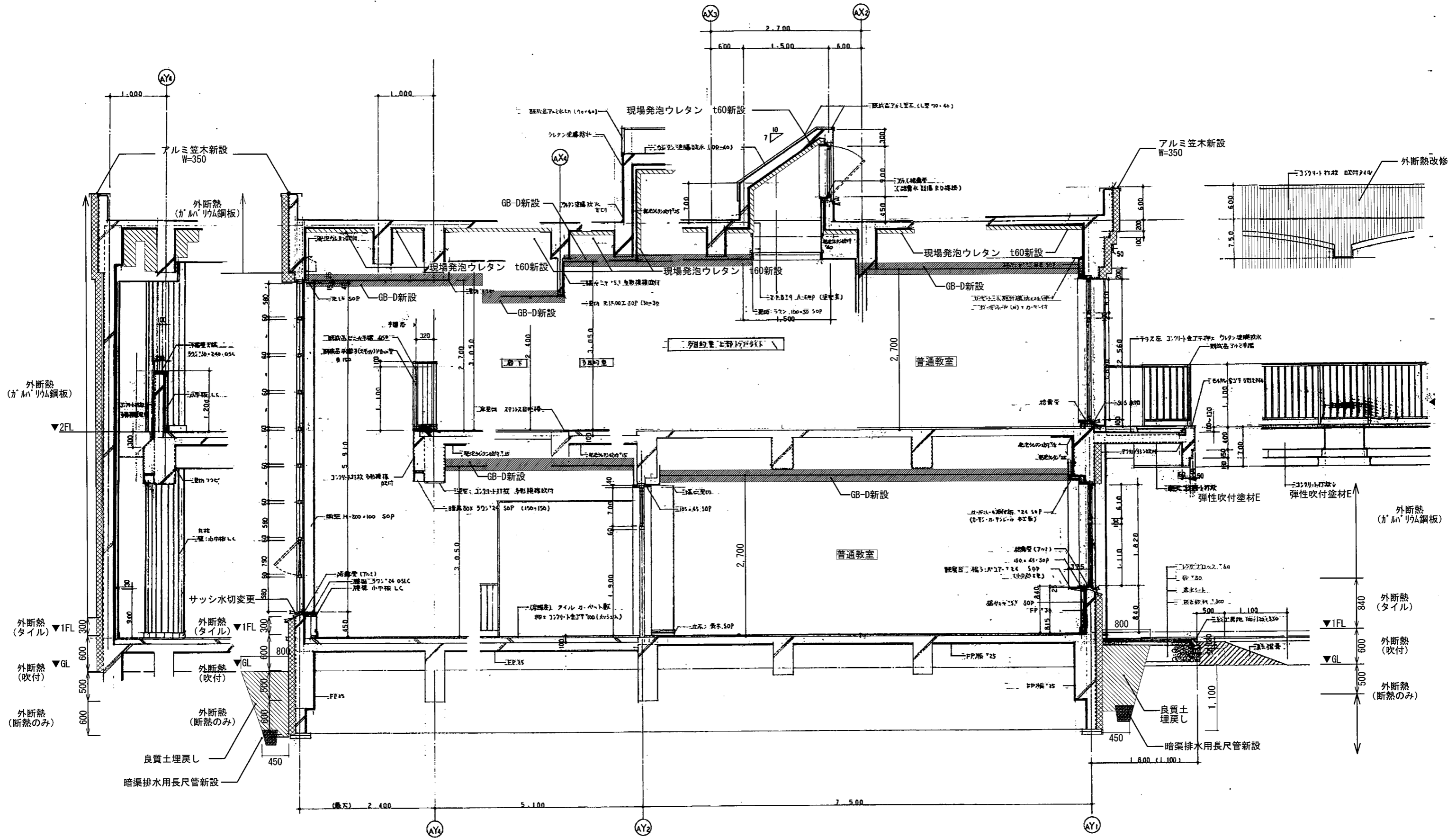


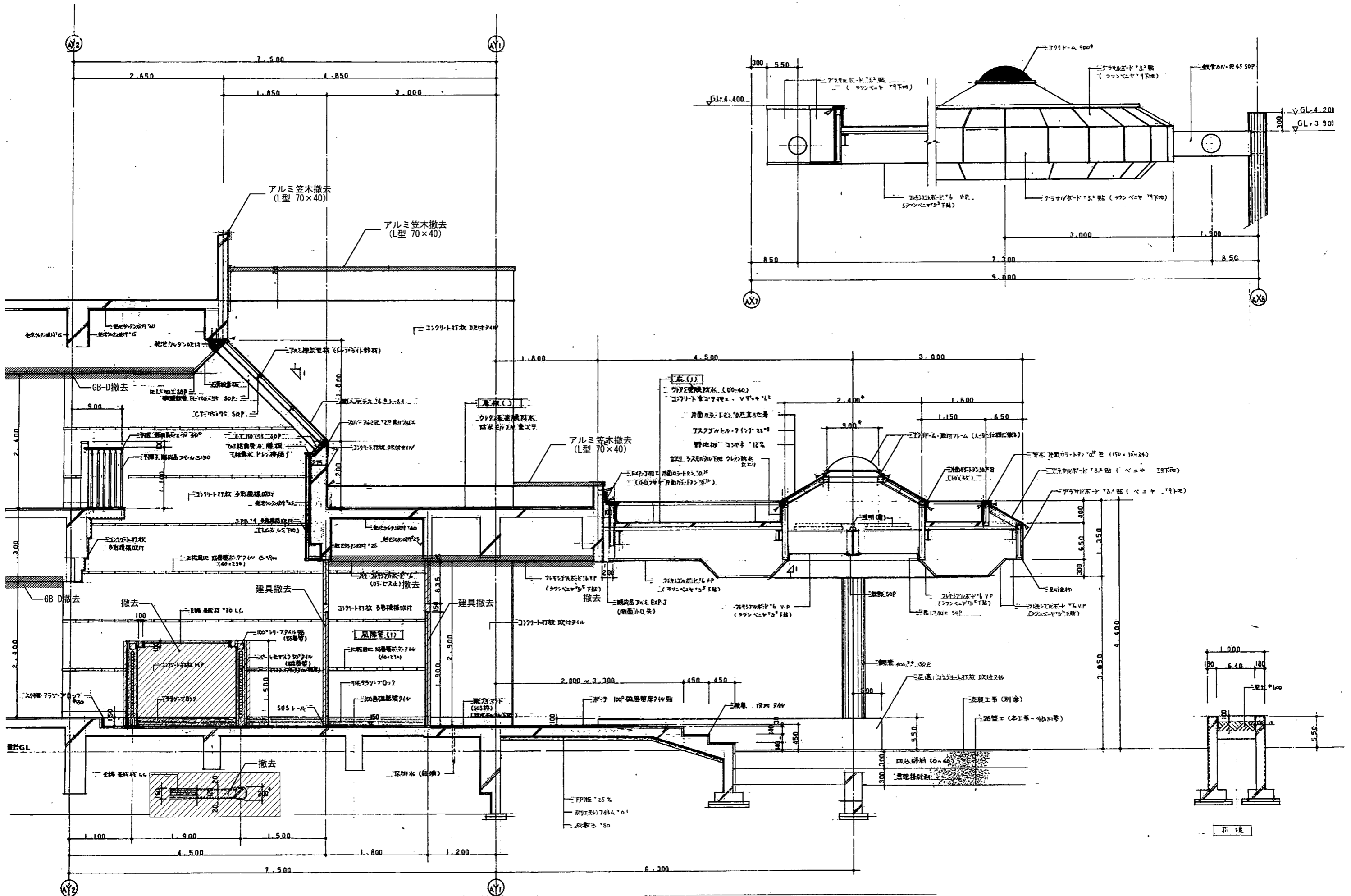


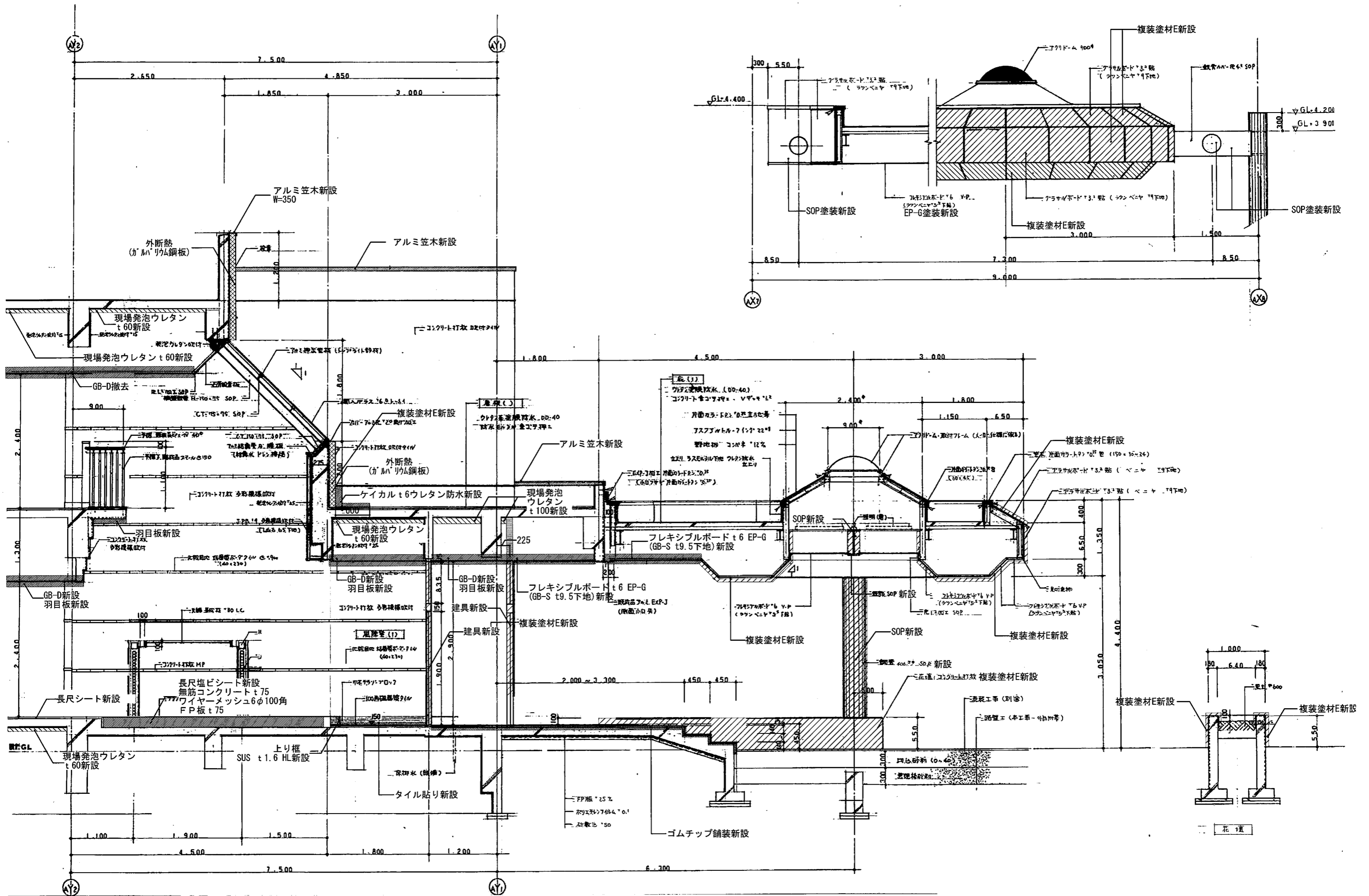


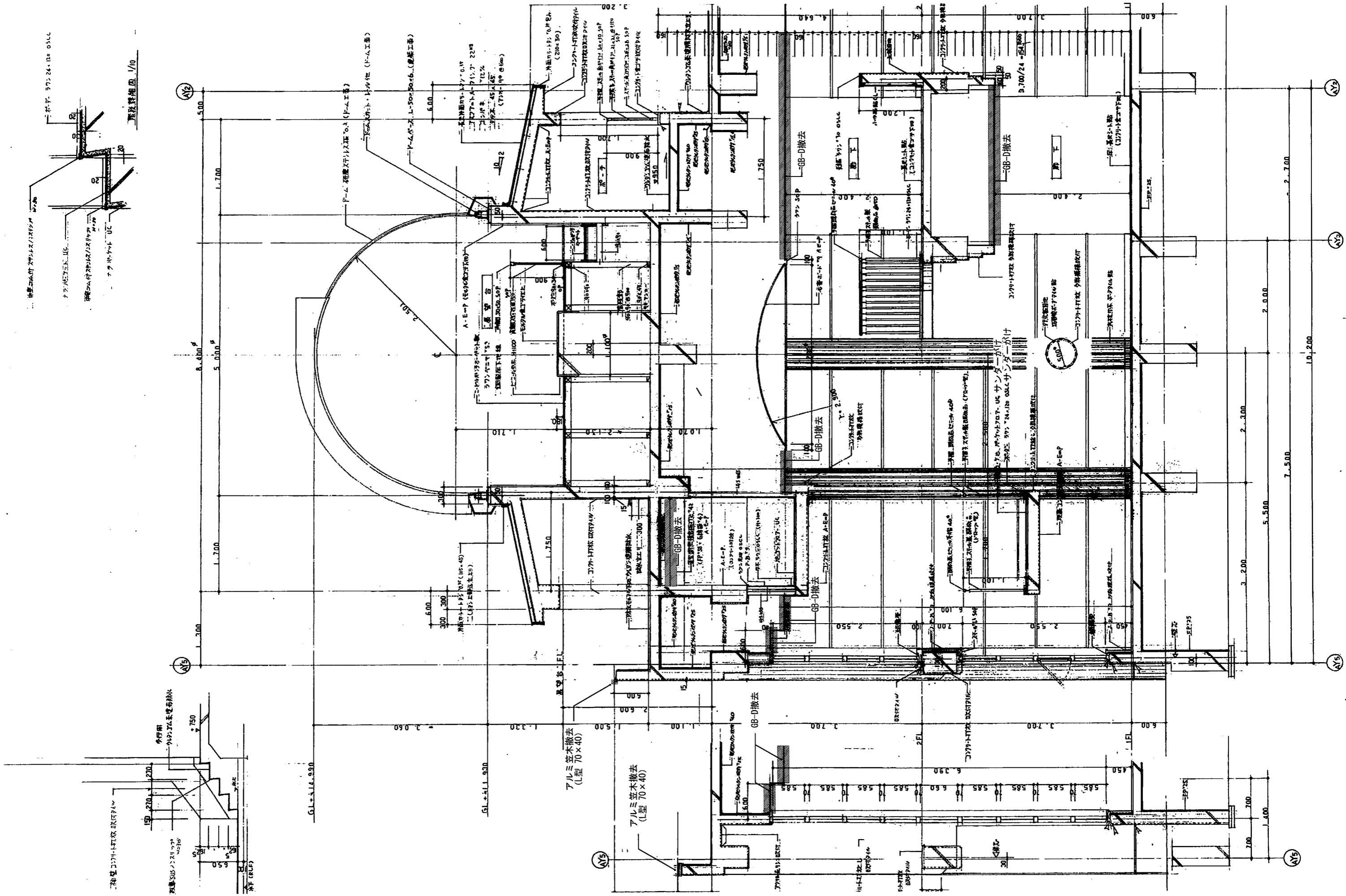




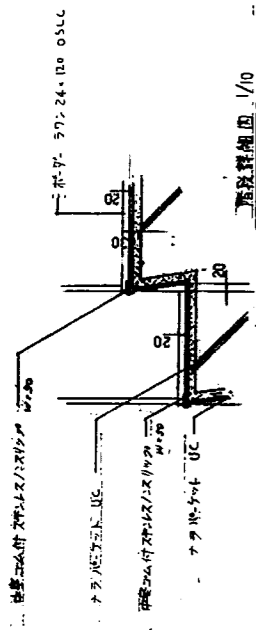




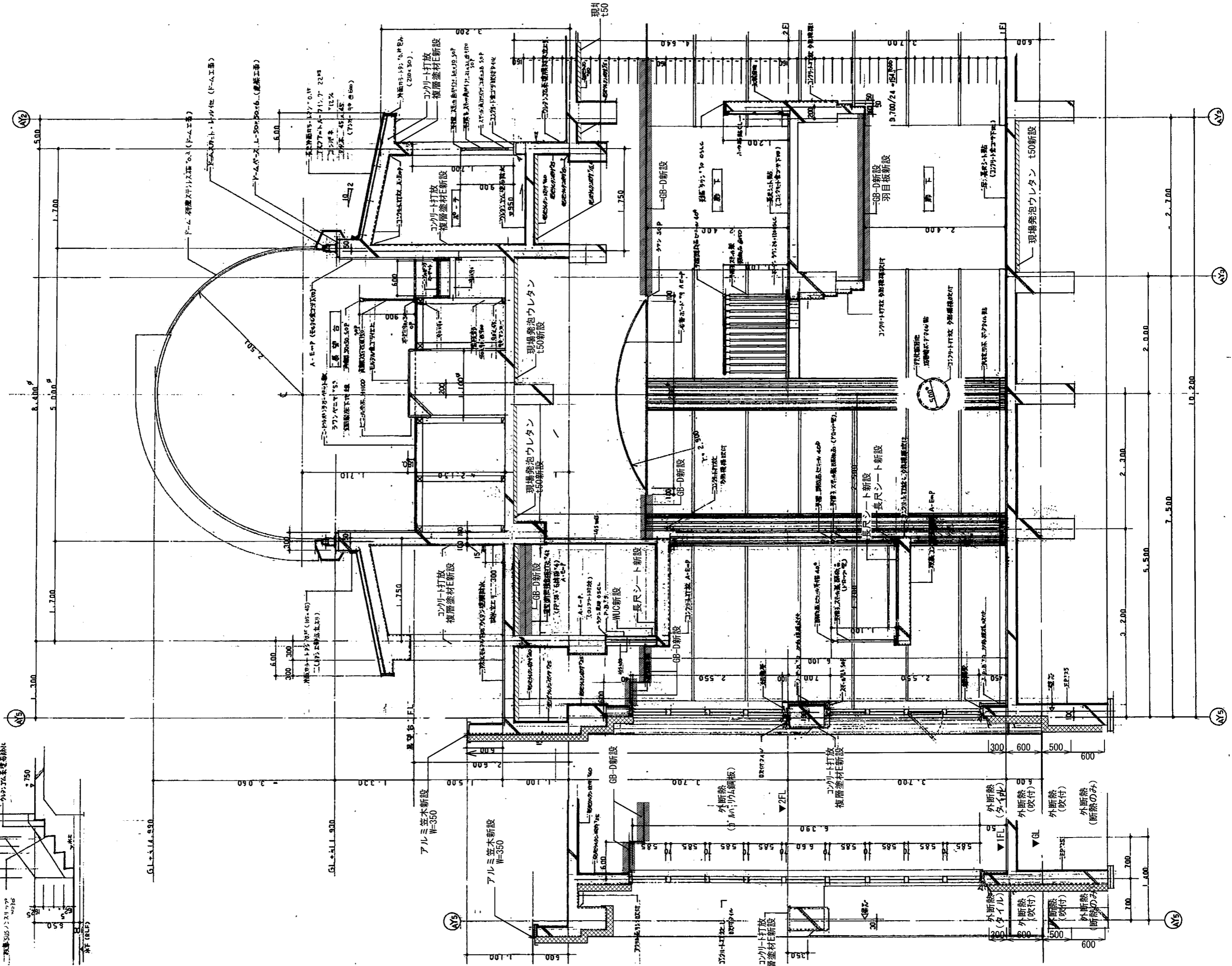


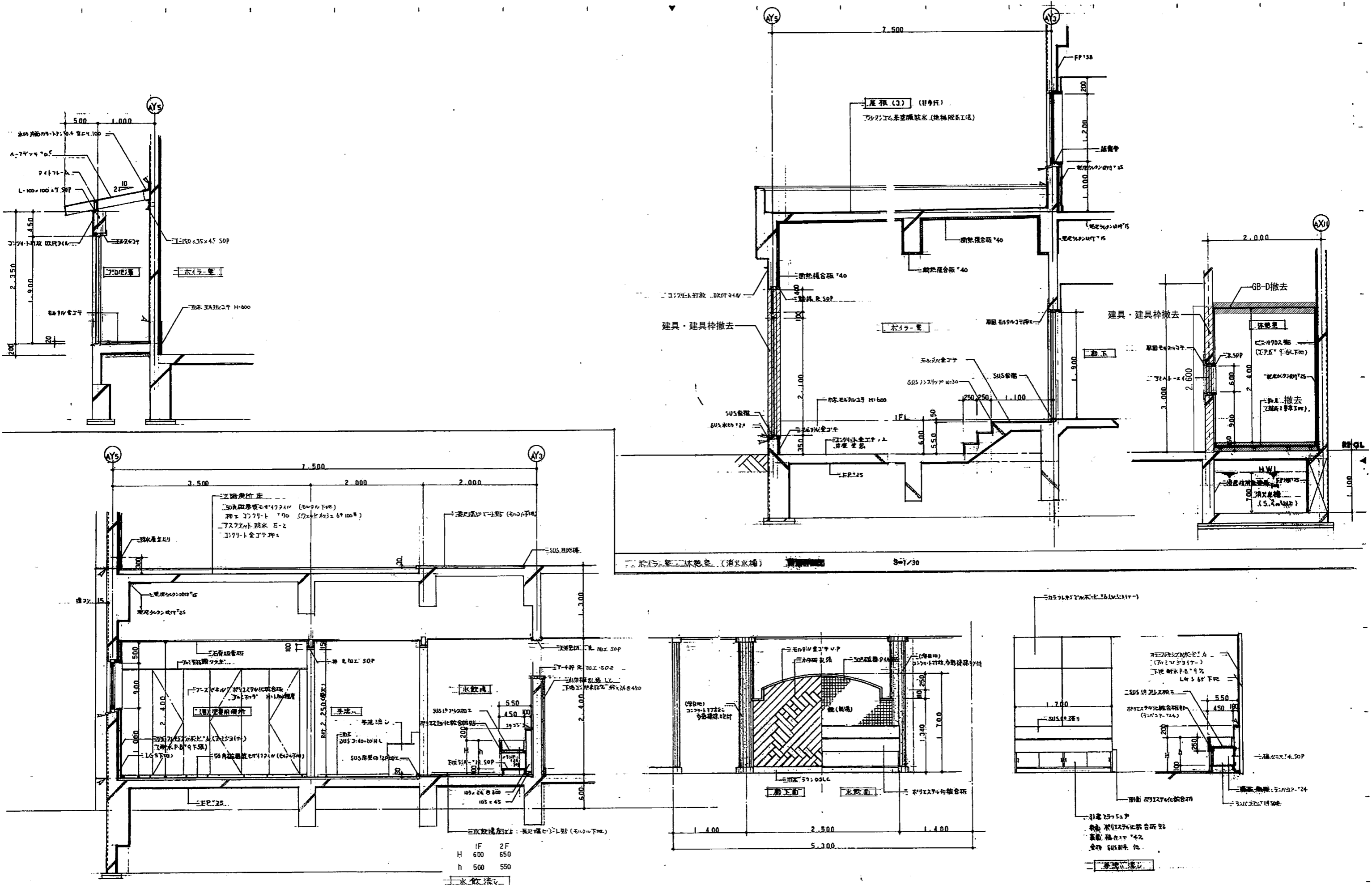


高低詳細図 1/10

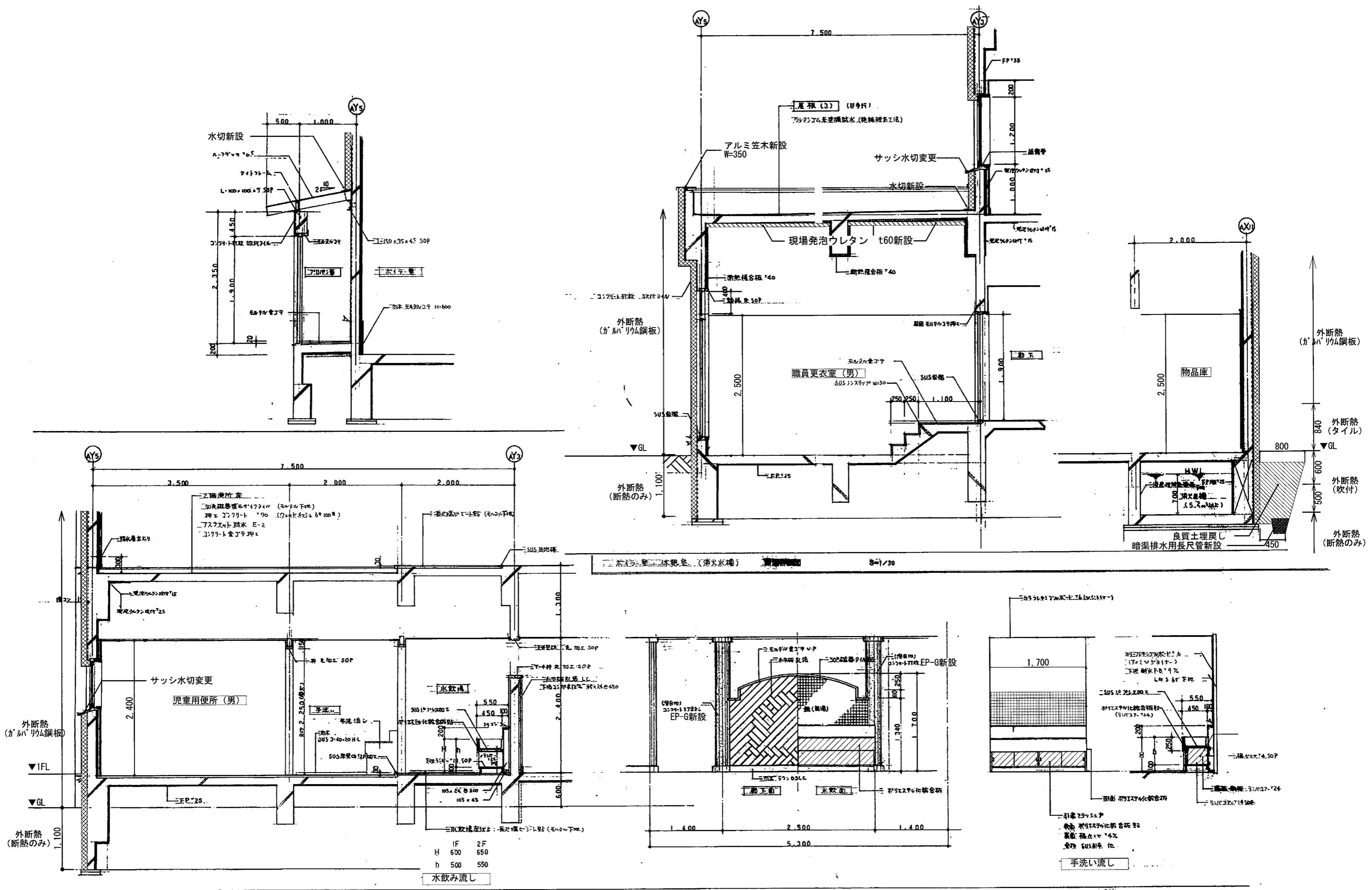


階段詳細図 1/10

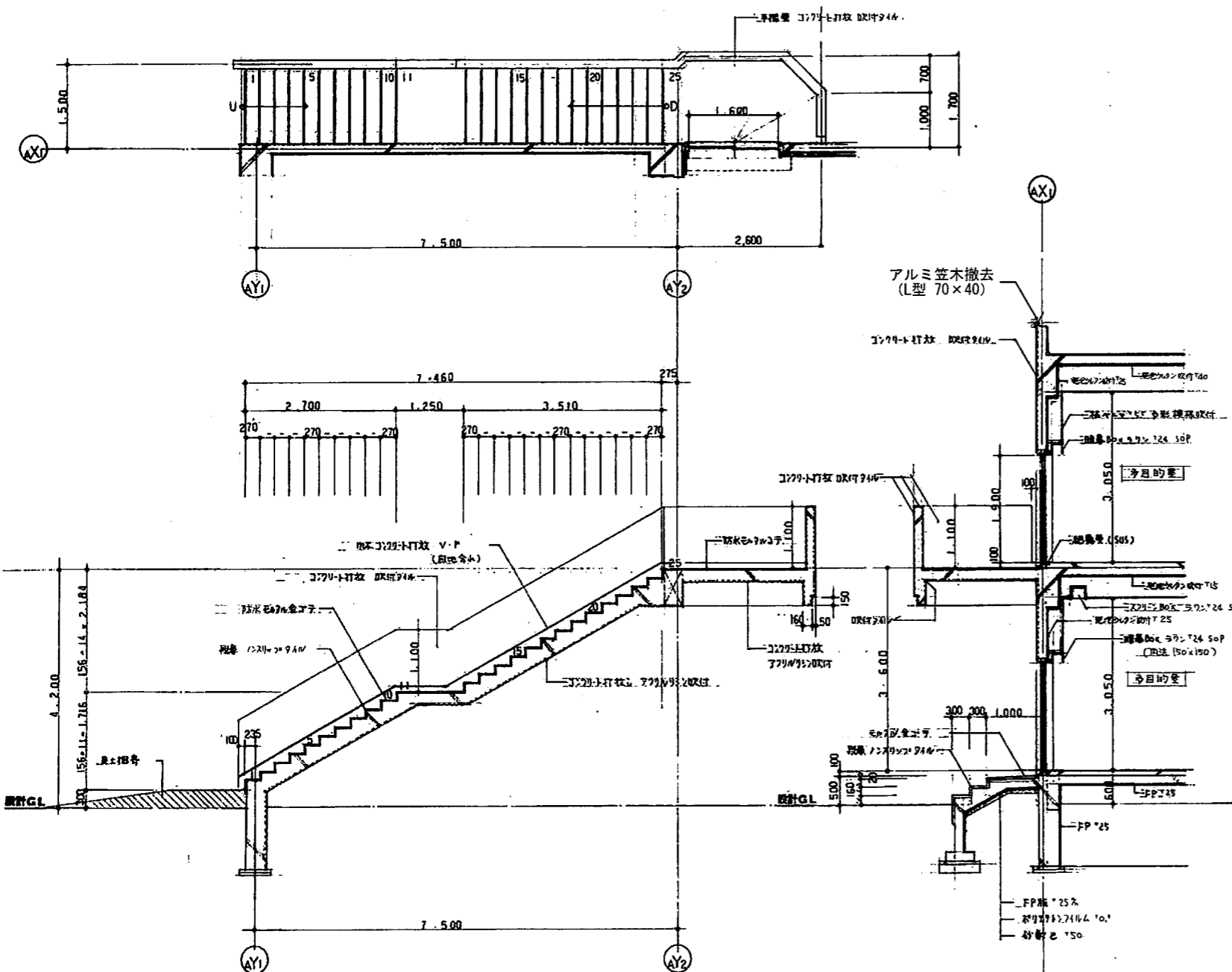




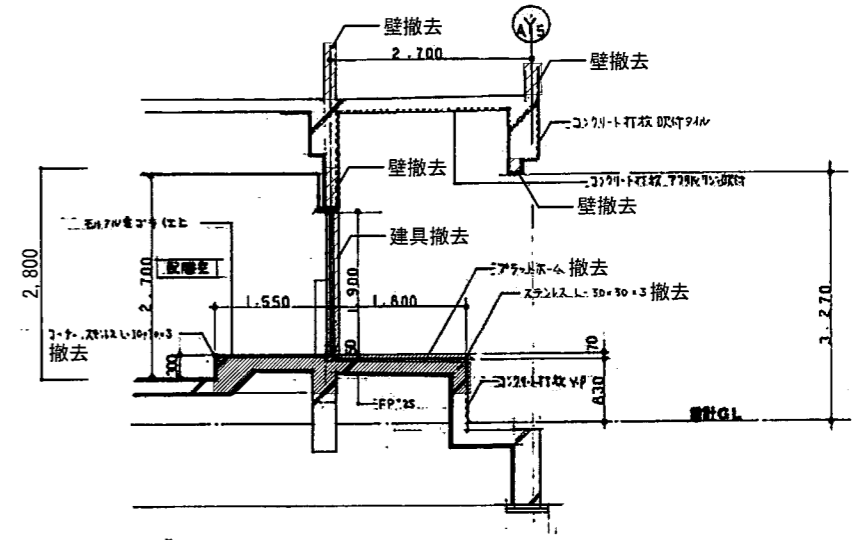
児童 廁所・手洗・水飲機 断面詳細図 S=1/30



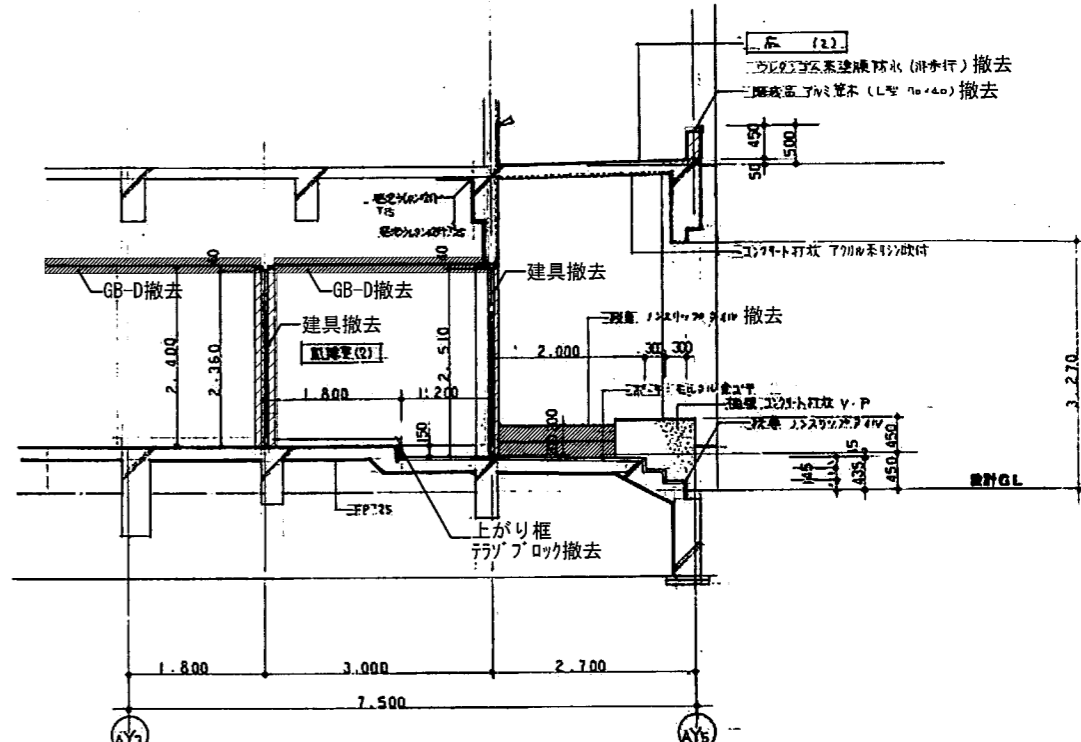
児童便所・手洗い・水飲み場 断面詳細図 S-1/30



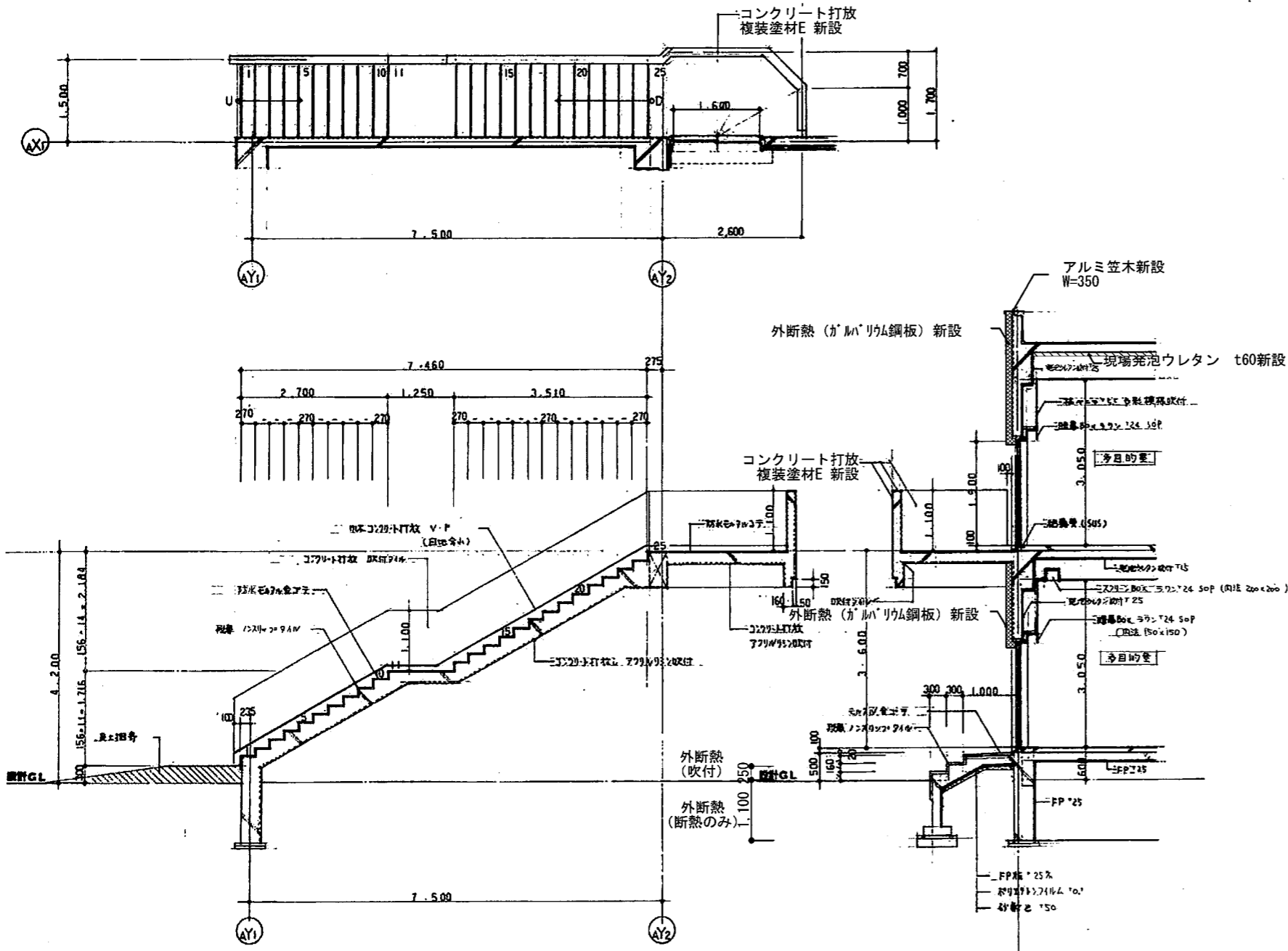
屋外階段(B) 8-1/50



面記階室・アラートホーム 断面詳細 8-1/20

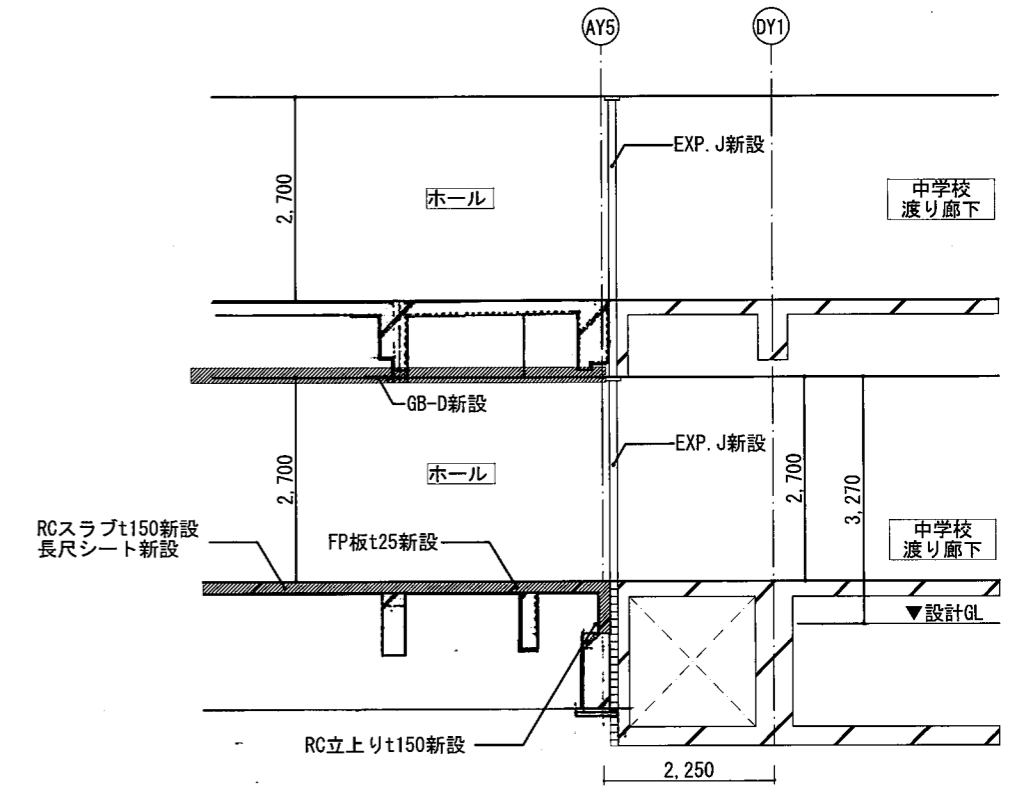


風除室(2) 断面詳細 8-1/50



屋外階段(B)

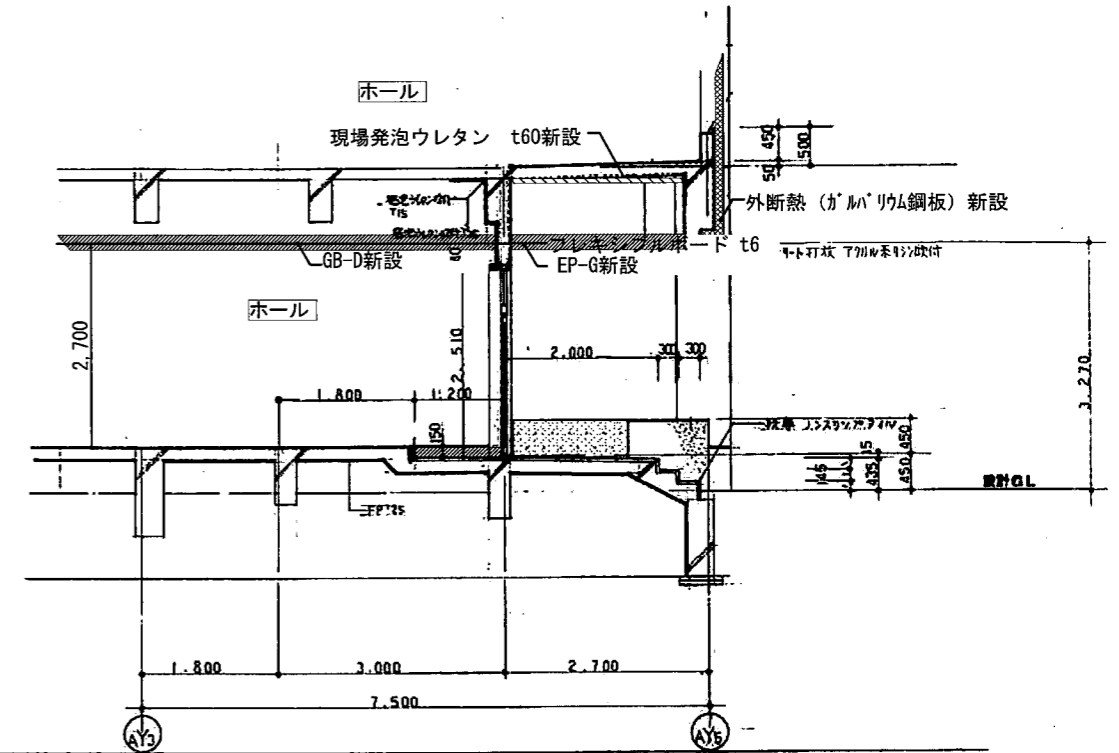
S=1/50



配膳室・フラットホーム

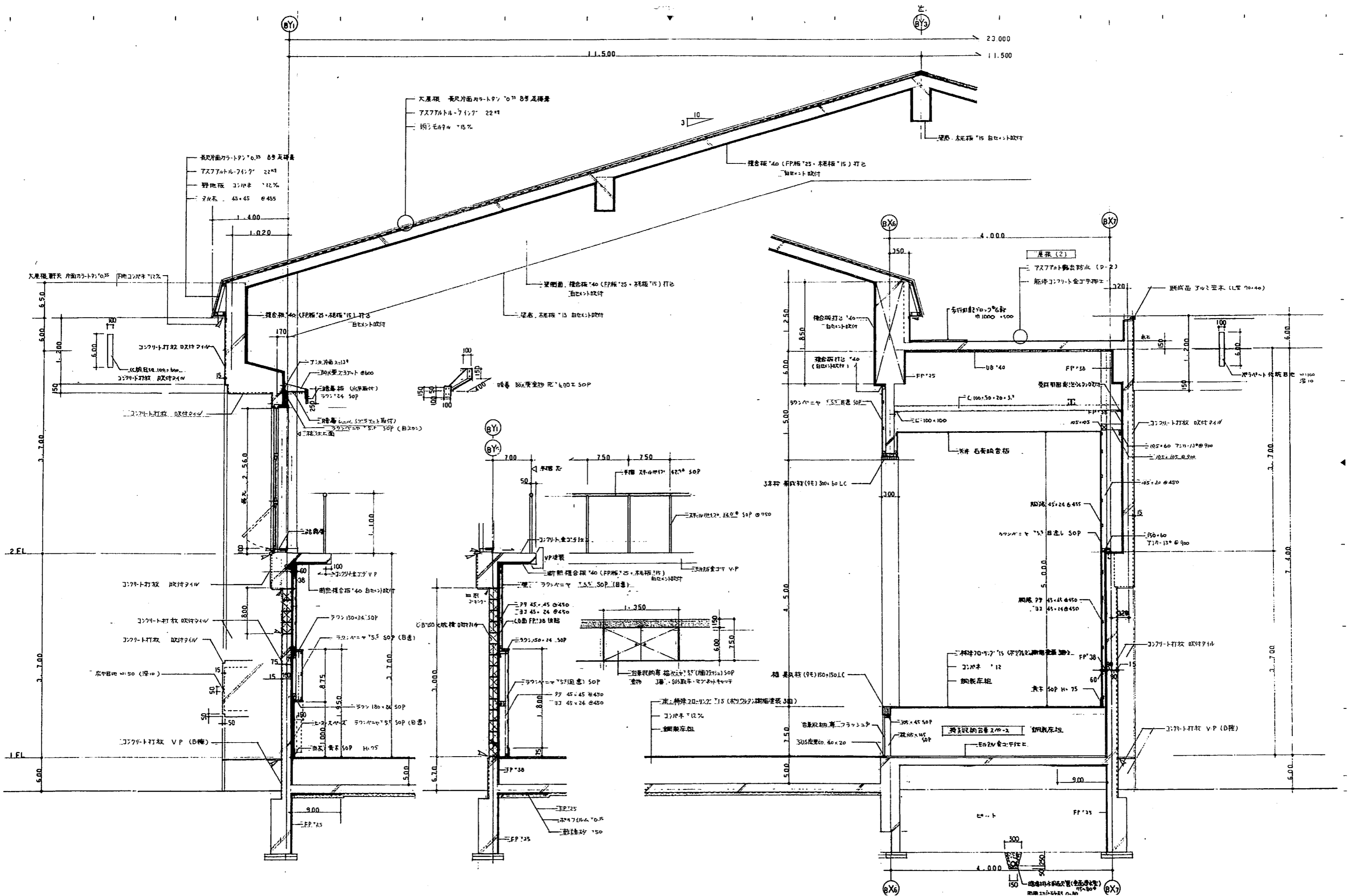
新設詳細

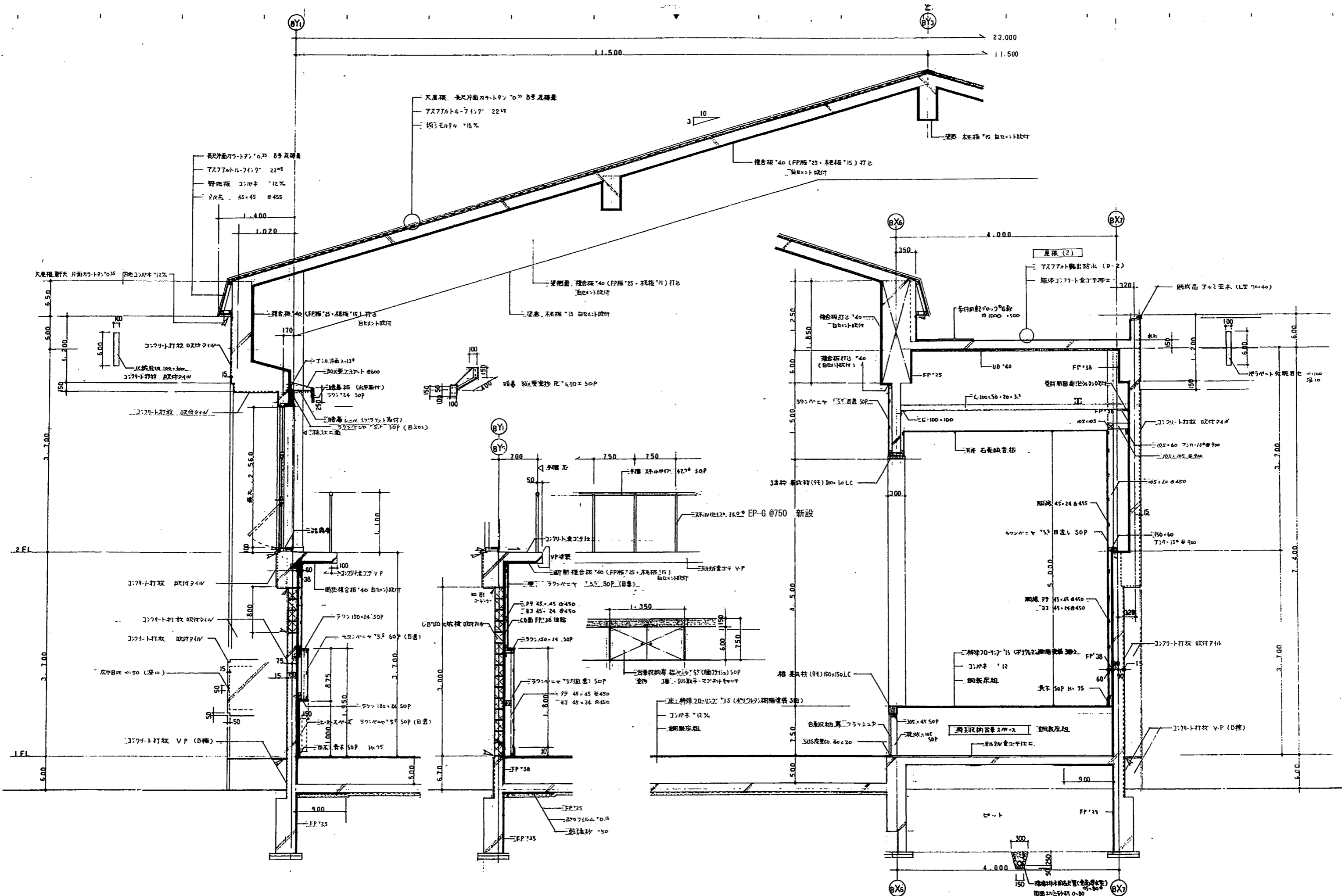
S=1/50

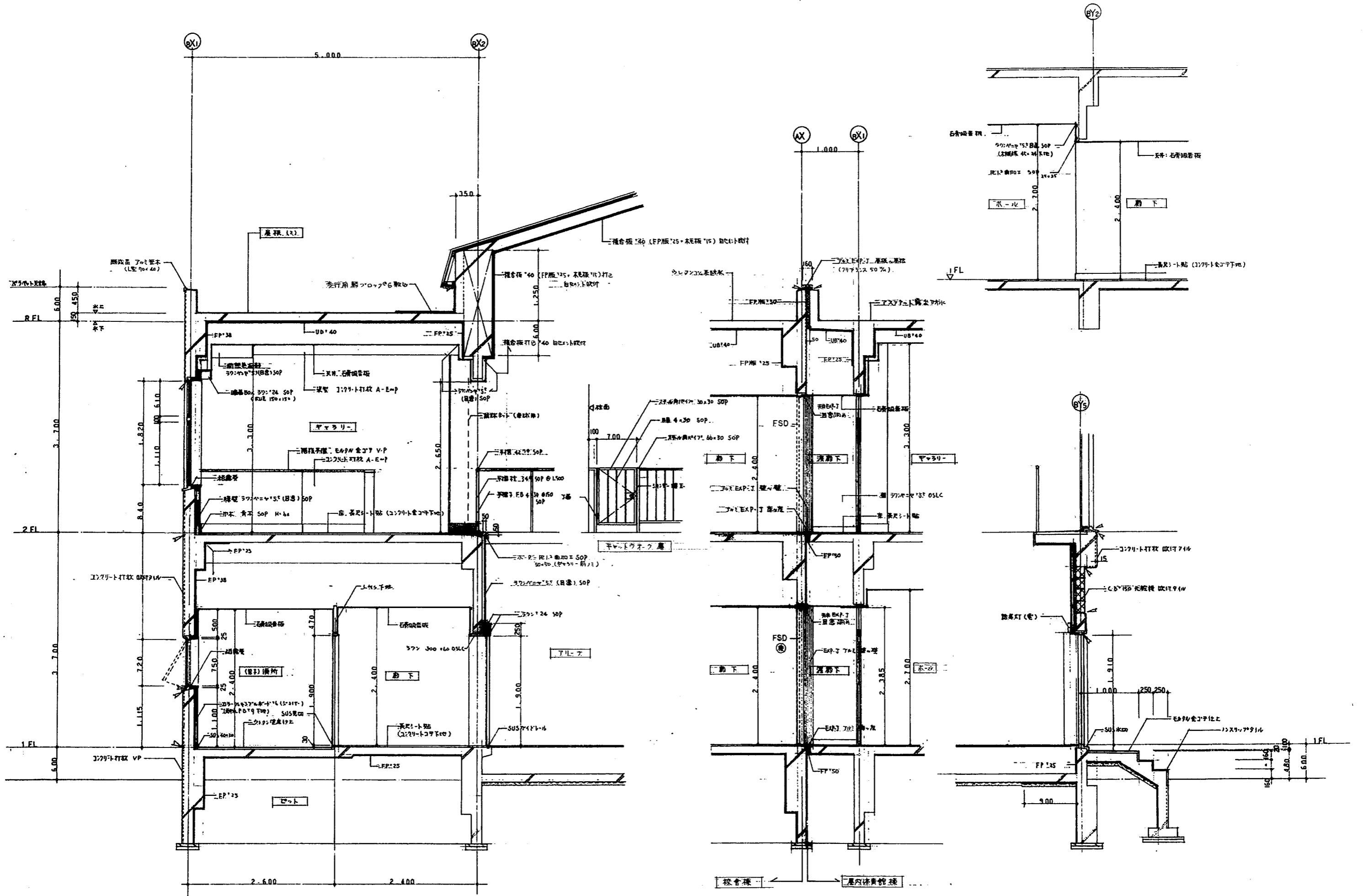


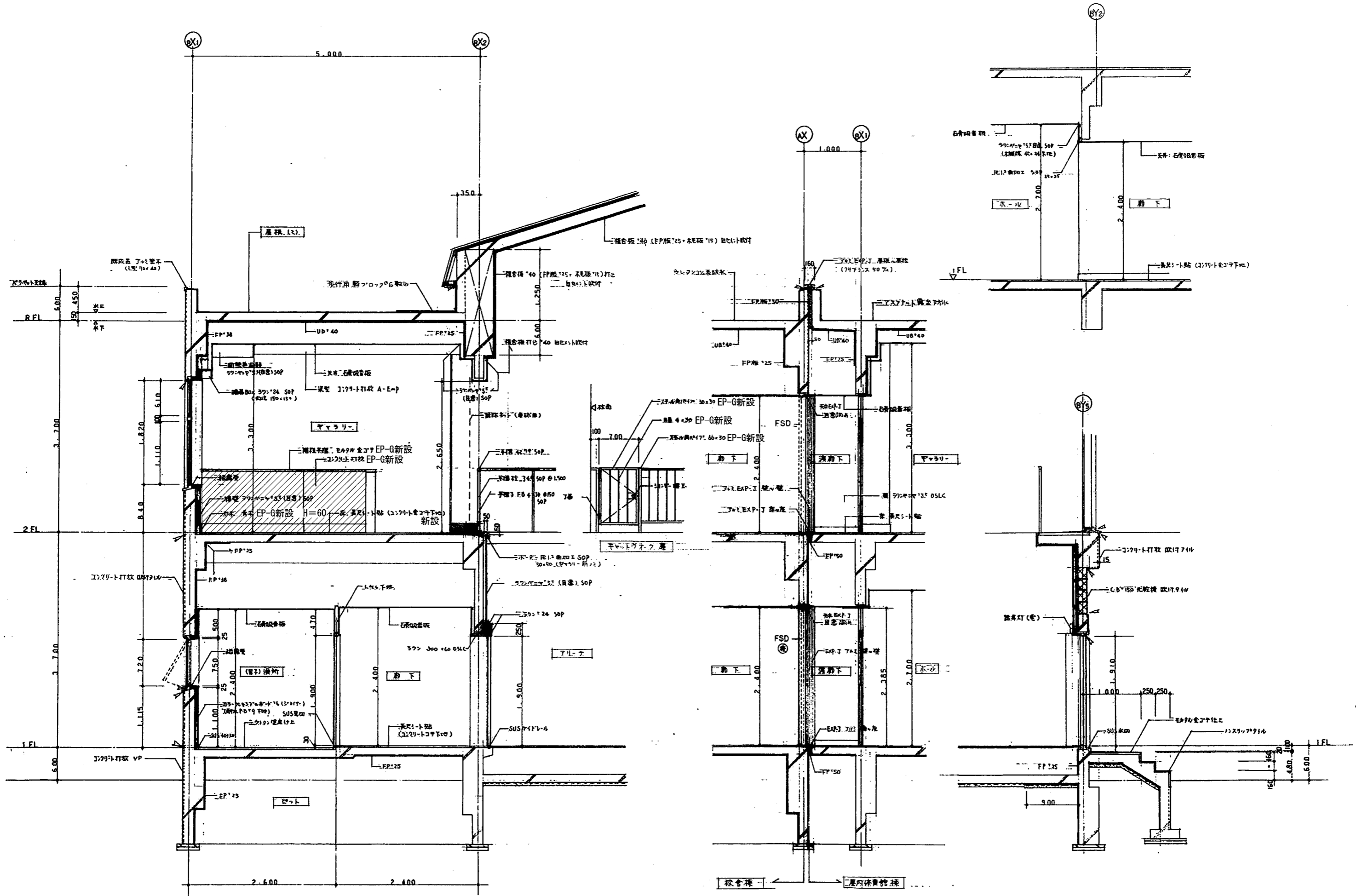
風除室(2) 新設詳細

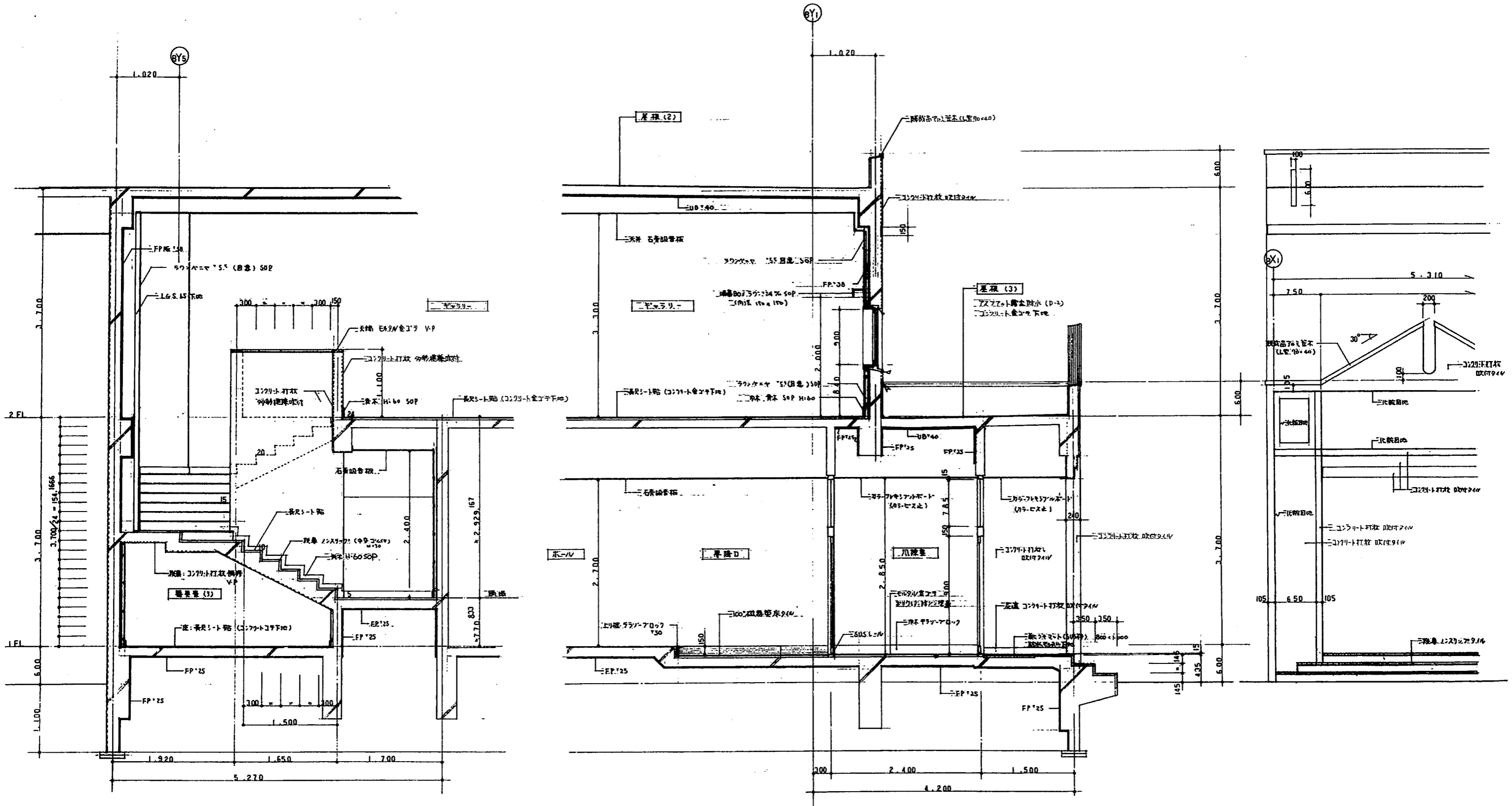
S=1/50

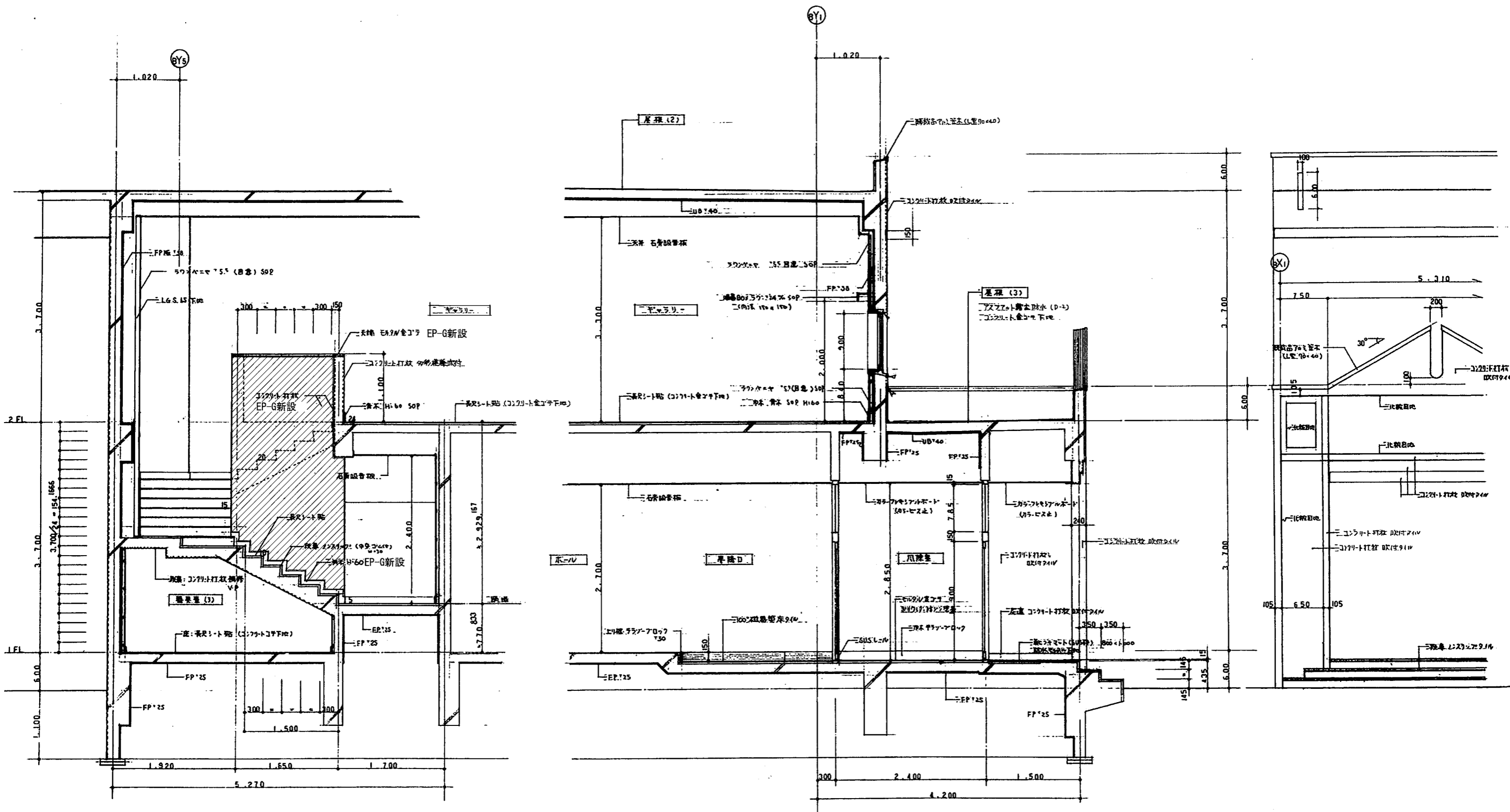


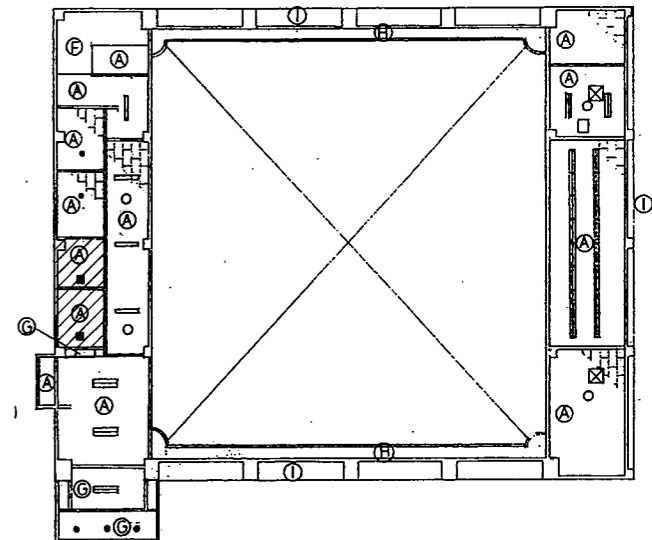
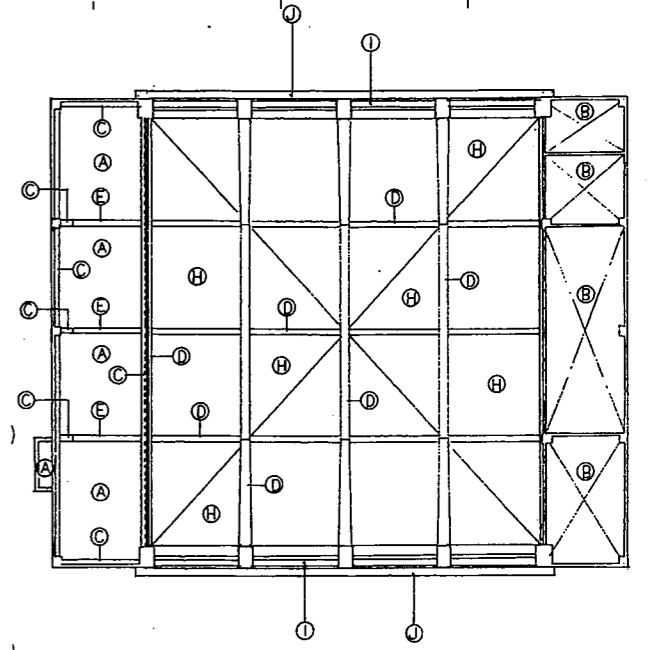
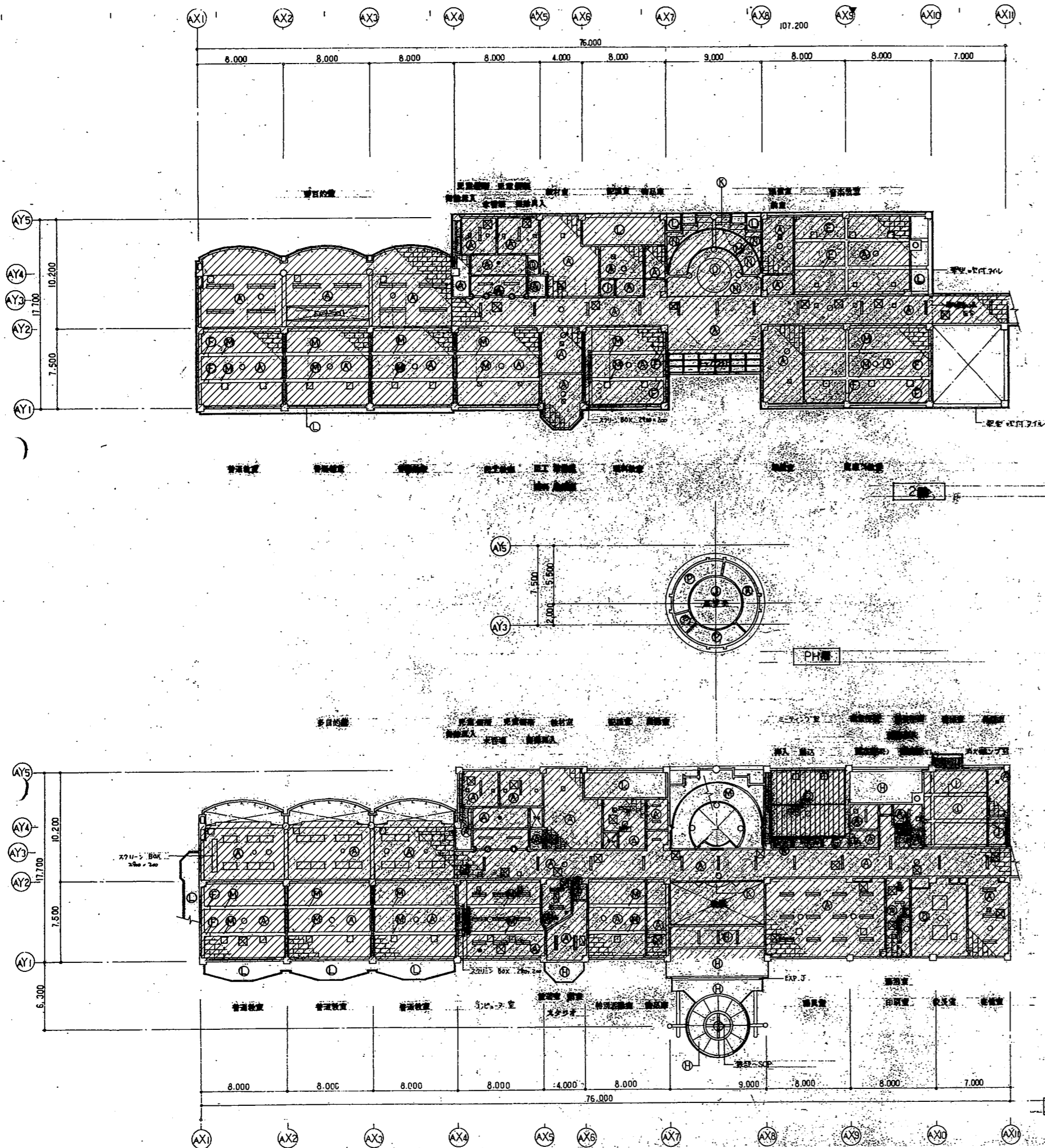








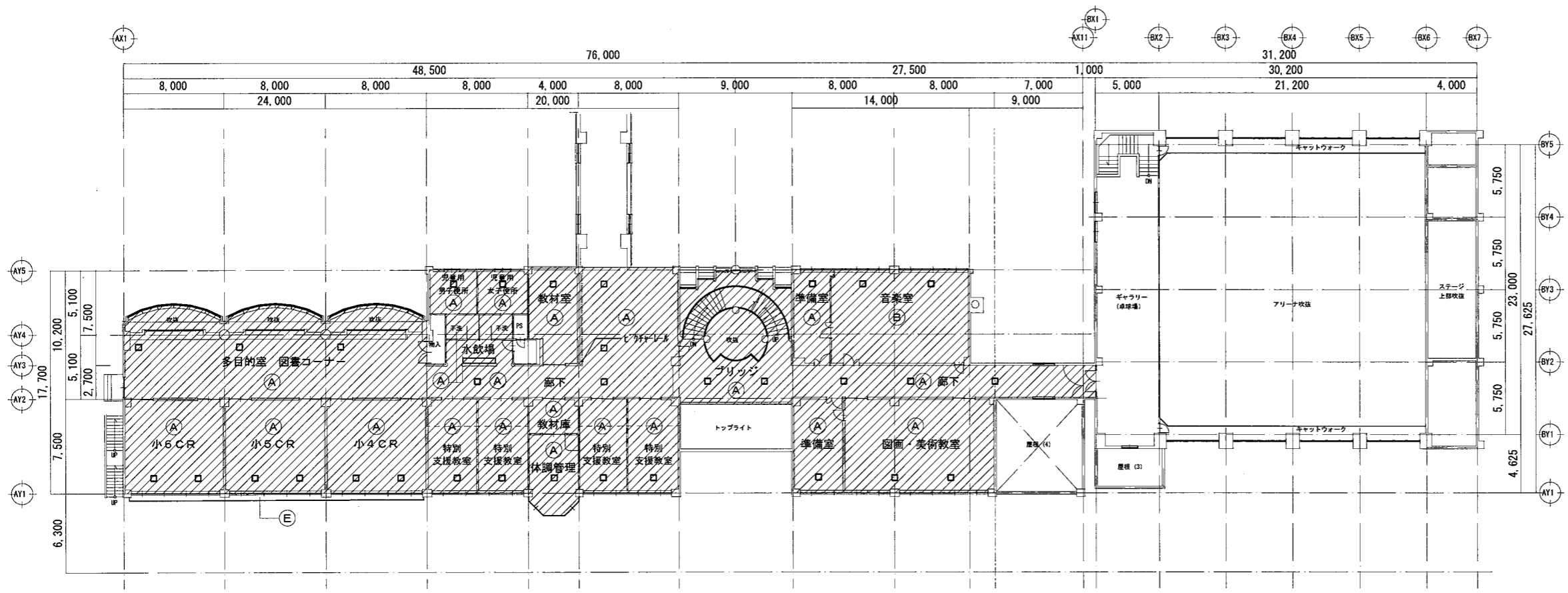




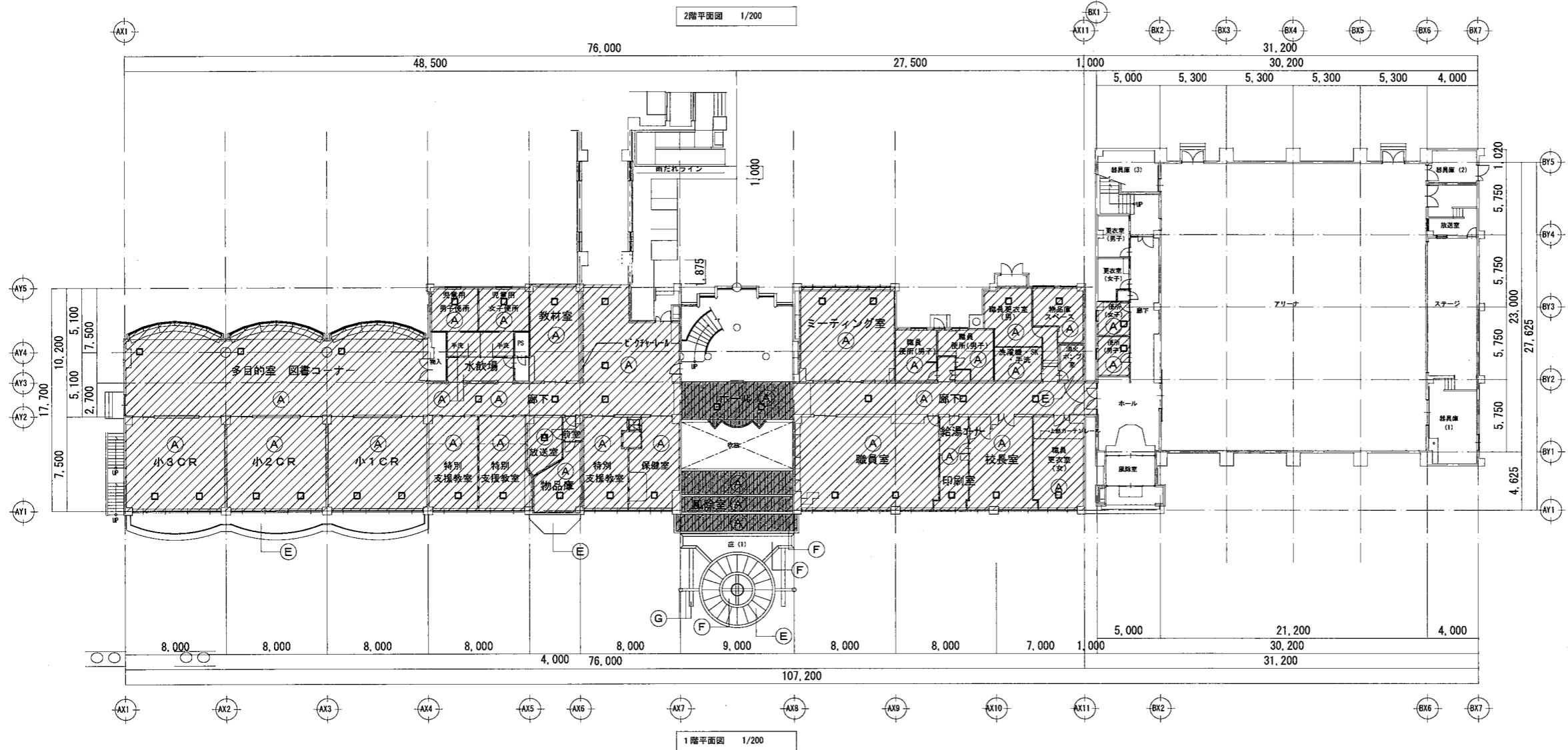
天井仕上 凡例	
A	石膏吸音板 T9
B	不燃繊維石膏板 T10 ~ A-F-p
C	右折石膏ボード 目地 (素板裏付)
D	クロス貼 (P.B.T9付) F
E	ホコリボード T5.5 目地 SOP 内研 G.W. T50
F	ホコリボード T5.5 目地 SOP
G	ホコリボード
H	ガラス繊維強化ボード T6
I	耐熱複合板 T40 (厚板系) FP板 T25 +ホコリボード
J	ドーム天井
K	コンクリート打放シ 多形模様吹付
L	コンクリート打放シ アクリル樹脂吹付
M	コンクリート打放シ A-F-p
N	石膏ボード T9 A-E-p
O	石膏ボード T9 吹付タイル
P	コンクリート打放シ吹付タイル
Q	石膏ボード T9

A	石膏吸音板
B	UB T40 付地
C	右折石膏ボード T5.5 目地 SOP
D	ホコリボード T5 付地 色セメント吹付
E	コンクリート打放シ アクリル樹脂吹付
F	コンクリート打放シ 吹付
G	ガラス繊維強化ボード T6 目地 クラウド系
H	耐熱複合板 T40 (厚板系) FP板 T25 +ホコリボード 色セメント吹付
I	コンクリート打放シ 吹付タイル
J	長尺外面カラー塗装 T0.15

撤去範囲を示す



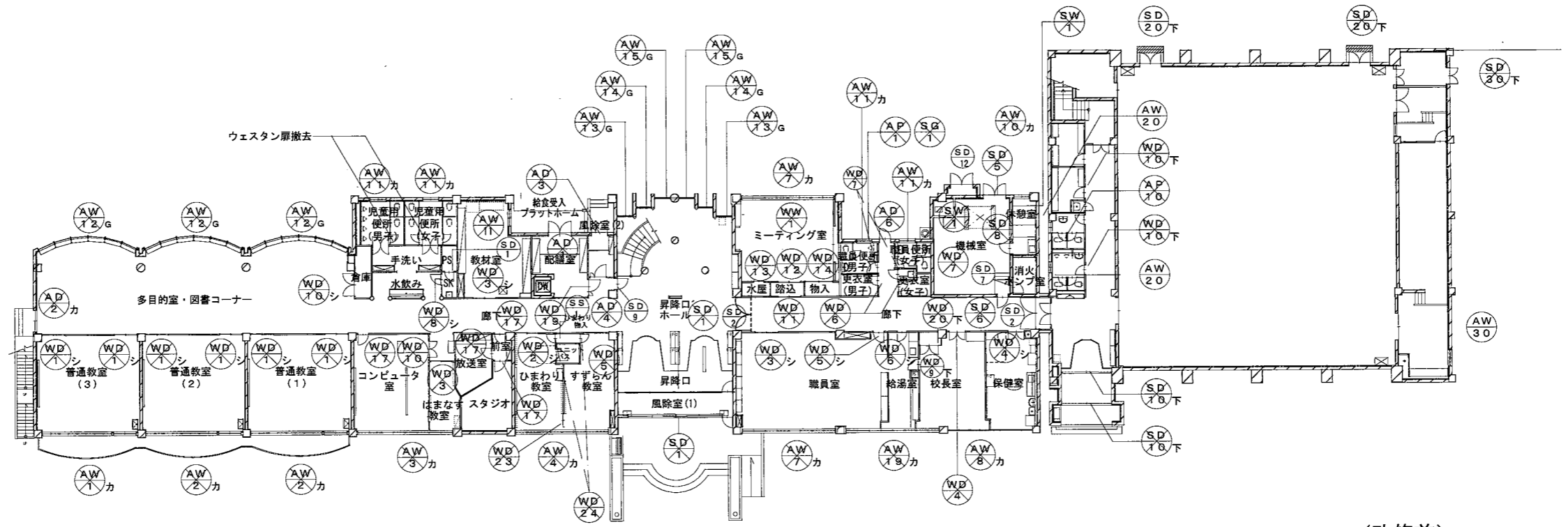
2階平面図 1/200



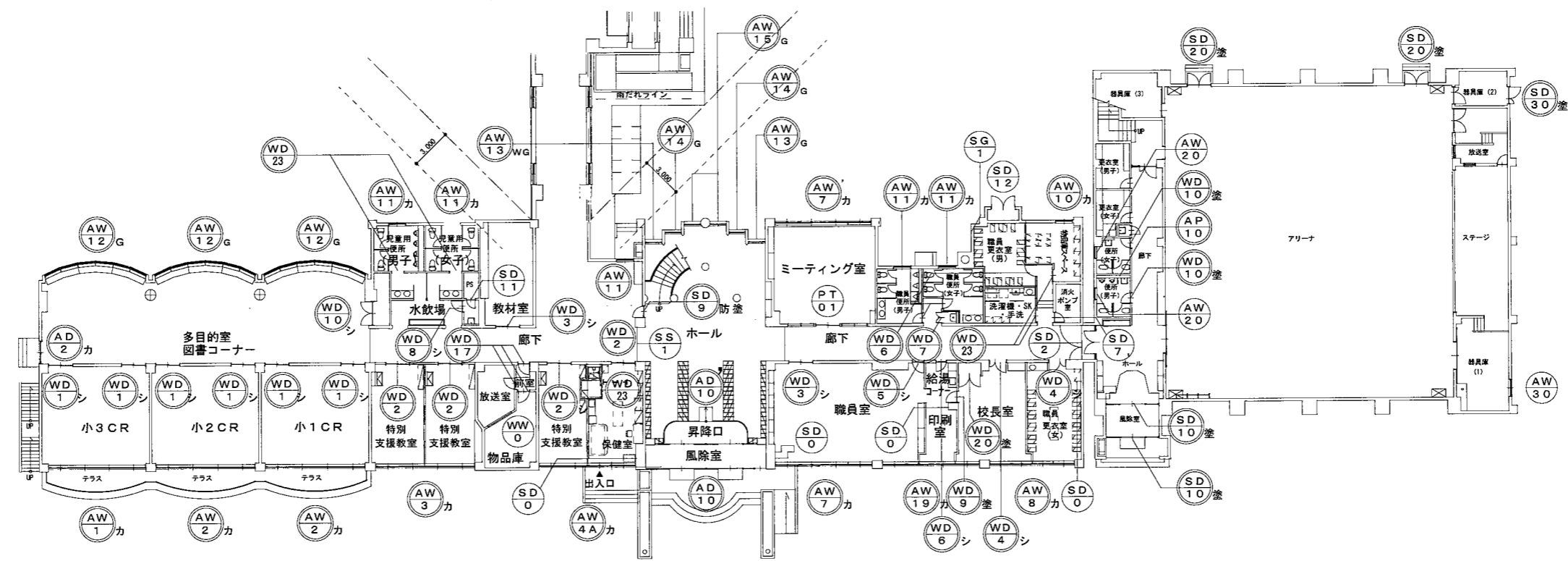
1階平面図 1/200

凡例

(A)	(改修後) GB-D t9.5
(B)	(改修後) 岩綿吸音板 (GB=R t9.5下地)
(C)	(改修後) GB-R t9.5
(D)	(改修後) 化粧フレキシブルボード t6.0
(E)	(改修後) 弾性吹付塗材 E
(F)	(改修後) E P-G 塗装
(G)	(改修後) S O P 塗装
	(改修後) 天井ボードの上 カラマツルーパー 60×60 間隔@100+自然塗装
	(改修後) 天井点検口 450×450 1階3ヶ所+2階3ヶ所=7ヶ所
	: 改修範囲を示す

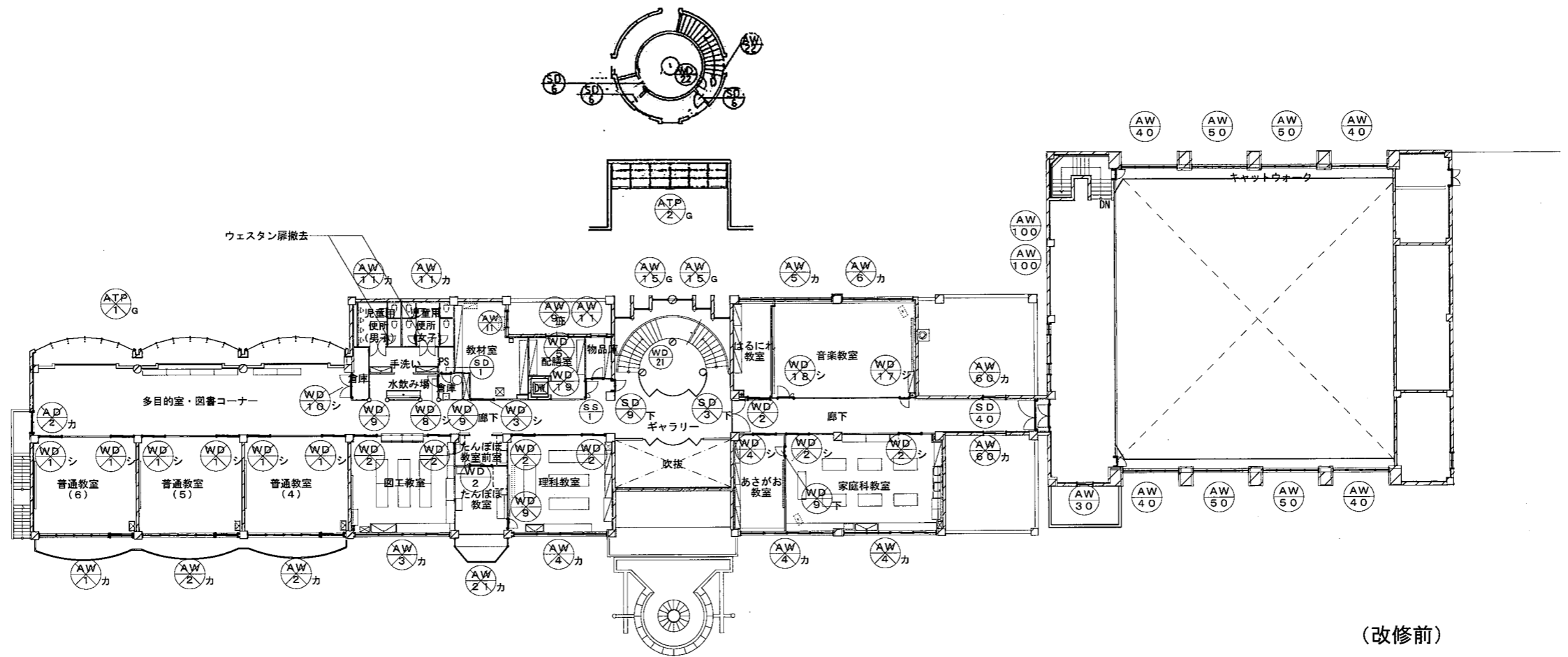


(改修前)

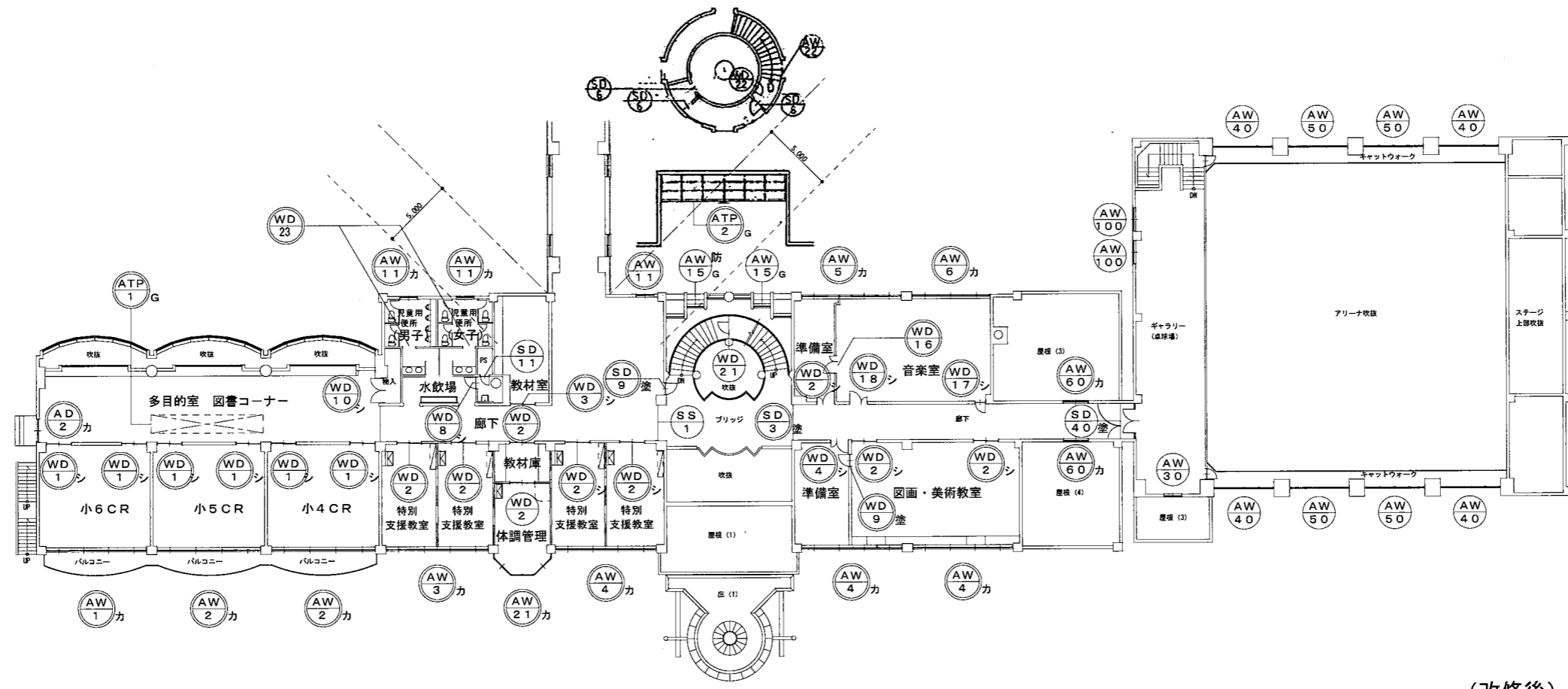


(改修後)

- 凡例
- : 既存のまま
 - ⊗シ : 枠残し・障子撤去
 - シ : 障子新設・枠塗装
 - ⊗カ : 枠残し撤去 (サッシ硝子・網戸撤去)
 - カ : カバー工法 新設
 - : 新設する建具
 - ⊗ : 撤去する建具
 - 防 : 防火設備
 - ⊗G : ガラス撤去
 - G : ガラス新設
 - ⊗下 : 建具塗装下地補修
 - 差 : 建具塗装



(改修前)



(改修後)

- 凡例
- : 既存のまま
 - ⊗シ : 枠残し・障子撤去
 - シ : 障子新設・枠塗装
 - ⊗カ : 枠残し撤去 (サッシ硝子・網戸撤去)
 - カ : カバー工法 新設
 - : 新設する建具
 - ⊗ : 撤去する建具
 - 防 : 防火設備
 - ⊗G : ガラス撤去
 - G : ガラス新設
 - ⊗下 : 建具塗装下地補修
 - 塗 : 建具塗装

注 記: 1. ドア枠の取付位置は必ずしもこの通りとする。
 2. 内装材は、原則として防火仕様の仕様が優先される。
 3. 内装材は、耐火性能を確保する必要がある。
 4. 内装材は、防火性能を確保する必要がある。
 5. 内装材は、耐火性能を確保する必要がある。
 6. 内装材は、耐火性能を確保する必要がある。
 7. A面とB面の取付位置は必ずしもこの通りとする。

①材料標準記号
 A. アルミコーム
 G. ガラス
 P. プラスチック
 S. 鋼
 SS. ステンレス鋼
 W. 木材

②加工標準記号
 D. ドア
 W. 窓
 G. ガラス
 S. シェード

③仕上標準記号
 OP. 油性樹脂ペイント塗
 SOP. 油性樹脂塗
 LC. クリヤックコート
 OS. オイルステイン塗

④部材標準記号
 M-BE. メタルベース
 E-BE. エキスパンションベース
 A-BE. アルミベース

⑤窓の標準記号
 AT. エアタイト
 DC. ドアフレーム
 H. ドア
 PH. ヒットストップ
 FH. フロアヒンジ
 AH. オートヒンジ
 DS. ドア

F. フランス
 AS. アルミストッパー

名 称	⑧ スチール引合ハンカドアー 撤去	⑧ スチール引合ハンカドアー 撤去	⑧ 常時開放 甲種防火戸 両開き 既存のまま	⑧ 常時開放 甲種防火戸 両開き (くり抜き)	⑧ 常時開放 甲種防火戸 両開き (くり抜き)	⑧ スチールブラッシュ両開き ランタナ付付 撤去	⑧ スチールブラッシュ片開き ボイラー室 撤去
寸 法	8,760 × 2,885 × 100 (B=1,660)	8,690 × 2,885 × 100 (B=1,590)	2,370 × 2,375 × 50	2,370 × 2,375 × 50	2,370 × 2,375 × 50	1,700 × 2,600 × 40	800 × 1,900
付 属 物	FL3 扉部 T4	FL3 扉部 T4	防火戸取付材	防火戸取付材	防火戸取付材	SUS 管束・水切・枠周面 AT コム付 T4 扉部 T4 (550 × 600) T4 扉部 T4・DS・シリコーン接着剤・他	枠周面 A-T コム付・SUS 管束 FL3-6-3 (扉部台回り) (ボイラー室はフラッシュ付とする) PH・DC・DS・シリコーン接着剤・他
材 質	FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP	FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP	FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP	FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP	FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP	FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP	FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP・FRP
使用場所	廊下	廊下	廊下	廊下	廊下	廊下	廊下
数 量	1	1	2	1	1	1	4
仕 上	FRP	FRP	FRP	FRP	FRP	FRP	FRP
備 考							
要 図							

名 称	⑧ スチールブラッシュ片開き	⑧ スチールブラッシュ片開き 撤去	⑧ 常時開放 甲種防火戸	⑧ スチールブラッシュ片開き	⑧ スチールブラッシュ両開き	⑧ スチール防火シャッター (甲種防火戸)	⑧ 二重ガラス 撤去
寸 法	800 × 1,900 × 40	800 × 1,900 × 40	800 × 1,900 × 40	600 × 1,900 × 40	1,700 × 1,900 × 40	2,340 × 2,400	500 × 500 × 100
付 属 物	FRP	FRP	FRP	SUS 管束	FRP	FRP	FRP
材 質	FRP・DC・DS・シリコーン接着剤・他	FRP	FRP・DS (スチール製)・他	FRP・DS・ケスナルドール・シリコーン接着剤	FRP・DS・シリコーン接着剤・他	FRP	FRP
使用場所	廊下	廊下	廊下	廊下	廊下	廊下	廊下
数 量	1	1	2	2	1	2	1
仕 上	FRP	FRP	FRP	FRP	FRP	FRP	FRP
備 考							
要 図							

名 称	⑧ スチールガラス F1X 撤去	⑧ ガラス両開き 撤去	⑧ ガラス片開き 撤去 (カバー工法)	⑧ ガラス両開き 撤去	⑧ ガラス片開き 撤去	⑧ ガラス片開き 撤去
寸 法		1,700 × 1,900 × 70	1,600 × 1,900 × 70	1,200 × 2,510 × 70 (B=510)	1,200 × 2,360 × 70 (B=360)	800 × 2,360 × 70
付 属 物		FRP	SUS 水切・SUS 管束	FRP	FRP	SUS 管束・水切
材 質	FRP	FRP・AA・FL3	FRP・AA・FL3	FRP	FRP	FRP・AA・FL3 (323系)
使用場所	廊下	廊下	廊下	廊下	廊下	廊下
数 量	1	2	2	1	1	1
仕 上	FRP	FRP	FRP	FRP	FRP	FRP
備 考						
要 図						

注記: 1. ドア枠は100mm以上を要する
 2. 内装は、原則として耐火構造を要する
 3. WD枠は、押込式を要する
 4. 扉は、全2層構造を要する
 5. 網戸は、ランネット網戸とする
 6. グラスは、原則として強化ガラスとする
 7. A面は、水切取付は、必ずしも要しない

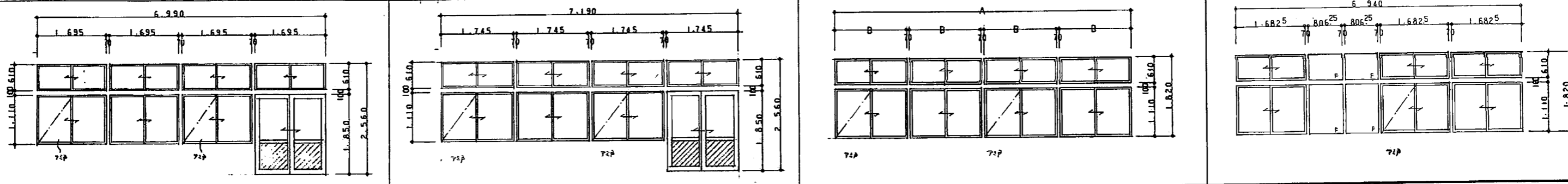
① 材料記号	② 仕上材記号	③ 仕上材記号	④ 仕上材記号
A. アルミ	D. フア	OP. 油性塗料	M-BE. マルチコート
G. ガラス	W. 窓	SOP. 油性塗料	E-BE. エポキシ樹脂
P. プラスチック	G. ガラス	LC. クリアコート	A-BE. アクリル樹脂
S. 網戸	S. シッター	OS. オイルストーン	
SS. ステンレス			
W. 窓			

<p>名称: アルミ引分ハンガードア 新設</p> <p>寸法: 8.760 x 2.885 x 100 (B=1.660)</p> <p>付属物: FL3 扉形 T4</p> <p>付属金物: PH-F・PH-F・FH・押棒・引棒</p> <p>使用場所: 風除室</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: アルミ2次電解着色</p> <p>備考: 電気錠新設 (コントローラーは中学校接続)</p>	<p>名称: アルミ引分ハンガードア 新設</p> <p>寸法: 8.690 x 2.885 x 100 (B=1.590)</p> <p>付属物: FL3 扉形 T4</p> <p>付属金物: PH-F・PH-F・FH・押棒・引棒</p> <p>使用場所: 風除室</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: アルミ2次電解着色</p> <p>備考: 電気錠新設 (コントローラーは中学校接続)</p>	<p>名称: 常時開放 甲種防火戸 両面 (既存のまま)</p> <p>寸法: 2.370 x 2.375 x 50</p> <p>付属物: 防火戸取付材</p> <p>付属金物: FH・ケースハンドル</p> <p>使用場所: 風除室前・候室前</p> <p>数量: 2</p> <p>仕上: アルミ2次電解着色</p> <p>備考: 電気錠新設</p>	<p>名称: 常時開放 甲種防火戸 両面 (クリップ)</p> <p>寸法: 2.370 x 2.375 x 50</p> <p>付属物: 防火戸取付材</p> <p>付属金物: FH・ケースハンドル</p> <p>使用場所: 風除室前</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: アルミ2次電解着色</p> <p>備考: 電気錠新設</p>	<p>名称: スチールブラッシュ両面戸 ランネット付</p> <p>寸法: 1.700 x 2.600 x 40</p> <p>付属物: SUS管・水切・枠周面 ATゴム付</p> <p>付属金物: PH-F・PH-F・FH・押棒・引棒</p> <p>使用場所: 候室前</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: アルミ2次電解着色</p> <p>備考: 電気錠新設</p>	<p>名称: スチールブラッシュ片側戸</p> <p>寸法: 800 x 1.900</p> <p>付属物: PH・DC・DS・ランネット付</p> <p>付属金物: PH・DC・DS・ランネット付</p> <p>使用場所: 候室前</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: アルミ2次電解着色</p> <p>備考: 電気錠新設</p>
<p>名称: スチールブラッシュ片側戸</p> <p>寸法: 800 x 1.900 x 40</p> <p>付属物: ドアガラス 500 x 250</p> <p>付属金物: PH・DC・DS・ランネット付</p> <p>使用場所: 候室前</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: アルミ2次電解着色</p> <p>備考: 電気錠新設</p>	<p>名称: スチールブラッシュ片側戸</p> <p>寸法: 800 x 1.900 x 40</p> <p>付属物: ドアガラス 500 x 250</p> <p>付属金物: PH・DC・DS・ランネット付</p> <p>使用場所: 候室前</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: アルミ2次電解着色</p> <p>備考: 電気錠新設</p>	<p>名称: 二層構造 甲種防火戸</p> <p>寸法: 800 x 1.900 x 40</p> <p>付属物: ドアガラス 500 x 250</p> <p>付属金物: PH・DC・DS・ランネット付</p> <p>使用場所: 候室前</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: アルミ2次電解着色</p> <p>備考: 電気錠新設</p>	<p>名称: スチールブラッシュ片側戸</p> <p>寸法: 600 x 1.900 x 40</p> <p>付属物: SUS管</p> <p>付属金物: PH・DC・DS・ランネット付</p> <p>使用場所: 候室前</p> <p>数量: 2</p> <p>仕上: アルミ2次電解着色</p> <p>備考: 電気錠新設</p>	<p>名称: スチールブラッシュ両面戸</p> <p>寸法: 1.700 x 1.900 x 40</p> <p>付属物: SUS管</p> <p>付属金物: PH・DC・DS・ランネット付</p> <p>使用場所: 候室前</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: アルミ2次電解着色</p> <p>備考: 電気錠新設</p>	<p>名称: スチール防火シャッター (甲種防火戸)</p> <p>寸法: 2.340 x 2.400</p> <p>付属物: シャッター</p> <p>付属金物: PH・DC・DS・ランネット付</p> <p>使用場所: 候室前</p> <p>数量: 2</p> <p>仕上: アルミ2次電解着色</p> <p>備考: 電気錠新設</p>
<p>名称: スチールガラス F1x</p> <p>寸法: 800 x 2.360 x 70</p> <p>付属物: SUS管・水切</p> <p>付属金物: PH・DC・DS・ランネット付</p> <p>使用場所: 候室前</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: アルミ2次電解着色</p> <p>備考: 電気錠新設</p>	<p>名称: アルミ片側戸</p> <p>寸法: 800 x 2.360 x 70</p> <p>付属物: SUS管・水切</p> <p>付属金物: PH・DC・DS・ランネット付</p> <p>使用場所: 候室前</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: アルミ2次電解着色</p> <p>備考: 電気錠新設</p>	<p>名称: アルミ片側戸</p> <p>寸法: 800 x 2.360 x 70</p> <p>付属物: SUS管・水切</p> <p>付属金物: PH・DC・DS・ランネット付</p> <p>使用場所: 候室前</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: アルミ2次電解着色</p> <p>備考: 電気錠新設</p>	<p>名称: アルミ片側戸</p> <p>寸法: 800 x 2.360 x 70</p> <p>付属物: SUS管・水切</p> <p>付属金物: PH・DC・DS・ランネット付</p> <p>使用場所: 候室前</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: アルミ2次電解着色</p> <p>備考: 電気錠新設</p>	<p>名称: アルミ片側戸</p> <p>寸法: 800 x 2.360 x 70</p> <p>付属物: SUS管・水切</p> <p>付属金物: PH・DC・DS・ランネット付</p> <p>使用場所: 候室前</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: アルミ2次電解着色</p> <p>備考: 電気錠新設</p>	<p>名称: アルミ片側戸</p> <p>寸法: 800 x 2.360 x 70</p> <p>付属物: SUS管・水切</p> <p>付属金物: PH・DC・DS・ランネット付</p> <p>使用場所: 候室前</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: アルミ2次電解着色</p> <p>備考: 電気錠新設</p>

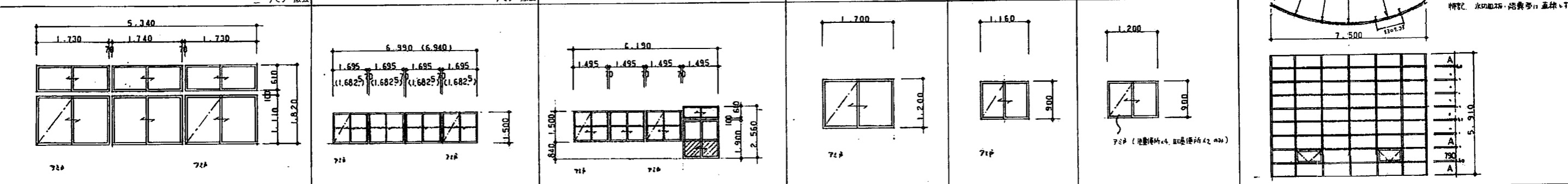
注記:

①材料標準記号	②器具標準記号	③仕上標準記号	④次の記号
A. アルミニウム	D. ドア	OP. 油性顔料ペイント塗	M・BE. フラミン系塗料
G. ガラス	W. 窓	SOP. 油性顔料	E・BE. エポキシ系塗料
P. プラスチック	G. ガラリ	LC. クリアラッカー塗	A・BE. アクリル系塗料
S. 鋼	S. シャッター	OS. オイルステイン塗	AT. エアタイト
SS. ステンレス鋼			DC. ドアチェック
W. 木			H. T 巾
			PH. ヒョウタンシロ
			FH. フロアヒンジ
			AM. オートロック
			DS. ドア
			F. フランス扉
			AS. アームストッパー

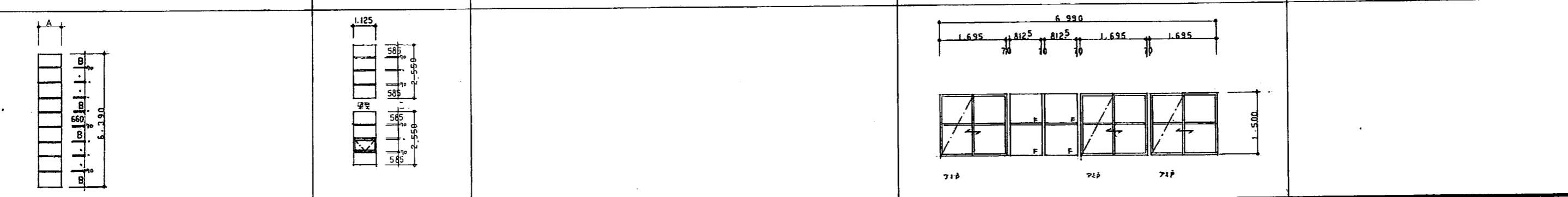
名称	アルミ引違窓・障子撤去(カバー工法)	障子撤去(カバー工法)	障子撤去(カバー工法)	障子撤去(カバー工法)	Fix付 障子撤去(カバー工法)
寸法	6.990 x 2.560 x 70	7.190 x 2.560 x 70	7.190 x 1.820 x 70 (B=1.745)	6.990 x 1.820 x 70 (B=1.695)	6.940 x 1.820 x 70
付属物	SUS 浴槽レール・SUS 北口	←	←	←	←
材種	FL3 + Ab + FL3 障子(巾)T4 + Ab + FL3	←	←	←	←
付属金物	フレスト・アングルボス・皿板他	←	←	←	←
結露等	結露等・皿板	←	←	←	←
使用場所	書道教室	書道教室	書道教室	特別活動室	特別活動室・理科教室
数量	2	4	2	4	1
仕上	アルミ処理	←	←	←	←
備考	←	←	←	←	←
要図	←	←	←	←	←



名称	アルミ引違窓・障子撤去(カバー工法)	アルミ引違窓 障子撤去(カバー工法)	障子撤去 (カバー工法)	アルミ引違窓・障子撤去(カバー工法)	障子撤去 (カバー工法)	アルミ引違窓・障子撤去(カバー工法)	アルミ引違窓・障子撤去(カバー工法)	ガラス撤去
寸法	5.340 x 1.820 x 70	6.990 x 1.500 x 70	6.940 x 1.500 x 70 (巾)	6.190 x 2.560 (1.500) x 70	1.700 x 1.200 x 70	1.160 x 900 x 70	1200 x 900 x 70	7.500 x 5.910 x 100 (A=580)
付属物	←	←	←	←	←	←	←	←
材種	FL3 + Ab + FL3	←	FL3	障(巾)T4 + Ab + FL3	←	FL3 + Ab + FL3	←	←
付属金物	フレスト・アングルボス・皿板 他	←	←	フレスト・アングルボス・皿板 他	←	←	←	←
結露等	結露等	←	←	結露等	←	←	←	←
使用場所	音楽室	取巻室	←	保健室	←	←	←	←
数量	1	1	1	1	1	1	1	1
仕上	アルミ処理	←	←	←	←	←	←	←
備考	←	←	←	←	←	←	←	←
要図	←	←	←	←	←	←	←	←



名称	アルミFix ガラス撤去	ガラス撤去	一部突出窓・ガラス撤去	アルミ引違窓・Fix付(中横付)障子撤去(カバー工法)
寸法	A 1.147 x 6.390 x 100 (B=585)	A 1.064 x 6.390 x 100 (B=585)	1.117 x 2.550 x 100	6.990 x 1.500 x 70
付属物	加方スチール枠 北口 SOP	←	←	←
材種	FL3 + Ab + FL3	←	←	FL3 + Ab + FL3
付属金物	水の皿板・アングルボス 他	←	突出窓物 調整器 他	フレスト・アングルボス・皿板 他
結露等	結露等	←	←	結露等
使用場所	階段ホール	←	←	取巻室(印刷室)
数量	2	2	2	1
仕上	アルミ処理	←	←	アルミ処理
備考	←	←	←	←
要図	←	←	←	←



注記:

①材料記号	②器具記号	③仕上記号	④次の記号
A. アルミニウム	D. ドア	OP. 油性樹脂ペイント	M-BE. ミライン遮熱付
G. ガラス	W. 窓	SOP. 油性樹脂	E-BE. エボキシ樹脂付
P. プラスチック	G. ガタリ	LC. クリヤック	A-BE. アクリル遮熱付
S. 鋼	S. シャッター	OS. オイルステイン	AT. エアークラウド
SS. ステンレス			DC. ドアチェック
W. 木			H. T 目
			PH. セットバック
			FH. フォアヒンジ
			AM. オートセンサ
			DS. 戸締り
			F. フランス開
			AS. アームストッパー

名称	AW1 カ アルミ引違窓 新設 (カバー工法)	AW2 カ アルミ引違窓 新設 (カバー工法)	AW3 カ ← 新設 (カバー工法)	AW4 カ ← 新設 (カバー工法)	AW5 カ アルミ引違窓 FIX付き 新設 (カバー工法)
寸法	6.990 x 2.560 x 100	7.190 x 2.560 x 100	7.190 x 1.820 x 100 (B=1.745)	6.990 x 1.820 x 100 (B=1.695)	6.940 x 1.820 x 100
付属物	FL3 + A12 + LowE3 腰部 (内) T5 + A12 + LowE3	←	FL3 + A12 + LowE3	←	←
材種	クレセント・引き手・戸車・シリンダー・錠錠・アンクルピース	←	クレセント・アンクルピース・血板 他	←	←
付属金物	結露受け・血板	←	結露受け	←	←
使用場所	音楽教室	音楽教室	特別支援教室	特別支援教室 図画・美術教室	音楽教室
数量	2	4	2	4	1
仕上	アルミ処理	←	←	←	←
備考	アミ戸新設 (出入口・欄間含む)	アミ戸新設 (出入口・欄間含む)	アミ戸新設 (欄間含む)	アミ戸新設 (欄間含む)	アミ戸新設 (欄間含む)
案図					

名称	AW6 カ アルミ引違窓 新設 (カバー工法)	AW7 カ アルミ引違窓 新設 (カバー工法)	AW8 カ ← 新設 (カバー工法)	AW9 カ アルミ引違窓 新設 (カバー工法)	AW10 ← 新設 (カバー工法)	AW11 カ アルミ引違窓 新設 (カバー工法)	AW12 G アルミカーテンウォール (鉄骨補強) 1部突出窓 ガラス新設
寸法	5.340 x 1.820 x 100	6.990 x 1.500 x 100	6.940 x 1.500 x 100 ()	6.190 x 2.560 (1.500) x 100	1.700 x 1.200 x 70	1.160 x 900 x 100	1200 x 900 x 100
付属物	FL3 + A12 + LowE3	←	←	腰 (内) アルミサンドイッチパネル t12	FL3 + A6 + FL3	FL3 + A12 + LowE3	←
材種	クレセント・アンクルピース・血板 他	←	←	シリンダー・錠錠・引き手 他	クレセント・アンクルピース・血板 他	←	←
付属金物	結露受け	←	←	結露受け	結露受け	←	←
使用場所	音楽室	職員室	2階ホール	職員更衣室 (女)	2階廊下	物品庫スペース	児童便所・職員便所
数量	1	1	1	1	1	1	8 1階・2階ホール
仕上	アルミ処理	←	←	←	←	←	←
備考	アミ戸新設 (欄間含む)	アミ戸新設 (欄間含む)	アミ戸新設 (欄間含む)	アミ戸新設 (出入口・欄間含む)	アミ戸	アミ戸新設 (欄間含む)	アミ戸新設 (欄間含む)
案図							

名称	AW13 G アルミFIX ガラス新設	AW14 G ← ガラス新設	AW15 G ← ガラス新設	AW16 カ アルミ引違窓 新設 (新設)	AW17 G アルミ引違窓 FIX付き (中継付) 新設 (カバー工法)
寸法	A 1.147 x 6.390 x 100 (B=585)	A 1.084 x 6.390 x 100 (B=585)	1.117 x 2.550 x 100	6.990 x 1.810 (2.560)	6.990 x 1.500 x 100
付属物	加ガラス・枠部 他 SOP	←	←	FL3 + A12 + LowE3 腰部 内T5 + A12 + LowE3	FL3 + A12 + LowE3
材種	FL3 + A12 + LowE3 ※GW PW6.8 + A12 + LowE3	←	←	クレセント・引き手・戸車・シリンダー・錠錠・アンクルピース・結露受け・血板	クレセント・アンクルピース・血板 他
付属金物	水の皿板・アンクルピース 他	←	←	結露受け	結露受け
使用場所	2階ホール	←	←	特別支援教室・保健室	職員室 (印刷室)
数量	2	2	2	1	1
仕上	アルミ処理	←	←	アルミ二次電解着色	アルミ処理
備考	開口部 固定アミ戸新設	開口部 固定アミ戸新設	開口部 固定アミ戸新設	アミ戸新設 (出入口・欄間含む)	アミ戸新設 (欄間含む)
案図					

注記:

①材料種別記号	②器具種別記号	③仕上種別記号	④窓の種別記号
A. アルミニウム	D. ドア	OP. 油性顔料ペイント塗	M-BE. マチン系樹脂地付
G. ガラス	W. 窓	SOP. 合成樹脂	E-BE. エポキシ系樹脂地付
P. プラスチック	G. ガラリ	LC. クリヤラッカー塗	A-BE. アクリル系樹脂地付
S. 扉	S. シャッター	OS. オイルステイン塗	AT. エタータイト
SS. ステンレス鋼			DC. ドアチャック
W. 木材			H. フ
			PH. ヒポットヒンジ
			FH. フロアヒンジ
			AM. オートヒンジ
			DS. ドア
			F. フランス式
			AS. アームストッパー

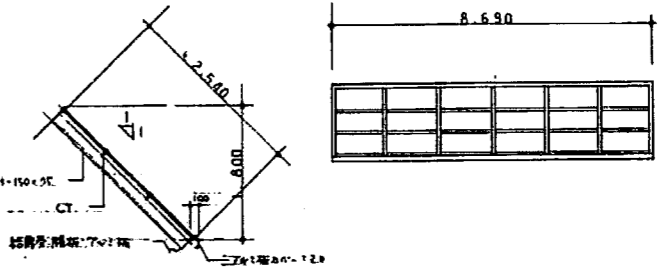
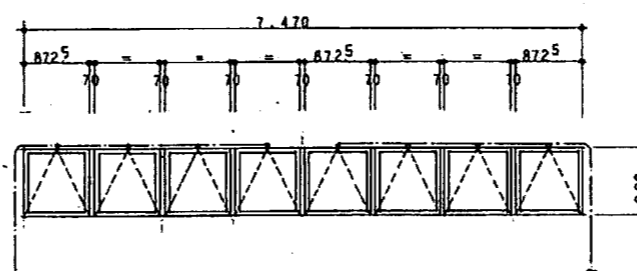
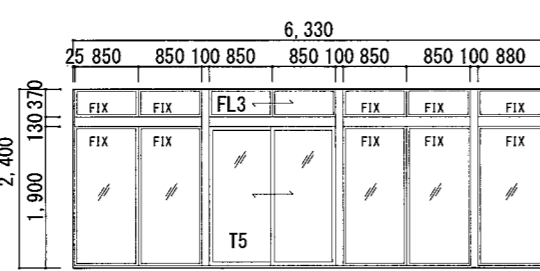
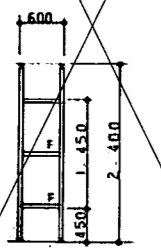
名称	アルミ可動式スクリーン撤去	アルミストッパーライト 外側側窓 ガラス撤去	アルミストッパーライト 撤去 撤去 ガラス撤去
寸法	600 x 2,400 x 50 (50)	7,470 x 900 x 70	7,470 x 900 x 70
付属物	F-2	FL3-A	H-150x75 金庫補強
材質	アルミ	ALC	ALC
使用場所	取巻(別添付)	取巻(別添付)	取巻(別添付)
数量	1	1	1
仕上	アルミ処理		塗装 SOP
備考		取巻(別添付)	取巻(別添付)
図			

名称	木製引手、ラッチ引違 (引手付ストッパー) 障子撤去	木製引手、ラッチ引違 (引手付ストッパー) 障子撤去	木製引手、ラッチ引違 (引手付ストッパー) 障子撤去	木製引手、ラッチ引違 (引手付ストッパー) 障子撤去	木製引手、ラッチ引違 (引手付ストッパー) 障子撤去	木製引手、ラッチ引違 (引手付ストッパー) 障子撤去	木製引手、ラッチ引違 (引手付ストッパー) 障子撤去
寸法	1,700 x 2,660 x 40	1,700 x 2,360 x 40	1,700 x 2,360 x 40	1,200 x 2,360 x 40	800 x 2,360 x 40	700 x 1,900 x 40	700 x 1,900 x 40
付属物	FL3-A	FL2 (52x75)	FL2 (52x75)	FL2 (52x75)	FL2 (52x75)	FL2 (52x75)	FL2 (52x75)
材質	SUS775 引手、ラッチ	SUS775 引手、ラッチ	SUS775 引手、ラッチ	SUS775 引手、ラッチ	SUS775 引手、ラッチ	SUS775 引手、ラッチ	SUS775 引手、ラッチ
使用場所	取巻(別添付)	取巻(別添付)	取巻(別添付)	取巻(別添付)	取巻(別添付)	取巻(別添付)	取巻(別添付)
数量	12	7	3	3	4	3	2
仕上	アルミ処理 SOP	アルミ処理 SOP	アルミ処理 SOP	アルミ処理 SOP	アルミ処理 SOP	アルミ処理 SOP	アルミ処理 SOP
備考							
図							

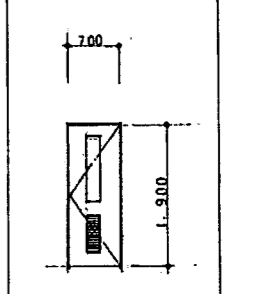
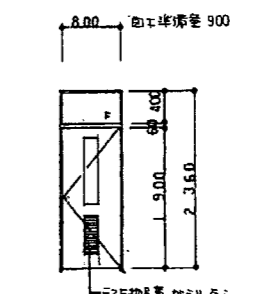
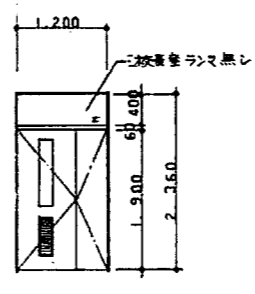
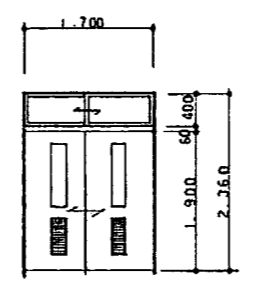
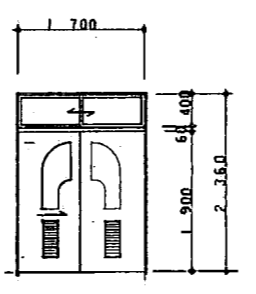
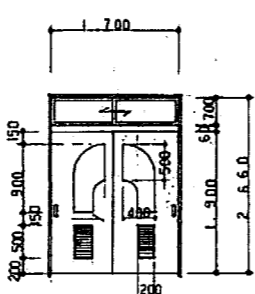
名称	木製引手、ラッチ引違 (引手付ストッパー) 障子撤去	木製引手、ラッチ引違 (引手付ストッパー) 障子撤去	木製引手、ラッチ引違 (引手付ストッパー) 障子撤去	木製引手、ラッチ引違 (引手付ストッパー) 障子撤去	木製引手、ラッチ引違 (引手付ストッパー) 障子撤去	木製引手、ラッチ引違 (引手付ストッパー) 障子撤去	木製引手、ラッチ引違 (引手付ストッパー) 障子撤去	木製引手、ラッチ引違 (引手付ストッパー) 障子撤去
寸法	800 (900) x 1,800 x 40	800 x 1,900 x 40	1,700 x 1,900 x 50	1,700 x 2,360 x 40	1,700 x 1,800 x 36	750 x 1,800 x 36	2,070 x 2,340 x 30	1,700 x 2,360 x 40
付属物	FL2 (52x75)	FL2 (52x75)	FL2 (52x75)	FL2 (52x75)	FL2 (52x75)	FL2 (52x75)	FL2 (52x75)	FL2 (52x75)
材質	PH-DS-障子	PH-DS-障子	PH-DS-障子	PH-DS-障子	PH-DS-障子	PH-DS-障子	PH-DS-障子	PH-DS-障子
使用場所	取巻(別添付)	取巻(別添付)	取巻(別添付)	取巻(別添付)	取巻(別添付)	取巻(別添付)	取巻(別添付)	取巻(別添付)
数量	3	4	4	4	1	1	1	1
仕上	アルミ処理 SOP	アルミ処理 SOP	アルミ処理 SOP	アルミ処理 SOP	アルミ処理 SOP	アルミ処理 SOP	アルミ処理 SOP	アルミ処理 SOP
備考								
図								

注記:	①材料標準記号	②器具標準記号	③仕上標準記号	④其他記号
	A. アルミニウム	D. F.P	OP. 油性顔料ペイント塗	AT. スチール
	G. ガラス	W. 扉	SOP. 塗装	DC. リアーチェック
	P. プラスチック	G. ガラス	LC. クリヤックコーティング	H. 丁
	S. 鋼	S. シャッター	OS. オイルステイン塗	PH. ヒゴットヒンジ
	SS. ステンレス鋼			FH. フロアヒンジ
	W. 木			AM. オートヒンジ
				DS. 戸建
				F. フラッシュ
				AS. アームストッパー

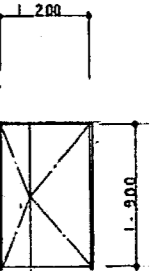
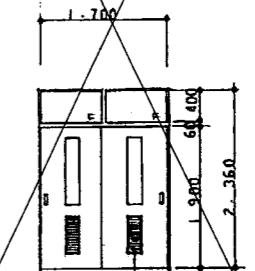
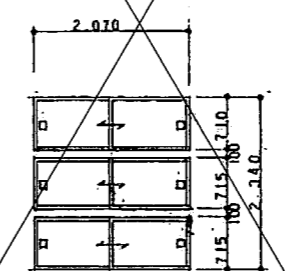
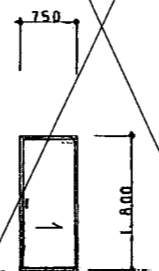
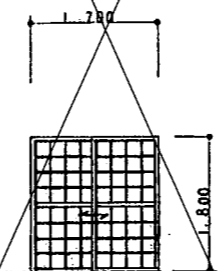
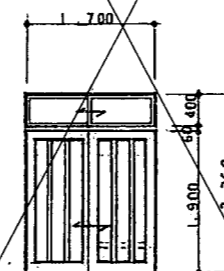
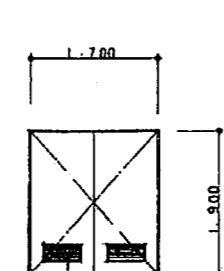
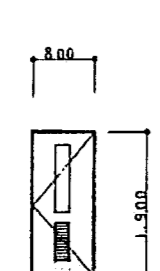
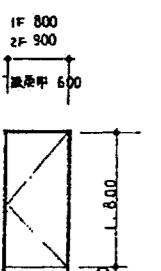
名称	① アルミ可動式スライド	② ガラススクリーン新設	③ G-アルミ上窓「3.5」外111窓: ガラス新設	④ G-アルミトップライト FIXガラス新設
寸法	600 × 2,400 × 50 (50)	6,330 × 2,400	7,470 × 900 × 70	7,470 × 900 × 70
付属物	F-2.1	下部 T5 (可動部とも)、欄間 FL3 (可動部とも)	FL3、A12、LowE3	H-150 × 75 鉄骨補強 PW6.8 + A12 + LowE5 CT-75 × 75
使用場所	取巻階段	ミーティング室	2F 図書室 (読書机付)	2F 図書室 (読書机付)
数量	1	1	1	1
仕上	アルミ付地盤	スチール t1.6 焼付塗装	→	鉄骨 SOP, アルミ付地盤
備考			手動開閉機構付 (左右各4連, 2y)	固定アルミ戸新設



名称	⑤ 木製片引戸 ランマ引違 (出窓付)	⑥ 新設・障子新設	⑦ 障子新設	⑧ 木製フラッシュ両開戸 障子新設	⑨ 木製フラッシュ両開戸 障子新設	⑩ 新設・障子新設	⑪ 新設
寸法	1,700 × 2,660 × 40	1,700 × 2,360 × 40	1,700 × 2,360 × 40	1,200 × 2,360 × 40	800 × 2,360 × 40	700 × 1,900 × 40	700 × 1,900 × 40
付属物	FL3、ランマFL2	FL2 (532葉)	FL2 (532葉)	FL2% (200×900) ランマFL3	FL2% (532葉)	FL2% (200×900)	FL2% (200×200)
使用場所	普通教室	保健室・特別支援教室・音楽準備室	職員室・教材室	校長室・職員更衣室 (女)・図画美術準備室	職員室	職員便所 (男子) (女子)	給湯室
数量	12	13	3	3	2	3	1
仕上	→	→	→	→	→	→	→
備考							



名称	⑫ 木製フラッシュ片開戸 障子新設	⑬ 塗装	⑭ 木製フラッシュ両開戸 障子新設	⑮ 引違・障子	⑯ 引違・障子	⑰ 引違・障子	⑱ 引違・障子	⑲ 木製フラッシュ片開戸 新設
寸法	800 (900) × 1,800 × 40	800 × 1,900 × 40	1,700 × 1,900 × 50	1,700 × 2,360 × 40	1,700 × 1,800 × 36	750 × 1,800 × 36	2,070 × 2,340 × 30	1,700 × 2,360 × 40
付属物	PH・DS・F・他	FL2% (読書机付)	PH・DS・F・他	FL3% ランマFL2%	FL3% ランマFL2%	FL3% ランマFL2%	FL3% ランマFL2%	PH・DC・DS・F・他
使用場所	児童用掃除用具庫	校長室・図画美術準備室	1F 2F 多目的物入	ミーティング室	ミーティング室	ミーティング室	ミーティング室 (押入)	図書室 (準備室)
数量	2	1	1	1	1	1	1	1
仕上	→	→	→	→	→	→	→	→
備考								



注記:

①材料種別番号	②器具種別番号	③仕上種別番号	④既の種別番号
A. アルミニウム	D. ドア	OP. 油性顔料ペイント塗	M-BE. マラシ系塗料付
G. ガラス	W. 窓	SOP. 油性顔料塗	E-BE. エポキシ系塗料付
P. プラスチック	G. ガラス	LC. カラーガラス付	A-BE. アクリル系塗料付
S. 鋼	S. シャッター	OS. オイルステイン塗	
SS. ステンレス鋼			
W. 木質			

<p>名称: 木製 フラッシュ 片引き 新熟戸 既存のまま</p> <p>寸法: 850 x 1,850 x 45</p> <p>付属物: PH・DS・握玉</p> <p>使用場所: 2F 図書 読書室 廊下</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: 糊ベニヤ 4 SOP</p> <p>備考: フラッシュ内 ガラス付</p>	<p>名称: 既存のまま</p> <p>寸法: 700 x 1,000 x 40</p> <p>付属物: PH・握玉</p> <p>使用場所: 廊下 各下物入</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: 糊ベニヤ 4 SOP</p>	<p>名称: 木製 フラッシュ 片引き戸 撤去</p> <p>寸法: 900 x 1,900 x 45</p> <p>付属物: 小窓 100x100 型 t4 戸車・大型掘込み弾き手・表示鍵錠・SUS Vレール</p> <p>使用場所: ひまわり教室</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: 化粧合板</p>	<p>名称: 木製 撥水樹脂 既のまま</p> <p>寸法: 2,000 x 850</p> <p>付属物: FL5・Ab・FL5 アパルボス 他</p> <p>使用場所: 図書室</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: SOP</p> <p>備考: カラーガラス付</p>	<p>名称: 木製 引違い 障子 撤去</p> <p>寸法: 6,970 x 1,530</p> <p>付属物: 二層スベリ 障子ガラス 3% (樹脂付 樹脂付)</p> <p>使用場所: 3F 図書 室内窓</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: 素板</p>	
<p>名称: 木製 フラッシュ 片引き 既のまま</p> <p>寸法: 800 x 1,900 x 50</p> <p>付属物: PH・DC・DS・横付ハンドル</p> <p>使用場所: 視聴覚室 放送室 (図書) 音楽教室</p> <p>数量: 5</p> <p>仕上: 糊ベニヤ 4 SOP</p> <p>備考: フラッシュ内 ガラス付</p>	<p>名称: 木製 フラッシュ 片引き 障子 撤去</p> <p>寸法: 1,700 (1,650) x 1,900 x 50</p> <p>付属物: F</p> <p>使用場所: 音楽室</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: ←</p>	<p>名称: 木製 フラッシュ 片引き 撤去</p> <p>寸法: 1,200 x 1,900 x 40</p> <p>付属物: SUS付 窓 2.2 (500x100)</p> <p>使用場所: 3F 2F 読書室</p> <p>数量: 2</p> <p>仕上: ←</p> <p>備考: フラッシュ内 ガラス付</p>	<p>名称: 木製 片引き 既のまま</p> <p>寸法: 1,360 x 1,870 x 40</p> <p>付属物: 取手 取手・キャッチ錠 他</p> <p>使用場所: 図書室 図書室 図書室</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: ラワン OSLL</p> <p>備考: 付 ラワン OSLL</p>	<p>名称: ステンレス 片引き 既のまま</p> <p>寸法: 300 x 300 x 80</p> <p>付属物: H・ガラスハンドル・キャッチ錠</p> <p>使用場所: 3F 図書 廊下</p> <p>数量: 5</p> <p>仕上: SOP</p>	<p>名称: 木製 フラッシュ 片引き 撤去</p> <p>寸法: 660 x 1,850 x 45</p> <p>付属物: PH・DH・握玉</p> <p>使用場所: ひまわり教室 物入</p> <p>数量: 2</p> <p>仕上: 化粧合板</p>
<p>名称: ステンレス 片引き</p> <p>寸法: 3,730 x 2,700</p> <p>付属物: FL3%</p> <p>付属物: DC・ガラス・木製 DS・握玉 (他) M-N-仕球</p> <p>使用場所: 図書準備室</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: 化粧合板</p> <p>備考: 目黒 ラックウォール 既</p>	<p>名称: アルミ 引違い 障子 撤去 (カバー工法)</p> <p>寸法: 4,000 x 1,770</p> <p>付属物: FL3・Ab・FL3 アパルボス 他</p> <p>使用場所: 図書準備室</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: アルミ付処理</p>	<p>名称: アルミ 引違い 既のまま</p> <p>寸法: 1,300 x 1,600 x 70</p> <p>付属物: FL3・Ab・FL3 アパルボス・結露受・取手 他</p> <p>使用場所: 図書室</p> <p>数量: 1</p> <p>仕上: ←</p>			

注記:

①材料種別番号	②器具種別番号	③仕上種別番号	④その他番号
A. アルミ窓枠	D. ドア	OP. 油性顔料ペイント塗	AT. エアータイト
G. ガラス	W. 窓	SOP. 全透明	DC. ドアチェック
P. プラスチック	G. ガラリ	LC. カラーガラス	H. ドア
S. 網	S. シャッター	OS. オイルステイン塗	PH. ヒットヒンジ
SS. ステンレス鋼			FH. フロアヒンジ
W. 木材			AH. アウトヒンジ
			DS. 戸張り
			F. フランス開
			AS. アームストパー

名称	①木製 フラッシュ片開き新設戸 既存のまま	②既存のまま	③木製 フラッシュ 片引き戸 新設	④木製 既入枠付 既存のまま	⑤木製引違い障子
寸法	850 x 1,850 x 45	700 x 1,000 x 40	900 x 1,900 x 45	2,000 x 850	6,970 x 1,530
付属物			小窓 100x100 型t4	FLS・Ab・FLS	二重障子付
付属金物	PH・DS・蝶玉	PH・蝶玉	戸車・樹脂被覆引き棒 (一般部L=450、児童用便所L=600) 表示鍵錠・SUS Vレール(ソフトクローズ)	T:アルミ他	障子ガラス (2:1.5x4x4mm ミニソフト種)
使用場所	2F~3F 階段 階段室 廊下	展望台 下物入	保健室 (脱衣室)、物品庫スペース、洗濯・手洗い・SK、児童用便所 (男・女)	放送室	3F~4F 室内窓
数量	1	1	7	1	1
仕上	木目化粧 4 SOP	木目化粧 4 SOP	化粧合板	SOP	木目化粧
備考	フラッシュ内 グラスカール充填			ガラス種別はここに記す	
図					

名称	⑥木製フラッシュ片開き障子新設	⑦木製フラッシュ片開き防音障子新設	⑧木製フラッシュ片開き	⑨木製片開き防音障子 既存のまま	⑩木製片開き防音障子 既存のまま
寸法	800 x 1,900 x 50	1,700 (1,650) x 1,900 x 50	1,200 x 1,900 x 40	1,360 x 1,870 x 40	1,300 x 300 x 80
付属物			SUS鍵錠		
付属金物	PH・DC・DS・蝶玉付ドボル	← F	PH・DC・DS・蝶玉付ドボル	蝶玉付ドボル・キャッチ錠他	H・キャッチ錠付ドボル・蝶玉付ドボル
使用場所	放送室前室	音楽室	2F・3F 設備室	放送室 音楽室入り	放送室前室
数量	3	1	2	1	5
仕上	木目化粧 4 SOP	←	←	ラワン OSLL	SOP
備考	フラッシュ内 グラスカール充填		ガラス種別はここに記す	ガラス種別はここに記す	
図					

名称	⑪スチール引違い窓	⑫アルミ引違い窓 FIX付 新設 (カバー工法)	⑬アルミ引違い窓 既存のまま
寸法	3,730 x 2,700	4,000 x 1,770	1,300 x 1,600 x 70
付属物	FL37%		FL3・12・LOWE
付属金物	DC・蝶玉付ドボル・蝶玉付ドボル他		ガラス種別はここに記す
使用場所	図工準備室	体調管理室	展望台
数量	1	1	1
仕上	パネル:化粧鋼板	アルミ付処理	←
備考	日米ラックウォール程度		
図			

注記: 1. 本工事は100%完成品と見做す。
 2. 内装開口部は、防火仕様の仕様が適用される。
 3. 防火仕様の仕様の仕様は、本図に示す。
 4. 防火仕様の仕様の仕様は、本図に示す。
 5. 防火仕様の仕様の仕様は、本図に示す。
 6. 防火仕様の仕様の仕様は、本図に示す。
 7. 防火仕様の仕様の仕様は、本図に示す。

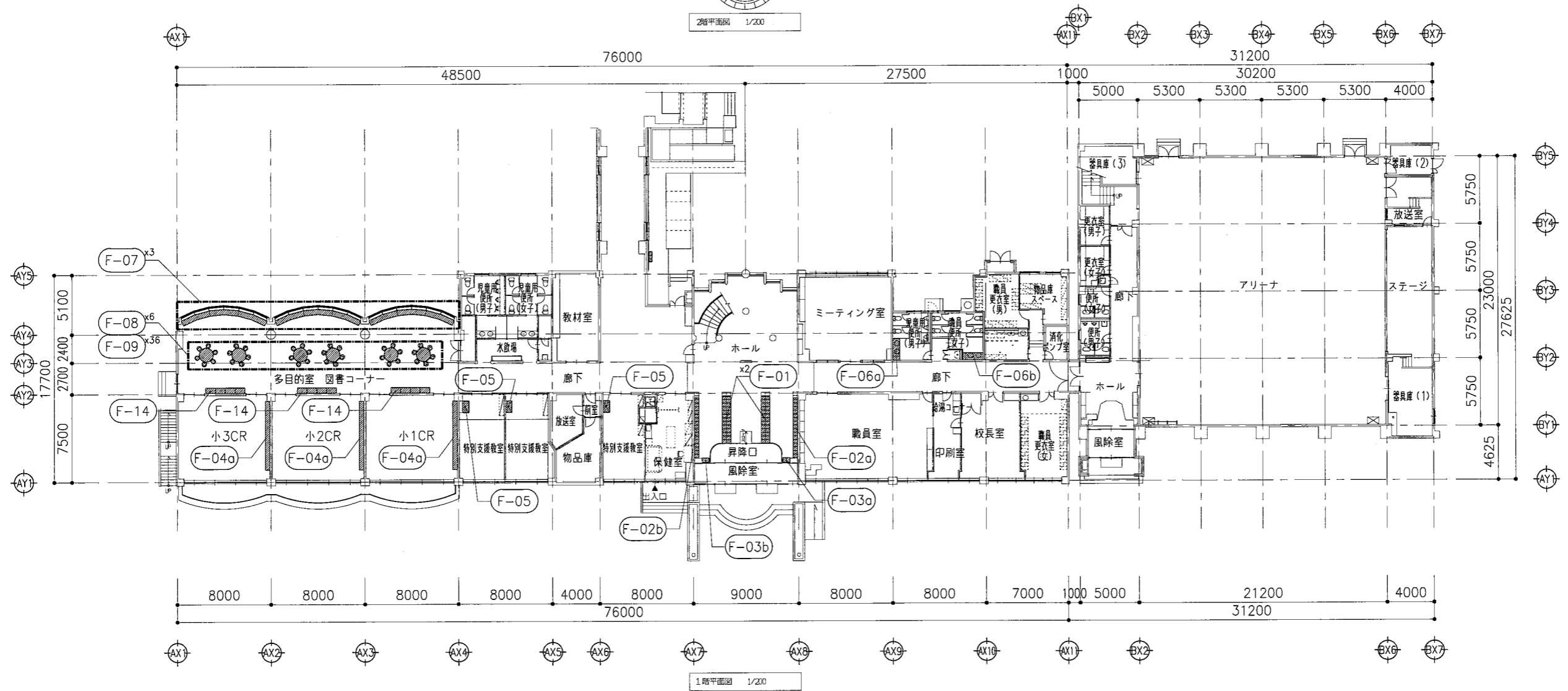
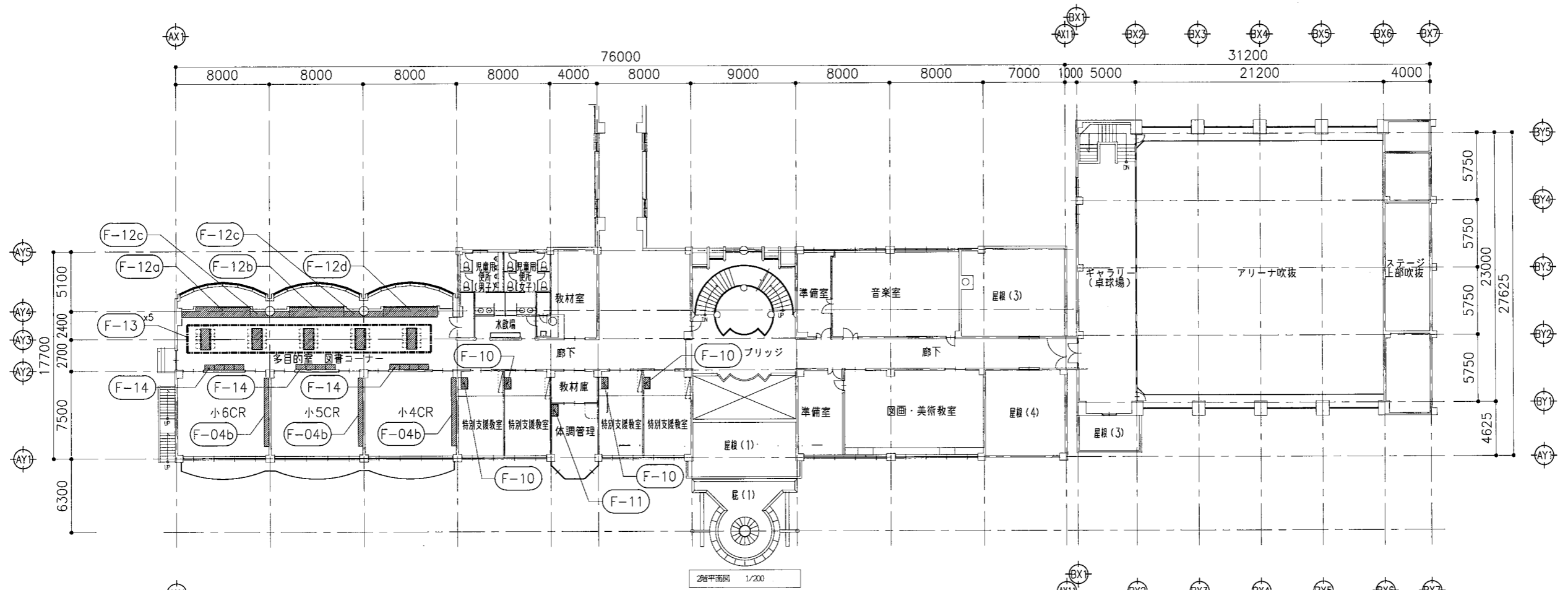
①材料記号	②器具記号	③仕上り記号	④既設記号
A. アルミ窓枠	D. 障子	OP. 油圧調整付	M-BE. 耐力付
G. ガラス	W. 窓	SOP. 全面開放	E-BE. エネルギー断熱付
P. フラスコ	G. ガラス	LC. クリアコート付	A-BE. アルミ断熱付
S. 網	S. シェード	OS. オイルステイン	AT. エアークリート
SS. ステンレス			DC. ドアチェック
W. 木			H. 戸
			PH. ヒットピン
			FH. フロアヒンジ
			AH. アウトヒンジ
			DS. ドアストッパー
			F. フランス
			AS. アルミストッパー

名称	寸法	材質	仕様	使用場所	数量	仕上	備考	図面
① スチール引分	3,730 × 2,835 × 100	FL3%・F・F	引分・引分・引分・引分	風除室・昇降口	2	アルミ加工 SOP	電気錠新設 (コントローラーは中学校接続)	
② スチールラッシュ両開戸	1,600 × 1,910 × 100	FL3・A6・F4	引分・引分・引分	アリナ	2	←	←	
③ スチールラッシュ両開戸	1,200 × 2,500 × 100	FL3・A6・F4	引分・引分・引分	風除室 (2)	1	←	←	
④ 常時開放型 甲種防火仕 両開戸 (くくり付)	2,370 × 2,375 × 50	FH・DC・DS・F	引分・引分・引分	2階 廊下	1	←	←	
⑤ アルミ両開ガラス戸	2,340 × 2,385 × 70	FL2%・F・F	引分・引分・引分	2階 廊下	2	アルミ加工	←	
⑥ 断熱サッシカバー工法 新設	1,720 × 2,385 × 70	FL2%・F・F	引分・引分・引分	2階 廊下	1	←	←	
⑦ アルミ引違窓 既存のまま	1,800 × 1,820 × 70	FL3・A6・F4	引分・引分・引分	アリナ	2	アルミ加工	←	
⑧ アルミ引違窓 既存のまま	800 × 800 × 70	FL3・A6・F4	引分・引分・引分	アリナ	2	アルミ加工	←	
⑨ アルミ引違窓 既存のまま	1,200 × 900 × 70	FL3・A6・F4	引分・引分・引分	アリナ	2	アルミ加工	←	
⑩ アルミ引違窓 既存のまま	1,700 × 1,200 × 70	FL3・A6・F4	引分・引分・引分	アリナ	2	アルミ加工	←	
⑪ アルミ引違窓 新設 (カバー工法)	1,700 × 1,200 × 70	FL3・A6・F4	引分・引分・引分	アリナ	2	アルミ加工	←	
⑫ アルミ引違窓 (既設)	600 × 2,400 × 50	FL3・A6・F4	引分・引分・引分	アリナ	2	アルミ加工	←	
⑬ スチールケラリ 既存のまま	600 × 600 × 100	FL3・A6・F4	引分・引分・引分	アリナ	2	アルミ加工	←	
⑭ ガラスアロウツ 枠 (スチール)	1,900 × 1,900 × 95 (144個)	FL3・A6・F4	引分・引分・引分	アリナ	2	アルミ加工	←	
⑮ 木製ラッシュ両開戸 既存のまま	700 × 1,900 × 40	FL3・A6・F4	引分・引分・引分	アリナ	2	アルミ加工	←	
⑯ 木製ラッシュ両開戸 既存のまま	800 × 1,900 × 40	FL3・A6・F4	引分・引分・引分	アリナ	2	アルミ加工	←	
⑰ 木製ラッシュ両開戸 既存のまま	650 × 1,800 × 40	FL3・A6・F4	引分・引分・引分	アリナ	2	アルミ加工	←	
⑱ 木製ラッシュ両開戸 既存のまま	1,200 × 1,950 × 45	FL3・A6・F4	引分・引分・引分	アリナ	2	アルミ加工	←	
⑲ 木製ラッシュ両開戸 既存のまま	1,800 × 1,950 × 45	FL3・A6・F4	引分・引分・引分	アリナ	2	アルミ加工	←	
⑳ 木製ラッシュ両開戸 既存のまま	800 × 1,900 × 40	FL3・A6・F4	引分・引分・引分	アリナ	2	アルミ加工	←	
㉑ 木製ラッシュ両開戸 既存のまま	2,000 × 1,950 × 45	FL3・A6・F4	引分・引分・引分	アリナ	2	アルミ加工	←	
㉒ 木製ラッシュ両開戸 既存のまま	1,100 × 1,950 × 45	FL3・A6・F4	引分・引分・引分	アリナ	2	アルミ加工	←	
㉓ ガラスドア 既存のまま	900 × 600 × 100	FL3・A6・F4	引分・引分・引分	アリナ	2	アルミ加工	←	

2A 1,500 x 660 x 1,200 (機6脚) 1		3B 1,650 x 350 x 1,500 (機3脚) 1		3A 1,350 x 350 x 1,500 (機4脚) 2		F-4 掃除用具入れ 600 x 450 x 1,900 13		F-5 下足入れ 1,297 x 350 x 900 1			
F-1 生使用下足箱 1,250 x 330 x 1,200 2		F-2 生使用下足箱 1,250 x 660 x 1,200 (機5脚) 1		F-3 下足入れ 1,250 x 350 x 1,500 (機4脚) 2		F-4 掃除用具入れ 600 x 450 x 1,900 13		F-5 下足入れ 1,297 x 350 x 900 1			
撤去		撤去		撤去		撤去		既存のまま			
											
昇降口		昇降口		昇降口 風除室(2)		客室		放送室前室 音楽室前室 展覧室			
本体 コーポラ T20 扉ロメパン貼(鋼板表) 背板 強化ガラス t4 ステンレス製耐震棚受、棚柱		全 无		本体 コーポラ T19 50P 棚板付、組 棚板付ハ 組棚板付 5P 50P 背板 強化ガラス t4 ステンレス製耐震棚受		ステンレス製 耐震棚、ステンレス製耐震棚、組 棚板付、組棚板付		本体 コーポラ T19 50P 背板 強化ガラス t4 50P			
F-6 個人ロッカー(書棚) 900 x 400 x 1,900 6		F-7 整理棚 900 x 450 x 1,900 1		F-8 薬品庫 900 x 600 x 1,900 1		F-9 器械戸棚 600 x 450 x 1,900 1		F-10 整理棚 900 x 450 x 1,900 1			
撤去・新設		撤去・新設		撤去・新設		撤去・新設		撤去			
職員室		保健室 → 保健室		保健室 → 保健室		保健室 → 保健室		コンピュータ室 図工室			
A-111 図 造作家具共通仕様とする 天板・扉・本体: 道産メジロカバ突板合板 ステンレス製耐震棚受、棚柱 ガラス仕様: 強化ガラス t4 掘込引手: 国産ひのき燻煙乾燥45 x 125		A-111 図 造作家具共通仕様とする 扉: メラミン化粧合板 本体: ポリエステル化粧合板 ステンレス製耐震棚受、棚柱 ガラス仕様: 強化ガラス t4 掘込引手: 国産ひのき燻煙乾燥45 x 125		A-111 図 造作家具共通仕様とする 扉: メラミン化粧合板 本体: ポリエステル化粧合板 ステンレス製耐震棚受、棚柱 ガラス仕様: 強化ガラス t4 掘込引手: 国産ひのき燻煙乾燥45 x 125 ※扉は鍵付き		A-111 図 造作家具共通仕様とする 扉: メラミン化粧合板 本体: ポリエステル化粧合板 ステンレス製耐震棚受、棚柱 ガラス仕様: 強化ガラス t4 掘込引手: 国産ひのき燻煙乾燥45 x 125 ※扉は鍵付き		A-111 図 造作家具共通仕様とする 天板・扉・本体: 道産メジロカバ突板合板 ステンレス製耐震棚受、棚柱 ガラス仕様: 強化ガラス t4 掘込引手: 国産ひのき燻煙乾燥45 x 125		本体 コーポラ T20 扉ロメパン貼(鋼板表) 背板: ポリエステル化粧合板 t4 ガラス仕様: 強化ガラス t4 掘込引手: 国産ひのき燻煙乾燥45 x 125 ※扉は鍵付き 取手: 引手 全2本(10% @50)	
F-11 整理棚 1,600 x 400 x 1,900 1		F-12 整理棚 1,650 x 450 x 1,900 4		F-13 食器棚 1,800 x 500 x 1,900 3		F-14 楽器棚 1,600 x 750 x 1,900 1		F-15 楽器棚 1,800 x 600 x 1,900 2			
撤去・新設		撤去・新設		撤去		撤去・新設		撤去・新設			
音楽室		図画・美術準備室		家庭科教室		音楽準備室		音楽準備室			
A-111 図 造作家具共通仕様とする 天板・扉・本体: 道産メジロカバ突板合板 ステンレス製耐震棚受、棚柱 ガラス仕様: 強化ガラス t4 掘込引手: 国産ひのき燻煙乾燥45 x 125		A-111 図 造作家具共通仕様とする 天板・扉・本体: 道産メジロカバ突板合板 背板: ポリエステル化粧合板 t4 引手: 片面ポリウレタン化粧板貼 切取材付 3% L-MY硝子 取手: 引手 全2本(10% @50)		A-111 図 造作家具共通仕様とする 天板・扉・本体: 道産メジロカバ突板合板 背板: ポリエステル化粧合板 t4 引手: 片面ポリウレタン化粧板貼 切取材付 3% L-MY硝子 取手: 引手 全2本(10% @50)		A-111 図 造作家具共通仕様とする 天板・扉・本体: 道産メジロカバ突板合板 ステンレス製耐震棚受、棚柱 ガラス仕様: 強化ガラス t4 掘込引手: 国産ひのき燻煙乾燥45 x 125		A-111 図 造作家具共通仕様とする 天板・扉・本体: 道産メジロカバ突板合板 ステンレス製耐震棚受、棚柱 ガラス仕様: 強化ガラス t4 掘込引手: 国産ひのき燻煙乾燥45 x 125		全 无	

<p>F-16 理科棚</p>	<p>F-17 展示棚</p>	<p>F-18 工具戸棚</p>	<p>F-19 用具棚</p>	<p>F-20 用具棚</p>
<p>理科教室</p> <p>本体 ユニボード T20 木口メラミン貼 天板・扉・本体 道産メジロカバ突板合板 扉板 フラッシュ T24 木口メラミン貼 金釘 10% @ 50 引違戸 片面ポリ化板合板貼 引違戸3戸 片面ポリ化板合板貼 切板材 3% L-XY 硝子 取手 引手</p>	<p>理科教室</p> <p>本体 ユニボード T20 木口メラミン貼 天板・扉・本体 道産メジロカバ突板合板 扉板 フラッシュ T24 木口メラミン貼 金釘 10% @ 50 引違戸 片面ポリ化板合板貼 引違戸3戸 片面ポリ化板合板貼 切板材 3% L-XY 硝子 取手 引手</p>	<p>理科準備室</p> <p>本体 珪藻土ボード T20 木口メラミン貼 天板・扉・本体 道産メジロカバ突板合板 扉板 フラッシュ T24 木口メラミン貼 金釘 10% @ 50 引違戸 片面ポリ化板合板貼 引違戸3戸 片面ポリ化板合板貼 切板材 3% L-XY 硝子 取手 引手</p>	<p>図工室 → 図画・美術教室 2</p> <p>A-111図 造作家具共通仕様とする 天板・扉・本体 道産メジロカバ突板合板 ステンレス製耐震棚受、棚柱 ガラス仕様：強化ガラス t4 網込引手：国産ひのき燻煙乾燥45×125</p>	<p>図工室 → 図画・美術教室</p> <p>A-111図 造作家具共通仕様とする 天板・扉・本体 道産メジロカバ突板合板</p>
<p>F-21 書庫</p>	<p>F-22 書庫</p>	<p>F-23 書庫</p>	<p>F-24 書架</p>	<p>F-25 書架</p>
<p>職員室</p> <p>A-111図 造作家具共通仕様とする 天板・扉・本体 道産メジロカバ突板合板 ステンレス製耐震棚受、棚柱 ガラス仕様：強化ガラス t4 網込引手：国産ひのき燻煙乾燥45×125</p>	<p>職員室</p> <p>A-111図 造作家具共通仕様とする 天板・扉・本体 道産メジロカバ突板合板 ステンレス製耐震棚受、棚柱 ガラス仕様：強化ガラス t4 網込引手：国産ひのき燻煙乾燥45×125</p>	<p>校長室</p> <p>本体 珪藻土ボード T20 木口メラミン貼 天板・扉・本体 道産メジロカバ突板合板 扉板 フラッシュ T24 木口メラミン貼 金釘 10% @ 50 引違戸 片面ポリ化板合板貼 引違戸3戸 片面ポリ化板合板貼 切板材 3% L-XY 硝子 取手 引手</p>	<p>多目的室 (1F) → 体育館に一時保管</p> <p>本体 珪藻土ボード T20 木口メラミン貼 天板・扉・本体 道産メジロカバ突板合板 扉板 フラッシュ T24 木口メラミン貼 金釘 10% @ 50 引違戸 片面ポリ化板合板貼 引違戸3戸 片面ポリ化板合板貼 切板材 3% L-XY 硝子 取手 引手</p>	<p>多目的室 (2F) → 体育館に一時保管</p> <p>本体 珪藻土ボード T20 木口メラミン貼 天板・扉・本体 道産メジロカバ突板合板 扉板 フラッシュ T24 木口メラミン貼 金釘 10% @ 50 引違戸 片面ポリ化板合板貼 引違戸3戸 片面ポリ化板合板貼 切板材 3% L-XY 硝子 取手 引手</p>
<p>F-26 器械戸棚</p>	<p>F-27 展示棚</p>	<p>F-28 作業台</p>	<p>F-29 吊棚</p>	<p>F-30 吊戸棚</p>
<p>放送室</p> <p>本体 ユニボード T20 木口メラミン貼 扉板 フラッシュ T24 可動棚 ユニボード T20 木口メラミン貼 金釘 10% @ 50 引違戸 片面ポリ化板合板貼 引違戸3戸 片面ポリ化板合板貼 切板材 3% L-XY 硝子 取手 引手</p>	<p>図工教室 → 図画・美術教室</p> <p>A-111図 造作家具共通仕様とする 天板・扉・本体 道産メジロカバ突板合板 ステンレス製耐震棚受、棚柱 ガラス仕様：フロートガラス t8 (飛散防止フィルム貼り) 網込引手：国産ひのき燻煙乾燥45×125</p>	<p>印刷室</p> <p>本体 珪藻土ボード T19 SOP 扉板 フラッシュ T24 可動棚 コンパ T12 SOP 引違戸 片面ポリ化板合板貼 フラッシュ T24 取手 引手</p>	<p>印刷室</p> <p>本体 珪藻土ボード T19 SOP 扉板 フラッシュ T24 SOP</p>	<p>保健室</p> <p>本体 珪藻土ボード T19 SOP 扉板 コンパ T12 扉板 フラッシュ T24 引違戸 片面ポリ化板合板貼 フラッシュ T24 取手 引手</p>

<p>F-31 児童ロッカー 1,800×450×1,300 12</p> <p>撤去</p>	<p>F-32 コート掛け 1,600×450×1,300 6</p> <p>撤去</p>	<p>F-33 TV台 1,500×630×1,900 6</p> <p>撤去</p>	
<p>普通教室</p> <p>本体: 鋼板 20mm厚 120x120x5 背板: 鋼板 14mm厚</p>	<p>普通教室</p> <p>本体: 鋼板 20mm厚 120x120x5 背板: 鋼板 14mm厚 ステンレスパイプ 30mm S304 30面 ステンレス固定</p>	<p>普通教室</p> <p>本体: 鋼板 20mm厚 120x120x5 2面 背板: 鋼板 14mm厚 1面 引出: マグネットキャッチ ステンレスパイプ 30mm S304 10面 ステンレス固定</p>	
<p>F-34 ベンチ 2,000×800×300 2</p>			
<p>普通教室</p> <p>本体: 鋼板 20mm厚 120x120x5 背板: 鋼板 14mm厚 引出: マグネットキャッチ</p>			



造作家具 共通仕様 「特記なき場合は下記仕様とする」

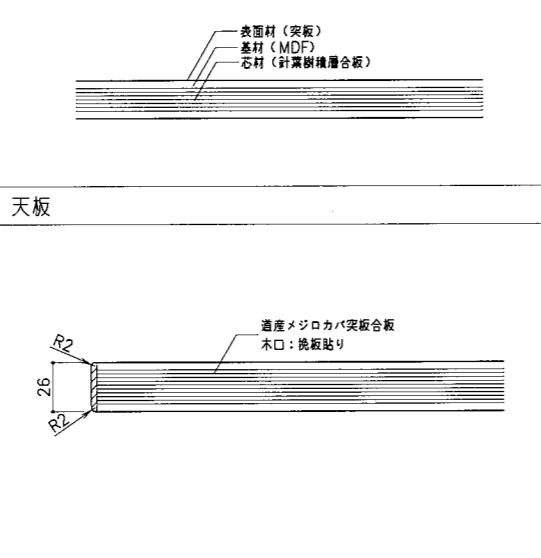
地球温暖化を防ぐため日本の温室効果ガスの排出を実質ゼロにするカーボンニュートラル・脱炭素社会の実現に向けて、森林の適理利用を持続可能にするために、国産材を積極的に活用した下記仕様とする。

天板・扉・本体：道産メジロカバ突板合板	
天板	道産メジロカバ突板合板（芯材：道産カラマツ積層合板） 木口：挽板貼り
本体・主材	道産メジロカバ突板合板（芯材：道産カラマツ積層合板） 木口：突板テープ貼り
扉	道産メジロカバ突板合板（芯材：道産カラマツ積層合板） 木口：挽板貼り 扉にガラスが入る時は透明強化ガラスt4mmとする
引出前板	道産メジロカバ突板合板（芯材：道産カラマツ積層合板） 木口：挽板貼り
棚板	道産メジロカバ突板合板（芯材：道産カラマツ積層合板） 木口：突板テープ貼り
側板	道産メジロカバ突板合板（芯材：道産カラマツ積層合板） 木口：突板テープ貼り
背板	道産メジロカバ突板合板
地板	道産メジロカバ突板合板（芯材：道産カラマツ積層合板） 木口：突板テープ貼り
支輪・台輪	道産メジロカバ突板合板（芯材：道産カラマツ積層合板）
塗装	着色UC：ウレタン塗装仕上げF☆☆☆☆
接着剤	※接着剤・塗料は厚生労働省より室内濃度指針値が出された物質の基準値を満たしたものとす。

扉：メラミン化粧板、本体：ポリエステル化粧合板	
本体・主材	ポリエステル化粧合板 木口：同色樹脂テープ貼り
扉	メラミン化粧板 木口：同色樹脂エッジ貼り 扉にガラスが入る時は透明強化ガラスt4mmとする
棚板	ポリエステル化粧合板 木口：同色樹脂テープ貼り
側板	ポリエステル化粧合板 木口：同色樹脂テープ貼り
背板	ポリエステル化粧合板
地板	ポリエステル化粧合板 木口：同色樹脂テープ貼り
支輪	ポリエステル化粧合板
接着剤	※接着剤・塗料は厚生労働省より室内濃度指針値が出された物質の基準値を満たしたものとす。

- ※ 施工前に家具施工図を作成し監督者に提出、承認を受けた後、製作、施工すること。
- ※ 国産ヒノキ材の出荷証明書等は施工前に監督者に提出する。
- ※ 道産メジロカバ突板合板が100%国産材で作られていることを証明するため、表面材（突板）および基材（MDF）、芯材（針葉樹積層合板）の「出荷証明書」を施工前に監督者に提出し、承認を受けること。
- ※ 針葉樹積層合板は、道産カラマツとする。
- ※ 家具の製作工場については環境に配慮し、温暖化防止や水土保全のために、持続可能な森林運営を担うことを評価、認定した認証制度（SGEC、又はPEFC）の認証取得企業であること。
- ※ また、品質確保のためISO9001認証取得の国内工場、または同工場の管理する協力工場とすること。
- ※ 造作家具の国産ヒノキ材については、以下の条件を満たすものとする。
 - ・ 生木製材からロット番号管理を行い、含水率の推移を記録した乾燥履歴を保管すること。
 - ・ 乾燥工程では、全乾重量法に基づいた含水率計測を行うこと。
 - ・ 抜けそうな節（抜け節）はあらかじめ除去し、無垢材によって埋め木処理を行うこと。
 - ・ 写真で工程を説明できる資料と、埋め木材と乾燥材のサンプルを速やかに提出できること。
 - ・ 乾燥工程は品質確保のため、以下の要領によって行われていること。
 - ・ 反りや乾燥むら、割れの軽減をす為、天然乾燥及び天然木のみを燃焼させて発生させた煙を使用した、くんえん乾燥にて予備乾燥を行う。
 - ・ 次に約65℃前後で高気乾燥炉にて約一週間湿度調整し、含水率を10%前後にする。
 - ・ 湿度調整後に養生期間を設けて含水率を12%程度まで戻した後、含水率を保持するためビニールで梱包後、保管し加工する。
- ※ メカ選定の際には、仕様通りの実物サンプルを提出し、監督者承認後決定とすること。
- ※ 突板合板のH180以上の扉のみ、扉裏面に反止金具を付けること。

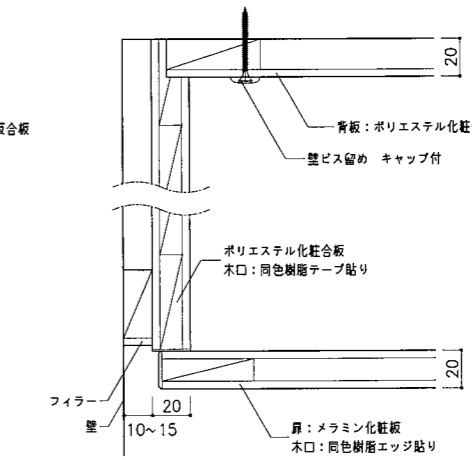
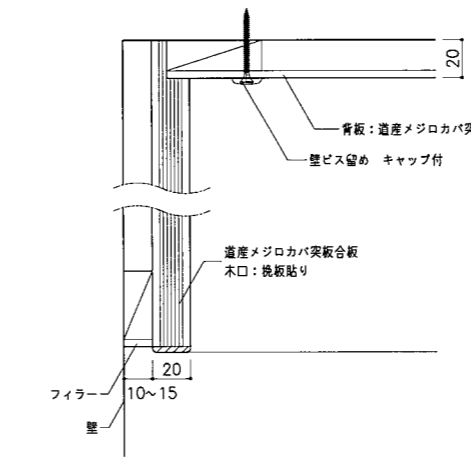
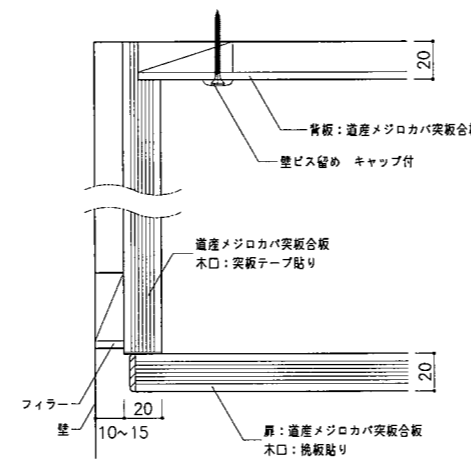
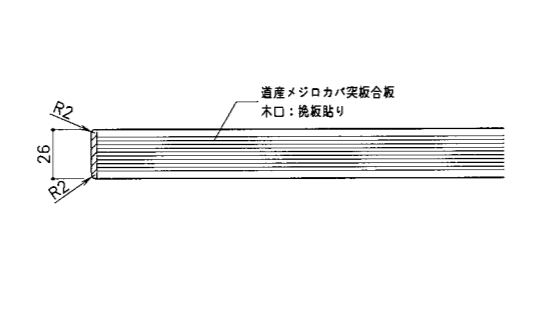
道産メジロカバ突板合板構成図（100%国産材）



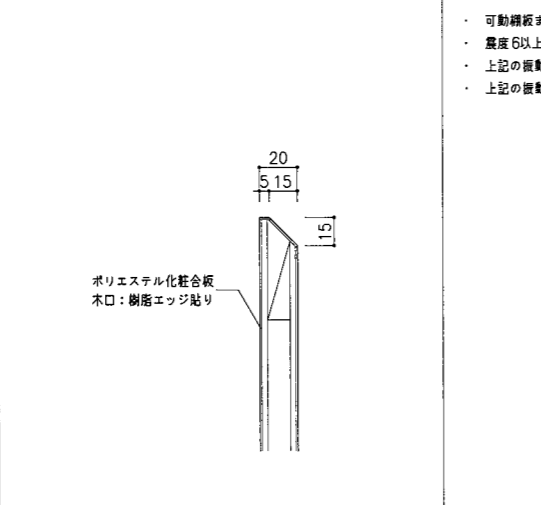
本体仕様

- ※ 本体各部材の接合に關しては、いたずら防止と強度確保のため、部外者が安易に外せるノックダウン金物の使用は禁止とする。
- ※ 造作家具は危険防止の為、床または壁面に取付・固定すること。
- ※ 本体は、ファイラー、支輪の現場加工取付込みとする。

天板

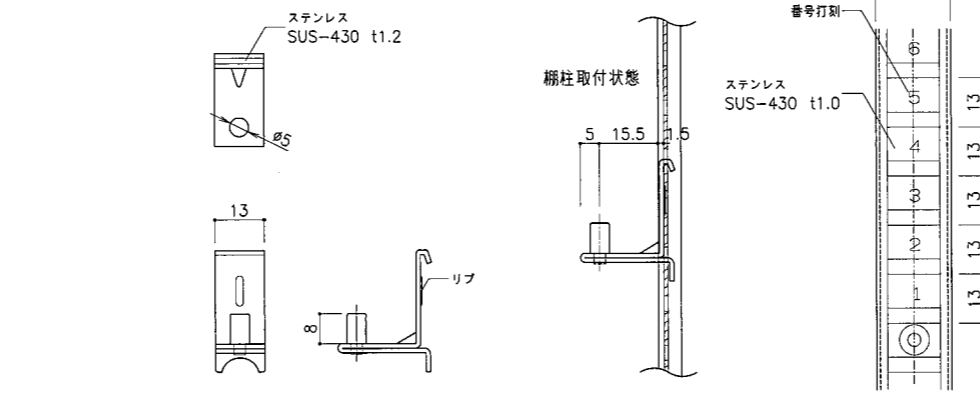


手掛加工

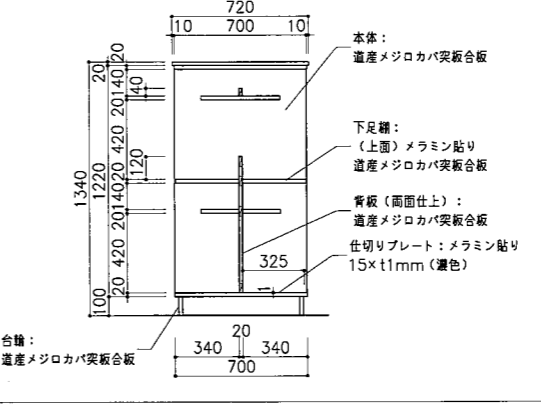
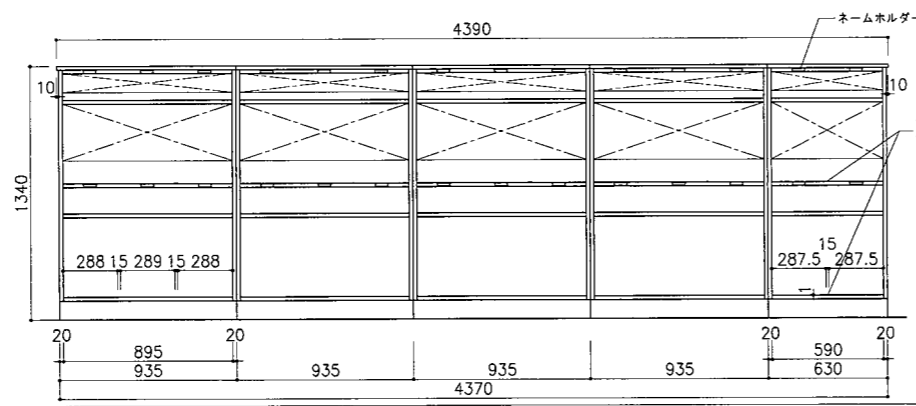
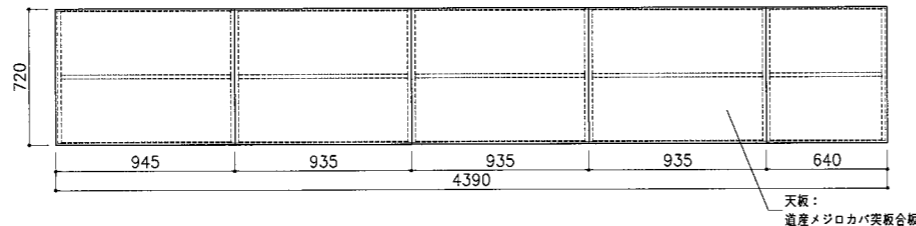


ステンレス製耐震棚・棚柱

- ・ 可動棚または棚柱と棚受について下記の条件を満たすものとする。
- ・ 震度6以上（JMA神戸震）を想定した特定地震による3D加震レベル100%の振動試験において、加震後、異常がなかったものとする。
- ・ 上記の振動試験において可動棚の落下がなかったことについて加震後の状況写真で確認できるものとする。
- ・ 上記の振動試験について、第三者品質性能証明機関による試験報告書の複製が提出できるものとする。



F-01 両面下足入 1階 昇降口 2カ所



F-02 片面下足入

1階 昇降口

2カ所

F-03 片面下足入

1階 昇降口

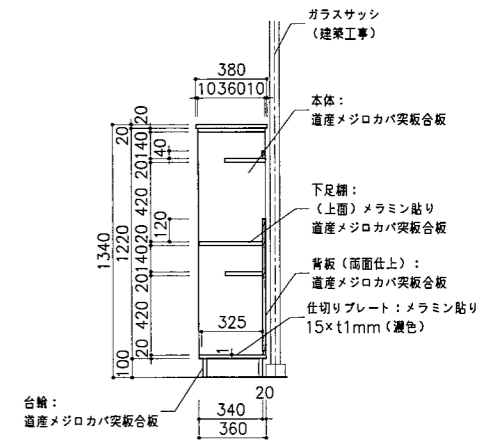
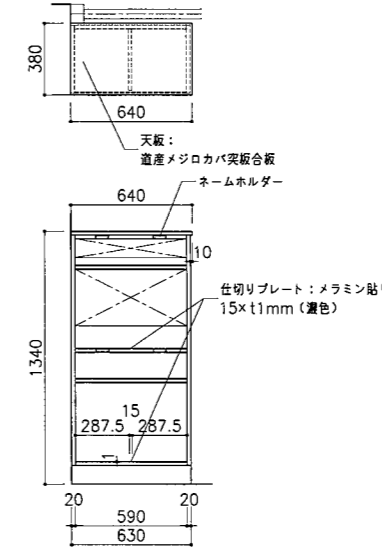
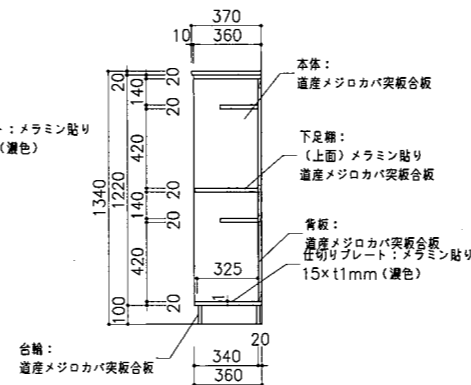
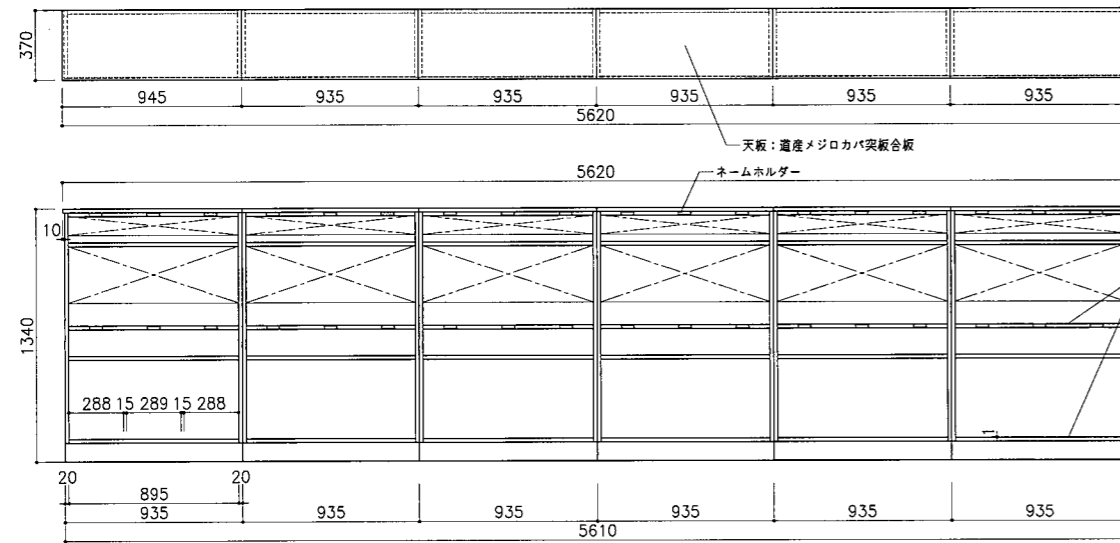
2カ所

F-02a ※F-02bはF-02aの左右反転タイプ

F-03a ※F-03bはF-03aの左右反転タイプ

家具番号	ヶ所数
F-02a	1
F-02b	1
合計	2

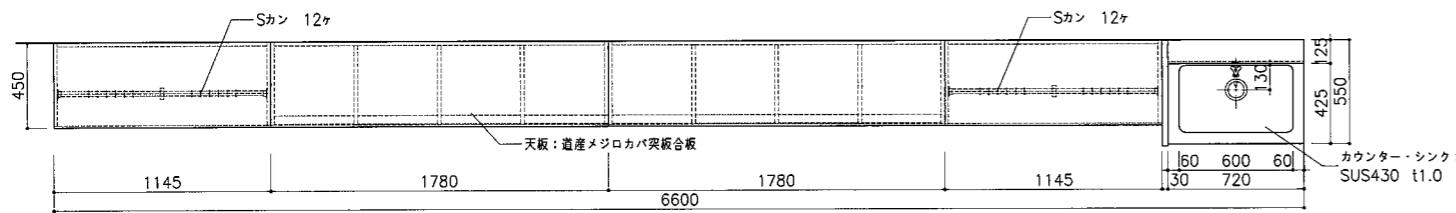
家具番号	ヶ所数
F-03a	1
F-03b	1
合計	2



F-04 児童ロッカー (24人分) +コート掛け

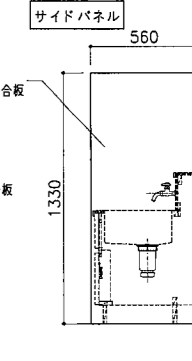
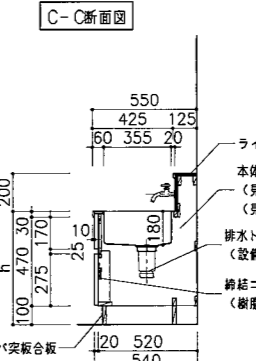
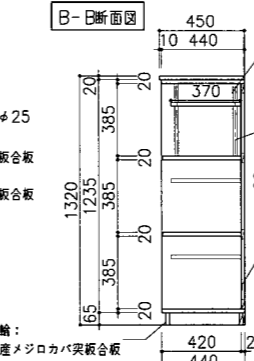
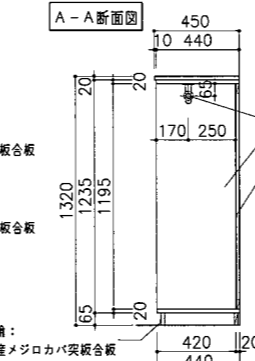
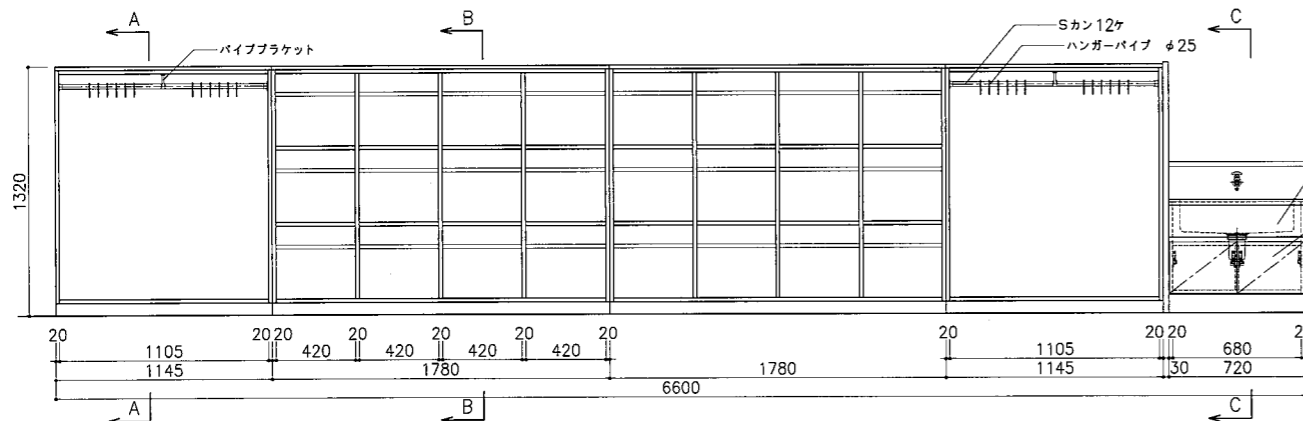
各階 各部屋

6カ所



水栓金具・排水トラップ・シール及び接続配管等は家具工事外

家具番号	階	室名	h	ヶ所数
F-04a	1F	小1CR	600	1
		小2CR		1
		小3CR		1
F-04b	2F	小4CR	650	1
		小5CR		1
		小6CR		1
合計				6



F-05 流し台

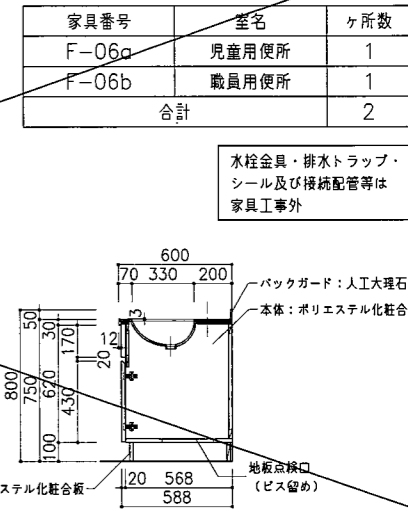
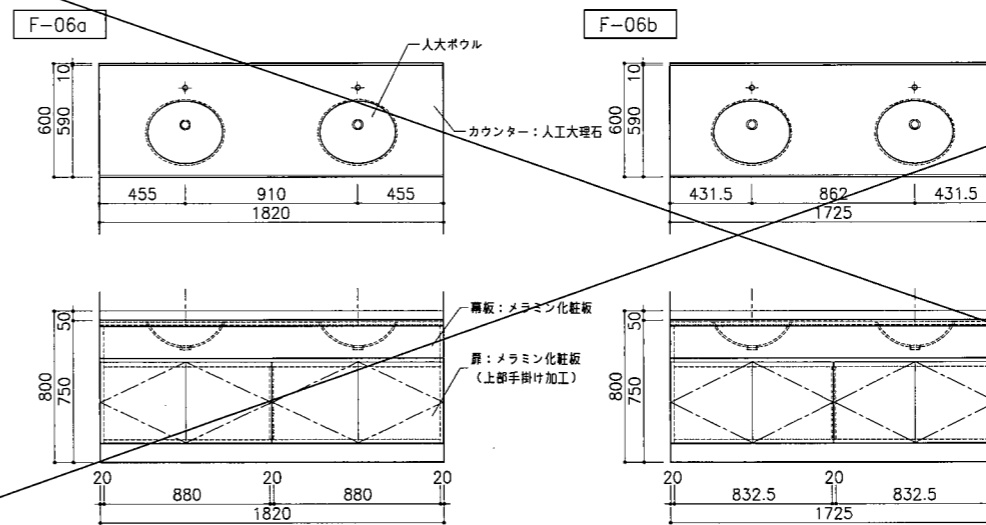
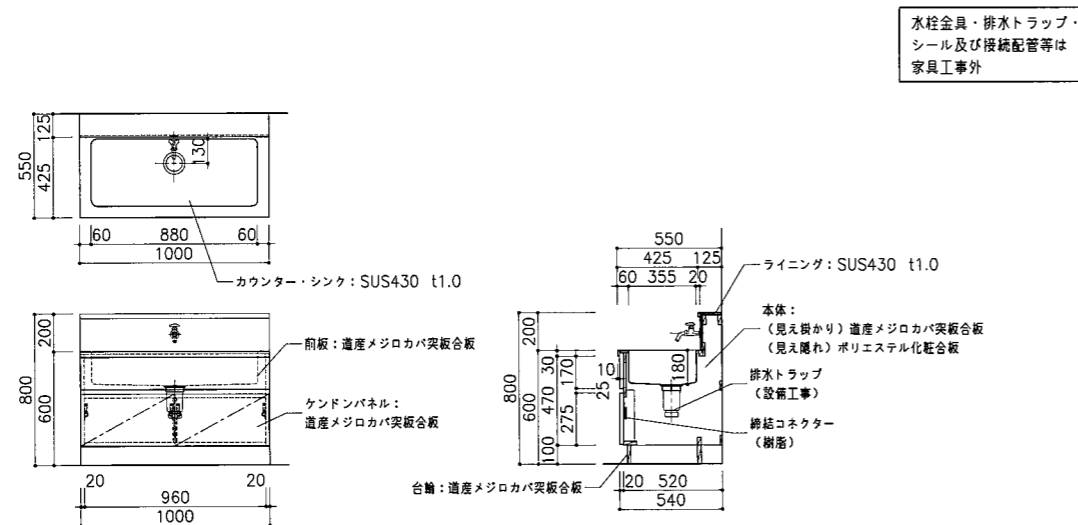
1階 特別支援教室

3カ所

F-06 手洗いカウンター

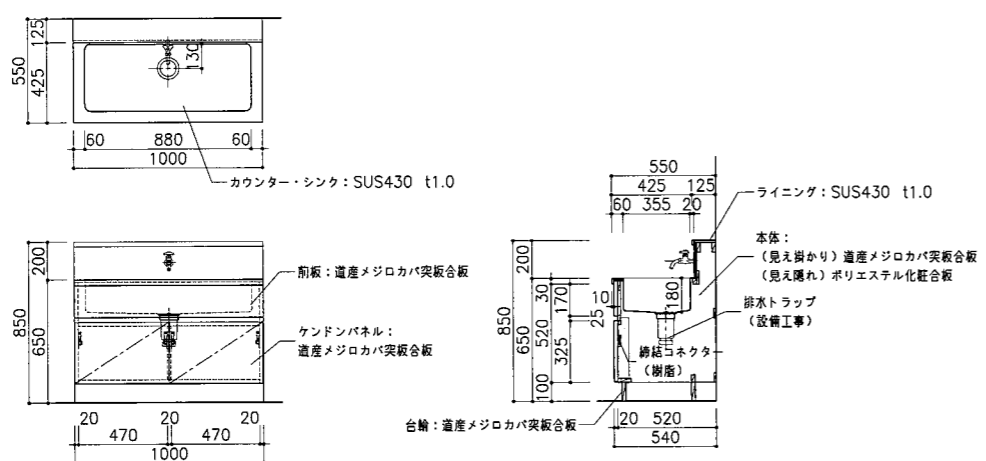
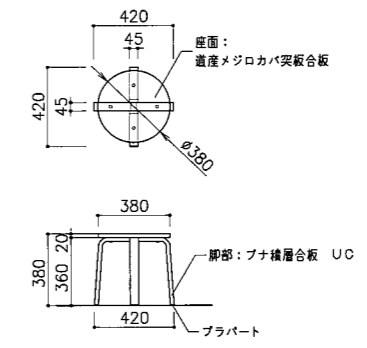
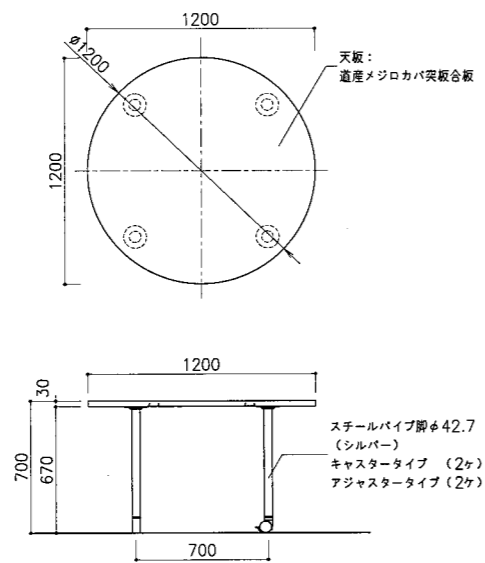
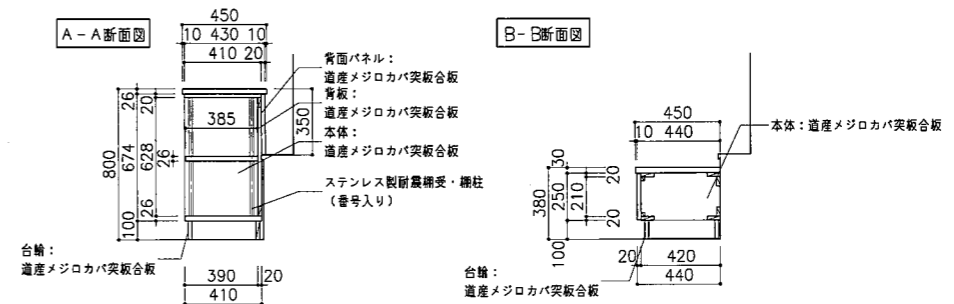
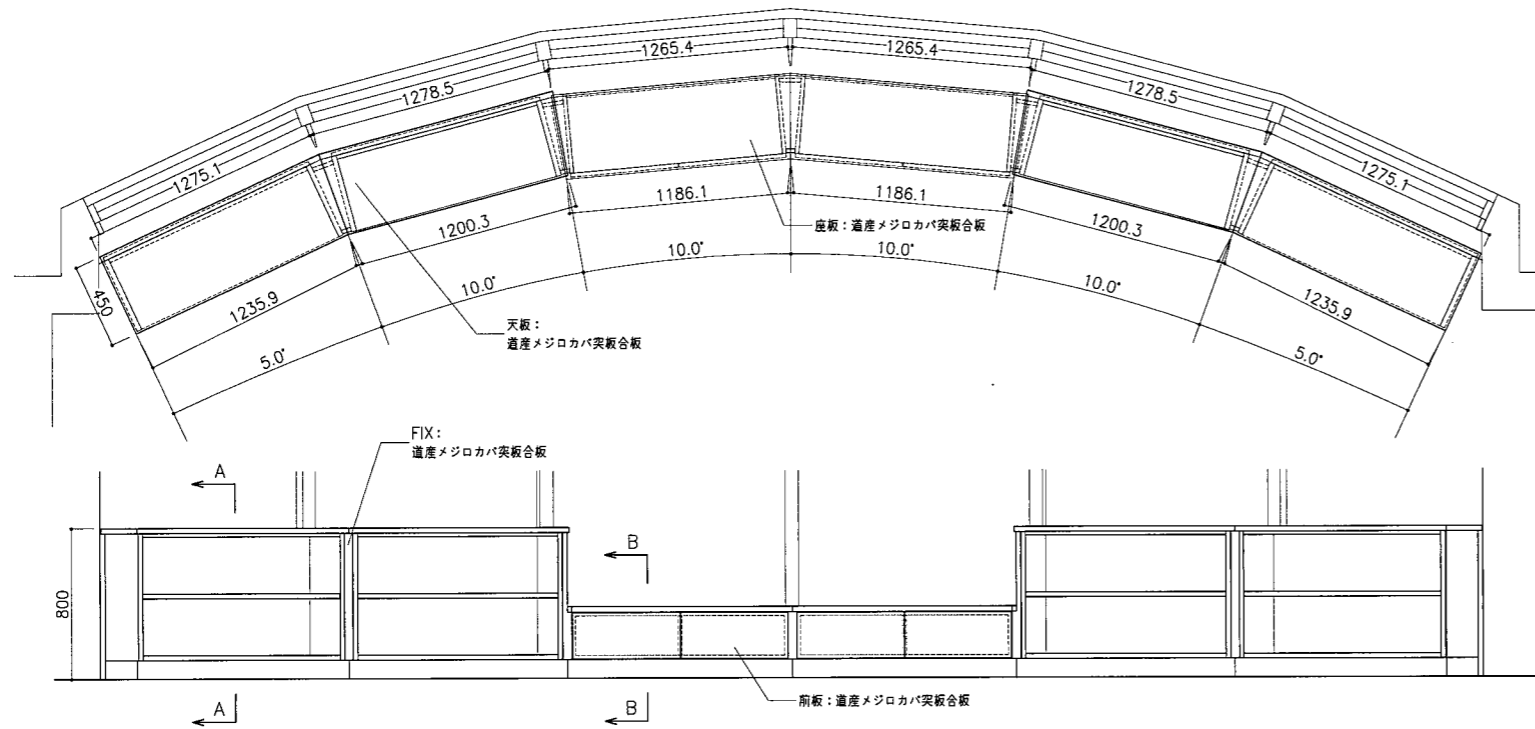
1階 各部屋

2カ所

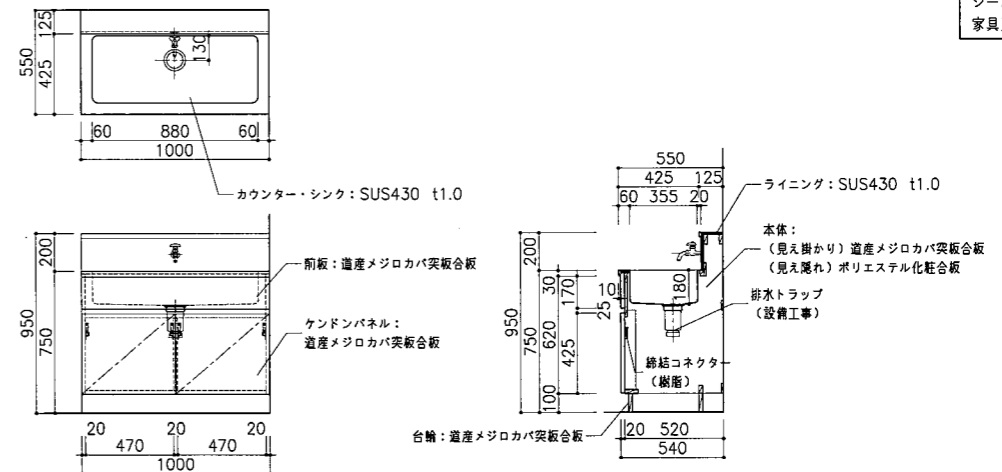


水栓金具・排水トラップ・シール及び接続配管等は家具工事外

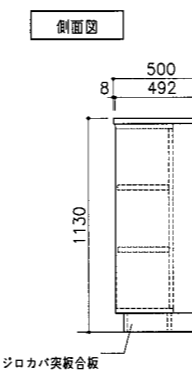
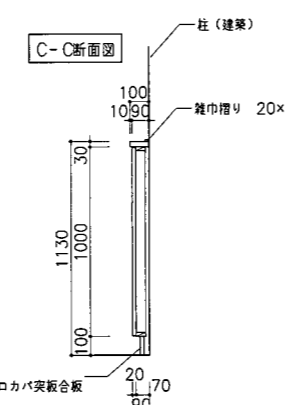
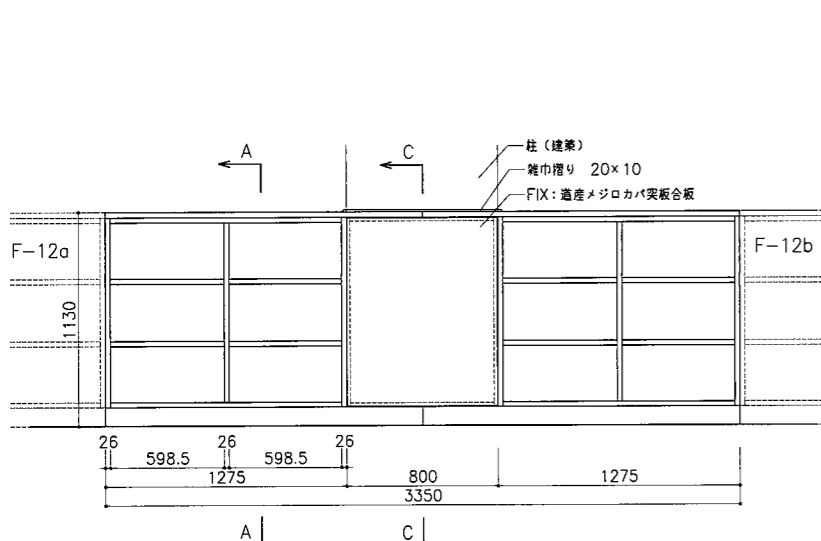
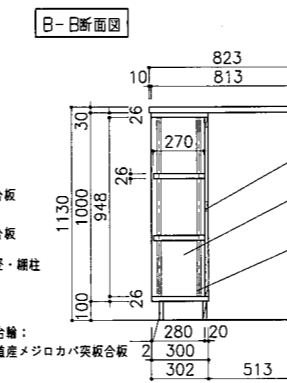
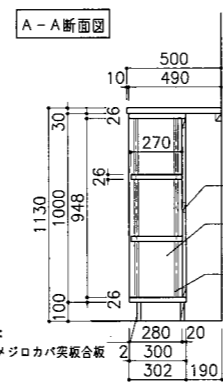
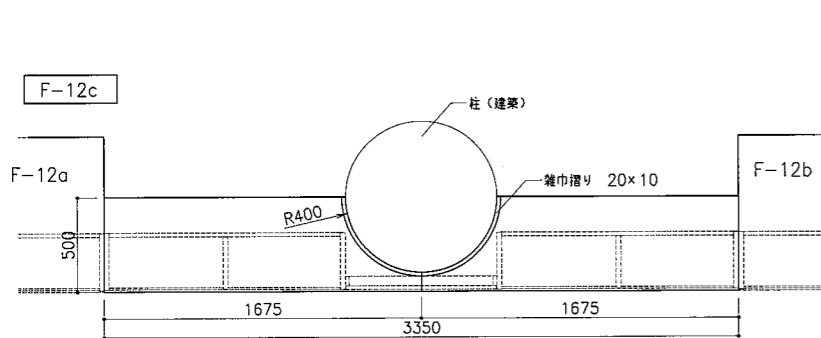
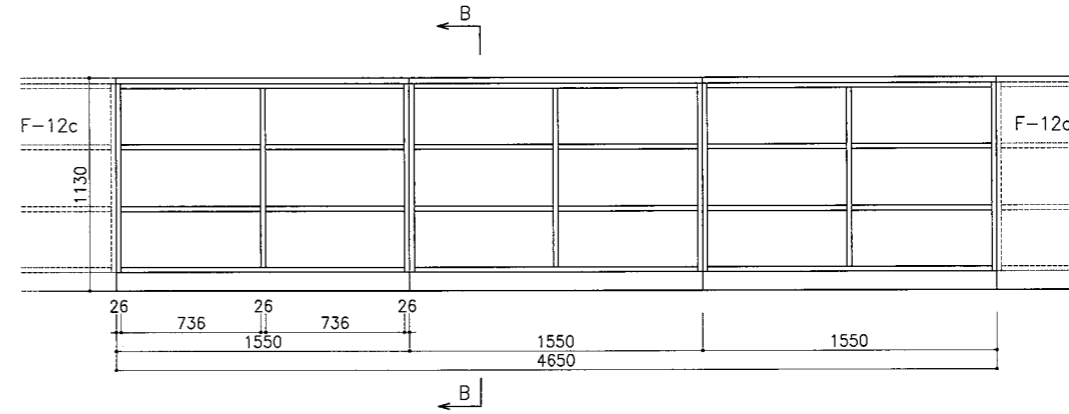
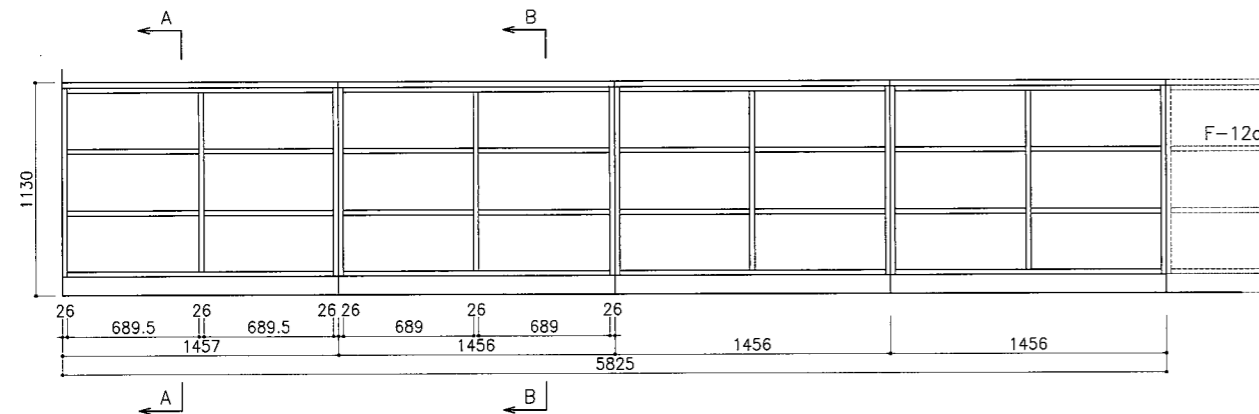
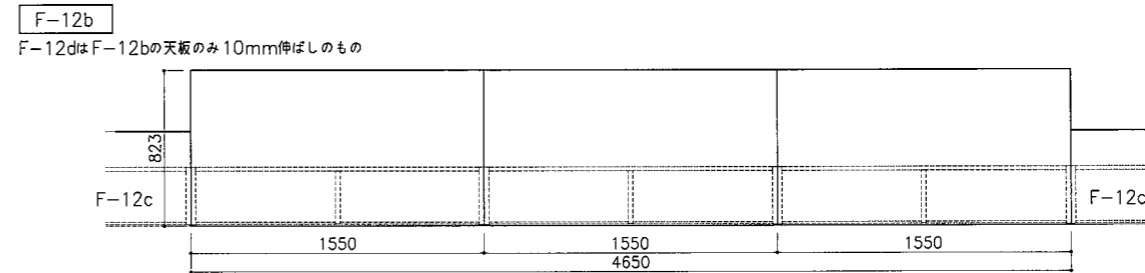
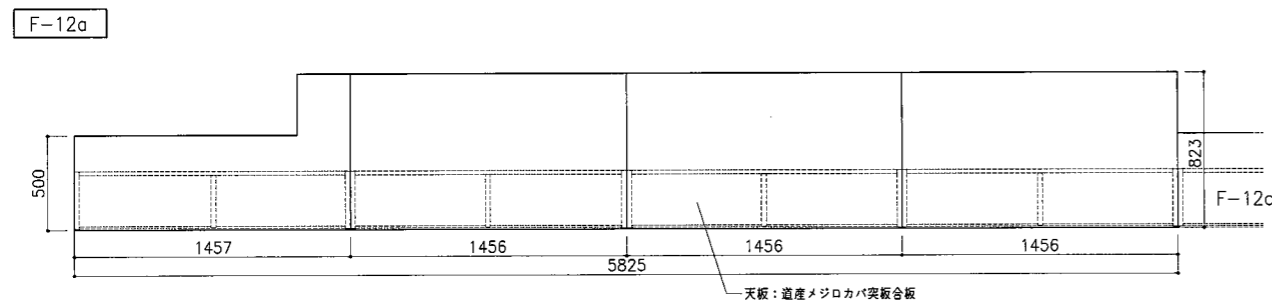
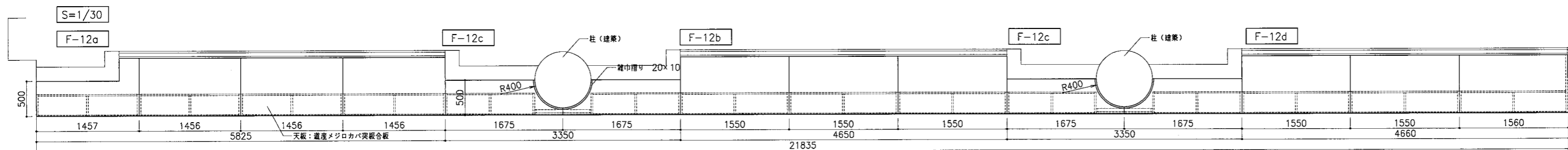
家具番号	室名	ヶ所数
F-06a	児童用便所	1
F-06b	職員用便所	1
合計		2



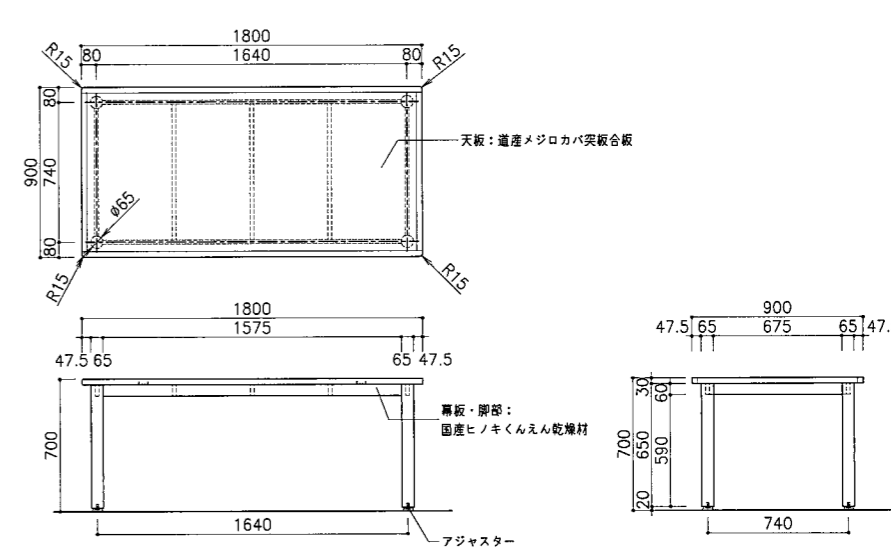
水栓金具・排水トラップ・シール及び接続配管等は家具工事外



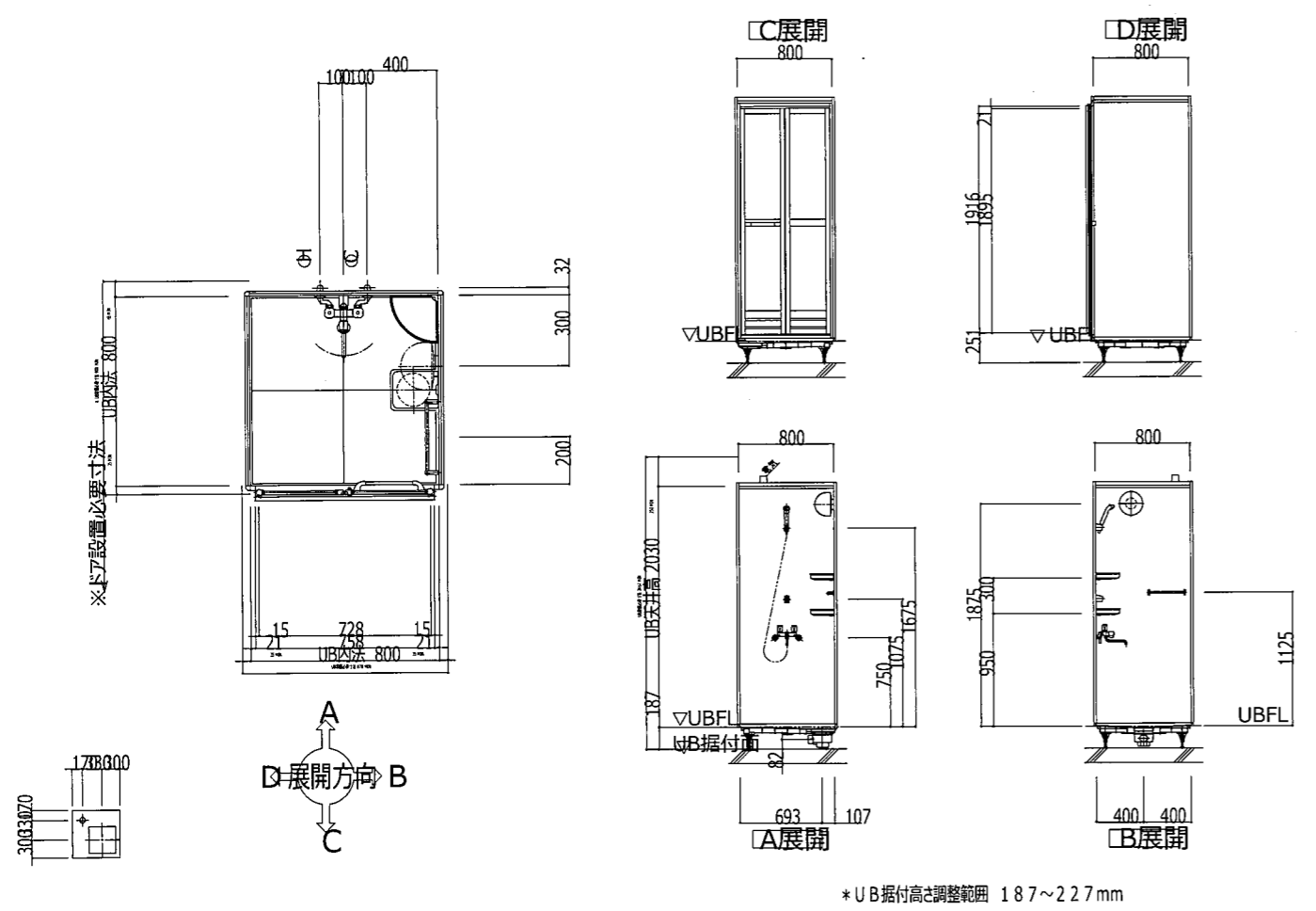
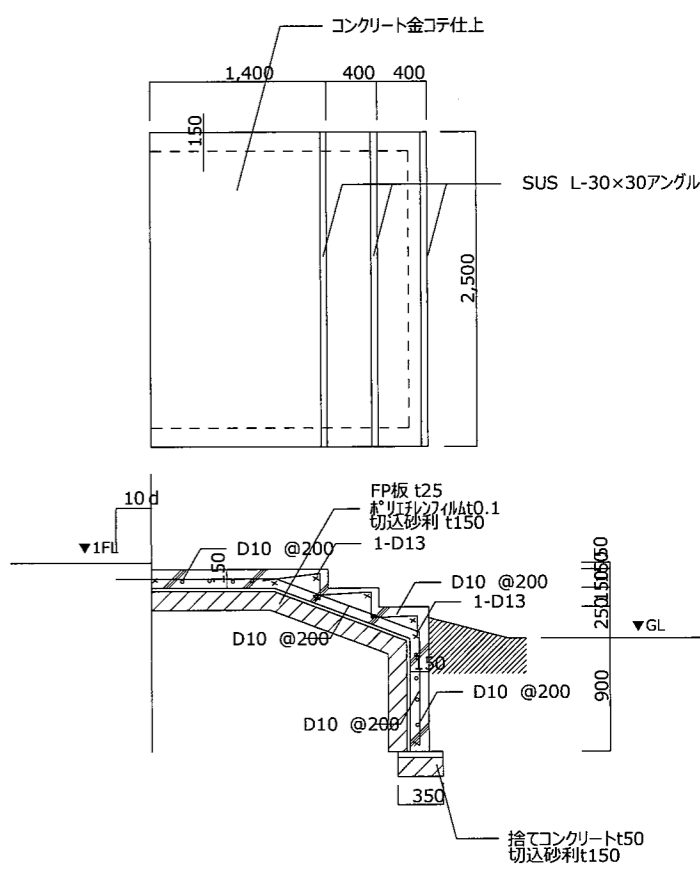
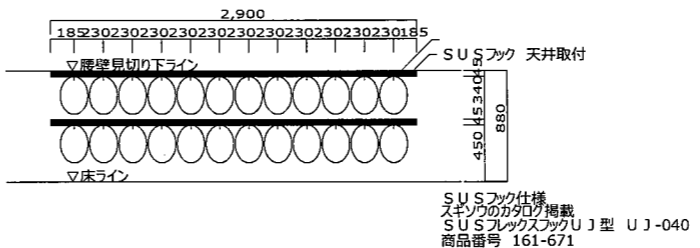
水栓金具・排水トラップ・シール及び接続配管等は家具工事外

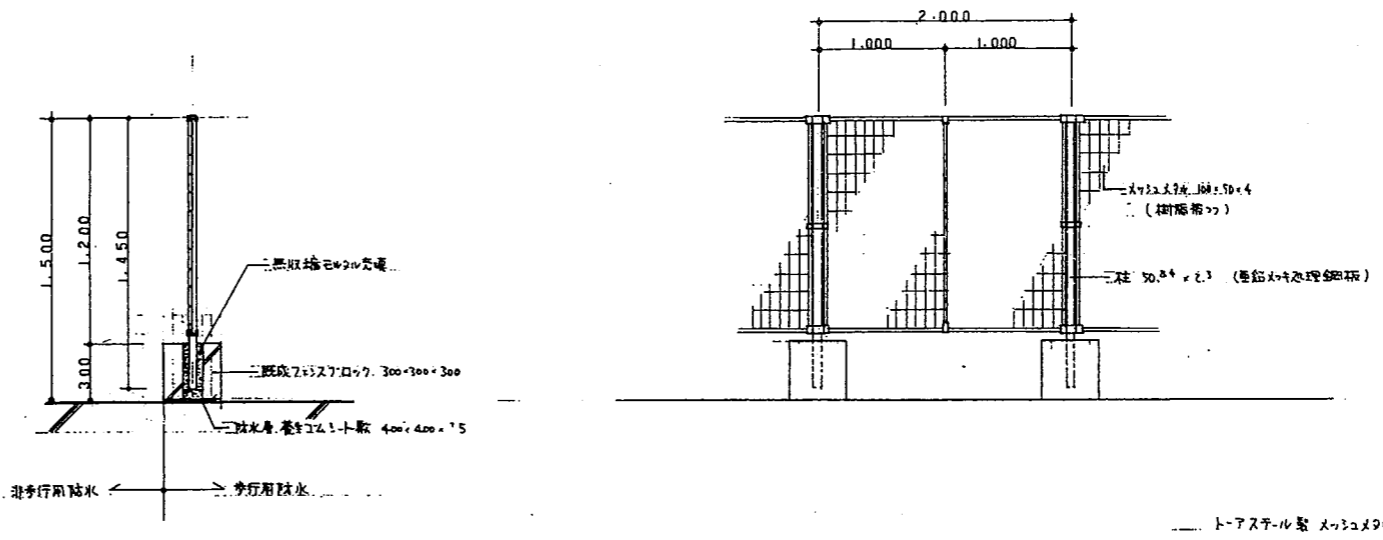
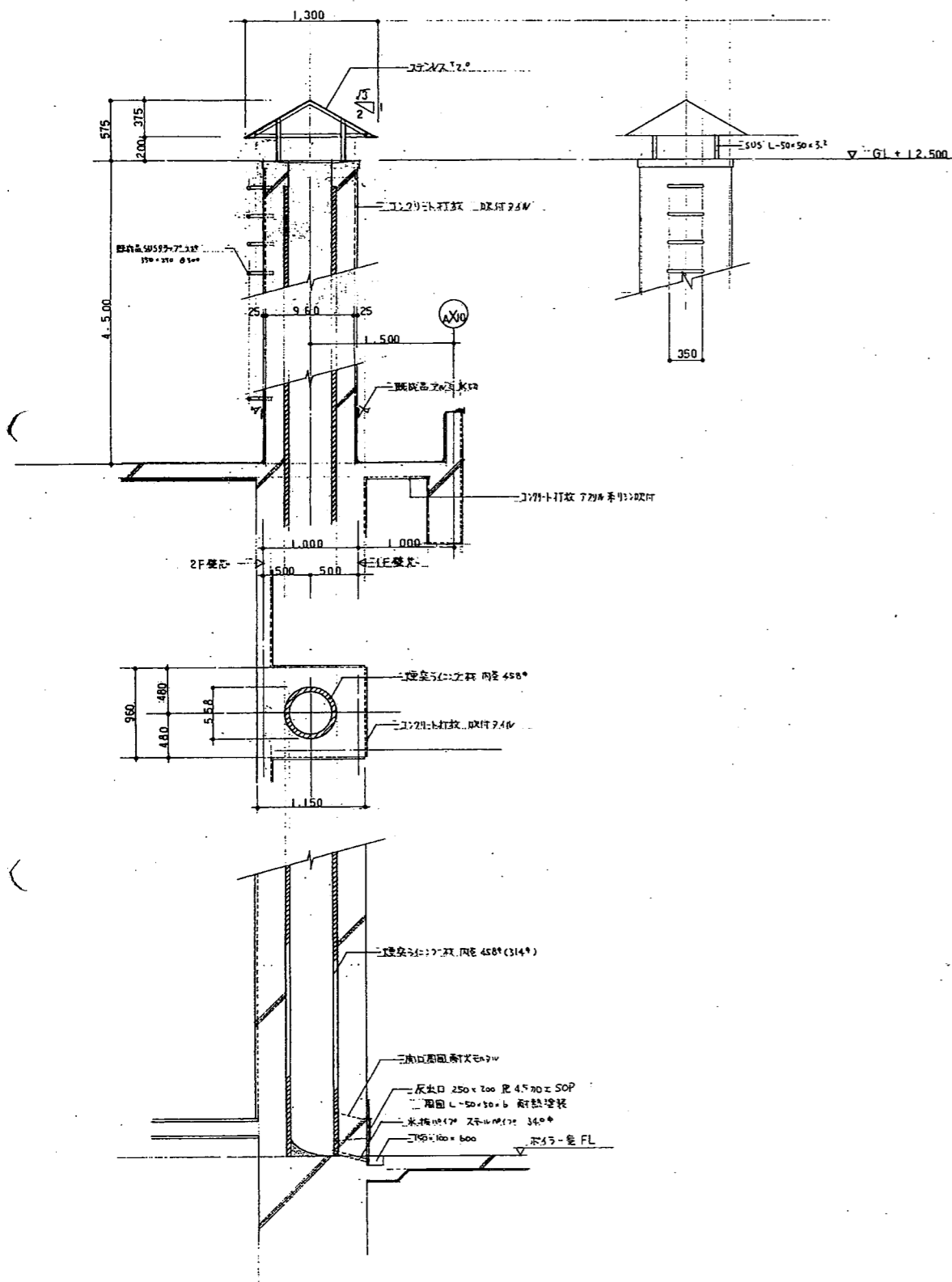


家具番号	ヶ所数
F-12a	1
F-12b	1
F-12c	2
F-12d	1
合計	5

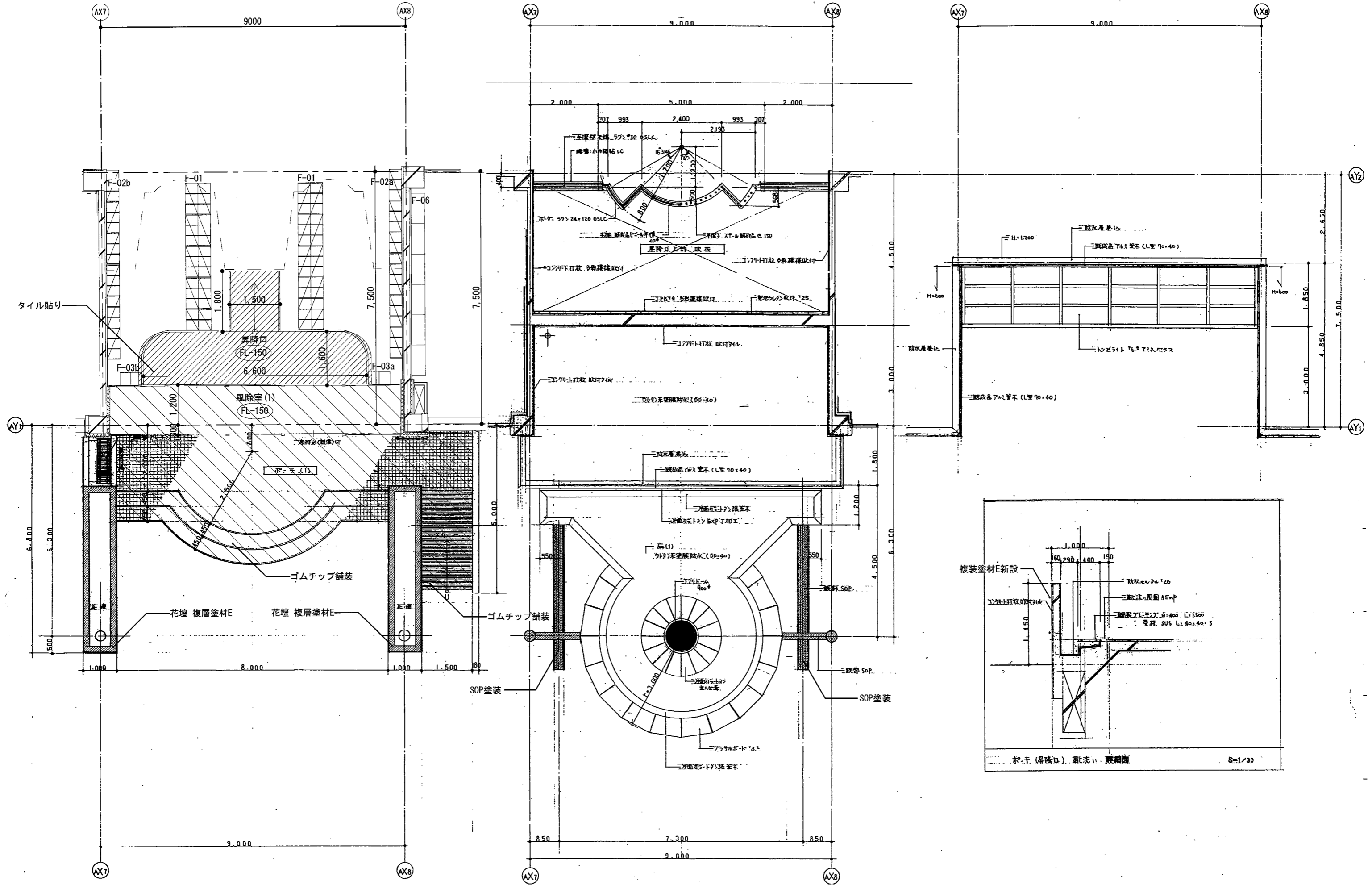


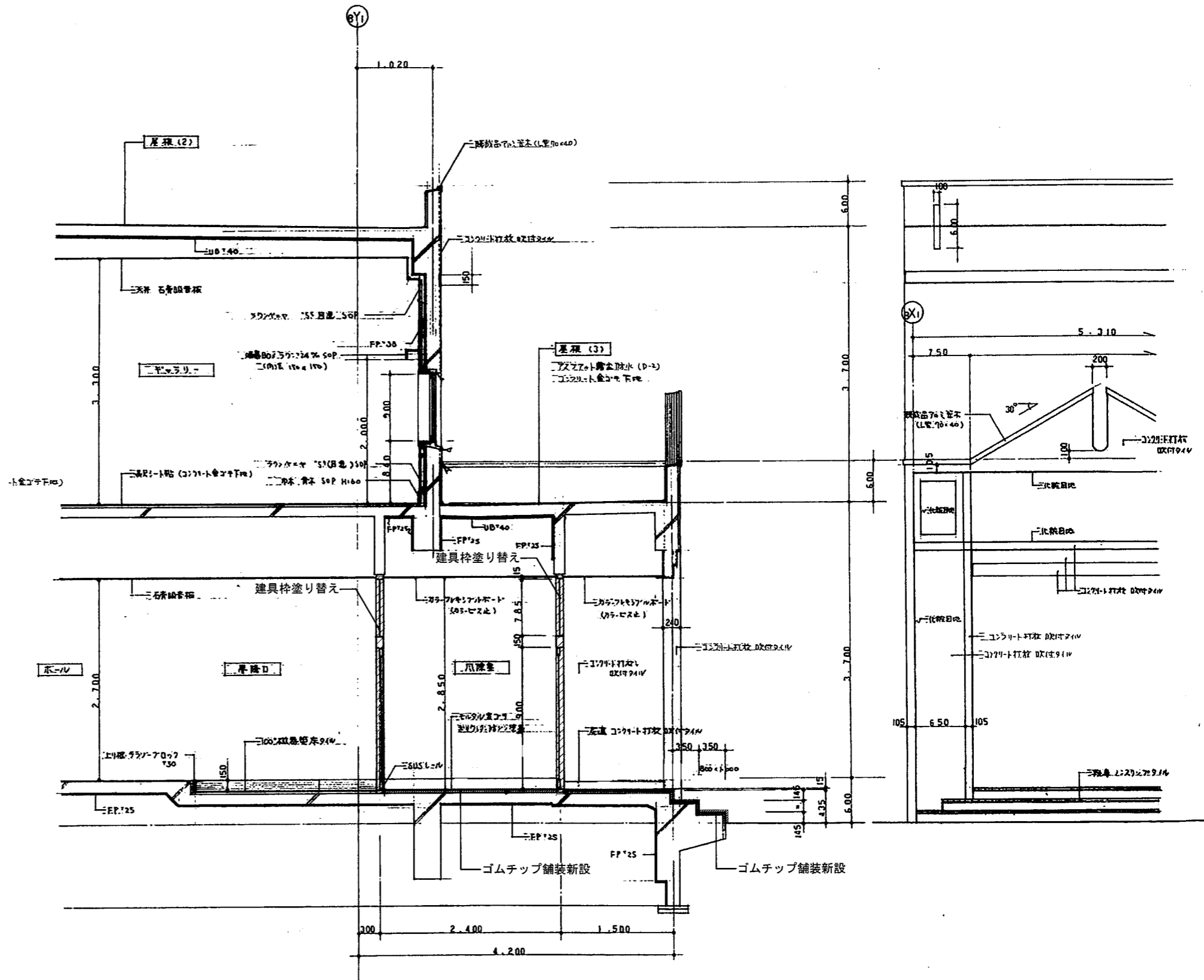
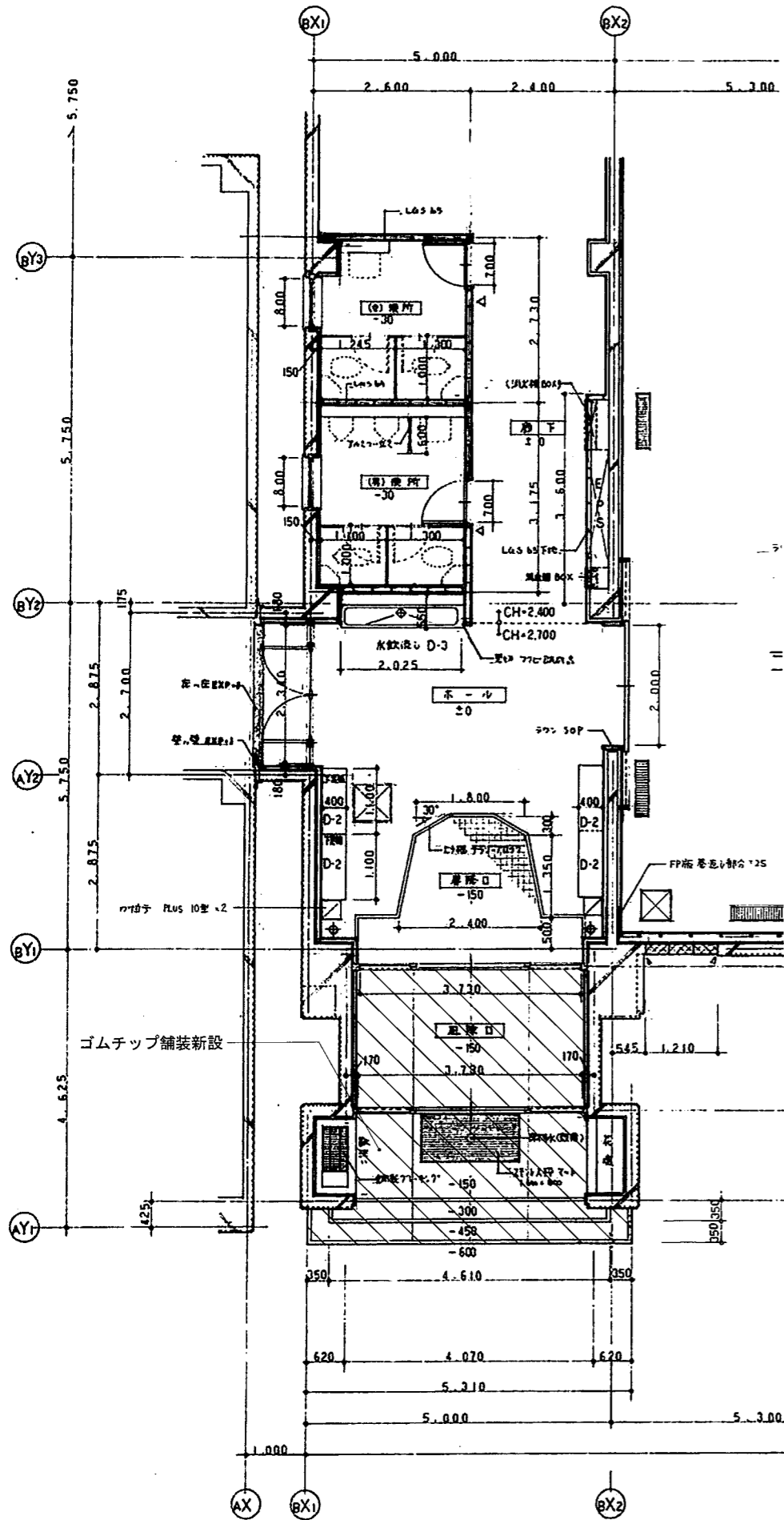
JSV0808UL		コロガシ		●は、基本仕様からの変更箇所
名称	仕様・寸法	色・柄	特記事項	備考
天井パネル	化粧鋼板複合パネル (防湿防汚仕様・モルタル 高圧洗浄機対応) 1450 (幅) 600 (高さ) 1000 (長さ) 石膏ボード2枚貼付	ホワイト		
壁パネル	HQパネル	ベージュホワイト		
床パネル	FRP 方目床 (単色)	ホワイト (#NW1)		
ドア枠	アルミサッシ	アイボリー	(仕舞用) (仕舞用) (仕舞用) ※仕様は別途図面参照	
ドアパネル	折戸 折戸用樹脂製 素材: 強化ガラス W=800 (有効開口幅 671mm)	アイボリー 素材: 半透明		
シャワー水栓	TMS25CU 2ハンドルスプレーシャワー器具 (寒冷地用)			SS81K
シャワーレバー	TMS56F6	ホワイト		
照明	半導体照明 (LED5W) 消費電力9W以下 60W相当 電球色 VVFL1: 60x2C L=2.0m付		(壁穴加工) (以降接続別途)	
シャワーボックス	コンパクト WJ3107相当品		(シャワーボックス での設置及びシャワー ボックスの接続別途)	
換気グリル	ABS樹脂 接続部外径φ99	シルバーホワイト	(以降接続別途)	
給水工用ホース (シャワー用)	青銅製物製 接続口 Rc1/2		(以降接続別途)	
給湯工用ホース (シャワー用)	青銅製物製 接続口 Rc1/2		(以降接続別途)	
排水トラップ	ABS樹脂 排水径50mm 接続口 VP50変口 ヘアキャッチャー付 高圧洗浄対応		(以降接続別途)	
タイル目録	スチールスチール φ13 L=300	ホワイト (#NW1)		
取手	コーナー取手2段	スチールホワイト		ESAS1



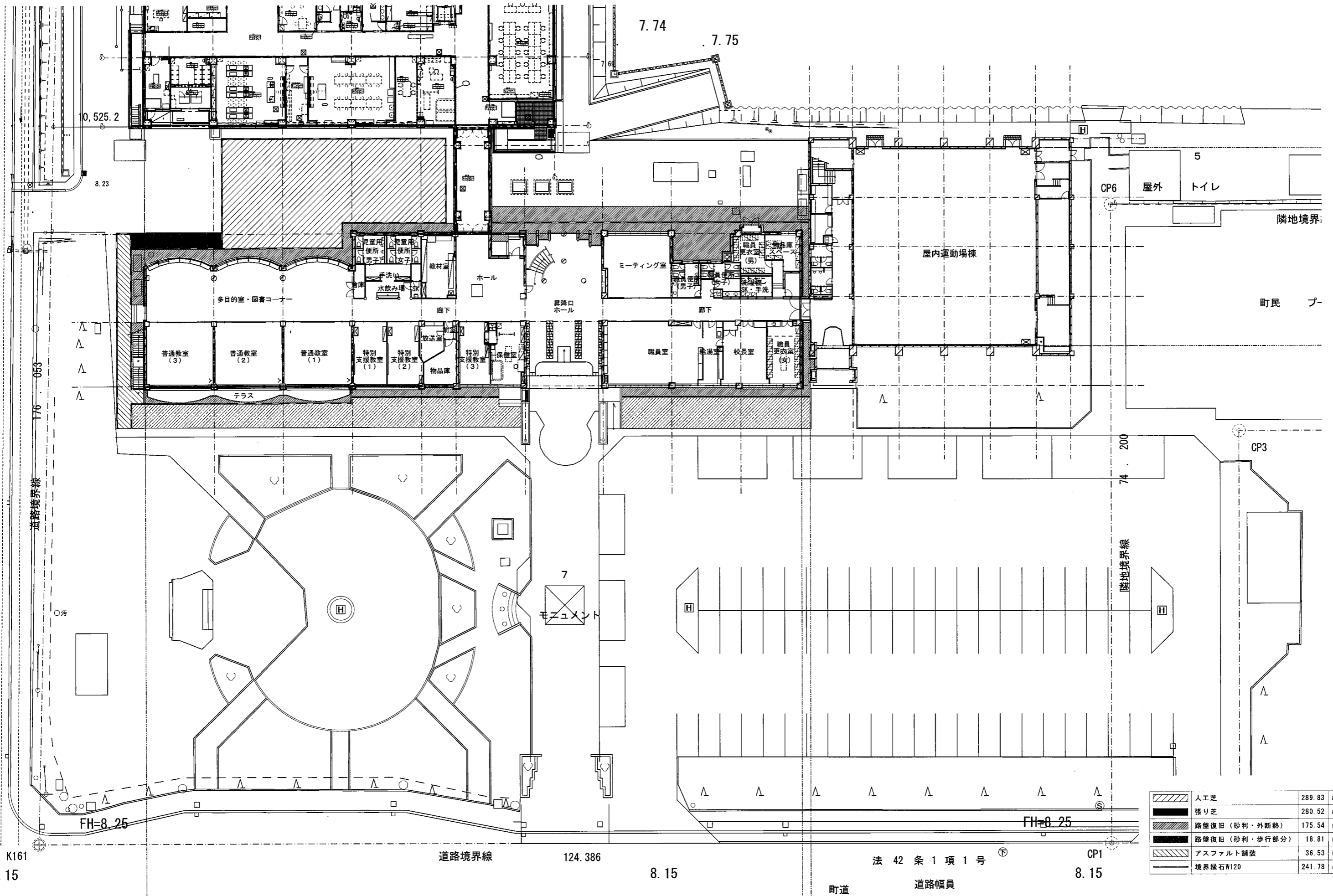


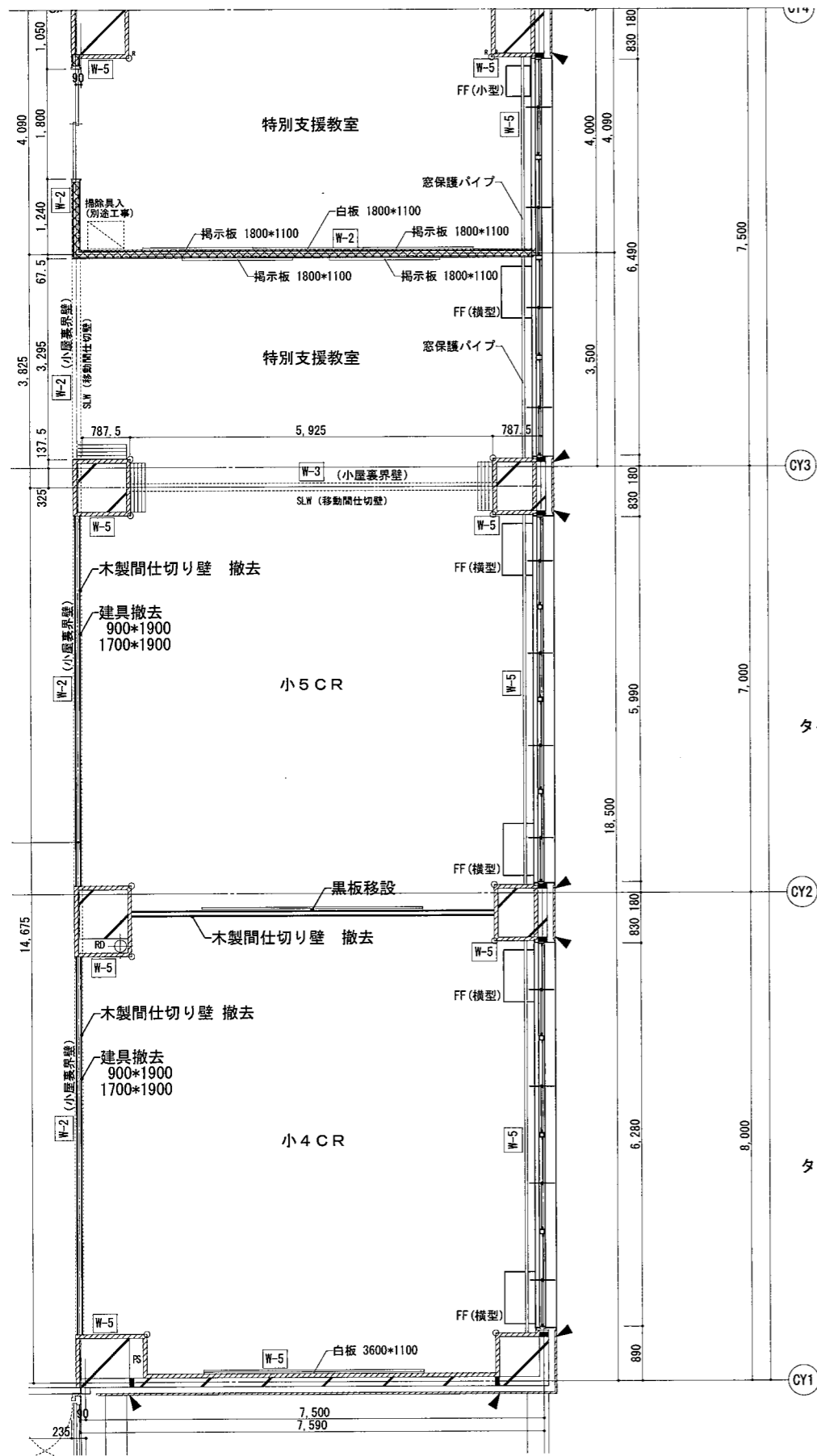
<p>D クラスサイン 200×200 突き出し 13カ所 クラスサイン 250×600 突き出し 2カ所</p>	<p>E 室名サイン (突出) 既製品 13カ所</p> <p>【1階】 放送室 ミーティング室 保健室 校長室 職員室 職員トイレ (男) 職員トイレ (女) トイレ (男) トイレ (女) 児童トイレ (男) 児童トイレ (女)</p> <p>【2階】 児童トイレ (男) 児童トイレ (女)</p>	<p>G 室名サイン (シート文字) 13カ所</p> <h2 style="text-align: center;">物品庫</h2> <p style="text-align: center;">シート切り文字サイン</p> <p>【1階】 放送室 物品庫 教材室 印刷室 給湯コーナー 男子更衣室 女子更衣室 職員更衣室 (男) 職員更衣室 (女)</p> <p>【2階】 音楽準備室 図画・美術準備室 教材庫 教材室 体育管理室</p>
<p>J 開放玄関サイン A1 S=1:10 A3 S=1:20 ×1</p>	<p>A 校名サイン A1 S=1:10 A3 S=1:20 ×1</p>	



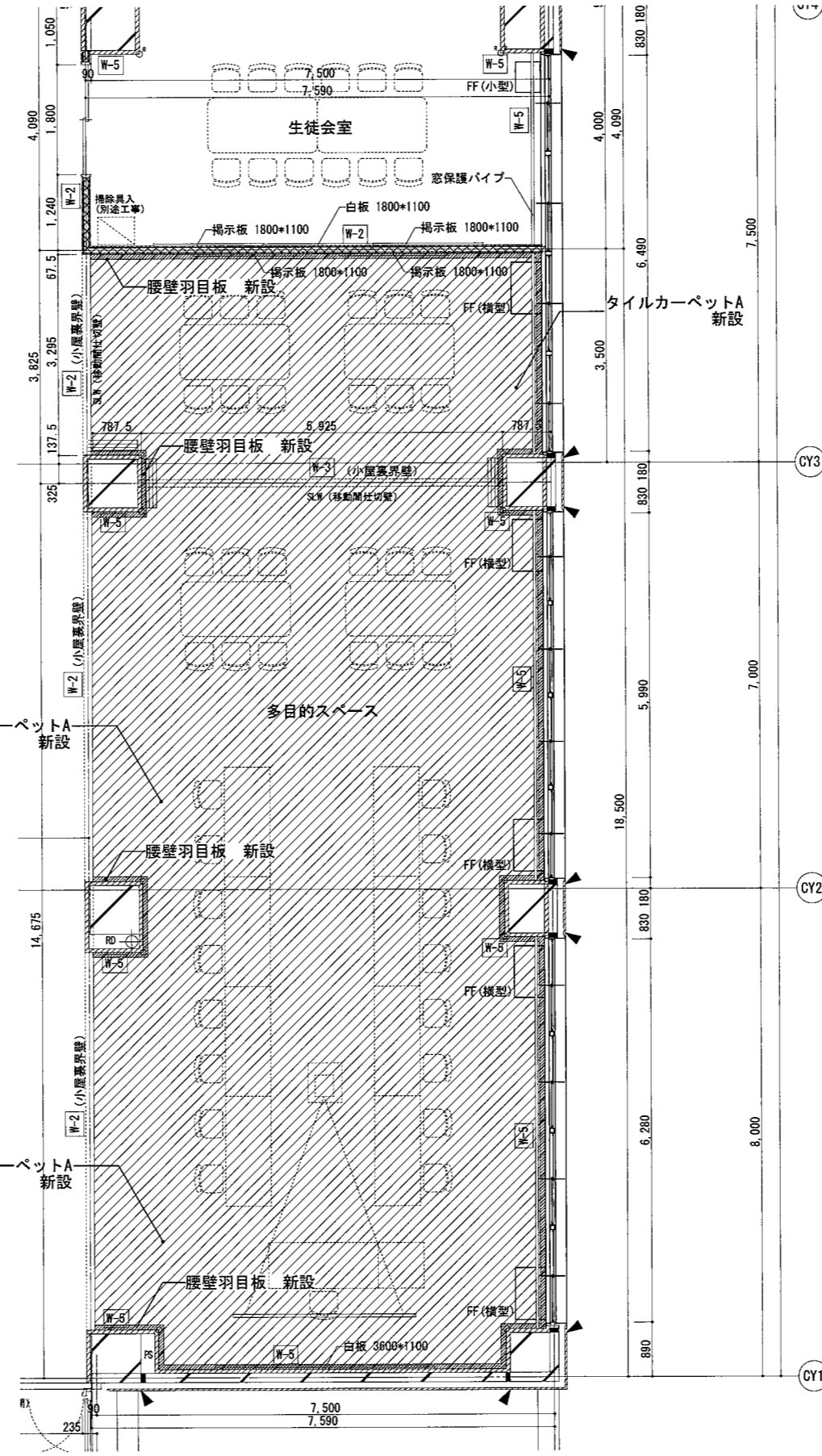


屋内運動場 昇降口・階段 断面詳細図 S=1/30

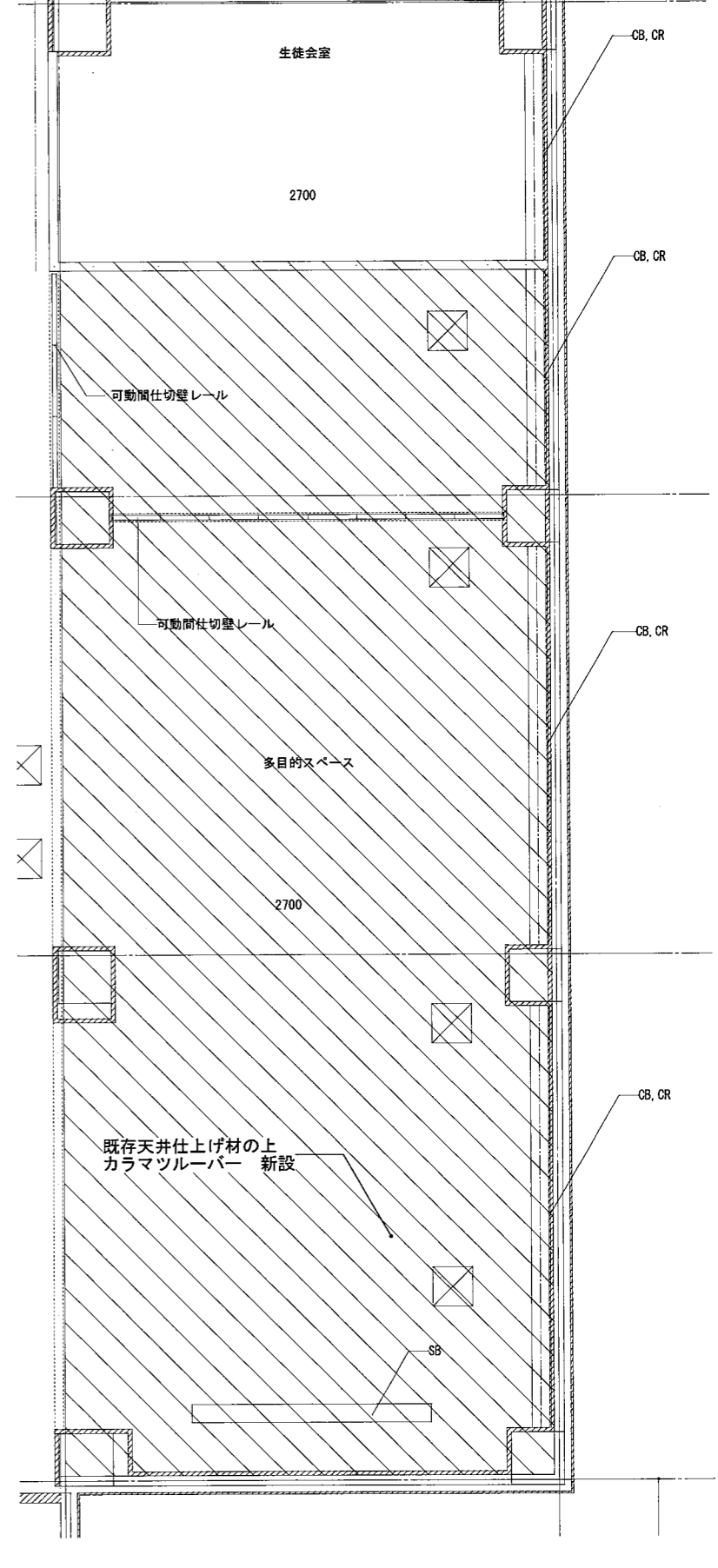




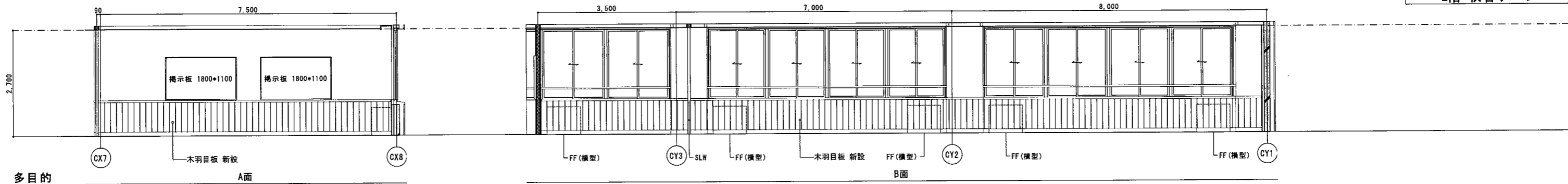
改修前



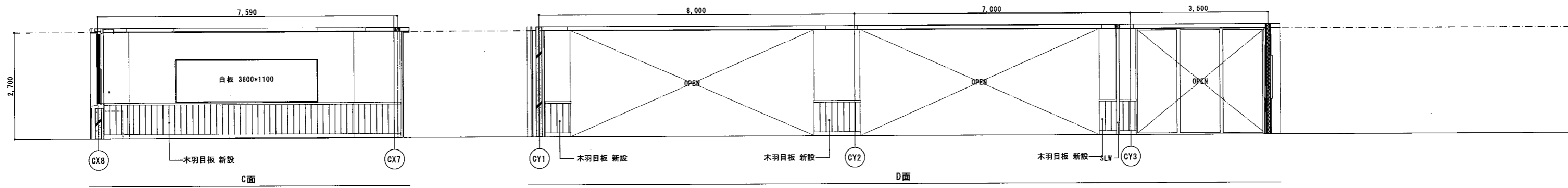
改修後



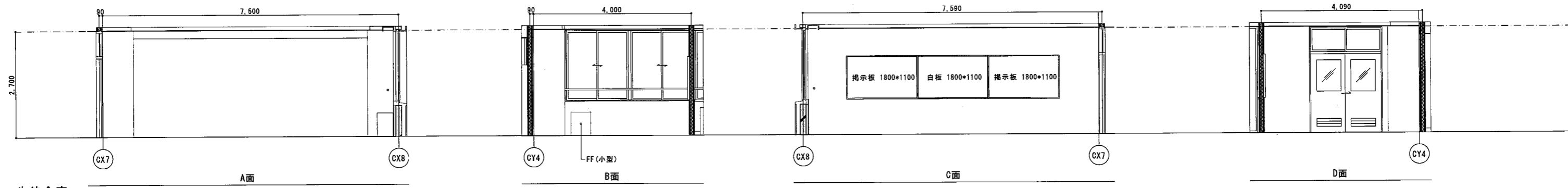
改修後
天井カラマツルーバー範囲



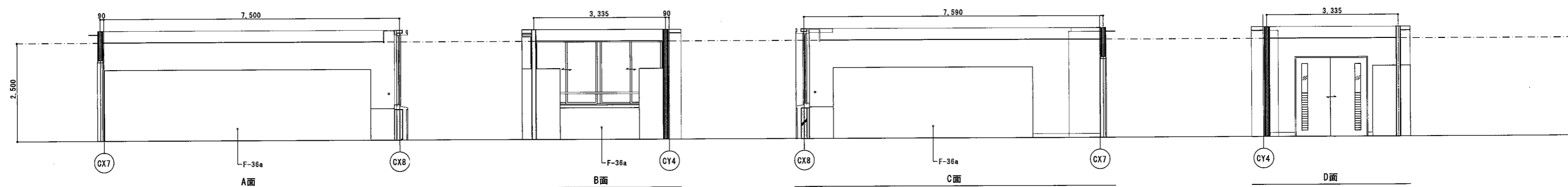
多目的
スペース



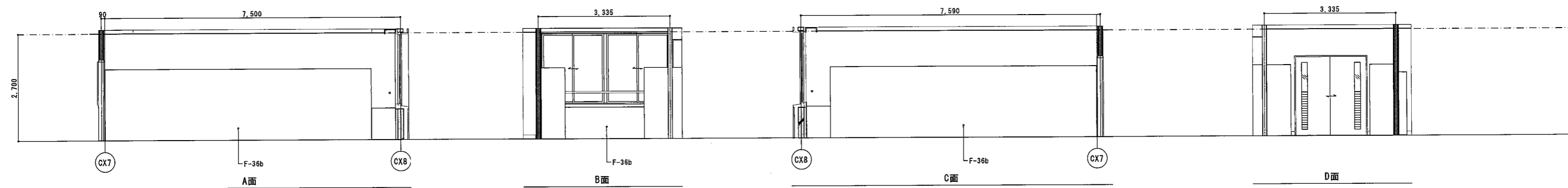
生徒会室



教材庫



物品庫



物品庫

使用材料一覧

1. 使用コンクリート

普通コンクリート $F_c = 24 \text{ N/m}^2$ スランプ 18 cm

2. グラウトモルタル

$F_m \geq 30 \text{ N/mm}^2$ 圧入により充填する

3. 鉄筋

壁筋、接合筋、割裂補強筋 (アンカー) JIS G3112 SD295A (D10~D16)
JIS G3112 SD345 (D19以上)
既存部材 鉄筋材料 異形鉄筋: SD30 (SD295)
丸鋼: SR24 (SR235)
形鋼、鋼板 JIS G3136 SS400

4. あと施工アンカー

接着系アンカー (有機系アンカー) とする。 ($\sigma_y = 295, 345 \text{ N/mm}^2$)
基本付着強度 $\tau_0 = 10 \text{ N/mm}^2$ 以上とする。

5. 注意事項

- スパイラル筋や壁配筋等の材料の加工に先立ち、躯体寸法を実測し、これらの補強筋を実情にあった寸法に加工する。
- 増設部材と既存コンクリート躯体との接触面については、既存コンクリート躯体面の目荒らしを行い、コンクリート打設面は水湿しを行う。
- コンクリートの打設に際してはバイブレーターの使用またはタタキにより密実なコンクリートになるように十分な施工計画する。
- 後打コンクリートは、梁下 20 cm まで打設し、壁頂部は無収縮モルタル圧入とする。
- コンクリートの強度発現期間内は、十分な湿潤状態で養生する。また養生期間中は、振動等を与えないよう注意する。
- その他は特記・共通仕様書による。

材 料 (1) モルタル・コンクリート用材料

I) セメント

セメントは、JIS R 5210 (ポルトランドセメント) に定める普通・早強・超早強ポルトランドセメント及び中庸熱ポルトランドセメントとする。または、JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) に定めるA種のセメントを用いてもよい。

II) 骨 材

骨材は、砂、砂利または砕石を用いる、粗骨材の最大寸法は、打ち込み箇所に応じて定める。柱補強用モルタルに用いる細骨材は、JASS 5. 3. 3 に定める細骨材とする。

III) 混和剤

普通の場合、AE剤またはAE減水剤を用いる。

IV) 混和材

普通ポルトランドセメントを用いる場合に限り、必要に応じてフライアッシュを用いてもよい。ただし、フライアッシュは、JIS A 6201 (フライアッシュ) に規定するものとし、その使用量はJIS R 5213 (フライアッシュ) に規定するA種セメントに相当する量までとする。

V) 膨張性混和材

必要に応じ、膨張性混和材を用いてもよい。

VI) 増粘性混和材

必要に応じ、増粘性混和材を用いてもよい。

(2) グラウトモルタル用材料

I) セメント

セメントは、(1) I) による。

II) 骨 材

骨材は、JASS 5. 3. 3 に定める細骨材とする。

III) 混和材料

混和剤として、コンクリート用表面活性剤を用いてもよい。

IV) 膨張性混和材

グラウトモルタルには膨張性混和材を必ず用いる。ただし、アルミニウム粉末等、発泡性のものを用いる場合は、十分な経験をもつ技術者により管理を行うものとする。

V) 増粘性混和材

必要に応じ、増粘性混和材を用いてもよい。

(3) 鉄 筋

鉄筋はJIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) の規格品として、通常の場合は、異形棒鋼とする。
溶接金網はJIS F 3551 (溶接金網) の規格に適合するものとし、素線の径は4 mm以上とする。

(4) 鋼材料

鋼材は、普通の場合JIS G 3101 (一般構造用圧延鋼材) またはJIS G 3106 (溶接構造用圧延鋼材) の適合品とし、鋼板・鋼帯の厚さは4. 5 mm以上とする。また、頭付きスタッドはJIS規格品とする。

(5) エポキシ樹脂等

あと施工アンカーの定着、ひび割れの補強、新旧コンクリートの一体化などを目的として、エポキシ樹脂、及び樹脂モルタル等を用いてよい。ただし、耐久性、および耐火性について配慮するものとする。

(6) その他の材料

耐震補強工法に使用される材料で、本項(1)~(5)に記述されていないものは、特別な調査研究に基づくかぎり、使用してもよい。この場合、監理者の承認を得ること。

仕上材の除去およびコンクリートのはつり

(1) 既設仕上材等の除去

補強工事に先立ち、内装材及びコンクリート等部材表面のプラスター・モルタルなどの仕上材を除去する。

(2) 既設コンクリートの表面の処理及びはつり

新しくモルタルまたはコンクリートを打継ぐ部分のコンクリート表面は、適当な目荒しまたは、はつりを行う。(深さ5 mm程度で打継ぎ等面の3/4以上) シャーコッターを設ける場合は、設計図に示された寸法にできるだけ近くかつ、それを下まらないようにするとともに、はつり面はできるだけ凹凸がないようにする。なお、コンクリートのはつりは最小限にとどめるような工法とする。

鉄筋工事

(1) 新しく鉄筋コンクリート部材を増設する工法による場合は、増設部分の鉄筋は既設の架構あるいはその主筋に有効な方法で定着する。

(2) 増設部分の鉄筋を既設部材にあと施工アンカーによって定着する場合のアンカーの間隔、埋め込み深さ等は特記による。

(3) 既設架構の鉄筋に定着する場合は、135°以上に折り曲げたフックを鉄筋にかけるか溶接による。

(4) 柱の靱性を増すために、溶接金網による補強を行う場合の溶接金網の継手は、それぞれの最外端の横筋間の距離を横筋間隔に10 cmを加えた長さ以上かつ20 cm以上とする。

(5) 既設の主筋に溶接して定着する場合はその鉄筋の溶接を十分に検討し、溶接によって機械的性質を変化させないように十分に注意を払うものとする。また、それぞれの姿勢で溶接する場合は、JIS Z 3801 (溶接技術検定における試験方法ならびに判定規準) のそれぞれの姿勢の資格を有し、または日本溶接協会等の合格認定を所有している熟練した溶接工による。

コンクリート工事

(1) コンクリート工事計画

I) 一般的注意事項

補強工事は一般に、建物各部にコンクリートを少量ずつ打込む工事となるので、工事計画はその条件に応じ所定のコンクリートの品質が得られるように定めなければならない。

II) レデーミクストコンクリート工場の選定

レデーミクストコンクリートによる場合、現場のコンクリートの打込みに要する時間を考慮し、練り混ぜ開始から所定の時間内にコンクリートの打込みを完了することができるような工場を選定する。

III) 打込み区画

打込み区画は、建物内でのコンクリートの運搬方法、各打込み、締固めに要する時間、1日の打込み可能量、練り混ぜ開始から打込み完了までの時間の限度などを考慮して、工程に無理が生じないように定める。

(2) 調合

I) 設計基準強度・所要スランプ

設計基準強度及び所要スランプは、特記による。

II) 水セメント比・単位セメント量

水セメント比の最大値は65%、単位セメント量の最小値は300 kg/m³とする。

(3) 打込み前の準備

I) 打込み前に既設コンクリート部材表面のはつりあとは圧搾空気、吸引機

掃除機あるいは水などで十分に清掃する。

II) 打込み前には、せき板、既設コンクリート表面など打込まれるコンクリートに接する面は水湿しを行い打込まれるコンクリート中の水分が吸収されないようにする。

(4) 打込み及び締固め

I) 打込みは、下からの圧入や上階スラブに打込み用開口部を設けて、打込み面が水平になるように注意しながら行うなど確実な方法による。

II) 増設する部材または打増し部分と既設の上部架構とを一体化する必要がある場合は、上部に高さ10 cmないし20 cm程度の空間を残し、2段打ちまたはグラウトを行うことを原則とする。

III) 締固めは、振動機を用いるほか、補助的に突き締め、叩き締めを行い、コンクリートを確実に締絡める。

(5) 養生

I) コンクリート打込み後は、コンクリート中の水分が発散しないよう、必要に応じ、型枠面に散水したり、覆いをかけるなどの措置を講ずる。

II) 型枠の取りはずし後、引き続き湿潤養生を必要とする場合は、散水やコンクリート表面をシートで被覆するなど措置を講ずる。

II) 膨張性混和材を用いる場合は、コンクリートを7日間以上湿潤状態に保つこととする。

(6) 型 枠

I) 型枠は、コンクリート側圧、打設方法、セパレーターの取付け方法などを考慮して設計する。

II) 型枠の組み立ては、打上りコンクリート部材の位置および断面寸法の精度が十分保たれるよう、特に注意して行う。また既存部材と型枠の取合い部は、モルタル等の漏出が生じないよう適切な措置を講ずる。

III) 鋼板を巻いて柱を補強する工法においては、コンクリートの側圧による鋼板のはらみだしを防ぐような適切な措置を講ずる。

IV) 型枠は、できるだけ型枠振動機が使用しやすいう組立てる。

補強用モルタル工事

(1) 適用範囲

本項は、柱補強のために用いるモルタルの工事に適用する。

(2) モルタルの調合

- I) モルタルの圧縮強度は、既設コンクリートの設計基準強度を下まわらないものとする。
- II) コンシステンシーは、打込み箇所および打込み方法に応じて密実な打上り状態が得られる範囲で、できるだけ硬練りとする。

フロー値 (mm)	セメント:細骨材 (重量比)
180未満	1:3
180以上240未満	1:2.5
240以上	1:2

(3) モルタルの打込みまたは吹付け

- I) 型枠内または補強用鋼板内のモルタルを打込む場合は、上部から流し込むか、下部から圧入する方法によるものとし、均一・密実な仕上がりにすること。
- II) 吹付けによる場合は、JASS 15による。
- III) 打込みまたは吹付けに先立ち、既設コンクリート表面および吸水性のせき板は、十分に吸水した状態とする。

(4) 養生

養生は、コンクリートの場合と同様に行う。

グラウト工事

(1) 適用範囲

本項は、増設壁上部など、既設コンクリート部材と補強部材の接合部を注入または圧入によりグラウトする場合に適用する。

(2) 調合

- I) グラウトモルタル（圧入用無収縮モルタルを含む）の圧縮強度は補強部材コンクリートの設計基準強度を下まわらないものとし、かつ30 (N/mm²) 以上とする。
- II) コンシステンシーは、注入箇所および注入方法に応じて定める。

(3) 製造・運搬

- I) グラウトミキサーは、均一なグラウトモルタルが得られるものとする。
- II) 運搬はグラウトモルタルが過度に分離しないような方法による。

(4) 注入または圧入

- I) グラウトモルタルは、注入または圧入により打込む。
- II) 注入または圧入に先立ち、既設コンクリート表面及び吸水性のせき板表面は、十分に吸水した状態とする。
- III) 注入または圧入は適切な圧力で中断しないように行う。
- IV) 空気抜きを設け、グラウトモルタルが空気抜きに出てくることを確認する。

(5) 型枠

- I) 型枠は、グラウトモルタルの漏出のないよう組立てる。
- II) 型枠は、グラウトモルタルの注入または圧入の圧力に対して十分に抵抗できる剛性をもち、かつグラウトモルタルの膨張圧を適切に拘束できるものとする。
- III) 型枠の取りはずしは、グラウトモルタルが十分に硬化し、かつ型枠による膨張圧の拘束が不要になってから行う。

(6) 養生

養生は、コンクリート養生によるほか、膨張性混和材を用いた場合は、特に入念な湿潤養生を行う。

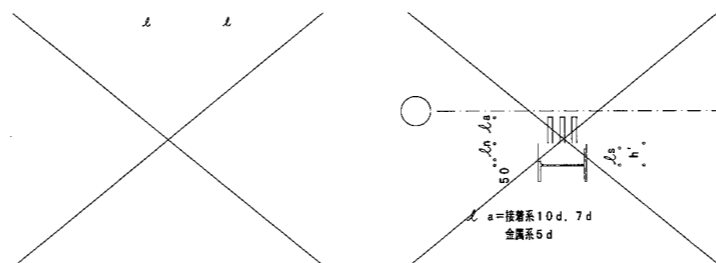
あと施工アンカー工事

- (1) 本項は、鉄筋コンクリート造骨組に鉄筋コンクリート造耐震壁（そで壁を含む）、鉄骨系補強架構等を増設する場合の接合面における施工に適用する。
- (2) 本項で対象とするアンカーの種類は、接着系アンカー及び金属系アンカーとする。
- (3) あと施工アンカーの施工は、製品に十分な知識を持ち訓練された施工技術を持った者が施工する。施工にあたっては、標準施工に従い、定められた事項を遵守すること。
あと施工アンカー工事に先立ち、既設部材の鉄筋の位置を調査の上、適切な位置にあつて施工アンカーを施工すること。又、鉄骨枠付き工法の場合には、あと施工アンカーの位置を充分考慮の上、スタッドコネクタの位置を決定すること。

- (4) アンカー素材強度は、JCAAの耐震改修用あと施工アンカーの素材強度標準試験方法に基づく試験の値が、その規定値を満足しているものとする。
- (5) 固着物の検査は、係員の立ち会いのもとに、全数の打音検査によりその固着度を確認する。また引張試験により固着力を検査する。その数は建築改修工事監理指針によるものとする。
- (6) 打音試験は、全数に対して行う。

あと施工アンカー仕様

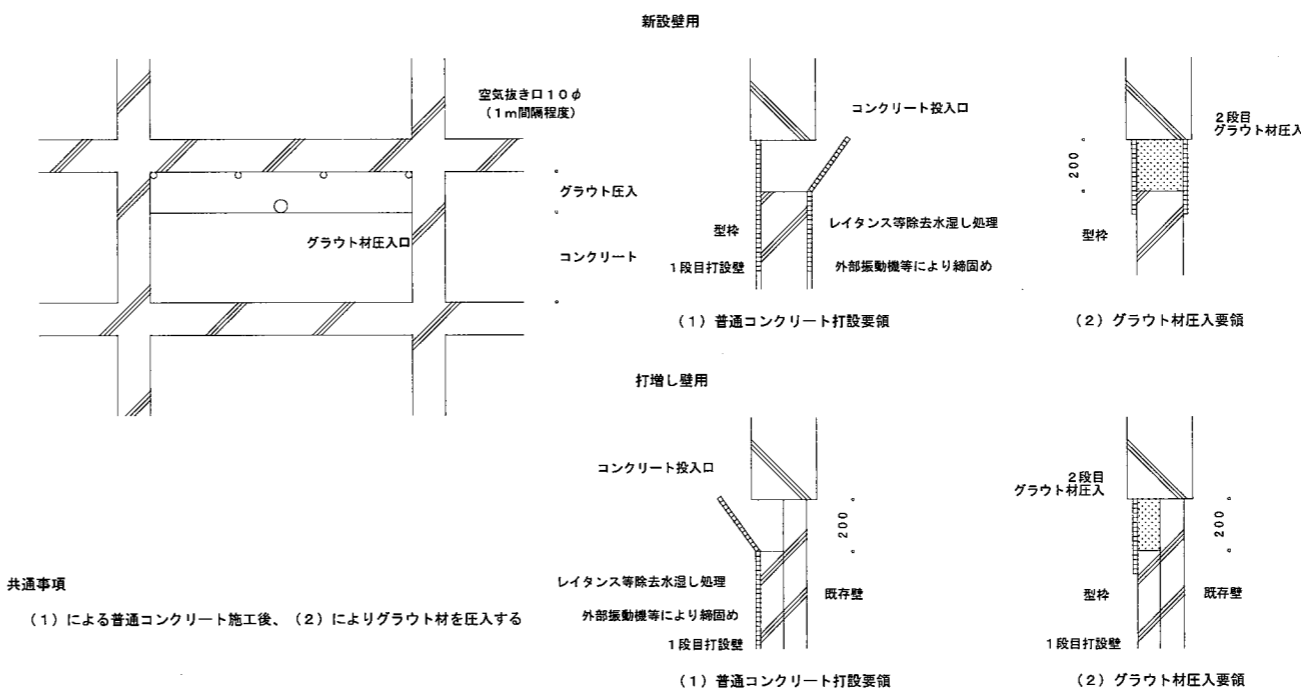
- (1) アンカー軸部の直径 d_a 13mm以上、22mm以下
- (2) ピッチ 7.5d以上かつ300mm以下
- (3) ゲージ $\left\{ \begin{array}{l} \text{ダブル配置の場合} \quad 5.5d \text{以上} \\ \text{千鳥配置の場合} \quad 4d \text{以上} \end{array} \right.$
- (4) はしあき 5d以上
- (5) ヘリあき 2.5d以上かつ主筋の内側へ入れる
- (6) 有効埋め込み長さ l_e 接着系12d以上 金属系5d以上
- (7) 鉄骨枠に対するヘリあき 60 (mm) 以上とする
- (8) 既存躯体表面には、充分な目粗し及びワイヤーブラシなどによる表面処理を行い、付着強度の増大を配る。
- (9) 割裂防止筋は、モルタル接合部の形状に応じてスパイラル筋又はフープ筋等を選定し、そのせん断補強筋比は、0.4%以上とする。



アンカー筋呼び径	L_n (12d) (mm)	標準 L_1 (7d) (mm)	引張力が生じる箇所 L_1 (12d) (mm)	最小ピッチ (7.5d以上) (mm)	最小はしあき (5d以上) (mm)	最小ヘリあき (2.5d以上) (mm)	引張耐力 (KN)	引張試験確認耐力 (KN)
D10	120	70	120	75	50	25	20.9	13.9
D13	156	91	156	97.5	65	33	37.4	24.9
D16	192	112	192	120	80	40	58.7	39.1
D19	228	133	228	143	95	48	99.0	66.0
D22	264	154	264	165	110	55		
D25	300	175	300	188	125	63		

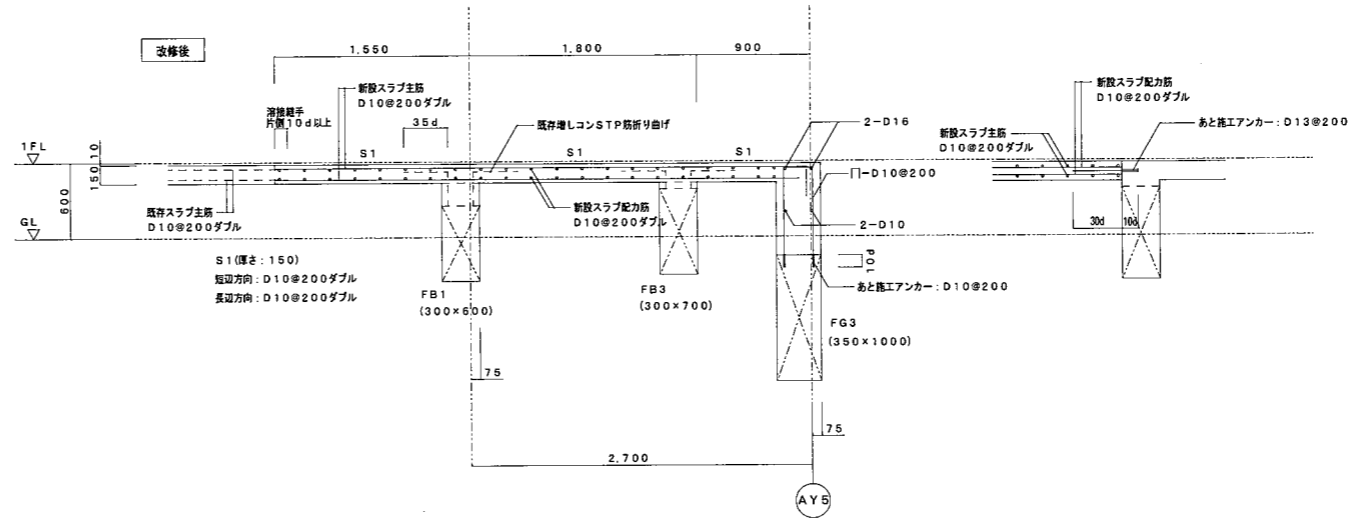
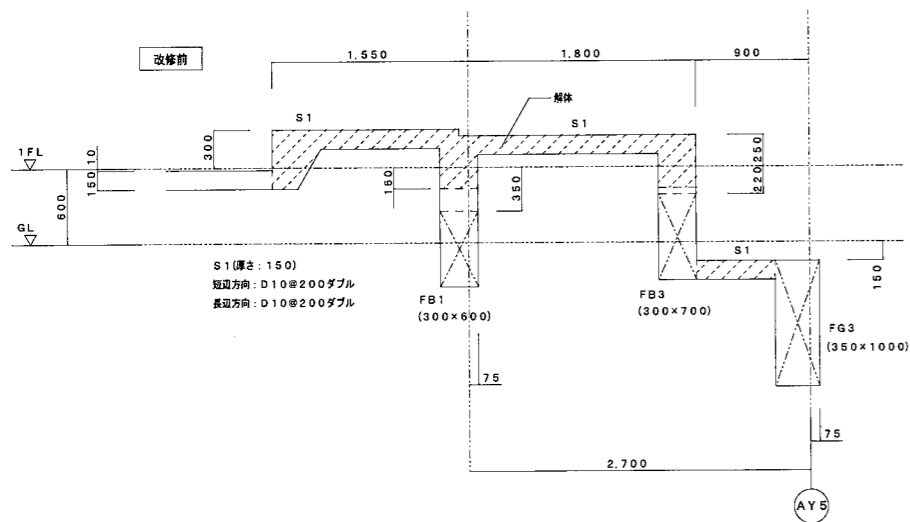
アンカー本体外径 d (mm)	L_n (30d) (mm)	L_1 (5d) (mm)	接合筋呼び径 d_b (mm)
$\phi 13$	390	65	D10
$\phi 16$	480	80	D13
$\phi 19$	570	95	D13
$\phi 22$	660	110	D16

コンクリート及びグラウト材圧入要領図

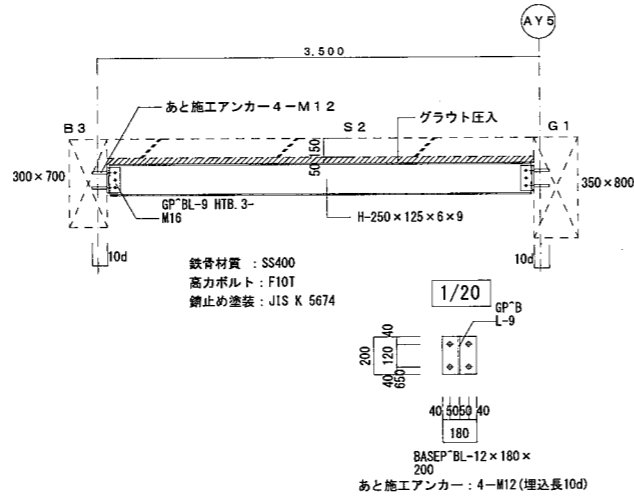
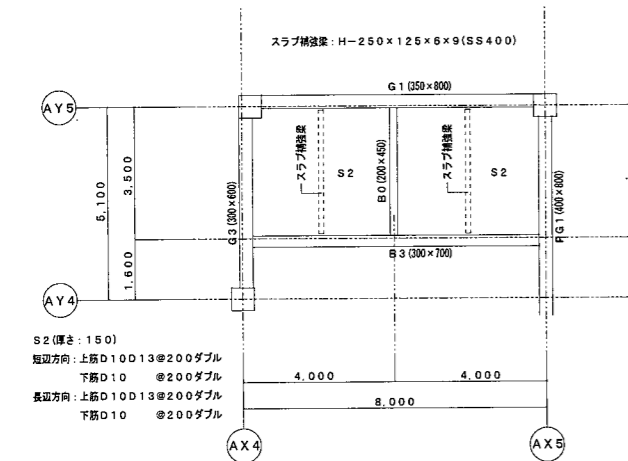


共通事項
(1) による普通コンクリート施工後、(2) によりグラウト材を圧入する

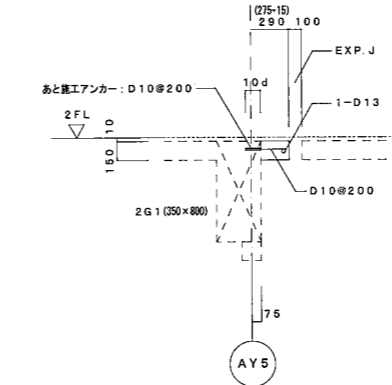
1階プラットホーム・配膳室のスラブ改修 1/30



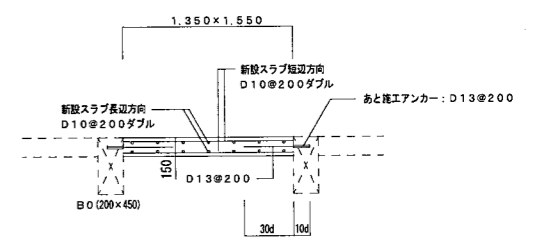
1階・2階児童用トイレスラブ補強図 1/100・30



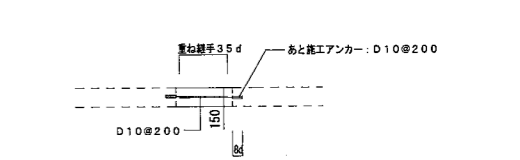
1階・2階渡り廊下接続部スラブ増設図 1/30



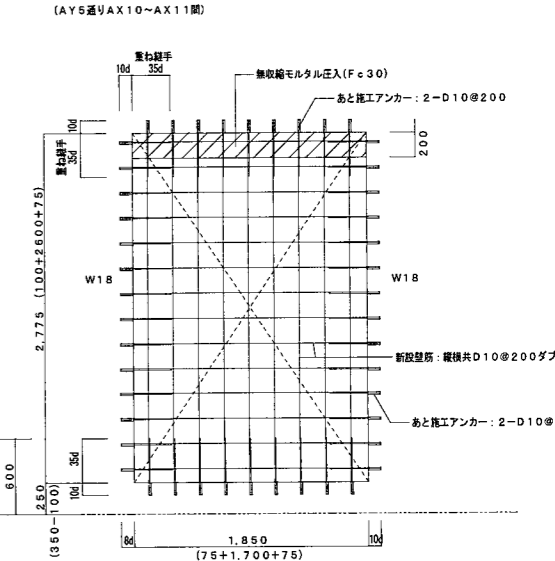
1階・2階EVシャフト開口塞ぎ配筋図 1/30



1階・2階大便器孔塞ぎ配筋図 1/30



1階機械室出入口 開口塞ぎ配筋図 1/30



- 共通事項
- 特記なき事項については「建築工事共通仕様書」または「建築改修工事共通仕様書」による。
 - 使用材料
 - 1) コンクリート強度: $F_c = 24 \text{ N/mm}^2$ スラブ: 18 cm
 - 2) あと施工アンカー <カプセル型樹脂アンカー>
 本体: メーカーにより素材強度が保障されたもの
 (基本付着強度 100 kg/cm^2 以上)
 - 3) 鉄筋: JIS G3112 SD295A D10~D16
 SD345 D19~
 - 注意事項
 - 1) 既存コンクリート躯体面(カッター入れ部分)は目視を行い十分清掃する。
 - 2) コンクリート打ち込み前には、せき板・既設コンクリート表面などを十分に水湿しを行う。
 - 3) コンクリートの打設にはバイブレーターの使用、又はタタキにより密実なコンクリートとなるように十分な施工計画を立てる。
 - あと施工アンカーの引張確認耐力

D10	~	13.9 KN/本
D13	~	24.9 KN/本
D16	~	39.1 KN/本
D19	~	66.0 KN/本

2階底スラブの改修図 1/30

(AY5通りAX6~AX7間) スラブの水勾配の解消

